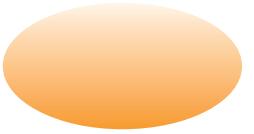


# 愛媛大学 沿岸環境科学研究中心年報



**CMES**  
CENTER FOR MARINE ENVIRONMENTAL STUDIES



第6号 2005年

愛媛大学沿岸環境科学研究中心  
年 報

(第6号)

2005年

# まえがき

国立大学法人発足という歴史的な年であった平成16年度には、CMES にとつてもかつてないほど多くの出来事がありました。過去1年間の CMES における研究、教育活動や社会的活動のほぼ全容をまとめることを目的として毎年発行しているこの年報では、各号のまえがきで1年間の重要事項をご紹介してきましたが、本号では特筆すべき事項が非常に多いため、以下に箇条書きすることと致します。

## (1) CMES の組織改編

CMES は平成11年度に4研究分野の体制で発足し、平成14年度には21世紀 COE プログラムに採択されるなど、この5年余りの間に大きく発展してきました。しかしながら、人手不足のため、CMES の研究に対する社会的要請の増大などには対応できないこともあるといった状況が続いていました、このため、CMES のさらなる発展や21世紀 COE プログラムの一層の充実を目指した全学的な支援措置として、新たに教授ポスト1が CMES に配置されることになりました。これに伴い、新規ポストに生態環境計測分野から移動させた助手ポストを加えた「生態毒性解析分野」を設立して今後の研究の新展開を図ることとなり、平成16年6月から5分野の新体制が発足しました。新分野の教授には、公募により生態系解析分野の岩田助教授が昇任し、同助教授の後任として高橋助教授が採用されました。新体制の詳細は、本報の「1.1 組織」をご参照下さい。なお、この節には平成17年度4月現在の内容を記載していますが、CMES の活動内容を記載した3章以下は、平成16年度前半の4分野で記載しております。

## (2) COE の中間評価

平成14年度採択の21世紀 COE プログラムに対して中間評価が行われ、平成16年11月に評価結果が公表されました。幸いにして、CMES を中核とする「沿岸環境科学研究拠点」は、最高ランクの A 評価を受けました。関係各位のご支援の賜と厚く感謝申し上げます。拠点リーダー始め事業推進担当者一同、最終年度に向けより一層努力していく所存です。

## (3) 国際交流協定の締結

昨年度の年報でもご紹介しましたが、CMES の研究活動の国際的展開のため、米国オレゴン州立大学 Hatfield Marine Science Center (HMSC)、同ハワイ大学 Hawaii Institute of Marine Biology (HIMB) と CMES との3者間国際学術交流協定を平成16年6月2日に締結しました。この協定に基づく活動として、16年度には CMES の博士課程の学生が HIMB に1ヶ月間滞在して研修を行ったほか、17年度には HMSC の博士課程学生が CMES で3ヶ月間の研修を行うことになっています。さらに、平成17年度にはこれまで長年にわたり交流のあったインドのアンナマライ大学海洋生物研究センターとの連携を強化するため、同センターと CMES の国際交流協定が締結されることとなり、平成17年4月7日にアンナマライ大学で調印式が行われました。

## (4) 生物環境試料バンク棟の建設の決定

CMES では、平成14年12月に規定を改正し、「生物環境試料バンク」を組織として発足させました。生物環境試料バンクとは、CMES の所有する野生生物や土壤、海水などの環境試料を体系的に整理するとともに今後も試料収集を推進して、CMES のみならず学外の研究にも提供するための施設です。これらの試料は、CMES の生態環境計測分野が、センター設立以前の農学部農芸化学科農芸分析学研究室時代から40年以上にわたり、世界の各地から収集してきたもので、世界にも例のないコレクションとなっています。これらの試料の大部分はこれまで民間会社の冷凍庫に保管されていましたが、学内に冷凍施設を建設することの必要性から、旧情報処理センターの建物を改修して生物環境試料バンクとする概算要求を行っていました。このたびこの要求が認められ、17年秋頃には建物の改修が完了し、生物環境試料バンクが名実ともに発足する運びとなりました。これを機に、CMES はこの分野の世界的研究拠点としてさらに大きく発展できるものと期待しています。

## (5) 学会、国際シンポジウム等の開催

CMES ではこれまでにも、国際地球市民シンポジウム in えひめ（平成13年度、愛媛県環境

創造センターとの共催), 平成15年度の21世紀 COE 国際シンポジウム (平成15年度) などを開催してきましたが, 平成16年9月には, 日本海洋学会秋季大会と日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会が, CMES のメンバーを実行委員長等として愛媛大学で開催されました。この2つの大会は両大会に共通の出席者があったため, 同時期に並行して開催することとなり, 懇親会も合同で開催しました。同時開催には大きな困難がありましたが, 両大会とも盛会裡に終了し, 多数の参加者に CMES の発展の状況をご覧頂くことができました。また, 両大会に引き続いて, 21世紀 COE と日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 日本ベントス学会, 日本プランクトン学会, LOICZ-II-Japan/IGBP 国内小委員会の共催で, COE のコアプロジェクト2関連の国際シンポジウム「世界の沿岸海域における環境と生態系の長期変動 (Long-term variations in the coastal environments and ecosystems)」を開催しました。さらに, 平成17年3月には, 愛媛大学21世紀 COE と日本環境会議との共催で, 「アジア地域の環境アセスメントおよび環境管理に関する国際シンポジウム (International Symposium on Environmental Assessment and Management in Asia)」を開催しました。

#### (6) 新規科学研究費の採択

CMES では, 21世紀 COE プログラム以外にも様々な外部資金によって活発に研究を展開しています。その中心となる科学研究費に関しては, 平成13年度以来, CMES のスタッフが研究代表者を務める基盤研究 A の課題が4件という状態が続いていました。これらのうち2件は平成15年度で終了しましたが, 16年度は新たに基盤研究 A が2件採択され, 4件の基盤研究 A が引き続き16年度も進行することになりました。その他, 基盤研究 B が1件, 同 C が1件, 若手研究 B が1件, 特別研究員奨励費4件が継続課題として進行中です。

#### (7) 若手研究員の就職

CMES には、COE 研究員, 研究機関研究員, 日本学術振興会特別研究員 (PD) など, 数多くのポスドク研究員が在籍して研究に励んでいますが, これらの研究員を優れた研究者として育成し, 世に送り出していくことも CMES の重要な役割です。平成16年度末には, 12名のポスドク研究員が任期満了または半ばで CMES を離れましたが, このうち10名は研究者としての職を継続し, うち4名は大学教員の職に就くことができました。実質的に CMES で研究に従事していた工学部教務職員を加えると, 大学教員への就職は5名を数えます (詳細は1. 1 を参照)。残念ながら全員が研究職に就けた訳ではありませんが, ポスドクの就職が社会問題となっている昨今の状況では極めて好成績といえるのではないでしょうか。異分野のポスドクが多数集い, 自由に交流しあえる場を CMES で提供できていることが, 環境科学という高度に学際的分野の研究者の育成に有効に働いているのかもしれません。ポスト21世紀 COE がどのようになるのか, 現在はまだ見えませんが, 今後も CMES がこのような環境科学を目指す若手研究者の登竜門としての役割を果たしていくよう努力していきたいと思います。

#### (8) 学会賞等の受賞

本年度は, 田辺教授が日本環境化学会学術賞と日本環境科学会学術賞を相次いで受賞したほか, 博士課程 (前期, 後期) 学生およびポスドク研究員の論文賞や学会での優秀講演賞, 優秀ポスター賞等の受賞が9件を数えました (5. 5参照)。特に若手研究者の受賞は, 前項に示した若手研究者の就職ともあわせ, 研究者育成への CMES の努力が実りつつあることを示すものと思います。

以上のように, 平成16年度は CMES にとって大変大きな飛躍の年となりましたが, 今後もさらなる発展へ向けて CMES メンバー一同努力していく所存です。関係各位には, 今後とも一層の御指導, 御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター  
センター長 武岡 英 隆

# 目 次

まえがき .....	1
1. 総 説 .....	4
1. 1 組 織 .....	4
1. 2 各分野の概要 .....	6
2. 研究者要覧 .....	7
3. 研究プロジェクト .....	17
3. 1 21世紀COEプログラム .....	17
3. 2 科学研究費等 .....	17
3. 3 共同研究 .....	19
3. 4 受託研究 .....	20
3. 5 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等 .....	20
4. 研究成果（暦年で2004年に出版、掲載されたもの） .....	22
4. 1 著 書 .....	22
4. 2 学協会誌等 .....	22
4. 3 学内、所内誌等 .....	31
4. 4 一般誌等 .....	31
4. 5 報告書等 .....	31
4. 6 学会発表等 .....	32
5. 学会及び社会における活動 .....	52
5. 1 併任・委員会委員等 .....	52
5. 2 学協会委員等 .....	54
5. 3 学会、講演会などの開催（センター主催または共催） .....	55
5. 4 学会、講演会などの開催（個人） .....	65
5. 5 学会賞等 .....	66
6. 国際的活動 .....	67
6. 1 國際研究プロジェクト .....	67
6. 2 在外研究等 .....	68
6. 3 海外調査・国際学会等 .....	68
6. 4 外国人客員研究員等 .....	70
6. 5 海外からの訪問者 .....	70
6. 6 招聘研究員 .....	70
6. 7 留学生 .....	71
7. 教育活動 .....	73
7. 1 所属学生および研究テーマ .....	73
7. 2 卒業論文・修士論文・博士論文 題目 .....	76
7. 3 講義・集中講義 .....	78
8. 設 備 .....	81
9. 広 報 .....	82
9. 1 CMES ニュース .....	82
9. 2 報道関係 .....	83
9. 3 講座、講演会等 .....	84
10. 中島マリンステーション利用状況 .....	86
11. 研究員名簿および業績 .....	88
11. 1 研究員名簿 .....	88
11. 2 研究員業績 .....	89
12. 客員研究員名簿および業績 .....	94
12. 1 客員研究員名簿 .....	94
12. 2 客員研究員業績 .....	97
13. 運営委員会 .....	119
14. センター規則等 .....	120

# 1. 総 説

## 1.1 組 織

センター長 : 武岡 英隆

### 環境動態解析分野

教授 : 武岡 英隆  
 客員教授 : 杉本 隆成  
 助教授 : 郭 新宇  
 助手 : 兼田 淳史  
 COE研究員 : 川村 有二  
 COE研究員 : 加 三千宣  
 COE研究員 : 張 強勲 (平成16年11月～)  
 COE研究員 : 高橋 大介 (平成17年4月～)  
 COE研究員 : 藤井 直紀 (平成17年4月～)  
 COE研究員 : 山口 一岩 (平成17年4月～)  
 日本学術振興会特別研究員 : 加 玲美 (平成17年4月～)  
 研究支援推進員 : 福森香代子  
 COE研究補助員 : 松本 有紀  
 \*教務職員 : 速水 祐一 (平成17年4月から佐賀大学助教授)  
 \*研究機関研究員 : 馬込 伸哉 (平成17年4月から産業技術総合研究所)  
 \*COE研究員 : 小濱 剛 (平成17年4月から千葉科学大学講師)  
 \*COE研究員 : 金 熙容 (平成17年4月から東京大学海洋研究所)

### 生態環境計測分野

教授 : 田辺 信介  
 客員教授 : Annamalai Subramanian  
 助教授 : 高橋 真 (平成17年4月～)  
 研究機関研究員 : Nguyen Hung Minh (平成16年10月～)  
 研究機関研究員 : 阿南弥寿美 (平成17年4月～)  
 研究機関研究員 : 井上 英  
 COE研究員 : 国末 達也  
 COE研究員 : 阿草 哲郎 (平成17年4月～)  
 COE研究補助員 : 國本 昌宏  
 COE研究補助員 : 経廣 規子

### 生態毒性解析分野 (平成 16 年 11 月に新設)

教授 : 岩田 久人 (平成16年11月～)  
 客員助教授 : 金 恩英 (平成17年4月～)  
 助手 : 梶原 夏子  
 COE研究員 : 石橋 弘志 (平成17年4月～)  
 日本学術振興会特別研究員 : 上野 大介

## 1. 総 説

\* COE研究員 : 伸山 慶 (平成17年4月から香港城市大学)

### 生態系解析分野

教授 : 鈴木 聰  
助教授 : 上田 拓史  
助手 : 金本自由生  
助手 : 野中 里佐  
COE研究員 : 大林由美子  
COE研究員 : 小林 剛  
COE研究員 : Habibur Md. Rahman (平成16年10月～)  
COE研究員 : 西部裕一郎 (平成17年4月～)  
日本学術振興会外国人客員研究員 : Santosh K. Dubey (平成16年11月～)  
COE研究補助員 : 富久保雅美 (平成17年3月～)  
\* COE研究員 : 尾崎 浩司 (~平成17年3月)  
\* 日本学術振興会特別研究員 : 伊谷 行 (平成17年4月から高知大学教育学部助教授)  
\* 研究機関研究員 : 片野 俊也 (平成17年2月から韓国漢陽大学)  
\* COE研究補助員 : 川井 悠 (~平成17年3月)

### 環境影響評価予測分野

教授 : 井内 美郎  
助教授 : 大森 浩二  
助手 : 奈良 正和  
COE研究員 : 宮坂 仁  
COE研究員 : 加藤 元海 (平成17年4月～)  
COE研究補助員 : 小倉 真紀  
技術補佐員 : 大西秀次郎  
\* 研究機関研究員 : 奥田 昇 (平成17年2月から京都大学生態学研究センター助教授)  
\* COE研究員 : 関口 智寛 (平成17年6月から筑波大学生命環境科学研究所講師)  
\* COE研究員 : 伊藤 明 (~平成17年3月)  
\* COE研究員 : 吉野 健児 (~平成17年3月)  
\* COE研究員 : 納谷 友規 (平成16年10月～, 平成17年4月から茨城県霞ヶ浦環境科学センター)

### 中島マリンステーション

ステーション長 : 上田 拓史

### 事 務 組 織

研究協力部研究国際協力課 (平成16年11月まで経営企画部研究協力課)  
課長 : 徳永平太郎 (平成17年4月～)  
専門役 : 篠川 満俊 (平成17年4月～)  
事務補佐員 : 家久 恒美  
事務補佐員 : 中山 真理  
事務補佐員 : 松田 昌子  
事務補佐員 : 星加恵理子 (平成17年4月～)  
事務補佐員 : 栗田 純子 (平成17年5月～)  
\* 課長 : 井上 統雄 (平成16年11月より研究協力部長・研究国際協力課長事務取扱)  
\* 専門役 : 小田 真一 (~平成17年3月)

※ \* は転任または退職した職員を示す

## 1. 2 各分野の概要

### 環境動態解析分野

**研究内容**：潮流や密度流などの沿岸海域の流れの実態と、これらと生物生産機構や海洋汚染の機構の関わりを解明することを中心的課題とする分野である。貧酸素水塊や赤潮などの発生機構の解析、養殖漁場の物質循環と環境変動の解析、沿岸域開発に伴う環境影響の解析等に加え、沿岸域の環境変動の長期的モニタリングを行って、地球環境変動に伴う沿岸海域の環境変動の実態や原因の究明と将来予測などを行う。

**主な研究テーマ**：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、養殖漁場の物質循環と環境保全、クラゲ類の大量発生・集積機構の解明

### 生態環境計測分野

**研究内容**：内分泌搅乱物質（環境ホルモン）など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質を対象に、海洋汚染の現状と推移、海洋環境における挙動とゆくえ、海洋生態系における蓄積の特徴、生物濃縮機構、毒性影響評価などについて地域的・地球的視点で研究をすすめ、化学物質のリスクから海洋生態系をまもるための方途を提言する。

**主な研究テーマ**：地球規模での大気、水質、堆積物（土壌）、生態系汚染の実態解明と動態解析、途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析、養殖魚場の化学汚染と影響の解明、野生生物（プランクトン、両生類、は虫類、魚類、鳥類・哺乳類）およびヒトの汚染実態の解明と生物濃縮の機構の解説およびリスク評価、水産資源がもたらす人体の汚染と健康影響評価、海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測

### 生態毒性解析分野

**研究内容**：ダイオキシン類・内分泌かく乱化学物質に代表されるような環境汚染物質を対象に、水圏野生生物のシトクロム P450 を指標とした暴露・毒性影響の評価法の開発、細胞内情報ネットワーク搅乱の包括的モニタリング法の開発、および毒性影響の多様性・感受性を決定する分子機構の解明に関する研究を実施し、水圏生態系のリスク評価を目指す。

**主な研究テーマ**：化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素系への影響、核内レセプターの比較機能学的研究、シトクロム P450 の比較機能学的研究、野生生物の DNA マイクロアレイを利用した遺伝子発現モニタリング、化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその発現メカニズムの解明

### 生態系解析分野

**研究内容**：海洋物質循環における微生物機能に関する研究、海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究、沿岸・内湾域の動物プランクトンや底生動物を対象生物とした生態と分類に関する研究、魚類と藻場の生態学的研究。

**主な研究テーマ**：海洋微生物の物質代謝に関する研究、海洋微生物間での遺伝子伝播の研究、魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態、動物プランクトンやメイオペントスの生態・分類に関する研究、ナメクジウオの生態学的研究、共生性甲殻類と二枚貝類を用いた種の多様化機構の解明、アイナメ科魚類の生態学、藻場の経時的变化。

### 環境影響評価予測分野

**研究内容**：海底及び海底境界層の解析：海底堆積物を研究の主な対象とし、堆積物の分析による過去の環境変遷の復元と、それに基づいた将来の環境変動による沿岸環境変動の予測、底棲生物を含めた堆積物中の物質循環過程の解明、堆積物の底棲生物への影響、藻場や干潟などの堆積環境の変遷とその生物生産に対する役割の解明及び将来予測等に関する研究

**主な研究テーマ**：瀬戸内海の砂堆の生態系に関する総合研究、宇和海の環境変遷史解明、琵琶湖の環境変遷史解明、野尻湖の環境変遷史解明、沿岸域の堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究、新第三紀以降の沿岸システムにおける底生群集と生痕ファブリックに関する研究

## 2. 研究者要覧



(平成17年8月1日現在)

### 環境動態解析分野



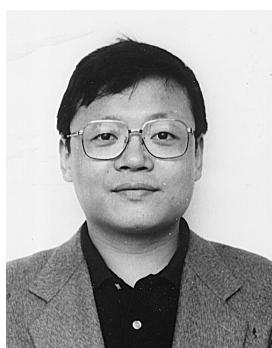
武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

【生年月日】昭和25年10月22日 【職名】教授 沿岸環境科学研究センター長 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9833 【FAX】089-927-9846 【E-mail】takeoka@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月京都大学理学部卒業, 昭和51年3月京都大学大学院理学研究科修士課程地球物理学専攻修了 【学位】昭和59年3月京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 土木学会, 4. 海洋気象学会, 5. 水産海洋学会, 6. 日本沿岸域学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究】1. 沿岸海域の流動と物質輸送, 2. 豊後水道の急潮と底入り潮, 3.瀬戸内海の物質循環と生物生産機構, 4. 養殖場の物質循環と環境保全, 5. 地球環境変動の沿岸域への影響, 6. クラゲ類の大量発生機構と移動集積機構 【受賞歴】1999年日本海洋学会日高論文賞 2003年愛媛県政発足記念日知事表彰 2003年瀬戸内法30周年記念環境大臣表彰



杉本 隆成 Sugimoto Takashige

【生年月日】昭和17年12月4日 【職名】客員教授 (21世紀COE) 【電話】089-927-8178 【FAX】089-927-9846 【E-mail】sugimoto@scc.u-tokai.ac.jp 【学歴】昭和41年3月京都大学理学部地球物理学科卒業, 昭和43年3月京都大学大学院理学研究科修士課程地球物理学専攻修了, 昭和46年6月京都大学大学院理学研究科博士課程地球物理学専攻単位取得退学 【学位】昭和49年3月京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 海洋気象学会, 4. 水産海洋学会, 5. 日本水産学会, 6. 日本プランクトン学会, 7. 生物資源研究会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学, 3. 水産海洋学 【主な研究】1. 沿岸海洋における循環流の力学と海水交換過程, 2. 黒潮の物質・輸送機構および生物生産機能, 3. 黒潮親潮移行域の海況変動とその魚群回遊に及ぼす影響, 4. 海洋生態系と浮魚類資源の気候変動への応答過程 【受賞歴】1976年日本海洋学会岡田賞



郭 新宇 Guo Xinyu

【生年月日】1968年1月22日 【職名】助教授 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9824 【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年7月中国天津大学海洋船舶工学科卒業, 平成3年1月中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了, 平成9年3月愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】平成9年3月博士(工学)愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. American Geophysical Union, 4. American Meteorological Society 【専門分野】1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究】1. 黒潮と沿岸海域の相互作用, 2. 瀬戸内海の海洋環境予測に関する基礎研究



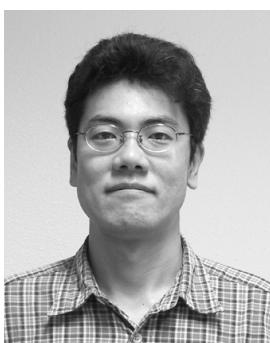
兼田 淳史 Kaneda Atsushi

【生年月日】1971 年 8 月 7 日 【職名】助手 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9839 【FAX】089-927-9846 【E-mail】kaneda@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月愛媛大学工学部海洋工学科卒業, 平成8年3月愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程土木海洋工学専攻終了 【学位】平成15年3月博士(理学)愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 水産海洋学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 宇和海の底入り潮に関する研究, 2. 黒潮が沿岸域に与える影響に関する研究, 3. 栄養塩モニタリング



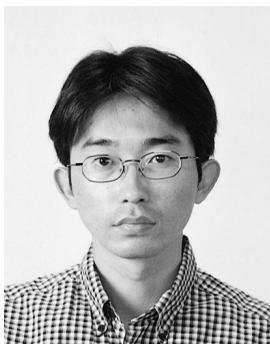
川村 有二 Kawamura Yuji

【生年月日】昭和 50 年 9 月 3 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】kawamura@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年3月東京水産大学海洋生産学科卒業, 平成13年3月東京水産大学水産学研究科博士前期課程海洋生産学専攻修了, 平成16年3月東京水産大学水産学研究科博士後期課程海洋環境学専攻修了 【学位】平成16年3月博士(水産学)東京水産大学 【所属学会】1. 日本海洋学会 【専門分野】1. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 内部潮汐の反射・散乱過程に関する研究



加 三千宣 Kuwae Michinobu

【生年月日】昭和 43 年 2 月 11 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-1214 【FAX】089-927-1214 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程(生物地球系専攻)修了 【学位】平成14年3月大阪市立大学大学院博士(理学) 【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本第四紀学会 【専門分野】1. 第四紀学, 2. 古陸水学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 岐阜県深坂湿原堆積物の珪藻化石を用いた最終氷期以降の環境変遷史の復元と気候変化が湿地・湖沼環境に及ぼす影響に関する研究, 3. 底入り潮及び急潮の長期変動, 人為的攪乱に対する宇和海基礎生産者の応答様式に関する研究



張 弼勳 Chang Pilhun

【生年月日】1973 年 3 月 19 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】phchang@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年2月東亜大学卒, 平成11年2月東亜大学大学院修士課程了, 平成16年9月九州大学大学院博士後期課程了 【学位】平成16年9月博士(理学), 九州大学 【所属学会】日本海洋学会, 韓国海洋学会 【主な研究テーマ】1. 沿岸海洋の変動における外洋環境の役割, 2. 瀬戸内海における海洋環境予測



高橋 大介 Takahashi Daisuke

【生年月日】1977 年 8 月 17 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】d-taka@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月北海道大学水産学部水産海洋科学科卒業, 平成14年3月北海道大学大学院水産科学研究科環境生物資源科学専攻博士前期課程修了, 平成17年3月北海道大学大学院水産科学研究科環境生物資源科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成17年3月博士(水産科学)北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会 【専門分野】1. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 噴火湾における風によって駆動される循環に関する研究, 2. 化学汚染物質モデリングに関する基礎研究



藤井 直紀 Fujii Naoki

【生年月日】昭和52年5月18日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】medusae@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月広島大学大学院生物圏科学研究科環境循環系制御学専攻修了 【学位】平成17年3月博士(学術)広島大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 水産海洋学会, 3. 日本プランクトン学会, 4. 日本沿岸域学会, 5.瀬戸内海研究会議 【専門分野】1. 生物海洋学, 2. 水圏環境学 【主な研究テーマ】1. 内湾における生物資源持続性評価法の開発, 2. クラゲ類の生態学的研究



山口 一岩 Yamaguchi Hitomi

【生年月日】1975年2月20日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】yama@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月東京水産大学卒, 平成13年3月香川大学大学院修士課程了, 平成17年3月北海道大学大学院博士後期課程了 【学位】平成17年3月博士(水産科学), 北海道大学 【所属学会】日本海洋学会, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 日本ベントス学会 【専門分野】海洋物質循環学 【主な研究テーマ】1. 沿岸海洋における新生物元素の分布と収支, 2. 沿岸海洋における浮遊性および底生性微細藻類の動態



加(榎木)玲美 Kuwae, Tsugeki Narumi

【生年月日】1972年1月4日 【職名】日本学術振興会特別研究員 【電話】089-927-8997 【FAX】089-927-9846 【E-mail】na-kuwae@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月京都大学大学院理学研究科博士後期課程(動物学専攻)修了 【学位】平成17年3月博士(理学)京都大学 【所属学会】1. American Society of Limnology and Oceanography (ASLO), 2. 日本陸水学会, 3. 日本第四紀学会, 4. 日本生態学会 【専門分野】1. 水域生態学, 2. 古環境学 【主な研究テーマ】1. 過去100年の動植物プランクトン動態の復元とその変動要因の解明, 2. 環境変動に伴う動物プランクトンDaphniaの生活史変化に関する研究 【受賞歴】2004年日本陸水学会吉村(論文)賞

### 生態環境計測分野



田辺 信介 Tanabe Shinsuke

【生年月日】昭和26年2月21日 【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース, 理学部生物地球圏科学科, 大学院農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース, 大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻, 大学院理工学研究科博士前期課程生物地球圏科学専攻, 大学院理工学研究科博士後期課程環境科学専攻兼務 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和50年3月愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月名古屋大学農学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本水産学会, 4. 日本農芸化学会, 5. 日本極地研究振興会, 6. 日本薬学会, 7. 日本環境科学会, 8. 日本生態学会, 9. 日本地球化学会, 10. 日本環境化学会, 11. 日本比較生理化学会, 12. 日本環境毒性学会, 13. 日本BICER協議会, 14. 日本鳥学会, 15. 日本哺乳類学会, 16. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 17. 日本化学会, 18. 日本微量元素学会, 19. 日本海セトロジー研究会, 20. 日本ウミガメ協議会, 21. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議, 22. 東南アジ

ア国際農学会, 23. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 24. Society for Marine Mammalogy, 25. American Chemical Society 【専門分野】1. 環境化学, 2. 生態毒性学 【主な研究テーマ】1. 有害物質による地球規模の海洋汚染と生態系への蓄積および毒性影響に関する環境化学的研究, 2. 内分泌搅乱物質による海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究, 3. 内分泌搅乱物質によるカスピ海の汚染とカスピカイアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究, 4. 新しい内分泌搅乱物質TCPメタンおよびTCPメタノールによるヒトおよび野生生物の汚染に関する研究, 5. 内分泌搅乱物質によるアジア産渡り鳥の汚染と毒性影響に関する研究, 6. 内分泌搅乱物質によるアホウドリの汚染と毒性影響に関する研究, 7. 内分泌搅乱物質による深海生物の汚染と毒性影響に関する研究, 8. マッセルウォオッチ:二枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング, 9. 環境化学物質をトレーサーとしたミンククジラの生態解明手法の開発, 10. カツオを指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発, 11. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究, 12. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究, 13. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究, 14. 内分泌搅乱化学物質による養殖魚場環境の汚染に関する研究, 15. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究, 16. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類, 農薬, 重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究, 17. 有機臭素化合物等防燃剤による環境汚染と生物蓄積, 生態影響に関する研究 【受賞歴】1985年4月日本海洋学会岡田賞, 1999年3月日産科学賞, 2000年10月ISI引用最高栄誉賞, 2003年12月ベトナム政府フレンドシップメダル, 2004年7月日本環境化学会学術賞, 2004年10月日本環境科学会学術賞



Annamalai Subramanian

【生年月日】1949年1月3日 【職名】客員教授(21世紀COE) 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8171 【E-mail】subra@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】昭和63年3月愛媛大学博士(学術), 1982年6月Annamalai University Ph.D. 【所属学会】1. Indian Society of Life Sciences, 2. National Geographic Society, 3. Marine Mammal Society 【専門分野】1. 海洋環境学 【主な研究テーマ】1. 内分泌搅乱物質による途上国の海洋汚染とその生態毒性の解明 【受賞歴】平成14年度日本学術振興会外国人招へい研究者(長期)



高橋 真 Takahashi Shin

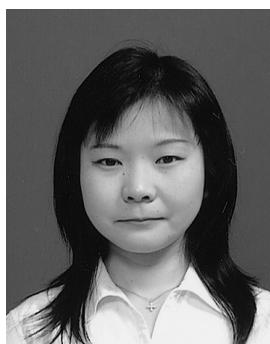
【生年月日】昭和46年5月21日 【職名】助教授 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8194 【E-mail】shint@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本水産学会, 2. 日本環境科学会, 3. 日本環境化学会, 4. 日本環境毒性学会, 5. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 6. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境保全工学 【主な研究テーマ】1. 有害物質による海洋生態系の汚染と物質挙動に関する環境化学的研究, 2. 有機スズ化合物による陸上および海洋生態系の汚染と影響に関する研究, 3. 循環資源・廃棄物を対象とした試験法開発と対策評価に関する研究, 4. 有機ハロゲン化合物の分解・代謝挙動と活性化に関する研究

## 2. 研究者要覧



Nguyen Hung Minh

【生年月日】1975年7月11日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8174 【E-mail】minh-ut@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年9月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年3月愛媛大学博士(農学) 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】1. POPsによるアジア途上国の土壤および堆積物汚染



阿南弥寿美 Anan Yasumi

【生年月日】昭和51年7月13日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8171 【E-mail】ananya@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成16年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本微量元素学会 【専門分野】1. 環境化学, 2. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 野生生物における微量元素蓄積特性およびその解毒機構の解明



井上 英 Inoue Suguru

【生年月日】昭和48年8月15日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】suguru@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年9月九州大学大学院生物資源環境科学研究科生物機能科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成15年9月九州大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本水産学会, 2. 日本食品衛生学会, 3. 日本ベントス学会 【専門分野】1. 環境化学, 2. 水産化学 【主な研究テーマ】1. アジア地域における微量元素汚染に関する研究, 2. 海域における有機スズ汚染と二枚貝に及ぼす影響に関する研究



国末 達也 Kunisue Tatsuya

【生年月日】昭和43年9月21日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】kunisue@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成16年愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本内分泌搅乱化学物質学会 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. アジア途上国の都市ゴミ集積場におけるダイオキシン類等POPsの汚染に関する研究, 2. 野生高等動物におけるダイオキシン類の肝集積に関する研究



阿草 哲郎 Agusa Tetsuro

【生年月日】1977年11月16日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】ax@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成17年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 微量元素学会, 2. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境科学 【主な研究テーマ】1. アジア途上国におけるヒトの微量元素汚染とその影響評価に関する環境科学的研究

生態毒性解析分野

岩田 久人 Iwata Hisato



【生年月日】昭和39年6月2日 【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース, 大学院農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース, 大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻兼務 【電話】089-927-8172 【FAX】089-927-8172 【E-mail】iwatah@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成6年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本水産学会, 3. 日本環境科学会, 4. 日本環境会議, 5. 日本環境化学会, 6. 日本BICER協議会, 7. 日本環境毒性学会, 8. 日本獣医学会, 9. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 10. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 内分泌搅乱物質による海洋生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 内分泌搅乱物質の暴露に反応する生体内分子の検索, 3. 内分泌搅乱物質による毒性影響の種特異的感受性を決定する生体分子機構の解明 【受賞歴】1994年9月QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology

金 恩英 Kim Eun-Young



【生年月日】昭和43年8月17日 【職名】客員助教授 (21世紀COE) 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】eykim@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成9年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. エコトキシコロジー研究会, 3. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発, 2. 内分泌搅乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの検索

梶原 夏子 Kajiwara Natsuko



【生年月日】昭和50年8月16日 【職名】助手 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】natsuko@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成15年愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 2. 日本環境化学会 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 有機ハロゲン化合物による海洋および陸上生態系の汚染とその蓄積特性に関する環境化学的研究

石橋 弘志 Ishibashi Hiroshi



【生年月日】昭和47年10月21日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8171 【E-mail】hiroishi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月長崎大学大学院生産科学研究科博士課程修了 【学位】平成15年3月長崎大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本内分泌搅乱化学物質学会 【専門分野】1. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. *in vitro* PPAR-レポーター遺伝子アッセイ系を用いた野生生物の化学物質リスク評価系の開発, 2. 野生生物における有機フッ素化合物代謝の比較生物学, 3. バイカルアザラシのオリゴアレイを用いた化学物質曝露に反応する遺伝子の探索 【受賞歴】2002年日本水環境学会九州支部学術奨励賞



上野 大介 Ueno Daisuke

【生年月日】昭和50年3月25日 【職名】日本学術振興会特別研究員 【電話】089-927-8171  
【FAX】089-927-8171 【E-mail】ueno@qg8.so-net.ne.jp 【学歴】平成14年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成14年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 魚介類を生物指標とした海洋汚染モニタリング手法の開発, 2. 残留性有機汚染物質における外洋生態系の汚染と影響に関する環境科学的研究

生態系解析分野



鈴木 聰 Suzuki Satoru

【生年月日】昭和31年6月24日 【職名】教授 農学部生物資源学科・理学部生物地球圏科学科・連合農学研究科・理工学研究科併任 【電話】089-927-8552 【FAX】089-927-8552 【E-mail】E-Mail ssuzuki@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和60年9月北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了 【学位】昭和60年9月薬学博士北海道大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本魚病学会, 3. 日本海洋学会, 4. マリンバイオテクノロジー学会, 5. 日本水産学会, 6. 日本生化学会, 7. 米国微生物学会, 8. 国際微生物生態学会 【専門分野】1. 微生物学, 2. 生態系生化学, 3. 環境分子生物学 【主な研究テーマ】1. 海洋微生物由来高分子の溶存態への移行過程に関する研究, 2. 微生物間での薬剤耐性遺伝子の伝播と変異の研究, 3. 海洋コア中の微生物群集の研究, 4. 有機スズ耐性・分解菌の分子生態学的研究, 5. 魚介類の日和見・再興感染症原因ビルナウイルスの生態に関する研究 【受賞歴】1999年日本魚病学会研究奨励賞, 2001年日本微生物生態学会論文賞



上田 拓史 Ueda Hiroshi

【生年月日】昭和25年11月25日 【職名】助教授, 中島マリンステーション長, 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8905 【E-mail】hueda@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和54年4月京都大学大学院農学研究科水産学専攻博士課程単位修得退学位, 平成5年2月博士(農学)京都大学 【所属学会】1. 日本プランクトン学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本陸水学会, 4. 日本動物分類学会, 5. 日本生物地理学会, 6. Crustacean Society 【専門分野】1. 水圏生態学, 2. カイアシ類分類学 【主な研究テーマ】1. 沿岸・内湾・汽水域におけるカイアシ類の生態, 2. カイアシ類の分類, 3. ナメクジウオの生態 【受賞歴】1999年日本動物学会論文賞



金本自由生 Kanamoto Ziyusei

【生年月日】1947年6月20日 【職名】助手 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-8295 【FAX】089-927-8295 【E-mail】ziyusei@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月東北大学大学院農学研究科水産学専攻修士課程修了 【学位】昭和61年2月農学博士東北大学 【所属学会】1. 日本水産学会, 2. 水産増殖学会, 3. 日本魚類学会, 4. 日本ベントス学会, 5. 稚魚研究会, 6. 沖縄生物学会, 7. American Society of Herpetologist and Ichthyologist 【専門分野】海洋生態学 【主な研究テーマ】1. アイナメ科魚類の分布生態, 2. アイナメ科魚類の繁殖生態, 3. アイナメ科魚類の生活史, 4. 海草の分布生態, 5. 海草藻場の経時的変化の研究



野中 里佐 Nonaka Lisa

【生年月日】昭和48年8月8日 【職名】助手 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551  
【E-mail】lnonaka@ualberta.ca 【学歴】平成14年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成14年3月博士(農学)愛媛大学 【所属学会】米国微生物学会 【専門分野】環境微生物学 【主な研究テーマ】1. 海洋細菌における環境由来DNAの利用機構, 2. 海洋細菌におけるテトラサイクリン耐性の分子機構



大林由美子 Obayashi Yumiko

【生年月日】昭和 47 年 12 月 3 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】jojo@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年12月名古屋大学大学院理学研究科地球惑星理学専攻修了 【学位】平成14年12月博士(理学) 名古屋大学 【所属学会】1. 日本海洋学会 【専門分野】1. 生物地球化学 【主な研究テーマ】1. 海洋における有機物の動態



小林 剛 Kobayashi Takeshi

【生年月日】昭和 50 年 1 月 13 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】takeshik@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年3月 大阪大学大学院薬学研究科博士課程生命情報環境科学専攻修了 【学位】昭和16年3月 博士(薬学) 大阪大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本薬学会 【専門分野】1. 微生物生態学 【主な研究テーマ】1. 薬剤耐性遺伝子の環境内動態, 2. 有機スズ耐性・分解菌の分子生態学的研究



ハビブル・モハマド・ラーマン Habibur Md. Rahman

【生年月日】昭和 39 年 9 月 1 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】hrzool@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物資源生産学修了 【学位】平成11年3月博士(学術) 愛媛大学 【所属学会】未入会 【専門分野】1. 微生物生態学, 2. 魚病学 【主な研究テーマ】1. 海洋生物腸内と海底堆積物中における薬剤耐性遺伝子の分布



西部裕一郎 Nishibe Yuichiro

【生年月日】昭和 52 年 1 月 8 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8998 【E-mail】nishibe@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月北海道大学大学院水産学研究科環境生物資源学専攻修了 【学位】平成17年3月博士(水産科学) 北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本プランクトン学会, 3. 日本陸水学会 【専門分野】水圈生態学 【主な研究テーマ】1. 海産カイアシ類の生態学, 2. 湖沼における有害藻類と動物プランクトンの生物間相互作用に関する研究



サントシュー・クマー・デュベイ Santosh K. Dubey

【生年月日】昭和34年10月1日 【職名】学術振興会外国人客員研究員 【電話】089-927-8551  
【FAX】089-927-8551 【E-mail】sdubey@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和62年12月ゴア大学大学院博士課程修了 【学位】昭和62年12月PhDゴア大学 【所属学会】なし 【専門分野】分子微生物学 【主な研究テーマ】1. 有機スズ分解細菌からの有機スズ分解遺伝子とマイクロバイオセンサー用遺伝子のクローニング

環境影響評価予測分野



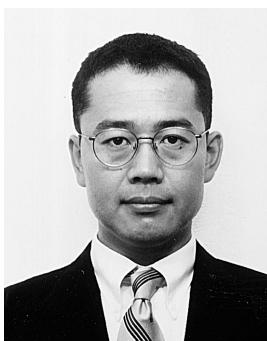
井内 美郎 Inouchi Yoshio

【生年月日】昭和24年7月11日 【職名】教授 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-9674 【FAX】089-927-9674 【E-mail】yinouchi@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月京都大学理学部地質学鉱物学教室 【学位】昭和59年5月理学博士京都大学 【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本第四紀学会, 3. 日本陸水学会, 4. 日本堆積学会, 5. 日本沿岸域学会, 6. American Geophysical Union, 7. Geological Society of America, 8. 日本海洋学会 【専門分野】1. 環境地質学, 2. 堆積学, 3. 第四紀学 【主な研究テーマ】1. 濑戸内海の砂堆の形成機構と資源量評価, 2. 琵琶湖の環境変遷に関する研究, 3. 野尻湖における環境変遷史解明, 4. 愛媛県下宇和海における環境変遷史解明, 5. 濑戸内海各地における環境変遷史解明, 6. 美保湾における堆積作用の研究, 7. ジョガマル池における環境変遷史解明



大森 浩二 Omori Koji

【生年月日】1955年2月6日 【職名】助教授 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-9630 【E-mail】ohmori@merv.sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和58年3月九州大学理学研究科修士課程修了 【学位】昭和60年1月理学博士九州大学 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本海洋学会沿岸海洋部会, 4. 個体群生態学会 【専門分野】1. 水域生態学, 2. 生態系生態学 【主な研究テーマ】1. 基礎生態学解析, 2. 河川生態系の解析, 3. 沿岸海洋生態系の解析



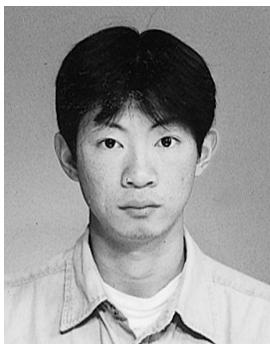
奈良 正和 Nara Masakazu

【生年月日】昭和44年2月7日 【職名】助手 【電話】089-927-9654 【FAX】089-927-9654  
【E-mail】nara@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成8年3月京都大学大学院理学研究科博士後期課程地質学鉱物学専攻修了 【学位】平成8年3月京都大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本古生物学会, 2. 日本地質学会, 3. 堆積学研究会, 4. 日本ベントス学会, 5. 東京地学協会, 6. 石油技術協会, 7. Society for Sedimentary Geology, 8. International Association of Sedimentologists 【専門分野】1. 生痕学, 2. 古生態学, 3. 堆積学 【主な研究テーマ】1. 地球規模の環境変動が沿岸生態系に及ぼしてきた影響の解析, 2. 新生代の浅海環境における生痕ファブリック解析, 3. 浅海域の堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究, 4. 現世の波浪卓越型および潮汐卓越型海岸における堆積相と生痕ファブリックに関する研究, 5. 生痕化石の古生態学的研究



宮坂 仁 Miyasaka Hitoshi

【生年月日】昭和 44 年 2 月 1 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8167 【E-mail】predator@mserv.sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年北海道大学大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成12年3月地球環境科学博士北海道大学 【専門分野】1. 水圏生態学, 2. 同位体生態学 【主な研究テーマ】1. 安定同位体比を用いた沿岸生態系における群集構造解析に関する研究 2. 深海生態系における汚染化学物質の生物濃縮過程に関する研究 3. 河川生態系における物質循環と生物群集の連結に関する研究 4. 汚染物質の現状と歴史の解析に基づく流域・沿岸域環境の適正管理に関する研究



加藤 元海 Kato Motomi

【生年月日】昭和 48 年 10 月 3 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8167 【E-mail】genkai@mserv.sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年京都大学大学院理学研究科生物科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成13年3月理学博士京都大学 【専門分野】1. 水圏生態学, 2. 数理生態学 【主な研究テーマ】1. 数理モデルを用いた水圏生態系解析に関する研究

## 3. 研究プロジェクト



### 3. 1 21世紀COEプログラム

CMESを中心とする「沿岸環境科学研究拠点」が21世紀COEプログラムに採択され、平成14年度は231,000千円、平成15年度は253,000千円、平成16年度は240,000千円が交付された。同拠点では、CMESの所有する世界各地の野生生物や環境の試料を集積した「生物環境試料バンク」と佐田岬で行っている栄養塩自動モニタリングを重要な研究基盤として、「内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明」と「地球環境変動による沿岸域生態系変動機構の解明と将来予測」の二つのテーマを中心に研究を展開している。また本拠点では、関連研究分野の博士課程学生やポスドク研究員を対象に、学際化や国際化を意図した沿岸環境科学の研究・教育を展開し、21世紀の環境展望が語れる人材、国際社会や地域社会に貢献できる人材、組織のチームリーダーになれる人材を多教育する計画である。

### 3. 2 科学研究費等

#### 環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆（代表）、基盤研究（A）(1)「東南アジアの養殖漁場における漁場管理と環境保全」、7,930千円  
概要：近年東南アジア海域では海面養殖が急速に拡大する兆しを見せており、無秩序な海面養殖の拡大による大規模な海洋環境破壊が懸念される。本研究では、これらの海域の環境破壊を未然に防ぐため、インドネシアの養殖漁場をフィールドとして学際的な調査研究を行い、持続的養殖を維持するための適性収容量を求める考え方や、適性養殖の評価のための環境指標等を明らかにすることを目指している。
- 2) 武岡 英隆（代表）、基盤研究（A）(1)「瀬戸内海における海砂生態系の機能とその破壊からの回復過程に関する研究」、17,940千円  
概要：瀬戸内海ではコンクリート骨材として大量の海砂が採取されてきたが、このような海砂採取は大規模な環境破壊として大きな社会問題となり、近年各県で海砂採取禁止措置が相次いでいる。これらの動きに並行して、環境省や沿岸各県で海砂採取の影響調査が行われてきた。しかしこれらの研究は、海砂によって形成された砂堆域を中心とする生態系の構造や機能に関する本質的理解にはほど遠い。本研究では海洋の各分野の専門家の学際的連携により、海砂が採取された後の海域と採取が行われていない海域での総合的な実験調査、モニタリングを行うことにより、主に以下のことを明らかにすることを目的としている。(1) 砂堆域および周辺海域の生態系の構造、物質循環、生物生産性などを明らかにし、砂堆域が瀬戸内海の生態系に対して果たしている役割を包括的に解明する。(2) 海砂採取後の海域の地形や生態系の経年変化をモニターして、自然による環境の回復力を明らかにするとともに、将来の環境変化を予測する。
- 3) 郭 新宇（分担）、基盤研究（B）(2)、スケール間相互作用に着目した日本南岸の黒潮変動メカニズムの解明、500千円  
概要：渦解像モデルを用いて、渦と黒潮の相互作用について数値実験を行った。
- 4) 郭 新宇（分担）、「近年の黄河の急激な水循環変化とその意味するもの」、総合地球環境学研究所の研究課題、7,500千円  
概要：渤海での現地観測により、黄河の流量変動が渤海生態系に及ぼす影響を調査する。
- 5) 加（榎木）玲美（代表）、日本学術振興会特別研究員奨励費「琵琶湖生態系の変動の鍵を握る動植物プランクトンに関する研究」、900千円
- 6) 黒田 寛（代表）、日本学術振興会特別研究員奨励費「沿岸親潮の形成・維持および季節変化機構に関する研究」、900千円  
概要：北海道太平洋沿岸域における海洋観測資料を解析し、沿岸親潮の形成・維持および季節変化機構を明ら

かにする。

概要：北海道沿岸域における観測結果を用いて、沿岸親潮の形成・維持および季節変化機構を明らかにする。

#### **生態環境計測分野 生態毒性解析分野**

- 1) 田辺 信介 (拠点リーダー), 21世紀 COE 「沿岸環境科学研究拠点」, 240,000千円  
概要：内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明、地球環境変動による沿岸生態系変動機構の解明と将来予測に関する研究および教育を展開するとともに、生物環境試料バンクの充実や2回の国際シンポジウムを開催するなど本事業の中核的活動を遂行した。
- 2) 田辺 信介 (代表), 基盤研究 (A) 「臭素系難燃剤 PBDE による広域汚染・生物蓄積の実態解明と生態影響評価に関する研究」, 15,210千円  
概要：生物環境試料バンクに保存されているカツオ試料を供試して PBDEs の広域汚染分布を解析し、この物質は地球規模で移動拡散することを明らかにした。
- 3) 田辺 信介 (分担), 厚生労働科学研究費補助金 (化学物質リスク研究事業) 「内分泌攪乱物質・ダイオキシン類の小児、成人の汚染実態及び暴露に関する調査研究」, 慶應義塾大学医学部, 3,000千円  
概要：関東地域および愛媛県在住者の臓器組織を用いて有機塩素化合物濃度を測定し、地域は小さいがダイオキシン類等一部の物質は肝臓に集積することをみいたした。
- 4) 田辺 信介 (分担), 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金 「残留性化学物質の物質循環モデルの構築とリサイクル・廃棄物政策評価への応用」, 国立環境研究所, 4,000千円  
概要：生物環境試料バンクに保存している鰐脚類、鯨類の脂肪組織を活用して、有機臭素系難燃剤 PBDEs の過去の汚染を復元し、その汚染レベルが近年上昇していることを明らかにした。
- 5) 岩田 久人 (代表), 基盤研究 (B) (2) 「Ah レセプター介在型ダイオキシン毒性の種特異的リスク評価法の開発」, 1,900千円  
概要：野生の哺乳類・鳥類・魚類を対象に AhR の遺伝子配列について解析し、その機能はアイソフォーム特異的、種特異的であることを明らかにした。
- 6) 岩田 久人 (分担), 新世紀重点研究創成プラン、人・自然・地球共生プロジェクト「インドシナ半島における水環境の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発」, 3,650千円  
概要：メコンデルタ水域における化学汚染、とくに地下水のヒ素汚染の実態を明らかにした。
- 7) 梶原 夏子 (代表), 若手研究 B 「臭素系難燃剤 PBDE による日本沿岸漂着鯨類の汚染とその影響に関する研究」, 1,900千円  
概要：高等動物に適用できる PBDE の分析法を確立するとともに、日本沿岸に漂着した鯨類の汚染モニタリングを実施し、相当濃度の蓄積を確認した。
- 8) 梶原 夏子 (代表), 愛媛大学研究開発支援経費 「新規有害物質 PBDE によるアジア途上国の汚染」, 1,860千円  
概要：アジア途上国から採取したイガイや魚介類等を供試して PBDE の分析を試みたところほとんど全ての地点から検出され、その広域汚染の実態が明らかとなった。
- 9) 阿南 弥寿美 (代表), 日本学術振興会特別研究員奨励費 「野生生物の微量元素蓄積に関するメタロチオネインの機能とその環境毒性学的役割」, 900千円  
概要：2種のウミガメ類についてメタロチオネイン異性体を同定し、微量元素蓄積との関係を明らかにした。
- 10) 久保田 彰 (代表), 日本学術振興会特別研究員奨励費 「ダイオキシン類による野生鳥類の汚染とその影響評価」, 900千円  
概要：カワウの肝臓から CYP1A cDNA をクローニングし、その両分子種がダイオキシン類暴露によって誘導されていることを明らかにした。
- 11) 上野 大介 (代表), 日本学術振興会特別研究員奨励費 「指標生物を用いた海洋におけるダイオキシン類汚染モニタリングとその生体影響評価」, 1,100千円  
概要：イカおよびカツオを指標生物としてダイオキシン類の汚染実態を解析し、この物質は移動拡散しにくい地域汚染型の挙動を示すことを明らかにした。

### 3. 研究プロジェクト

#### 生態系解析分野

- 1) 鈴木 聰（代表），基盤研究（A）(1)「異なる環境間で起こる微生物遺伝子の循環の証明」，9,200千円  
概要：薬剤耐性遺伝子や病原性遺伝子が水圏、陸圏、ヒトの腸内までふくめた種々の環境中で伝達されながら変異していく過程を追跡する。水圏試料（魚類腸内、海水、海底堆積物）からはじめてリボソーム保護タンパク質遺伝子を検出し、分布と変異を明らかにした。さらに発光細菌の分子系統から lux 遺伝子の水平伝達を明らかにした。各種 *in situ* 微生物検出法の確立も行った。
- 2) 鈴木 聰（分担），基盤研究（A）(2)「微生物からみた東南アジアの環境評価」，3,200千円  
概要：メコン川堆積物中における薬剤耐性遺伝子の多様性および有機スズ耐性菌・分解菌の多様性を解析し、メコン川の遺伝子汚染状況と微生物生態系の安定性を明らかにする。
- 3) 上田 拓史（分担），科研費基盤（A）(2)「有明海スズキとタイリクスズキをめぐる資源生物学と保全生態学の融合」  
概要：有明海スズキ稚魚の主要な餌になっている筑後川河口域の動物プランクトンの分布について調査を行った。
- 4) 金本自由生（分担），基盤研究（A）(1)「瀬戸内海における海砂生態系の機能とその破壊からの回復過程に関する研究」，800千円  
概要：海砂採取が海洋生物に与える影響についての、過去のデータを採集した。現在現地調査と、回復過程のシミュレーションとして既存の藻場の調査を計画中である。
- 5) 野中 里佐（代表），愛媛大学研究開発支援経費「海からの遺伝子伝播－海洋における薬剤耐性遺伝子の分布とヒトへの伝播」，愛媛大学，1,847千円  
概要：養殖場底泥中ではテトラサイクリン耐性遺伝子保有菌の種類が多様であることを明らかにした。

#### 環境影響評価予測分野

- 1) 井内 美郎，基盤C，琵琶湖の古環境プロキシ（指標）と測器データとの対応をもとにした古環境変遷史解説，1400千円  
概要：琵琶湖表層堆積物の高精度時間分解能による分析結果と彦根市における過去約100年間の気象観測データとの相関関係を明らかにすることにより、琵琶湖ボーリングデータに示される過去約40万年間の分析結果が示す気象変化を明らかにする。
- 2) 大森 浩二，基盤C，河川生態系の健全性に基づく流域生態系の管理，500千円
- 3) 奈良 正和（代表），若手研究（B），「新第三紀以降の浅海-海浜環境における化石底生群集－その古生態と生痕ファブリック」，1,000千円  
概要：田辺層群、下総層群ほかの地層群ならびに現世海浜堆積物に関して野外調査を行った。また、*Bichordites monastiriensis* や *Schaubcylindrichnus coronus* あるいは *Macaronichnus segregatis* 様生痕に関する研究結果を公表した。

### 3. 3 共同研究

#### 環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆，伊方原子力発電所温排水影響調査，愛媛県，783千円  
概要：伊方原子力発電所から排出される冷却用の温排水が付近漁場に与える影響の有無を判断するために、隣接する海域の環境及び漁業の実態を把握すること目的とした現地調査及び漁獲資料の収集を行う。
- 2) 武岡 英隆，伊方発電所前面海域における海生生物の挙動に関する研究，四電技術コンサルタント，525千円  
概要：近年、瀬戸内海や世界各地でクラゲ類の大量発生が頻発し、問題となっている。本研究では、伊方発電所の冷却水の取水時に採取されるクラゲ類の量のデータを解析し、クラゲ大量発生の周期性や気象、海況との関係を解析して、大量発生や移動・集積機構の解明を目指す。
- 3) 兼田 淳史，豊後水道における黒潮の変動に対する応答，九州大学応用力学研究所，研究代表者，48千円  
概要：沿岸域の水温、水位データと人工衛星データを用いて、黒潮の変動が豊後水道に与える影響について検討する。

**生態環境計測分野**

- 1) 田辺 信介, ガス中臭素系残留性有機汚染物質処理システム実用化の研究開発, ツルイ化学, 2,890千円  
概要: 有機臭素系難燃剤 PBDEs の分解処理に関する化学分析技術と学術情報について産学共同研究を展開した。

**生態系解析分野**

- 1) 鈴木 聰, 東レ株式会社愛媛工場, 1,500千円  
概要: 逆浸透膜を用いた海水淡水化工程におけるバイオフィルム形成について形成過程を明らかにし, 予測・遅延・防御する技術を開発する。
- 2) 上田 拓史, 伊方原発温排水影響調査, 愛媛県, 701千円  
概要: 伊方原子力発電所から排出される温排水の影響の有無を調べるために, 毎月周辺海域で採集されたプランクトンの沈殿量および乾重量を継続的に測定している。
- 3) 金本自由生, 伊方原発温排水影響調査, 愛媛県, 1,087千円  
概要: 伊方原子力発電所から排出される温排水が付着生物に及ぼす影響を調べるために, 排水口近辺から順次定点を定め, 付着生物を調べた。

**環境影響評価予測分野**

- 1) 井内 美郎,瀬戸内海の海砂利資源採取による広域的環境影響評価と管理に関する研究, 中国工業技術研究所, 併任, 2,000千円  
概要: 瀬戸内海における海砂利採取が海域環境に与える影響について, 総合的に研究を実施する。この研究では, 資源量推定と砂利採取後海域の地形回復に関する研究を実施する。
- 2) 大森 浩二, 下水処理水河川還流実証研究, 松山市, 7000千円

### 3. 4 受託研究

**生態環境計測分野**

- 1) 田辺 信介, 宇和海の底泥に含まれる有機スズ化合物の分析, 愛媛県水産試験場, 449千円  
概要: 有機スズ化合物による宇和海の堆積物の汚染実態を調査し, その汚染の低減は遅いことを明らかにした。
- 2) 田辺 信介, 平成15年度内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究-環日本海におけるダイオキシン類の魚介類等への蓄積状況について-, 国立環境研究所, 2,500千円  
概要: 香港, 東シナ海, 日本海および太平洋岸に漂着した鯨類を指標生物にして, 有機臭素系難燃剤 PBDEs の汚染実態と広域拡散の態様を明らかにした。

**生態系解析分野**

- 1) 鈴木 聰(代表), 文部科学省, 34,000千円  
RR2002, 人・自然・地球共生プロジェクト, インドシナ半島における水環境の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発  
概要: 愛媛大 CMES, 農学部, 医学部, 工学部, 情報センターおよび東京農工大のメンバーで構成され, メコン流域を中心としたインドシナ半島の水資源のヒ素, POPs などによる化学汚染の水循環に伴う拡散と生物濃縮過程と毒性の解明, および汚染除去技術開発を行う。

### 3. 5 各種研究助成金(民間・財団等), 獨学寄付金等

**環境動態解析分野**

- 1) 郭 新宇(分担), 瀬戸内海の底質移動シミュレーション, 日生財団, 300千円  
概要: 瀬戸内海全域の潮流モデルを用いて潮汐周期平均海底面せん断応力分布を計算した。
- 2) 藤井 直紀(代表), 瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究助成事業, 600千円

### 3. 研究プロジェクト

#### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

- 1) 田辺 信介, 野生生物のダイオキシン類蓄積状況等調査, 自然環境研究センター, 1,600千円  
概要: カワウとトビにおけるダイオキシン類の肝臓集積と薬物代謝酵素誘導について究明した。
- 2) 田辺 信介, 猛禽類の有害物質分析, (株) イーグレットオフィイス, 160千円  
概要: ダイオキシン類等 POPs による猛禽類の汚染について明らかにした。
- 3) 田辺 信介, オオタカの有害物質分析, 独立行政法人 水資源機構, 200千円  
概要: ダイオキシン類, POPs, 重金属類による猛禽類オオタカの汚染実態について明らかにした。
- 4) Annamalai Subramanian, 残留性有機汚染物質と重金属による汚染, トヨタ財団, 2,290千円  
概要: インドの都市および農村部地域住民の母乳を採取し, ダイオキシン類等 POPs の汚染実態を明らかにした。
- 5) 梶原 夏子, 濑戸内海に漂着したスナメリの PBDEs 汚染とその影響, 濑戸内海研究会議, 700千円  
概要: 濑戸内海に死亡漂着したスナメリから高濃度の PBDEs を検出し, 内海の汚染が顕在化していることを示唆した。
- 6) 梶原 夏子, 有機臭素系難燃剤 PBDEs によるアジア途上国ゴミ集積場の汚染, 住友財団, 1,500千円  
概要: ベトナム, カンボジア, インドなどのアジア途上国のゴミ集積場内で採取した土壌から高濃度の PBDEs を検出し, その汚染源が途上国にも存在することを明らかにした。

#### 生態系解析分野

- 1) 金本自由生 (代表), 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター共同研究, 「アイナメ科魚類の生活史」, 東京大学海洋研究所, 70千円  
概要: 大槌湾のアイナメ類について, 生活史を10年来追っており, 2004年度は2005年3月の成魚の採集を行ったが1尾採集されたのみであった。浮遊稚魚に関しても1尾採集されたのみで, 予想通り低水温の影響と思われた。
- 2) 野中 里佐 (代表), 笹川科学研究助成 「海からの遺伝子伝播—海洋における薬剤耐性遺伝子の分布とヒトへの伝播」, (財) 日本科学協会, 1,000千円  
概要: 抗生物質投与とともに養殖場底泥中の耐性菌の割合が増加していることを明らかにした。
- 3) 野中 里佐 (代表), 三菱財団研究助成 「養殖環境・海洋環境の抗生物質耐性遺伝子による汚染環境とヒトへの伝達」, (財) 三菱財団, 3,000千円  
概要: 養殖場底泥中のテトラサイクリン耐性遺伝子保有菌が底泥中に通年存在することを明らかにした。
- 4) 大林由美子 (代表), クリタ水・環境科学振興財団研究助成 萌芽的研究「水域生態系における環境プロテオーム解析の試み」, (財) クリタ水・環境科学振興財団, 400千円  
概要: 沿岸環境の溶存態タンパク質のプロファイルを解析し, 形成過程と生態系との関連性を明らかにする。
- 5) 尾崎 浩司, 「有明海奥部高濁度水域の表層低次生物生産に果たす浮泥の重要性」, 住友財団, 1,000千円  
概要: 有明海の奥部に注ぐ筑後川の河口域の高い生物生産性の原因を明らかとすることを目的として, フィールド調査, 生物飼育実験, 化学分析を行った。その結果, この水域の高い生物生産性は, 水中に浮遊する藻類により支えられていることが明らかとなった。

#### 環境影響評価予測分野

- 1) 大森 浩二, 賽水池の適正管理手法の開発, 財団法人ダム水源地環境整備センター, 2500千円
- 2) 大森 浩二, 新居浜沖合海域環境調査, 1000千円

## 4. 研究成果



(暦年で2004年に出版、掲載されたもの)

### 4. 1 著 書

#### 環境動態解析分野

- 1) 杉本隆成：海流と生物資源，成山堂書店，268.

#### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

- 1) Tanabe, S. : Contamination and toxic effects of persistent organic pollutants in wildlife and humans in Asia. Ecological Destruction, Health, and Development, Furukawa, H., Nisibuchi, M., Kono, Y. and Kaida, Y. (Eds), Kyoto University Press, Kyoto, Japan, 335-350.
- 2) 田辺信介：1.3.3. 環境ホルモンによる汚染，水産海洋ハンドブック，竹内俊郎・中田英昭・和田時夫・上田宏・有元貴文・渡部終五・中前 明編，生物研究社，58-61.
- 3) 田辺信介・上野大介：カツオー2，微量人工化学物質の生物モニタリング，水産学シリーズ140，竹内一郎・田辺信介・日野 明徳編，日本水産学会監修，恒星社厚生閣刊，129-136.
- 4) 岩田久人・金 恩英・田辺信介：水棲哺乳類・海鳥類，微量人工化学物質の生物モニタリング，水産学シリーズ140，竹内一郎・田辺信介・日野 明徳編，日本水産学会監修，恒星社厚生閣刊，137-148.

#### 生態系解析分野

- 1) 鈴木 聰：微生物生態学入門—地球環境を支えるミクロの生物圏—日本微生物生態学会教育研究部会編著，IV 章1-2および2-2項，日科技連出版
- 2) 上田拓史：有明海の泥水河口域にすむカイアシ類，水中の小さな巨人たち：カイアシ類の世界，長澤和也編，東海大学出版会，(印刷中)。

#### 環境影響評価予測分野

- 1) 大森浩二 (印刷中) 干潟のベントス，浅海性ベントスの生態学，東海大学出版会。

### 4. 2 学協会誌等

#### 環境動態解析分野

##### 原 著

- 1) Nakano, S., Tomaru, Y., Katano, T., Kaneda, A., Makino, W., Bishibe, Y., Hirose, M., Onji, M., Kitamura, S. and Takeoka, H. : The dynamics of microbial and herbivorous food webs in a coastal sea with special reference to intermittent nutrient supply from bottom intrusion. Aquatic Ecology, 38, 485-493.
- 2) Hayami, Y., Ougiyama, S., Koizumi, T. and Takeoka, H. : Modeling the effects of periodic intrusions of outer water on the variation in phytoplankton biomass and productivity in a small embayment. Korean Journal of Limnology, 37 (4), 455-461.
- 3) Guo, X., A, Futamura and H. Takeoka : Residual current in a semi-enclosed bay of the Seto Inland Sea, Japan, J. Geophy. Res., 109, C12008, doi : 10.1029/2003JC002203.
- 4) Miyazawa, Y., X. Guo and T. Yamagata : Roles of meso-scale eddies in the Kuroshio paths, J. Phys. Oceanogr. 34, 2203-2222.
- 5) Hukuda, H. and X. Guo : Application of a two-way nested model to the seamount problem, J. Oceanogr., 60 (5),

#### 4. 研究成果

- 893-904.
- 6) Hayashi, M., T. Yanagi and X. Guo : Difference of nutrients budgets in the Bohai Sea between 1982 and 1992 related to the decrease of the Yellow River Discharge, *Journal of the Korean Society of Oceanography*, 39 (1), 14-19.
  - 7) Pil-Hun Chang and Atsuhiko Isobe : Interannual variation of freshwater in the Yellow and East China Seas : Roles of the Changjiang discharge and wind forcing. *J. Oceanogr.*, in press
  - 8) Takahashi, D., Y. Nishida, K. Uehara and H. Miyake : Dynamics and water mass structure of a summertime anticyclonic eddy in Funka Bay, Hokkaido, Japan. *Estuarine, Coastal and Shelf Science* 61, 185-195.
  - 9) 杉本隆成・田中勝久・佐藤英夫：有明海奥部における浮泥の挙動と低次生産への影響，沿岸海洋研究，42 (1), 19-25.
  - 10) 吉田尚郁・杉本隆成：黒潮前線波動に対する陸岸地形の影響 回転水槽実験を用いたアプローチ，沿岸海洋研究，42 (2), 161-169.
  - 11) 高橋大介・木戸和男・西田芳則・三宅秀男：冬季の噴火湾における季節風による湾内の循環について。海と空 80, 125-138.
  - 12) 上野俊士郎, 池田 至, 藤井直紀, 野田幹雄, 久保田 信: 栄養強化したアルテミア幼生の投与によるアマクサクラゲの未成熟クラゲへの成長効果. 南紀生物, 46 (1), 69-70.
  - 13) Tada, K., Yamaguchi, H., and Montani, S. : Comparison of chlorophyll a concentrations obtained with 90 % acetone and N, N-dimethylformamide extraction in coastal seawater. *Journal of Oceanography*, 60, 259-261.
  - 14) 多田邦尚・山口一岩・一見和彦・Srithongouthai, S. : 夏季の瀬戸内海・播磨灘の表層水中の粒状物の化学組成. 海と空, 79, 89-95.
  - 15) 堤 裕昭・木村千寿子・永田紗矢香・佃 政則・山口一岩・高橋 徹・門谷 茂: 広域定期観測による有明海水環境の現状. 沿岸海洋研究, 42, 35-42.
  - 16) Yamaguchi, H., Tsutsumi, H., Tsukuda, M., Nagata, S., Kimura, C., Yoshioka, M., Shibanuma, S. and Montani, S.: Utilization of photosynthetically produced organic particles by dense patches of suspension feeding bivalves on the sand flat of Midori River Estuary, Kyushu, Japan. *Benthos Research*, 59, 67-77.
  - 17) M. Kuwae, S. Yoshikawa, N. Tsugeki and Y. Inouchi : Reconstruction of a climate record for the last 140 ka based on diatom valve flux from Lake Biwa, Japan, *Journal of paleolimnology*, 32, 19-39.
  - 18) Kuroda, H. and Kishi, M. J. : A data assimilation technique applied to estimate parameters for the NEMURO marine ecosystem model, *Ecological Modeling*, 172, 69-85.
  - 19) 黒田 寛・磯田 豊: 定期船 ADCP の semi-regular サンプリングデータを用いて年周期変動成分を調和分解する際の問題点, 海の研究, 13, 151-161.
  - 20) 黒田 寛・磯田 豊・大西光代・岩橋雅行・佐藤千鶴・中山智治・伊藤集通・伊勢田賢一・西澤慶介・島茂樹・外川織彦: 定期船 ADCP による semi-regular sampling データを用いた調和解析手法の検討－津軽海峡東口における潮流と残差流の評価, 海の研究, 13, 553-564.
  - 21) Takata, H., Kuma, K., Iwade, S., Isoda, Y., Kuroda, H. and Senju, T. : Comparative vertical distributions of iron in the Japan Sea, the Bering Sea and the western North Pacific Ocean. *Journal of Geophysical Research*, in press

#### 総説等

- 1) 速水祐一・碓井澄子・武岡英隆:瀬戸内海における窒素・リンの存在量とその長期変動. 海と空, 80 (2), 75-78.
- 2) 武岡英隆:沿岸環境モニタリングの新展開. 月刊海洋, 36 (1), 67-704.
- 3) 杉本隆成・今本博建・山下陸男:流域・河口・海岸系における物質輸送と環境・防災, 月刊海洋, 36 (3), 177-180.
- 4) 兼田淳史:豊後水道から瀬戸内海への栄養塩の流入過程. 瀬戸内海, 40, 6-9.

#### Proceedings

- 1) Takeoka, H., Hayami, Y. and Kaneda, A. : Long-term variations in the marine environments of the Seto Inland Sea, Proceeding of International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, 27-28 September 2004, Matsuyama, Japan, 115-124.
- 2) Hayami, Y., Kohama, T., Teshima, R., Fukumori, K., Kaneda, A. and Takeoka, H. : Continuous Monitoring System of Coastal Environment in the Bungo Channel. Proceeding of International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, 27-28 September 2004, Matsuyama, Japan, 221-226.

- 3) Mishra, P., Mohanty, P. K. and Sugimoto, T. : Environmental condition and strategies for sustainable management of Chilka Lake, India. Proc. 2nd International conference on Asia and Pacific coasts, Tokyo.
- 4) Mohanty, P. K., Panda, U. S., Mishra, P., Takada, H. and Sugimoto, T. : Studies on coastal changes associated with tropical cyclones along the Orissa coast, East Coast of India. ib.
- 5) 武岡英隆：沿岸海洋モニタリングの重要性と意義—環境モニタリング，水産海洋研究，67，208-209。
- 6) 三宅秀男・高橋大介：ADCP を用いた海潮流の測定と水産への応用，海洋音響学会誌 31, 44-47.
- 7) 藤井直紀・上 真一：東京湾・伊勢湾・大阪湾の生物資源持続性評価と相互比較. 第3回海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム論文集, 119-124.

**生態環境計測分野 生態毒性解析分野**

**原 著**

- 1) Ueno, D., Inoue, S., Takahashi, S., Ikeda, K., Tanaka, H., Subramanian, A. N., Fillmann, G., Lam, P. K. S., Zheng, J., Muchtar, M., Prudente, M., Chung, K. and Tanabe, S.: Global pollution monitoring of butyltin compounds using skipjack tuna as a bioindicator. Environmental Pollution, 127 (1), 1-12.
- 2) Ikemoto, T., Kunito, T., Watanabe, I., Yasunaga, G., Baba, N., Miyazaki, N., Petrov, E. A. and Tanabe, S. : Comparison of trace element accumulation in Baikal seals (*Phoca sibirica*), Caspian seals (*Phoca caspica*) and northern fur seals (*Callorhinus ursinus*). Environmental Pollution, 127 (1), 83-97.
- 3) Kannan, K., Kajiwara, N., Watanabe, M., Nakata, H., Thomas, N. J., Stephenson, M., Jessup, D. A. and Tanabe, S. : Profiles of polychlorinated biphenyl congeners, organochlorine pesticides, and butyltins in southern sea otters and their prey. Environmental Toxicology and Chemistry, 23 (1), 49-56.
- 4) Fung, C. N., Lam, J. C. W., Zheng, G. J., Connell, D. W., Monirith, I., Tanabe, S., Richardson, B. J. and Lam, P. K. S. : Mussel-based monitoring of trace metal and organic contaminants along the east coast of China using *Perna viridis* and *Mytilus edulis*. Environmental Pollution, 127 (2), 203-216.
- 5) Kajiwara, N., Matsuoka, S., Iwata, H., Tanabe, S., Rosas, F. C. W., Fillmann, G. and Readman, J. W. : Contamination by persistent organochlorines in cetaceans incidentally caught along Brazilian coastal waters. Archives of Environmental Contamination and Toxicology, 46 (1), 124-134.
- 6) Tanabe, S., Watanabe, M., Minh, T. B., Kunisue, T., Nakanishi, S., Ono, H. and Tanaka, H.: PCDDs, PCDFs, and coplanar PCBs in albatross from the North Pacific and Southern Oceans : levels, patterns, and toxicological implications. Environmental Science and Technology, 38 (2), 403-413.
- 7) 國末達也・染矢雅之・渡部真文・豊田卓枝・黒田優子・長山淳哉・田辺信介：残留性有機汚染物質（POPs）による愛媛県在住初産婦の母乳汚染，環境科学会誌，17 (1), 37-47.
- 8) Lam, J. C. W., Tanabe, S., Chan, S. K. F., Yuen, E. K. W., Lam, M. H. W. and Lam, P. K. S.: Trace element residues in tissues of green turtles (*Chelonia mydas*) from South China Waters. Marine Pollution Bulletin, 48 (1-2), 174-182.
- 9) Kunisue, T., Someya, M., Monirith, I., Watanabe, M., Tana, T. S. and Tanabe, S. (2004): Occurrence of PCBs, organochlorine insecticides, tris (4-chlorophenyl) methane, and tris (4-chlorophenyl) methanol in human breast milk collected from Cambodia. Archives of Environmental Contamination and Toxicology, 46 (3), 405-412.
- 10) Takeuchi, I., Takahashi, S., Tanabe, S. and Miyazaki, N. (2004) : Butyltin concentrations along the Japanese coast from 1997 to 1999 monitored by *Caprella* spp. (Crustacea: Amphipoda). Marine Environmental Research, 57(5), 397-414.
- 11) Minh, N. H., Someya, M., Minh, T. B., Kunisue, T., Watanabe, M., Tanabe, S., Viet, P. H. and Tuyen, B. C. : Persistent organochlorine residues in human breast milk from Hanoi and Hochiminh City, Vietnam : contamination, accumulation kinetics and risk assessment for infants. Environmental Pollution, 129 (3), 431-441.
- 12) Lam, J. C. W., Tanabe, S., Wong, B. S. F. and Lam, P. K. S. : Trace element residues in eggs of little egrets (*Egretta garzetta*) and black-crowned night heron (*Nycticorax nycticorax*) from Hong Kong, China. Marine Pollution Bulletin, 48 (3-4), 390-396.
- 13) Tsydenova, O., Minh, T. B., Kajiwara, N., Batoev, V. and Tanabe, S. : Recent contamination by persistent organochlorines in Baikal seal (*Phoca sibirica*) from Lake Baikal, Russia. Marine Pollution Bulletin, 48 (7-8), 749-758.
- 14) Ueno, D., Kajiwara, N., Tanaka, H., Subramanian, An., Fillmann, G., Lam, P. K. S., Zheng, G. J., Muchtar, M., Razak, H., Prudente, M., Chung, K. H. and Tanabe, S.: Global pollution monitoring of polybrominated diphenyl

#### 4. 研究成果

- ethers using skipjack tuna as a bioindicator, *Environmental Science and Technology*, 38 (8), 2312-2316.
- 15) Guruge, K. S. and Tanabe, S. : Polychlorinated dibenzo-p-dioxins, dibenzofurans and dioxin-like biphenyls in biota from Sri Lankan coast. *Marine Pollution Bulletin*, 48 (9-10), 1004-1008.
  - 16) Yang, J., Kunito, T., Anan, Y., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Total and subcellular distribution of trace elements in the liver of a mother-fetus pair of Dall' s porpoises (*Phocoenoides dalli*). *Marine Pollution Bulletin*, 48 (11-12), 1122-1129.
  - 17) Fujihara, J., Kinito, T., Kubota, R., Tanaka, H. and Tanabe, S. : Arsenic accumulation and distribution in tissues of black-footed albatrosses. *Marine Pollution Bulletin*, 48 (11-12), 1153-1160.
  - 18) Sudaryanto, A., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S. and Ismail, M. : Contamination of butyltin compounds in Malaysian marine environments. *Environmental Pollution*, 130 (3), 347-358.
  - 19) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Baba, N.: Identification of constitutive androstane receptor cDNA in northern fur seal (*Callorhinus ursinus*). *Marine Environmental Research*, 58 (2-5), 107-111.
  - 20) Yasui, T., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : Identification of aryl hydrocarbon receptor 2 in aquatic birds : cDNA cloning of AHR1 and AHR2 and characteristics of their amino acid sequences. *Marine Environmental Research*, 58 (2-5), 113-118.
  - 21) Kim, E. Y., Iwata, H., Fujise, Y. and Tanabe, S. : Searching for novel CYP members using cDNA library from a minke whale liver. *Marine Environmental Research*, 58 (2-5), 495-498.
  - 22) Iwata, H., Watanabe, M., Okajima, Y., Tanabe, S., Amano, M., Miyazaki, N. and Petrov, E. A.: Toxicokinetics of PCDD, PCDF, and coplanar PCB congeners in Baikal seals, *Pusa sibirica* : age-related accumulation, maternal transfer, and hepatic sequestration. *Environmental Science and Technology*, 38 (13), 3505-3513.
  - 23) Kunisue, T., Someya, M., Kayama, F., Jin, Y. and Tanabe, S. : Persistent organochlorines in human breast milk collected from primiparae in Dalian and Shenyang, China. *Environmental Pollution*, 131 (3), 381-392.
  - 24) Kajiwara, N., Ueno, D., Takahashi, A., Baba, N. and Tanabe, S.: Polybrominated diphenyl ethers and organochlorines in archived northern fur seal samples from the Pacific coast of Japan, 1972-1998. *Environmental Science and Technology*, 38 (14), 3804-3809.
  - 25) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Tobata, S.: Levels and toxicokinetic behaviors of PCDD, PCDF, and coplanar PCB congeners in common cormorants from Lake Biwa, Japan. *Environmental Science and Technology*, 38 (14), 3853-3859.
  - 26) Ikemoto, T., Kunito, T., Anan, Y., Tanaka, H., Baba, N., Miyazaki, N. and Tanabe, S. : Association of heavy metals with metallothionein and other proteins in hepatic cytosol of marine mammals and seabirds. *Environmental Toxicology and Chemistry*, 23 (8), 2008-2016.
  - 27) Kannan, K., Kajiwara, N., Le Boeuf, B. J. and Tanabe, S.: Organochlorine pesticides and polychlorinated biphenyls in California sea lions. *Environmental Pollution*, 131 (3), 425-434.
  - 28) Kunisue, T., Watanabe, M., Iwata, H., Subramanian, An., Monirith, I., Minh, T. B., Baburajendran, R., Tana, T. S., Viet, P. H., Prudente, M. and Tanabe, S. : Dioxins and related compounds in human breast milk collected around open dumping sites in Asian developing countries : bovine milk as a potential source. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, 47 (3), 414-426.
  - 29) Kunito, T., Nakamura, S., Ikemoto, T., Anan, Y., Kubota, R., Tanabe, S., Rosas, F. C. W., Fillmann, G. and Readman, J. W. : Concentration and subcellular distribution of trace elements in liver of small cetaceans incidentally caught along the Brazilian coast. *Marine Pollution Bulletin*, 49 (7-8), 574-587.
  - 30) Ikemoto, T., Kunito, T., Tanaka, H., Baba, N., Miyazaki, N. and Tanabe, S. : Detoxification mechanism of heavy metals in marine mammals, seabirds : interaction of selenium with mercury, silver, copper, zinc, and cadmium in liver. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, 47 (3), 402-413.
  - 31) Agusa, T., Kunito, T., Tanabe, S., Pourkazemi, M. and Aubrey, D. G. : Concentrations of trace elements in muscle of sturgeons in the Caspian Sea. *Marine Pollution Bulletin*, 49 (9-10), 789-800.
  - 32) Takeuchi, I., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Decline of butyltin levels in *Caprella* spp. (Crustacea : Amphipoda) inhabiting the Sargassum community in Otsuchi Bay, Japan from 1994 to 2001. *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom*, 84 (5), 911-918.
  - 33) Agusa, T., Kunito, T., Iwata, H., Monirith, I., Tana, T. S., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Mercury

- contamination in human hair and fish from Cambodia: levels, specific accumulation and risk assessment. Environmental Pollution, 134 (1), 79-86.
- 34) Agusa, T., Kunito, T., Fujihara, J., Kubota, R., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Subramanian, An., Iwata, H., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Contamination by trace elements in groundwater of Vietnam. Biomedical Research on Trace Elements, 15 (4), 339-341.
- 35) Arai, T., Ikemoto, T., Hokura, A., Terada, Y., Kunito, T., Tanabe, S. and Nakai, I.: Chemical forms of mercury and cadmium accumulated in marine mammals and seabirds as determined by XAFS analysis. Environmental Science and Technology, 38 (24), 6468-6474.
- 36) 平川周作・岩田久人・金 恩英・田辺信介・宮崎信之・Petrov, E. A.: バイカルアザラシ CYP1A1/1A2の同定およびダイオキシン類蓄積濃度と各 mRNA 発現量の関係, 環境毒性学会誌, 7 (2), 55-59.

### 総説等

- 1) 田辺信介: 理事が語る環境科学研究<第3回>子どもの化学汚染, 環境科学会誌, 17 (1), 1-2. (招待原稿)
- 2) Tanabe, S.: POPs - need for target research on high risk stage. Marine Pollution Bulletin, 48 (7-8), 609-610. (招待原稿)
- 3) 田辺信介: 私が化学者になった理由「学を成すは人である」, 化学, 59 (6), 25. (招待原稿)
- 4) 田辺信介: 書評「西川洋三著:環境ホルモン-人心を攪乱した物質-, 廃棄物学会誌, 15 (3), 160. (招待原稿)
- 5) Tanabe, S.: PBDEs, an emerging group of persistent pollutants. Marine Pollution Bulletin, 49 (5-6), 369-370. (招待原稿)
- 6) 田辺信介: 第13回環境化学学術賞を受賞して, 環境化学, 14 (3), 781-782. (招待原稿)
- 7) 田辺信介: 愛媛大学の21世紀 COE プログラム, Endocrine Disrupter News Letter, 7 (2), 7. (招待原稿)

### Proceedings 等

- 1) 鈴木美成・渡邊 泉・久野勝治・阿南弥寿美・國頭 恭・田辺信介: タイワンリスの肝臓における Cu 蓄積と細胞内分布, Biomedical Research on Trace Elements, 15 (1), 97-99.
- 2) Kajiwara, N., Ueno, D., Ramu, K., Kamikawa, S., Baba, N., Yamada, T. and Tanabe, S.: Polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in marine mammals: results from the environmental specimen bank for global monitoring (es-BANK) at Ehime University. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 19-24.
- 3) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T., Okabe, Y., Kim, E. Y., Subramanian, An. and Tanabe, S.: Trace element accumulation in great cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Lake Biwa and Mie in Japan. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 25-29.
- 4) Ikemoto, T., Kunito, T., Nakamura, S., Anan, Y., Tanaka, H., Baba, N., Miyazaki, N. and Tanabe, S.: Association of heavy metals with metal-binding proteins in hepatic cytosol of marine mammals and seabirds. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 30-35.
- 5) Anan, Y., Iida, A., Ikemoto, T., Kuiken, T., Amano, M., Tanabe, S. and Osterhaus, A. D. M. E.: Accumulation of trace elements in harbor seal (*Phoca vitulina*) stranded during the mass mortality events in the North Sea in 2002. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 36-41.
- 6) Asante, K. A., Kubota, R., Agusa, T., Subramanian, An., Tanabe, S. and Nishida, S.: Trace element concentrations in deep sea fish from the Sulu Sea. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 42-47.
- 7) Agusa, T., Kunito, T., Fujihara, J., Kubota, R., Iwata, H., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Contamination by arsenic and other trace elements in drinking water and residents in Vietnam. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup>

#### 4. 研究成果

- COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 48-52.
- 8) Sudaryanto, A., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S. and Muchtar, M. : Assessment of organotins contamination in mussels, fish and sediments from coastal waters of Indonesia. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 63-68.
  - 9) Sudaryanto, A., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S. and Ismail, A. : Assessment of organotins contamination in mussels, fish and sediments from coastal waters of Malaysia. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 69-74.
  - 10) Muraoka, M., Takahashi, S., Tanabe, S., Yamada, T., Sakayama, K., Mori, C. and Zheng, J. : Monitoring of organotin contamination using blood samples and risk assessment for immunotoxicity and maternal transfer. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 75-79.
  - 11) Ueda, K., Hamano, S., Umemura, S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Study of thermal treatment for dioxins contaminated soil by indirect heating process. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 98-101.
  - 12) Ramu, K., Kajiwara, N., Tanabe, S., Lam, P. K. S. and Jefferson, T. A.: Accumulation of persistent toxic substances in cetaceans from Hong Kong waters. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 102-107.
  - 13) Lam, J. C. W., Tanabe, S., Giesy, J., Wong, H. L., Wong, B. S. F. and Lam, P. K. S.: Ecological risk assessment of environmental contaminants for waterbirds. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 108-111.
  - 14) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K., and Tobata, S. : Levels and toxicokinetic behaviors of PCDD, PCDF and coplanar PCB congeners in common cormorants from the Lake Biwa, Japan : life stage-related accumulation and tissue distribution. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 112-117.
  - 15) Minh, N. H., Minh, T. B., Kunisue, T., Iwata, H., Tanabe, S., Viet, P. H. and Tuyen, B. C.: Specific accumulation and risk assessment of persistent organochlorines in human breast milk from Vietnam. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 118-123.
  - 16) Sudaryanto, A., Kunisue, T., Iwata, H. and Tanabe, S. : Persistent organochlorines in human breast milk from Indonesia. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 124-129.
  - 17) Minh, T. B., Iwata, H., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Dioxins and dioxin-like compounds in Asian countries : contamination and implications for environmental and human health. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 130-137.
  - 18) Kunisue, T., Watanabe, M., Someya, M., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Persistent organic pollutants in soils and human breast milk from the dumping site of municipal wastes in India : bovine milk as a potential source. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 138-142.
  - 19) Kubota, R., Kim, E. Y., Kunito, T., Minh, T. B., Iwata, H., Tanabe, S., Trang, P. T. K. and Viet, P. H. : Arsenic contamination in groundwater and its toxic evaluation on human health in Vietnam. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program "Coastal Marine Environmental Studies", Ehime University, 147-151.
  - 20) Kim, E. Y., Yasui, T., Iwata, H., and Tanabe, S. : Molecular characterization of Ah receptors and its possible role

- as a biomarker of dioxin susceptibility in aquatic mammals and birds. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 162-166.
- 21) Iwata, H., Kim, E. Y., Kubota, A., Watanabe, M., Sakamoto, T., Hirakawa, S., Okamoto, M. and Tanabe, S.: Comparative characterization of CYP1As as a biomarker of PCDDs/DFs and Co-PCBs contamination in aquatic birds and mammals. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 167-172.
  - 22) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Cloning and expression analysis of constitutive androstane receptor cDNAs in Baikal seal (*Pusa sibirica*). Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 177-181.
  - 23) Yasui, T., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : Identification and molecular characterization of a novel aryl hydrocarbon receptor isoform (AhR2) in aquatic birds. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 182-187.
  - 24) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : cDNA cloning of the aryl hydrocarbon receptor 2 from red seabream (*Pagrus major*) and its tissue distribution. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 188-191.
  - 25) Watanabe, M., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Hashimoto, T. : Polychlorinated dibenzo-p-dioxins, dibenzofurans and coplanar PCBs in crows from Tokyo, Japan, and their effects on hepatic cytochrome P450 1A. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 192-198.
  - 26) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Tobata, S.: CYP1A-like protein expression related to accumulation, hepatic sequestration and metabolism of PCDD, PCDF and coplanar PCB congeners in common cormorants. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 199-203.
  - 27) Niimi, S., Kim, E. Y., Iwata, H., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S. : Sequence analysis of cytochrome P450 members from common minke whale (*Balaenoptera acutorostrata*). Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 204-207.
  - 28) Hirakawa, S., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Isolation of CYP1A1 cDNA and its mRNA expression related to TEQ level in Baikal seal (*Pusa sibirica*). Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 208-212.
  - 29) Anan, Y., Kim, E. Y., Kunito, T., Iwata, H. and Tanabe, S. : Molecular cloning and expression analysis of three metallothionein isoforms in sea turtles. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 213-217.
  - 30) Nakayama, K., Iwata, H., Kim, E. Y., Tashiro, K. and Tanabe, S. : Monitoring of gene expression profiles related to chemical contamination in common cormorant (*Phalacrocorax carbo*) liver with an oligo array. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 218-222.
  - 31) Iwata, H., Kim, E. Y., Nakayama, K., Tanabe, S., Yamagata, A. and Oofusa, K. : Effects of PCDDs/DFs/Co-PCBs on hepatic protein expression profile in common cormorant population. Proceedings of 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, 21<sup>st</sup> COE Program “Coastal Marine Environmental Studies”, Ehime University, 223-227.
  - 32) Iwata, H., Agusa, T., Inoue, S., Kubota, R., Minh, N. H., Minh, T. B., Tu, N. C. P., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, An., Tanabe, S., Viet, P. H. and Tuyen, B. C. : Contamination of trace elements in groundwater

#### 4. 研究成果

and persistent organochlorines in sediment from Mekong Delta, south Vietnam. Proceedings of International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan, 25-31.

- 33) Yamauchi, S., Ito, A., Higashino, T., Miura, C., Agusa, T., Kubota, R., Iwata, H., Tanabe, S. and Miura, T. : Influence of endocrine disruptors on reproduction of aquatic animals in Indochina. Proceedings of International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan, 32-40.

#### 生態系解析分野

##### 原 著

- 1) Zhang, C-X. and Suzuki, S. : Aquabirnaviruses isolated from marine organisms form a distinct genogroup from other aquabirnaviruses. *Journal of Fish Diseases*, 27, 633-643.
- 2) Kim, S-R., Nonaka L. and Suzuki, S. : Occurrence of tetracycline resistance genes *tet* (M) and *tet* (S) in bacteria from marine aquaculture sites. *FEMS Microbiology Letters*, 237, 147-156.
- 3) Isshiki, T., Nagano, T., Kanehira, K. and Suzuki, S. : Distribution of marine birnavirus in cultured marine fish species from Kagawa Prefecture, Japan. *Journal of Fish Diseases*, 27 (2), 89-98.
- 4) Kitamura, S-I., Kamata, S-I., Nakano, S-i. and Suzuki, S. : Solar UV does not inactivate marine birnavirus in coastal seawater. *Diseases of Aquatic Organisms*, 58, 251-254.
- 5) Miyoshi, T. and Suzuki, S.: Degradation of outer membrane proteins of *Synechococcus* sp. *in vitro* and *in situ*. *Journal of Oceanography*, 60, 825-833.
- 6) Kimata, N., Nishino, T., Suzuki, S. and Kogure, K. : *Pseudomonas aeruginosa* isolated from marine environments in Tokyo Bay. *Microbial Ecology*, 47 (1), 41-47.
- 7) Gibreel, A., Tracz, D. M., Nonaka, L., Ngo, T. M., Connell, S. R. and Taylor, D. E. : Incidence of antibiotic resistance in *Campylobacter jejuni* isolated in Alberta, Canada, from 1999 to 2002, with special reference to *tet* (O) -mediated tetracycline resistance. *Antimicrobial Agents and Chemotherapy*, 48 (9), 3442-3450.
- 8) Ueda, H., Terao, A., Tanaka, M., Hibino, M. and Shahidul Islam, M. : How can river-estuarine planktonic copepods survive river floods? *Ecological Research*, 19, 625-632.
- 9) Itani, G. : Distribution of intertidal upogebiid shrimps (Crustacea : Decapoda : Thalassinidea) in Japan. Contributions from Biological Laboratory, Kyoto University, 29, 383-399.
- 10) Shahidul Islam, M., Ueda, H. and Tanaka, M. : Spatial distribution and trophic ecology of dominant copepods associated with turbidity maximum along the salinity gradient in a highly embayed estuarine system in Ariake Sea, Japan. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 316, 101-116.
- 11) Ferrari, F. D. and Ueda, H. : Development of leg 5 of copepods belonging to the calanoid superfamily Centropagoidea (Crustacea). *Journal of Crustacean Biology*, 25, 333-352.
- 12) Teruhisa Komatsu, Yu Umezawa, Masahiro Nakaoka, Chatcharee Supandwanid and Ziyusei Kanamoto. Water flow and sediment in *Enhalus acoroides* and other seagrass beds in the Andaman Sea, off Khao Bae Na, Thailand. *Coastal Marine Science*, 29 : 63-68.
- 13) Karen D. Crow, Ziyusei Kanamoto, Giacomo Bernardi, Molecular phylogeny of the hexagrammid fishes using a multi-locus approach. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 32 : 986-997.

#### 環境影響評価予測分野

##### 原 著

- 1) Urabe, A., Tateishi, M., Inouchi, Y., Matsuoka, H., Inoue, T., Dmytryev, A., and khlystov, O. M. : Lake-level changes during the past 100,000 years at Lake Baikal, southern Siberia, *Quaternary Research*, 62, 214-222.
- 2) Xiao, J., Xu Q., Nakamura T., Yang X., Lian W. and Inouchi Y. : Holocene vegetation in the Daihai Lake region of north-central China: a direct indication of Asian monsoon climatic history, *Quaternary Science Reviews*, 23, 1669-1679.
- 3) 天野敦子・井上卓彦・岩本直哉・塙屋藤彦・井内美郎：愛媛県南部宇和海北灘湾における過去約100年間の底質環境変遷, 地質学雑誌, 110, 518-527.
- 4) 金井 豊・井内美郎：愛媛県西部佐多岬半島の阿弥陀池および亀ヶ池の堆積速度と堆積環境の変遷, 堆積学

- 研究, 58, 93-103.
- 5) 井上卓彦・米田明徳・原口強・五十嵐厚夫・井内美郎：堆積物分布からみた日野川・皆生海岸流砂系における過去約400年間の環境変遷, 海岸工学論文集, 51, 586-590.
  - 6) 原口 強・米田明徳・五十嵐厚夫・井上卓彦・井内美郎：地層解析による皆生海岸の侵食・堆積過程, 海岸工学論文集, 51, 561-565.
  - 7) 中條喜友・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・原田英明・井内美郎：猫瀬戸東方海域における海水面上昇過程と潮流速の変化, 第14回環境地質学シンポジウム論文集(論説), 21-28.
  - 8) 井上卓彦・米田明徳・原口強・五十嵐厚夫・岩本直哉・天野敦子・井内美郎：鳥取県西部、境港地域における過去約3000年間の堆積史, 第14回環境地質学シンポジウム論文集(論説), 29-36.
  - 9) 奥村 学・井上卓彦・天野敦子・岩本直哉・米田明徳・五十嵐厚夫・原口強・井内美郎：美保湾南部日野川河口域の過去約200年間の堆積史, 第14回環境地質学シンポジウム論文集(論説), 37-46.
  - 10) 天野敦子・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎：愛媛県南部御荘湾における過去約200年間の海底表層環境変遷, 第14回環境地質学シンポジウム論文集(論説), 47-52.
  - 11) 布川裕也・岩本直哉・井上卓彦・中條喜友・関口智寛・井内美郎：表層堆積物分布と海底地形の変化からみた大洲砂堆の堆積物移動形態, 第14回環境地質学シンポジウム論文集(論説), 53-58.
  - 12) 原田英明・岩本直哉・井上卓彦・中條喜友・布川裕也・奥村 学・井内美郎：海砂採取後海域における海底地形と粒度組成から見た堆積物粒度の回復過程, 第14回環境地質学シンポジウム論文集(論説), 59-66.
  - 13) 川口優美・岩本直哉・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物の粒子密度からみた環境変遷史, 第14回環境地質学シンポジウム論文集(論説), 67-74.
  - 14) 岩本直哉・齋藤笑子・井内美郎：琵琶湖堆積物の全炭素・全窒素含有率からみた過去約40万年間の環境変遷, 第14回環境地質学シンポジウム論文集(論説), 75-82.
  - 15) 齋藤笑子・井内美郎：琵琶湖高島沖の湖底堆積物にみる過去約20万年間の粒径変動, 第14回環境地質学シンポジウム論文集(論説), 83-92.
  - 16) Inouchi, Y., Iwamoto, N., Inoue, T. and Shioya, F.: Large scale sand dredging and mode of slow recovery of sand dunes in the Seto Inland Sea, Japan, CD-Rom Proceedings of Oceans' 04 MTS/IEEE and Techno-Ocean' 04, 66-70.
  - 17) Kuwae, M., Yoshikawa, S., Tsugeki, N. and Inouchi, Y. : Reconstruction of a climate record for the past 140 kyr based on diatom valve flux data from Lake Biwa, Japan, Journal of Paleolimnology, 32 (1), 19-39.
  - 18) Sekiguchi, T. and Sunamura, T. : A laboratory study of formative conditions for characteristic ripple patterns associated with the change in wave conditions, Earth Surface Processes and Landform, 29 (11), 1431-1435.
  - 19) Sekiguchi, T. and Sunamura, T. : Development of characteristic ripple patterns in response to the change in wave conditions : a laboratory experiment. Transactions, Japanese Geomorphological Union, 26 (1), 29-45.
  - 20) Sekiguchi, T. and Sunamura, T. : Reply to discussion of "Effects of bed perturbation and velocity asymmetry on ripple initiation : wave-flume experiments" [Coastal Engineering 50 (2004) 231-239]. Coastal Engineering, 52 (3), 309-312.
  - 21) Sekiguchi, T. : Ripples with secondary crests as a possible indicator of the direction of palaeo-wave propagation. Journal of the Geological Society of Japan, 111 (3), (in press)
  - 22) 納谷友規・谷村好洋・土谷 卓・阿部川秀人・中里亮治・天野一男：浅い湖における沈降粒子の挙動と珪藻殻堆積過程－北浦におけるセディメントトラップ実験結果－, 陸水学雑誌, 65 (3), 203-213.
  - 23) Omori, K., Fukumoto, R., Okuda, N., Mishima, Y. & Yoshino, K.: Primary production structure and energy flow of coastal ecosystems in Aki-Nada along the coast of the Shikoku Island, Japan. In: Menasveta, P. and N. Tandavanitj, eds., Comprehensive and Responsible Coastal Zone Management for Sustainable and Friendly Coexistence between Nature and People, pp. 541-550.
  - 24) Okuda, N., Hamaoka, H., & Omori, K.: Life history and ecology of a glowbelly Acropoma japonicum in the Uwa Sea, Japan. Fishery Science (in press)
  - 25) Genkai-Kato, M., H. Mitsuhashi, Y. Kohmatsu, H. Miyasaka, K. Nozaki and M. Nakanishi : A seasonal change in the distribution of a stonefly larva with special attention to oxygen supply and water flow. Limnology (in press)
  - 26) Ito, S and Y. Yanagisawa. Determinants of male mating success in a natural population of a stream goby of the genus Rhinogobius. Journal of Fish Biology. (in press).

#### 4. 研究成果

- 27) Mabuchi1, K., N. Okuda & M. Nishida : Genetic differentiation between two color-morphs of *Apogon taeniophorus* from Southern Japan. *Ichthyological Research*, 51 (2) : 180-183
- 28) Yoshino, K., Ozawa, M., and Goshima, S. : Effects of shell fit on the efficacy of mate guarding behaviour in male hermit crabs. *Journal of Marine Biological Association of the United Kingdom* 84, 1203-1208
- 29) Okuda, N, S. Ito and H. Iwao. : Mate availability and somatic condition affect filial cannibalism in a paternal brooding goby. *Behaviour*. 141, 279-296.
- 30) Miyasaka, H., Y. Kawaguchi, M. Genkai-Kato, K. Yoshino, H. Onishi, N. Kuhara, Y. Shibata, T. Tamate, Y. Taniguchi, H. Urabe, and S. Nakano : A seasonal change in the gastric evacuation rate of the freshwater sculpin, *Cottus nozawae* Snyder, in a Japanese stream. *Limnology* (in press)
- 31) 奈良正和・Michael Schlirf・Alfred Uchman : 生痕化石 *Rosselia socialis* の模式地再訪：ドイツ、リューデスハイム西方、ロッセルに露出する下部デボン系タウヌス珪岩の干潟堆積物。化石, 75, 1-2.
- 32) 奈良正和・清家弘治 : 千葉県九十九里浜の現世前浜堆積物に見られる *Macaronichnus segregatis* 様生痕とその形成者。地質学雑誌, 110, 545-551.
- 33) Masakazu Nara : Trace fossil *Bichordites monastiriensis* in Pleistocene shallow marine deposits of the Boso Peninsula, central Japan, and its paleoenvironmental significance. *Journal of the Geological Society of Japan*, 110, XIX-XX.

#### 4. 3 学内、所内誌等

##### 環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆・速水祐一・碓井澄子 : 周防灘および西瀬戸海域の物理・栄養塩環境. 平成15年度瀬戸内海ブロック水産業関係試験研究推進会議生産環境・漁業生産合同部会議事要録, 31-37.
- 2) Onishi, M., Isoda, Y., Kuroda, H., Iwahashi, M., Satoh, C., Nakayama, T., Ito, T., Iseda, K., Nishizawa, K., Shima, S. and Togawa, O.: Winter Transport and Tidal Current in the Tsugaru Strait. *Bull. Fish. Sci. Hokkaido Univ.*, 55, 105-119.

#### 4. 4 一般誌等

##### 環境動態解析分野

- 1) 郭 新宇・山形俊男 : 東シナ海における2000年の海況再現実験と白鳳丸の観測データの比較, 月刊海洋, 号外 No. 36, 110-114.

##### 生態環境計測分野

- 1) 田辺信介 : 人類への警告-許容限界に近接した環境ホルモンを考える, KMTL 技法「あせんと」, 10 (1), 1-2.
- 1) 坂木佳菜子 : 不思議な生き物ナメクジウオ, 愛媛の自然, 46 (10), 13-14.

#### 4. 5 報告書等

##### 環境動態解析分野

- 1) 兼田淳史 : 豊後水道における近年の水温変動に関する研究, 共同研究成果報告書, 九州大学応用力学研究所7, 132-133.

##### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

- 1) 新美聰子: 水棲哺乳類 aryl hydrocarbon receptor のタンパク発現系を用いたダイオキシン類のリスク評価, AproS News Letter, No. 4, 4.
- 2) 田辺信介: 生物蓄積性内分泌かく乱物質による野生高等動物の汚染と影響に関する環境化学的研究, 平成12年度—平成15年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(2)〕研究成果報告書, 平成16年3月, 224pp.
- 3) 酒井大樹・笠井梨恵・高橋 真・田辺信介: ブチルスズ化合物による宇和海沿岸堆積物および養殖魚介類の汚染, 平成12年度—平成15年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))研究成果報告書「瀬戸内海における環境の長期変動の監視と将来予測に関する研究」, 平成16年3月, 49-61.
- 4) 久保田 彰・染矢雅之・渡部真文・田辺信介: PCBs およびダイオキシン類(ポリ塩化ジベンゾ-p-ダイオキシン, ポリ塩化ジベンゾフラン, コプラナ PCBs)による宇和海沿岸堆積物の汚染, 平成12年度—平成15年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))研究成果報告書「瀬戸内海における環境の長期変動の監視と将来予測に関する研究」, 平成16年3月, 62-67.
- 5) 田辺信介・上野大介・梶原夏子: 自然システム循環における有機臭素化合物の動態研究, 平成15年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「残留性化学物質の物質循環モデルの構築とリサイクル・廃棄物政策評価への応用」, 平成16年3, 5-17.
- 6) 田辺信介: 自然環境中におけるダイオキシン類縁化合物の調査研究「ダイオキシン類縁化合物等 POPs によるアジア途上国の母乳汚染」, 廃棄物焼却過程におけるダイオキシン類縁化合物の挙動と制御に関する研究, 平成15年度中間報告書, 平成16年3月, 41-53.
- 7) 田辺信介: 内分泌攪乱物質による韓国および日本近海の生物汚染の実態解明—カツオを指標生物としたダイオキシン類(PCDD/Fs・コプラナ PCBs) およびポリ臭素化ジフェニールエーテル(PBDEs)汚染の地球規模モニタリング, 平成15年度内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究報告書, 平成16年3, 26-43.
- 8) 岩田久人・能勢真人・Tu Bin Minh: 水資源の汚染実態と高次生物ならびにヒトに対する毒性影響に関する研究, 文部科学省新世紀重点研究創成プランー人・自然・地球共生プロジェクト水資源管理システムの開発「インドシナ半島における水循環の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発」, 平成15年度研究成果報告書, 24-29.
- 9) 田辺信介・高橋 真・梶原夏子・Karri Ramu・望月裕子 (2004): 人為起源汚染物質による東シナ海深海生物の汚染, 深海性動物相の解明と海洋生態系保護に関する基礎研究(第三期) 南西諸島における深海性動物相の解明と海洋汚染の調査研究(平成13-16年度)—平成15年度調査研究報告ー, 国立科学博物館動物研究部, 80-84.
- 10) Anderson, D., Carabias, J., Gitay, H., Hennicke, P., Huntley, B., Huq, S., Kapuscinski, A., Maximov, A., Nurse, L., Shanker, A., Samper, C., Schei, P., Tanabe, S., Williams, T. and Xu, X. (2004): A conceptual design tool for exploiting interlinkages between the focal areas of the GEF, A Report Focusing on the Needs of the Global Environmental Facility (GEF), STAP, GEF, UNEP, 47pp.

#### 環境影響評価予測分野

- 1) 星加 章・三島康史・井内美郎・高杉由夫・橋本英資・長尾正之・村上和男・田辺弘道・湯浅一郎・高橋 晓: 瀬戸内海の海砂利資源採取による広域的環境影響評価と管理に関する研究, 環境省報告, 平成15年度.
- 2) 加三千宣: 過去百年の大規模な黒潮変動に伴う宇和海基礎生産の応答様式の解明, 平成16年度(財)クリタ水・環境科学振興財団研究成果報告書.
- 3) Kuwae, M., Igarashi, C. and Sugimoto, T. : Coring in Kinkoh (Kagoshima) Bay at KH-04-1 in 2004, KH-04-1 Cruise Report (Hakuho-maru, research vessel of Ocean Research Institute The University of Tokyo), 33-34.

#### 4. 6 学会発表等

#### 環境動態解析分野

- 1) Takeoka, H., Hayami, Y. and Kaneda, A. : Long-term variations in the marine environments of the Seto Inland Sea. International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, Matsuyama.
- 2) Hayami, Y., Ougiyama, S., Koizumi, T. and Takeoka, H. : Modeling the variation in phytoplankton population in a embayment affected by periodic intrusions of outer water. The 1st Korea-Japan Joint Limnology Symposium, Busan, Korea.
- 3) Hayami, Y., Kohama, T., Teshima, R., Fukumori, K., Kaneda, A. and Takeoka, H. Continuous Monitoring

#### 4. 研究成果

- System of Coastal Environment in the Bungo Channel. International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, Matsuyama.
- 4) Guo, X., Y. Miyazawa and T. Yamagata : Intrusion of Kuroshio water onto the continental shelf in the East China Sea and its influences on the ecosystem, 13th PICES annual meeting, Oct. 18-21, Honolulu, Hawaii, USA (invited).
  - 5) Guo, X. : seasonal variation of Kuroshio intrusion along the shelf break of East China Sea, 2004 Joint Asia Oceania Geosciences Society 1st Annual Meeting & 2nd APHW conference, Jul. 5-9, Singapore (invited).
  - 6) Guo, X. and A. Valle-Levinson : Tidal effects on estuarine circulation in the Chesapeake Bay, 2004 Chesapeake Community Modeling Program Physical Oceanography Workshop, Feb. 27, 2004, Fredericksburg, USA.
  - 7) Guo, X. and A. Valle-Levinson : Tidal effects on estuarine circulation in the Chesapeake Bay, Ocean science meeting 2004, Jan 26-30, Portland, USA.
  - 8) Hayashi, M., T. Yanagi and X. Guo : Difference of Water and Nutrients Budgets in the Bohai Sea between 1982 and 1992 related to the Decrease of the Yellow River Discharge. 2004 Western Pacific Geophysics meeting, Hawaii, August.
  - 9) Hayashi, M., T. Yanagi and X. Guo : Water and Nutrients Budgets of the Estuary of the Yellow River in 1982 and 1992. International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, Matsuyama, September.
  - 10) Hayashi, M., T. Yanagi and X. Guo : Water and Nutrients Budgets of the Estuary of the Yellow River in 1982 and 1992. 2nd International Workshop on Yellow River Studies, Kyoto, Nov. 8-10.
  - 11) Hayashi, M., T. Yanagi and X. Guo : Difference of Water and Nutrients Budgets in Estuary of the Yellow River between 80's and 90's. OCEANS' 04/TECHNO-OCEAN' 04, Kobe, Nov. 15-16.
  - 12) Kaneda, A. and Takeoka, H. : Relationship between short-term increases of gelatinous zooplankton and physical environments in the near shore area of Iyo-Nada, Japan. North Pacific Marine Science Organization, U. S. A., 14-24 Oct. 2004.
  - 13) Kaneda, A. and Takeoka, H. : Long-term variations in the strength of kyucho and bottom intrusion in the Bungo Channel, Japan, International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, Matsuyama, 27-28 September 2004.
  - 14) Yamaguchi, H., Tsutsumi, H., Tsukuda, M., Komorita, T., Inoue, A., and Montani, S. : Factors controlling the biomass of microphytobenthos on Midori River Mouth Tidal Flat, east coast of Ariake Bay, Japan. International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, Matsuyama, Abstracts 23.
  - 15) Kuroda, H., Isoda, Y., Takeoka, H. and Honda, S. : Small-scale dispersive shelf waves with diurnal period on the Pacific shelf off southeast Hokkaido, Japan, PECS2004, Merida Yucatan Mexico, October 18-22, 2004.
  - 16) Chang, P.-H., Isobe, A., Matsuno, T., and Shimiz, M. : The behavior of the Changjiang diluted water in summer 2003. 2nd International Symposium on Program of the East Asian Cooperative Experiments, Kasuga, Japan. November 25-26, Abstracts, 13-16.
  - 17) 兼田淳史・市川 香：黒潮の変動に対する豊後水道の応答, 2004年度九州大学 RIAM フォーラム。
  - 18) 黒田 寛・武岡英隆・磯田 豊・久万健志・小林直人・本田 聰：初夏における津軽海峡東口と日高湾陸棚上の水塊・流動構造, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 1-2.
  - 19) 馬込伸哉・山下智弘・中濱賢一・小濱 剛・武岡英隆：航空写真の画像解析によるクラゲの集積機構に関する研究, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 9-10.
  - 20) 小濱 剛・長野慎矢・奥田 昇・宮坂 仁・武岡英隆：宇和海におけるミズクラゲの摂食生態に関する研究, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 11-12.
  - 21) Pil-Hun Chang and Atsuhiko Isobe : Interannual variation of freshwater in the Yellow and East China Seas : Roles of the Changjiang discharge and wind forcing, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 59-60.
  - 22) 黒田 寛・磯田 豊・久万健志・武岡英隆・小林直人・本田 聰：2003年初夏における津軽海峡東口の水塊・流動構造, 2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 12.
  - 23) 片岡恵美・黒田 寛・磯田 豊・本田 聰：2001年初夏における津軽海峡東方陸棚斜面上の水温極小, 2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 13.

- 24) 金 熙容・郭 新宇：東シナ海陸棚斜面の底層に形成される低気圧性渦と反流，2004年度日本海洋学会春季大会，76.
- 25) 速水祐一・大森浩二・Arif Dwi Santoso・Tusy Agustine Adibroto・武岡英隆：インドネシア・ランプン湾における貧酸素水塊，2004年度日本海洋学会春季大会，115.
- 26) Pil-Hun Chang and Atsuhiko Isobe : Modeling of the behavior of the Changjiang diluted water in the East China Sea in summer 2003. 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，129.
- 27) 二村 彰・郭 新宇・兼田淳史・武岡英隆・世登順三・清田耕司・塚本秀史・古泉統義：燧灘東部の残差流観測，2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，134.
- 28) 高田兵衛・久万健志・岩出将英・磯田 豊・千手友晴・黒田 寛・乙坂重嘉・鈴木崇史：日本海及び西部北太平洋における鉄の挙動，2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，174.
- 29) 辻 裕・柳 哲雄・星加 章・郭 新宇：瀬戸内海の底質の移動経路，2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，136.
- 30) Xinyu Guo, Arnoldo Valle-Levinson : Simulation of estuarine circulation in the Chesapeake Bay with and without tides, 2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，137.
- 31) 三浦 和・兼田淳史・市川 香・武岡英隆：黒潮の攪乱に伴う豊後水道の環境変化に関する検討，2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，278.
- 32) 片野俊也・廣瀬弥保・市野塚大介・浅海理恵・神崎直人・注連麻里・兼田淳史・武岡英隆・中野伸一：宇和海における動物プランクトンの現存量及びサイズ組成の季節変動，2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，282.
- 33) 手島亮一・古泉統義・速水祐一・小濱 剛・兼田淳史・武岡英隆：速吸瀬戸周辺海域における pCO<sub>2</sub>の連続観測，2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，314.
- 34) 黒田 寛・磯田 豊・久万健志・武岡英隆・小林直人・本田 聰：初夏における津軽海峡東口の流動構造，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，4.
- 35) 松浦宏美・磯田 豊・黒田 寛・久万健志・小林直人：2004年初夏における津軽海峡の水塊構造，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，3.
- 36) 鳴海吉洋・長島秀樹・川村有二・北出裕次郎：ケルゲレン海堆における深層流の流量について，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，42.
- 37) Xinyu Guo, Yasumasa Miyazawa, Yoshio Yamagata : Seasonal variarions of the Kurshio onshore flux across the shelf break in the East China Sea, 2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，118.
- 38) 金 熙容・郭 新宇・武岡英隆・杉本隆成：東シナ海陸棚斜面の上層における短周期流速変動，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，121.
- 39) 手島亮一・速水祐一・小濱 剛・福森香代子・兼田淳史・武岡英隆：速吸瀬戸周辺海域における pCO<sub>2</sub>の短期周期変動，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，167.
- 40) 高橋大介・中山威尉・西田芳則・木戸和男・桧垣直幸・小林直人・三宅秀男：夏季噴火湾表層における時計回りの環流に起因する流速変動，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，225.
- 41) 岸元裕二・三宅秀男・山口篤・高橋大介：夏季噴火湾の湾口部における潮目と基礎生産との対応，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，226.
- 42) 小濱 剛・長野慎矢・奥田 昇・宮坂 仁・武岡英隆：宇和海におけるミズクラゲの食性と栄養段階に関する研究，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，213.
- 43) 馬込伸哉・磯部篤彦・田森裕茂・平澤敬一・神薗真人・濱田豊市・寺井千尋・武岡英隆：周防灘における河川プリュームの観測について，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，154.
- 44) 速水祐一・小泉統義・小濱 剛・兼田淳史・中野伸一・武岡英隆：宇和海・北灘湾における急潮の観測，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，156.
- 45) 辻 裕・柳 哲雄・星加 章・郭 新宇：大阪湾における底質移動の変化，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，157.
- 46) 兼田淳史・武岡英隆：伊方の内湾域におけるクラゲの量の時間変動，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，239.
- 47) 川村有二・北出裕次郎・松山優治：連続成層場における水深急変部での内部波の挙動，2004年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集，259.

#### 4. 研究成果

- 48) 永田紗矢香・木村千寿子・佃 政則・山口一岩・堤 裕昭：有明海の底層における低酸素水塊発生のメカニズムと底生動物群集の季節変動，2004年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会講演要旨集，18.
- 49) 木村千寿子・永田紗矢香・佃 政則・山口一岩・堤 裕昭：有明海の水質環境と赤潮発生のメカニズムについて，2004年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会講演要旨集，19.
- 50) 山口一岩・堤 裕昭・山田俊郎・佃 政則・柴沼成一朗・井戸輝彦・門谷 茂：アサリ (*Ruditapes philippinarum*) の食物資源としての底生微細藻類の重要性，2004年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会講演要旨集，82.
- 51) 村上 敬・山本文枝・小林直人・高橋大介：津軽海峡汐首岬におけるフロント変動の観測，2004年度日本海洋学会春季大会講演要旨集，114.
- 52) 佃 政則・木村千寿子・永田紗矢香・吉岡美穂・山口一岩・堤 裕昭：菊池川河口干潟におけるアサリ (*Ruditapes philippinarum*) の個体群動態と新規加入過程について，2004年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会講演要旨集，131.
- 53) 速水祐一・野口朋宏・楨岡加奈子・山下亜純・加三千宣・武岡英隆：豊後水道・下波湾における基礎生産の推定方法，2004年度水産海洋学会研究発表大会，東京水産大学.
- 54) 藤井直紀・上 真一：本邦代表内湾域における生物資源持続性評価，2004年度水産海洋学会研究発表大会，東京.
- 55) 高橋大介・中山威尉・西田芳則・木戸和男・桧垣直幸・小林直人・三宅秀男：夏季噴火湾表層における時計回りの環流に起因する流速変動，2004年度大槌シンポジウム.
- 56) 藤井直紀・上 真一：東京湾・伊勢湾・大阪湾の生物資源持続性評価と相互比較，第3回海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム，沖縄.
- 57) 藤井直紀・上 真一：地形改変が広島湾の生物資源持続性に及ぼす影響，第17回日本沿岸域学会研究討論会，東京.
- 58) 藤井直紀：地形改変が広島湾の生物資源持続性に及ぼす影響，九州大学応用力学研究所共同研究集会プログラム「沿岸海域の低次栄養段階をめぐる物質循環」，福岡.
- 59) 槻木（加）玲美・石田聖二・小田寛貴・占部城太郎：地球温暖化が琵琶湖生態系に与えた影響：過去100年の動植物プランクトンからの検証，2004年度（第51回）日本生態学会大会講演要旨集，215.

#### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

- 1) 田辺信介：残留性有機汚染物質(POPs)による地球環境汚染の現状，(社)環境科学会 化学物質管理戦略研究会主催セミナー「バイオアッセイから生態毒性学への展開」，東京，1月，要旨集，5-23.
- 2) Tanabe, S. and Chung, K. H.: Standardization of wildlife monitoring methods - monitoring of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) contamination using skipjack tuna as a bioindicator. The Third Korea-Japan Joint Symposium on Endocrine Disrupters (EDCs), Dioxins, Furans and PCBs, Jeju, Korea, Jan., Abstracts, 1-7.
- 3) 田辺信介：有機臭素系難燃剤PBDEsによる海洋汚染の実態解明と動態解析，平成15年度第1回臭素系ダイオキシン類排出実態等調査検討会，東京，1月，資料-5.
- 4) 田辺信介：野生生物における内分泌攪乱物質の汚染とそのリスク評価，平成15年度科学研究費補助金特定領域研究(1)「内分泌攪乱物質の環境リスク」研究成果報告会，京都市，1月，要旨集，44-45.
- 5) 久保田領志：ベトナムにおける地下水のヒ素汚染，名古屋大学太陽地球環境研究所研究小集会宇宙地球計情報科学研究会，松山，1月.
- 6) 岩田久人・金 恩英・田辺信介：水棲鳥類における環境ホルモンの蓄積とバイオマーカー，環境ホルモン学会第12回講演会，東京，2月，テキスト，36-46.
- 7) Purudente, M., Ueno, D., Takahashi, S., Ikeda, K., Tanaka, H., Subramanian, An., Fillmann, G., Lam, P. K. S., Zheng, J., Muchtar, M., Chung, K. and Tanabe, S.: Global monitoring of persistent organic pollutants in skipjack tuna. The 4<sup>th</sup> UNU-ORI Joint International Workshop on Marine Environment - Ecosystem and Conservation in Coastal Areas, Otsuchi, Iwate, Japan, Feb., Abstracts, 39-40.
- 8) Minh, T. B., Kunisue, T., Watanabe, M., Iwata, H., Titenko, A., Hue, N. D., Qui, V., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Monitoring of persistent organic pollutants (POPs) in Asia-Pacific using birds as bio-indicator: case studies of resident and migratory birds from northern Vietnam and Lake Baikal, Russia. The 4<sup>th</sup> UNU-ORI Joint International Wor-

- kshop on Marine Environment - Ecosystem and Conservation in Coastal Areas, Otsuchi, Iwate, Japan, Feb., Abstracts, 41-42.
- 9) Subramanian, An. and Tanabe, S. : Marine animals as bioindicators of persistent organic pollutants. The 4<sup>th</sup> UNU-ORI Joint International Workshop on Marine Environment - Ecosystem and Conservation in Coastal Areas, Otsuchi, Iwate, Japan, Feb., Abstracts, 43.
  - 10) 竹下陽子：バイカルアザラシにおける CYP1B 分子種の種特異性およびダイオキシン類汚染による CYP1B 介在性情報伝達攪乱機構の解明、愛媛大学理学部生物地球圏科学科（生物系）平成15年度（後学期）「課題研究」ポスター発表会プログラム、松山市、2月。
  - 11) Kajiwara, N., Ueno, D., Ramu, K., Kamikawa, S., Baba, N., Yamada, T. and Tanabe, S. : Polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in marine mammals : results from the environmental specimen bank for global monitoring (es-BANK) at Ehime University. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 14.
  - 12) Subramanian, An., Kunisue, T. and Tanabe, S. : Persistent toxic substances in the Indian environment and biota. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 16.
  - 13) Minh, T. B., Iwata, H., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Dioxins and dioxin-like compounds in Asian countries : contamination and implications for environmental and human health. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 18.
  - 14) Kubota, R., Kim, E. Y., Kunito, T., Minh, T. B., Iwata, H., Tanabe, S., Trang, P. T. K. and Viet, P. H. : Arsenic contamination in groundwater and its toxic evaluation on human health in Vietnam. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 19.
  - 15) Kim, E. Y., Iwata, H., Yasui, T. and Tanabe, S. : Molecular characterization of Ah receptors and its possible role as a biomarker of dioxin susceptibility in aquatic birds and mammals. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 22.
  - 16) Iwata, H., Kim, E. Y., Kubota, A., Watanabe, M., Sakamoto, T., Hirakawa, S., Okamoto, M. and Tanabe, S. : Comparative characterization of CYP1As as a biomarker of PCDDs/DFs/ Co-PCBs contamination in aquatic birds and mammals. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 23.
  - 17) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T., Kim, E. Y., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Trace element accumulation in great cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Japan. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 27.
  - 18) Ikemoto, T., Nakamura, S., Kunito, T., Anan, Y., Tanaka, H., Baba, N., Miyazaki, N. and Tanabe, S. : Association of heavy metals with metal-binding protein in hepatic cytosol of marine mammals and seabirds. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 28.
  - 19) Anan, Y., Iida, A., Ikemoto, T., Kuiken, T., Osterhaus, A. D. M. E. and Tanabe, S. : Accumulation of trace elements in harbor seal (*Phoca vitulina*) stranded during the mass mortality events in the North Sea in 2002. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 29. sante, K. A., Kubota, R., Agusa, T., Subramanian, An. Tanabe, S. and Nishida, S. : Trace element concentrations in deep sea fish from the Sulu Sea. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 30.
  - 20) Asante, K. A., Kubota, R., Agusa, T., Subramanian, An. Tanabe, S. and Nishida, S. : Trace element concentrations in deep sea fish from the Sulu Sea. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 30.
  - 21) Agusa, T., Kunito, T., Fujihara, J., Kubota, R., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Iwata, H., Tanabe, S. and Viet, P. H. : Contamination by arsenic and other trace elements in drinking water and residents in Vietnam. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 31.

#### 4. 研究成果

- 22) Yamamoto, T., Agusa, T., Montero, H. R., Lujan, A. S., Ikemoto, T., Anan, Y., Kubota, R. and Tanabe, S. : Trace element contamination in the environmental samples from the mining area of Potosi, Bolivia. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 32.
- 23) Sudaryanto, A., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S. and Muchtar, M. : Assessment of organotins contamination in mussels, fish and sediments from coastal waters of Indonesia. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 36.
- 24) Sudaryanto, A., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S. and Ismail, A. : Assessment of organotins contamination in mussels, fish and sediments from coastal waters of Malaysia. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 37.
- 25) Murai, R., Sugimoto, A., Tanabe, S. and Takeuchi, I. : Bioconcentration profile of organotins using stable nitrogen isotope ratio in shallow water ecosystems. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 38.
- 26) Taki, Y., Takahashi, S., Yamada, T., and Tanabe, S. : Contamination status and specific accumulation of organotin compounds in cetaceans stranded along Japanese coastal waters. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 39.
- 27) Nakamura, S., Kunito, T., Takahashi, S., Tanabe, S., Rosas, F. C. W., Fillmann, G. and Readman J. W.: Specific accumulation of trace elements and organotin compounds in small cetaceans incidentally caught along the Brazilian coast. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 40.
- 28) Katsuta, Y., Nakamura, S., Kuiken, T., Osterhaus, A. D. M. E. and Tanabe, S. : Contamination and specific accumulation of organotin compounds in harbour seals collected during an unusual mortality event in the North Sea in 2002. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 41.
- 29) Muraoka, M., Takahashi, S., Tanabe, S., Yamada, T., Sakayama, K., Mori, C. and Zheng, J. : Monitoring of organotin contamination using blood samples and risk assessment for immunotoxicity and generational transfer. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 42.
- 30) Ramu, K., Kajiwara, N., Tanabe, S., Lam, P. K. S. and Jefferson, T. A.: Accumulation of persistent toxic substances in cetaceans from Hong Kong waters. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 46.
- 31) Ochi, M., Kajiwara, N., Yasunaga, G., Fujise, Y., and Tanabe, S. : Contamination status and accumulation patterns of organochlorines in sperm whale and sei whale from the northwestern North Pacific. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 47.
- 32) Tonegi, T., Kajiwara, N., Kuiken, T., Osterhaus, A. D. M. E. and Tanabe, S.: Specific accumulation of persistent organochlorines in harbor seals (*Phoca vitulina*) collected during an unusual mortality event in the North Sea in 2002. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 48.
- 33) Nakanishi, S., Kunisue, T., Watanabe, M., Tanabe, S., Oka, N., Sato, F., Tsurumi, M. : Contamination and accumulation of persistent organochlorine compounds (POPs) in two species of albatrosses from Torishima Island. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 49.
- 34) Lam, J. C. W., Tanabe, S., Giesy, J., Wong, H. L., Wong, B. S. F. and Lam, P. K. S.: Ecological risk assessment of waterbirds due to environmental contaminants. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 50.
- 35) Higaki, Y., Nakanishi, S., Kunisue, T., Watanabe, M., Kajiwara, N., Tanabe, S., Ogi, H., Yasumatsu, S. : Contamination status and temporal trend of persistent organochlorines in the open sea birds. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts,

- 51.
- 36) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K., and Tobata, S. : Levels and toxicokinetic behaviors of PCDD, PCDF and coplanar PCB congeners in common cormorants from the Lake Biwa, Japan : life stage-related accumulation and tissue distribution. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 52.
- 37) Minh, N. H., Someya, M., Minh, T. B., Kunisue, T., Watanabe, M., Iwata, H., Tanabe, S., Viet, P. H. and Tuyen, B. C.: Specific accumulation and risk assessment of persistent organochlorines in human breast milk from Vietnam. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 53.
- 38) Sudaryanto, A., Kunisue, T., Iwata, H. and Tanabe, S. : Persistent organochlorines in human breast milk from Indonesia. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 54.
- 39) Kunisue, T., Watanabe, M., Someya, M., Subramanian, An., Tanabe, S. : Persistent organic pollutants in soils and human breast milk from the dumping site of municipal wastes in India : bovine milk as a potential source. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 55.
- 40) Baba, S., Hirai, Y., Iwata, H., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Identification and expression analysis of splicing variants of chicken xenobiotic receptor (CXR) homologue mRNAs in common cormorant. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 59.
- 41) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S., Miyazaki, N., Baba, N. : Cloning and expression analysis of constitutive androstane receptor cDNAs in Baikal seal (*Pusa sibirica*) and northern fur seal (*Callorhinus ursinus*). 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 60.
- 42) Lee, J. S., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: cDNA cloning and characterization of an aryl hydrocarbon receptor translocator from common cormorants (*Phalacrocorax carbo*). 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 61.
- 43) Yasui, T., Kim, E. Y., Iwata, H., Tanabe, S.: Identification and molecular characterization of a novel aryl hydrocarbon receptor isoform (AhR2) in aquatic birds. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 62.
- 44) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H., Tanabe, S.: cDNA cloning of the aryl hydrocarbon receptor 2 from red seabream (*Pagrus major*) and its tissue distribution. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 63.
- 45) Watanabe, M., Iwata, H., Watanabe, M., Tanabe, S., Subramanian, An., Yoneda, K., Hashimoto, T.: Polychlorinated dibenzo-p-dioxins, dibenzofurans and coplanar PCBs in crows from India and Japan, and their effects on hepatic cytochrome P450s. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 64.
- 46) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K., Tobata, S.: CYP1A-like protein expression related to accumulation, hepatic sequestration and metabolism of PCDD, PCDF and coplanar PCB congeners in common cormorants. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 65.
- 47) Niimi, S., Kim, E. Y., Iwata, H., Yasunaga, G., Fujise, Y., Tanabe, S. : Sequence analysis of cytochrome P450 members from common minke whale (*Balaenoptera acutorostrata*). 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 66.
- 48) Hirakawa, S., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Isolation of CYP1A1 cDNA and its mRNA expression related to TEQ level in Baikal seal (*Pusa sibirica*). 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 65.
- 49) Okamoto, M., Iwata, H., Kim, E. Y. and Tanabe, S. : Isolation of CYP1A5 cDNA and its mRNA expression levels related to dioxin accumulation in jungle crow (*Corvus macrorhynchos*). 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 68.

#### 4. 研究成果

- 50) Anan, Y., Kim, E. Y., Kunito, T., Iwata, H. and Tanabe, S.: Molecular cloning and expression analysis of three metallothionein isoforms in sea turtles. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 69.
- 51) Nakayama, K., Iwata, H., Kim, E. Y., Tashiro, K., Tanabe, S.: Monitoring of gene expression profiles related to chemical contamination in common cormorant (*Phalacrocorax carbo*) liver with an oligo array. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 70.
- 52) Iwata, H., Kim, E. Y., Nakayama, K., Tanabe, S., Yamagata, A., Oofusa, K.: Effects of PCDDs/DFs/Co-PCBs on hepatic protein expression profile in common cormorant population. 1<sup>st</sup> International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 71.
- 53) 山内正信・金 恩英・岩田久人・田辺信介:マダイ (*Pagrus major*) における AHR cDNA のクローニングと mRNA 発現量の組織分布, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 15-16.
- 54) 小森浩章・久保田領志・辻 祥江・寺田美穂・森 土朗・岩田久人・田辺信介・能勢眞人:組換え近交系 MXH/lpr マウスを用いた環境化学物質感受性のゲノム的解析, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 17-18.
- 55) 阿草哲郎・國頭 恭・Ramu, K.・Subramanian, An.・田辺信介:南インド・チェンナイ市周辺の鉛汚染とヒトへの毒性影響評価, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 19-20.
- 56) 井上 英・阿草哲郎・久保田領志・國頭 恭・Minh, T. B.・Monirith, I.・Trang, P. T. K.・Tana, T. S.・Viet, P. H.・岩田久人・田辺信介:メコン河流域における微量元素汚染と住民の影響に関する研究, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 21-22.
- 57) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Kunisue, T., Iwata, H., Tanabe, S., Adibroto, T. A.: Geographical distribution, accumulation kinetics and infants health risk of persistent organochlorines in human breast milk from Indonesia. 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 23-24.
- 58) 国末達也・Subramanian, An.・田辺信介:残留性有機汚染物質(POPs)によるインド都市ゴミ集積場の汚染－ヒトへの暴露ルートの解明－, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 25-26.
- 59) 村岡正義・国末達也・田辺信介・能勢眞人・山田健人:ヒトにおける有機汚染物質の汚染実態とその蓄積機構に関する研究, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 27-28.
- 60) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, An. Iwata, H., Tanabe, S., Tana, T. S., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Prudente, M. S.: Open dumpsites - emerging pollution sources of persistent organic pollutants (POPs) in Asian developing countries. 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 29-30.
- 61) Ramu, K., Kajiwara, N., Tanabe, S.: Polychlorinated diphenyl ethers (PBDEs) in cetaceans from Hong Kong waters. 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 31-32.
- 62) 新美聰子・金 恩英・岩田久人・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介:ミンククジラのチトクローム P450分子種の同定とその分子的特徴, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 33-34.
- 63) 酒井大樹・岩田久人・金 恩英・田辺信介・宮崎信之・馬場徳寿:水棲哺乳類における CAR-CYPs シグナル経路の解明と環境汚染物質への感受性評価, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 35-36.
- 64) 阿南弥寿美・金 恩英・國頭 恭・岩田久人・田辺信介:アオウミガメにおけるメタロチオネイン異性体 mRNA 発現と微量元素蓄積との関係, 平成15年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 39-40.

- 65) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T., Kim, E. Y., Tanabe, S.: Distribution of trace elements in hepatic subcellular fractions of three aquatic birds : a possible metal accumulation mechanism. 平成15年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 41-42.
- 66) 仲山 慶・岩田久人・金 恩英・田代康介・大房 健・田辺信介: トキシコジェノミクスおよびプロテオミクスアプローチによる野生高等動物における化学物質毒性メカニズムの解明, 平成15年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 43-44.
- 67) 久保田彰・岩田久人・田辺信介: カワウ・トビにおけるダイオキシン類の蓄積・代謝・肝集積と肝チトクローム P450 1A との関係, 平成15年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 45-46.
- 68) 渡辺倫夫・岩田久人・渡部真文・田辺信介・Subramanian, A.・米田久美子・橋本琢磨: インド, 東京産カラスのダイオキシン類および有機塩素系農薬の蓄積と肝異物代謝酵素への影響, 平成15年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 47-48.
- 69) 安井知子・金 恩英・岩田久人・田辺信介: ダイオキシン類に対する鳥類 AhR アイソフォームの機能解析, 平成15年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 4月, 講演要旨集, 49-50.
- 70) Tanabe, S.: Global pollution monitoring of PBDEs and other PTS using skipjack tuna and marine mammals as bioindicators. 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, K-10.
- 71) Lam, J. C. W., Tanabe, S., Giesy, J., Wong, H. L., Wong, B. S. F. and Lam, P. K. S.: Ecological risk assessment of waterbirds due to environmental contaminants. 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, O-14.
- 72) Takeuchi, I., Murai, R., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Status of butyltin pollution along the coasts of western Japan in 2001-11years after partial ban. 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, O-31.
- 73) Anan, Y., Kunito, T., Tanabe, S., Mitrofanov, I. and Aubrey, D. G.: Trace element accumulation in fishes collected from coastal waters of the Caspian Sea. 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, O-67.
- 74) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Distribution of trace elements in hepatic subcellular fractions of three aquatic birds. 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, O-74.
- 75) Ramu, K., Kajiwara, N., Tanabe, S., Lam, P. K. S. and Jefferson, T. A.: Polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) and organochlorines in cetaceans from Hong Kong waters : levels, profiles and distribution. 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, O-76.
- 76) Subramanian, A. N., Kunisue, T., Minh, T. B. and Tanabe, S.: Can birds act as bioindicators of global pollution by persistent toxic substances? 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, O-79.
- 77) Kubota, R., Kunito, T., Fujihara, J., Yang, J., Miyazaki, N. and Tanabe, S.: Placental transfer of arsenic to fetus of Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*). 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, P-9.
- 78) Niimi, S., Kim, E. Y., Iwata, H., Watanabe, M., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S.: Molecular cloning and expression of 7 novel cytochrome P450 mRNA in the liver of common minke whale (*Balaenoptera acutorostrata*). 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, P-18.
- 79) Agusa, T., Kunito, T., Yasunaga, G., Iwata, H., Subramanian, A., Ismail, A. and Tanabe, S.: Concentrations of trace elements in marine fish and its risk assessment in Malaysia. 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, P-40.
- 80) Ikemoto, T., Kunito, T., Tanabe, S., Tsurumi, M., Sato, F. and Oka, N.: Non-destructive monitoring of trace element levels in short-tailed albatrosses (*Diomedea albatrus*) and black-footed albatrosses (*Diomedea nigripes*) using eggs and blood from Torishima Island, Japan. 4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June, Abstracts, P-41.

#### 4. 研究成果

- Kong, June, Abstracts, P-44.
- 81) 梶原夏子：新規有害化学物質 PBDEs によるアジア途上国の汚染，平成16年度愛媛大学研究開発支援経費公開ヒヤリング，松山市，6月。
  - 82) 梶原夏子・荒金玉美・上川智子・田辺信介・山田 格：日本沿岸に漂着した鯨類の有機ハロゲン化合物汚染とその蓄積特性，日本海セトロジー研究会第15回大会，金沢市，7月，発表要旨集，17。
  - 83) 田辺信介：学術賞受賞講演「POPsによる海洋汚染の研究」，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，11-12。
  - 84) 吉田佳督・榎本康敬・柴田康行・高澤嘉一・鈴木規之・中野 武・福嶋 実・田辺信介・森田昌敏：日本におけるPOPsモニタリングI モニタリング戦略，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，60-61。
  - 85) 柴田康行・高澤嘉一・鈴木規之・中野 武・福嶋 実・吉田佳督・榎本康敬・田辺信介・森田昌敏：日本におけるPOPsモニタリングII モニタリング結果とその特徴，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，62-63。
  - 86) 高澤嘉一・柴田康行・中野 武・福嶋 実・鈴木規之・吉田佳督・榎本康敬・田辺信介・森田昌敏：日本におけるPOPsモニタリングIII 分析方法，その特徴と課題，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，64-65。
  - 87) 福嶋 実・中野 武・柴田康行・鈴木規之・高澤嘉一・吉田佳督・中嶋徳弥・榎本康敬・田辺信介・森田昌敏：日本におけるPOPsモニタリングIV POPsの環境内動態 I 農薬類，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，66-67。
  - 88) 中野 武・福嶋 実・柴田康行・鈴木規之・高澤嘉一・吉田佳督・中嶋徳弥・榎本康敬・田辺信介・森田昌敏：日本におけるPOPsモニタリングV POPsの環境内動態 II 工業薬剤，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，68-69。
  - 89) 鈴木規之・柴田康行・高澤嘉一・中野 武・福嶋 実・吉田佳督・中嶋徳弥・榎本康敬・田辺信介・森田昌敏：日本におけるPOPsモニタリングVI POPs汚染のモデル化，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，70-71。
  - 90) 田辺信介・柴田康行・鈴木規之・高澤嘉一・中野 武・福嶋 実・中嶋徳弥・榎本康敬・森田昌敏：日本におけるPOPsモニタリングVII POPs汚染問題の国際動向，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，72-73。
  - 91) 戸根木智幸・梶原夏子・田辺信介・天野雅男・Thijs Kuiken・Albert D. M. E. Osterhaus：北海で大量死したゼニガタアザラシの有機塩素化合物汚染とその蓄積特性，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，76-77。
  - 92) 越智美幸・梶原夏子・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介：北太平洋のマッコウクジラおよびイワシクジラの有機塩素化合物の汚染とその蓄積特性，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，78-79。
  - 93) 上川智子・梶原夏子・天野雅男・早野あづさ・山田 格・宮崎信之・田辺信介：集団座礁したカズハゴンドウ（*Peponocephala electra*）の有機ハロゲン化合物汚染とその蓄積特性，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，80-81。
  - 94) 浦口晋平・渡邊 泉・久野勝治・田辺信介：カドミウムの高レベル蓄積植物の検索と生理・生化学的特性，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，86-87。
  - 95) 阿草哲郎・國頭 恭・Karri Ramu・Annamalai Subramanian・田辺信介：南インド・チェンナイ市周辺住民の血中鉛汚染とその影響，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，90-91。
  - 96) 高橋 真・酒井伸一・梶原夏子・田辺信介・濱田典明・渡辺 功・阿久津和彦・汐崎 憲・波戸義雄・高菅 卓三・嶽盛公昭・太田壮一・中尾晃幸・長谷川俊樹・濱元弘実・宮崎 徹・今村 崇・松田壮一：有機臭素化合物（臭素化ダイオキシン類および臭素系難燃剤）の測定に係る相互検定研究－第一報：混合標準溶液と風乾底質－，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，114-115。
  - 97) 勝田裕介・中村真司・田辺信介・天野雅男・Kuiken, T.・Osterhaus, A. D. M. E.：北海で大量死したゼニガタアザラシの有機スズ化合物汚染とその蓄積特性，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，124-125。
  - 98) 今西克也・川上 学・島田あづさ・木村義孝・近石一弘・梶原夏子・国末達也・田辺信介：鯨類およびヒトにおけるトキサフェンとマイレックスの汚染実態，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，138-139。
  - 99) 国末達也・田辺信介・染矢雅之・香山不二雄・Yihe Jin：残留性有機汚染物質（POPs）による中国在住初産婦の母乳汚染一大連および瀋陽の汚染実態－，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，190-191。
  - 100) 大嶽昌子・国末達也・Subramanian, An.・田辺信介：残留性有機汚染物質（POPs）およびHCHsによるインド南部地域のヒトおよび食品汚染，第13回環境化学討論会，静岡市，7月，講演要旨集，192-193。

- 101) 望月裕子・中村真司・宮坂 仁・葉 信明・太田 秀・末次貴志子・山口素臣・西田周平・窪寺恒巳・田辺信介: 有機スズ化合物による東シナ海およびスル海周辺海域の深海生物汚染, 第13回環境化学討論会, 静岡市, 7月, 講演要旨集, 730-731.
- 102) 田辺信介: POPs による母乳汚染と子どもへのリスク, 第13回環境化学討論会ナイトミーティング, 静岡市, 7月.
- 103) 阿草哲郎・國頭 恭・藤原純子・久保田領志・Minh, T. B. • Trang, P. T. K. • Subramanian, An. • 岩田久人・Viet, P. H. • 田辺信介: ベトナム・ハノイ市における地下水の微量元素汚染とその飲用によるヒトへの暴露, 第15回日本微量元素学会, 東京, 7月, プログラム・要旨集, 181.
- 104) Iwata, H., Kim, E. Y., Kubota, A., Watanabe, M., Sakamoto, T., Hirakawa, S., Okamoto, M. and Tanabe, S.: Cytochrome P450s and persistent organic pollutants in wild populations of aquatic mammals and birds. 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 29.
- 105) Lee, J., S., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: cDNA cloning of an aryl hydrocarbon receptor nuclear translocator and its expression in various tissues of common cormorants. 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 48.
- 106) Hirakawa, S., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Molecular cloning of CYP1A1 and 1A2 cDNAs, and their mRNA expressions related to TEQ level in Baikal seals. 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 55.
- 107) Watanabe, M. X., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Hashimoto, T.: CYP1A induced by dioxin-like compounds is responsible for congener-specific metabolism and sequestration in the liver of crows from Tokyo, Japan. 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 55.
- 108) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Tobata, S.: Hepatic CYP1A induction by dioxin-like compounds, and congener-specific metabolism and sequestration in wild common cormorants from Lake Biwa, Japan. 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 56.
- 109) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : Tissue-specific expression of aryl hydrocarbon receptors (AHR1 and AHR2) and CYP1A in red seabream (*Pagrus major*). 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 56.
- 110) Yasui, T., Kim, E. Y., Iwata, H., Franks, D. G., Karchner, S. I., Hahn, M. E. and Tanabe, S. : Functional characterization of two aryl hydrocarbon receptor isoforms (AhR1 and AhR2) in aquatic birds. 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 57.
- 111) Kim, E. Y., Iwata, H., Suda, T., Tanabe, S., Miyazaki, N. and Petrov, E. A. : Up-regulation of hepatic aryl hydrocarbon receptor expression by dioxins and related planar compounds in wild Baikal seal (*Pusa sibirica*) population. 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 57.
- 112) Niimi, S., Watanabe, M. X., Kim, E. Y., Iwata, H., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S.: Complete sequences and expression profiles of seven novel Cytochrome P450s in the liver of common minke whale (*Balaenoptera acutorostrata*). 7<sup>th</sup> International Symposium on cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 63.
- 113) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Molecular and functional characteristics of constitutive androstane receptor in an aquatic mammal, Baikal seal (*Pusa sibirica*). 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 63.
- 114) Hirai, Y., Baba, S., Iwata, H., Kim, E. Y. and Tanabe, S. : Identification and expression analysis of chicken xenobiotic receptor (CXR) splice variants in the liver of common cormorant (*Phalacrocorax carbo*). 7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Awaji Island, Hyogo, Japan, August, Program & Abstracts, 64.
- 115) 田辺信介・荒金玉美・上川智子・梶原夏子: 日本沿岸に漂着した鯨類の有機ハロゲン化合物汚染, シンポジウム「海棲哺乳類ストラクチャーネットワーク構築を目指して」, 東京, 8月, 講演要旨集, 10.

#### 4. 研究成果

- 116) 久保田 彰・岩田久人・田辺信介・米田久美子・戸畠祥子：カワウ肝チトクローム P4501A によるダイオキシン類の代謝・集積，第10回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会，船橋市，9月，講演要旨集，9-10.
- 117) 渡辺倫夫・岩田久人・田辺信介・米田久美子・橋本琢磨：ハシブトガラスのダイオキシン類汚染とその体内動態：チトクローム P-450 1A による代謝および肝集積を中心に，第10回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会，船橋市，9月，講演要旨集，11-12.
- 118) 平川周作・岩田久人・田辺信介・金 恩英・宮崎信之：バイカルアザラシ CYP1A/1A2 cDNA の同定および TEQ と各 mRNA 発現量の関係，第10回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会，船橋市，9月，講演要旨集，13-14.
- 119) 久保田領志・Minh, T. B.・岩田久人・田辺信介・國頭 恭・金 恩英・三浦 猛・Trang, P. T. K.・Viet, P. H.: ヒ素によるベトナム・ホン川流域の地下水汚染，第10回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会，船橋市，9月，講演要旨集，42-43.
- 120) Iwata, H., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Metabolism and sequestration of PCDD, PCDF and coplanar PCB congeners by CYP1A in aquatic mammals and birds. 7<sup>th</sup> International ISSX (the International Society for the Study of Xenobiotics) Meeting, Vancouver, Canada, Aug. -Sept., Drug Metabolism Reviews, 36 (Sup. 1), 48.
- 121) Kim, E. Y., Yasui, T., Iwata, H. and Tanabe, S.: Characterization and expression analysis of AH receptors in aquatic mammals and birds. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 3326-3331.
- 122) Nakano, T., Fukushima, M., Shibata, Y., Suzuki, N., Takazawa, Y., Yoshida, Y., Nakajima, N., Enomoto, Y., Tanabe, S. and Morita, M.: POPs monitoring in Japan - fate and behavior of POPs -. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 1490-1496.
- 123) Kunisue, T., Someya, M., Kayama, F., Jin, Y. and Tanabe, S.: Persistent organic pollutants in human breast milk collected from Dalian and Shenyang, China. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 2779-2784.
- 124) Kajiwara, N., Watanabe, M., Amano, M., Yamada, T. and Tanabe, S.: Species-specific accumulation of dioxin related compounds in cetaceans collected from Japanese coastal waters. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 1554-1558.
- 125) Watanabe, M., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Hashimoto, T.: Congener-specific metabolism and sequestration of dioxin-like compounds by cytochrome P450 1A induced in the liver of crows from Tokyo, Japan. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 2932-2938.
- 126) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, A., Iwata, H., Tanabe, S., Viet, P. H. and Tuyen, B. H.: Contamination of persistent organochlorines in sediments from Mekong River Delta, South Vietnam. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 3664-3669.
- 127) Sudaryanto, A., Kunisue, T., Iwata, H., Tanabe, S., Niida, M. and Hashim, H.: Dioxin, PCBs and organochlorine pesticides in human breast milk from Malaysia. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 2767-2772.
- 128) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Tobata, S.: Hepatic CYP1A involved in metabolism and sequestration of PCDD, PCDF and coplanar PCB congeners in common cormorants. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 2939-2944.
- 129) Imanishi, K., Kawakami, M., Shimada, A., Chikaishi, K., Kimura, Y., Kajiwara, N., Yamada, T. and Tanabe, S.: Detection of pesticides unregistered in Japan, toxaphene and mirex, in the cetaceans from Japanese coastal waters. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 1527-1537.

- 130) Sudaryanto, A., Kunisue, T., Iwata, H. and Tanabe, S.: Geographical distribution, accumulation kinetics and infants health risk of organochlorines in human breast milk from Indonesia. Proceedings of 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, Berlin, Germany, September, Organohalogen Compounds (Abstracts), 66, 2761-2766.
- 131) 望月裕子・中村真司・宮坂 仁・岩田久人・笠井梨恵・葉 信昭・太田 秀・末次貴志子・山口素臣・西田 周平・窪寺恒巳・田辺信介: 東シナ海およびスル海の深海生物の有機スズ化合物汚染とその蓄積特性, 2004年度日本海洋学会秋季大会, 松山市, 9月, 講演要旨集, 280.
- 132) Trang, P. T. K., Lan, V. T. M., Kubota, R., Tanabe, S., Berg, M. and Viet, P. H.: Arsenic poisoning at tube well in Red River delta case study at Son Dong Village. The 5<sup>th</sup> General Seminar of the Core University (Vietnam National University and Osaka University) Program, Ha Long, Vietnam, Sept., Proceedings, 26-31.
- 133) Minh, T. B., Minh, N. H., Someya, M., Kunisue, T., Watanabe, M., Iwata, H., Viet, P. H., Tuyen, B. C. and Tanabe, S.: Persistent organochlorine residues in human breast milk from Vietnam: contamination, accumulation kinetics and risk assessment. The 5<sup>th</sup> General Seminar of the Core University (Vietnam National University and Osaka University) Program, Ha Long, Vietnam, Sept., Proceedings, 61-71.
- 134) 田辺信介: 有害物質による地球規模の環境汚染と生態系への蓄積および毒性影響に関する研究, 日本環境科学会2004年会学術賞受賞記念シンポジウム, 西宮市, 10月, 一般講演・シンポジウムプログラム, 166-167.
- 135) 岩田久人・金 恩英・田辺信介: 難分解性有機汚染物質の体内動態とCYP発現系の生物種差, 日本環境科学会2004年会学術賞受賞記念シンポジウム, 西宮市, 10月, 一般講演・シンポジウムプログラム, 172-173.
- 136) Tanabe, S.: PCDD/DFs contamination from open burning in Asia. International Workshop on the Reduction and Control of Dioxin/Furan from Combustion. Hangzhou, China, Oct. Abstracts, Kynote Speech, 36-42.
- 137) Tanabe, S.: Present status of POPs pollution in Asian developing countries. The Ceremony Conferring the Title of "Concurrent Professorship" on Prof. Tanabe at Nanjing University. Nanjing, China, Oct.
- 138) Nakayama, K., Iwata, H., Kim, E. Y., Kubota, A. and Tanabe, S.: Screening of genes with altered expression by environmental contaminants in cormorant liver with a microarray. Fourth SETAC World Congress and 25<sup>th</sup> Annual Meeting in North America, Portland, Oregon, USA, Nov., Abstract Book, 154.
- 139) Iwata, H., Nakayama, K., Kim, E. Y., Tanabe, S., Yamagata, A. and Oofusa, K.: Effects of endocrine-disrupting chemicals in hepatic protein expression profile in wild cormorants: an ecotoxicoproteomics approach. Fourth SETAC World Congress and 25<sup>th</sup> Annual Meeting in North America, Portland, Oregon, USA, Nov., Abstract Book, 154-155.
- 140) Tanabe, S., Kajiwara, N., Ueno, D., Ramu, K., Kamikawa, S., Baba, N., Yamada, T., Lam. P. K. S., Jefferson, T. A. and Zhou, K.: Monitoring spatial and temporal trends of PBDEs contamination in the Asia-Pacific region using bioindicators. Fourth SETAC World Congress and 25<sup>th</sup> Annual Meeting in North America, Portland, Oregon, USA, Nov., Abstract Book, 180.
- 141) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Molecular characterization of the aryl hydrocarbon receptors (AHR and AHR2) from red seabream (*Pagrus major*). Fourth SETAC World Congress and 25<sup>th</sup> Annual Meeting in North America, Portland, Oregon, USA, Nov., Abstract Book, 250.
- 142) Hirakawa, S., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Miyazaki, N.: Molecular cloning and expression levels of CYP1A1 and 1A2 in Baikal seals. Fourth SETAC World Congress and 25<sup>th</sup> Annual Meeting in North America, Portland, Oregon, USA, Nov., Abstract Book, 276.
- 143) Agusa, T., Kunito, T., Fujihara, K., Kubota, R., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Iwata, H., Subramanian, An., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Human health threat by arsenic, manganese and barium contamination of groundwater in Vietnam. Fourth SETAC World Congress and 25<sup>th</sup> Annual Meeting in North America, Portland, Oregon, USA, Nov., Abstract Book, 459.
- 144) Tanabe, S.: Present status of POPs pollution in Asia-Pacific region. Special Seminar in Hatfield Marine Science Center, Oregon State University, Newport, Oregon, USA, Nov.
- 145) Iwata, H. and Tanabe, S.: Species differences in toxicokinetics of POPs and CYP expression system. Special Seminar in Hatfield Marine Science Center, Oregon State University, Newport, Oregon, USA, Nov.
- 146) 高木 梢・久保田領志・阿草哲郎・阿南弥寿美・田辺信介: 海亀類におけるヒ素の蓄積特性, 第15回日本ウミガメ会議, 福岡県津屋崎町, 11月, ウミガメニュースレター, No. 63, 17.
- 147) 阿南弥寿美・金 恩英・國頭 恭・岩田久人・田辺信介: ウミガメ類の微量元素蓄積と金属結合タンパク質

#### 4. 研究成果

- の特徴, 第15回日本ウミガメ会議, 福岡県津屋崎町, 11月, ウミガメニュースレター, No. 63, 17-18.
- 148) 宮崎信之・新井高臣・大地まどか・田辺信介・大石和恵: 海洋生物における有害化学物質の蓄積特性と生物影響, 平成16年度公開シンポジウム海洋生態系のダイナミクス, 東京, 12月, 講演要旨集, 41.
- 149) 国末達也・田辺信介・岩田久人・渡辺倫夫・久保田彰・坪田敏男・山田文雄・安田雅俊・米田久美子・橋本琢磨: タヌキにおけるダイオキシン類の肝集積—比較生物学的解析—, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 97.
- 150) 酒井大樹・岩田久人・金 恩英・田辺信介・宮崎信之・Petrov, E. A.: 内因性物質および環境汚染物質によるバイカルアザラシ Constitutive Androstane Receptor (CAR) の転写活性化能の解析: マウス CARとの比較, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 98.
- 151) 安井知子・金 恩英・岩田久人・Franks, D. G.・Karchner, S. I.・Hahn, M. E.・田辺信介: 水棲鳥類 AhR1およびAhR2の mRNA 発現プロファイルと TCDDへの結合親和性, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 99.
- 152) 山内正信・金 恩英・岩田久人・島 康洋・田辺信介: マダイ (*Pagrus major*) の初期発生における TCDD 暴露の影響, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 102.
- 153) 久保田彰・岩田久人・金 恩英・田辺信介・米田久美子・戸畠祥子: カワウ CYP1A4・1A5cDNAs の同定および各 mRNA 発現量とダイオキシン類蓄積量の関係, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 105.
- 154) 平井悠款・馬場智子・岩田久人・金 恩英・田辺信介: カワウにおける Chicken Xenobiotic Receptor (CXR) ホモログ splice variant の同定およびその発現量調節機構の解明, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 106.
- 155) 仲山 慶・岩田久人・金 恩英・久保田彰・田代康介・田辺信介: マイクロアレイを用いたカワウにおける潜在的毒性影響の評価—肝臓中の遺伝子発現プロファイルと化学物質蓄積レベルとの関係, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 107.
- 156) Nam, D. H.・Anan, Y.・Kim, E. Y.・Iwata, H.・Tanabe, S.: Molecular cloning of novel metallothionein isoforms in great cormorants (*Phalacrocorax carbo*), 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 108.
- 157) 新美聰子・渡辺倫夫・金 恩英・岩田久人・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介: ミンククジラの肝チトクローム P450 1-4各分子種の mRNA 発現プロファイルと有機塩素化合物蓄積, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 109.
- 158) 池本徳孝・Cam Tu, N. P.・奥田 昇・大森浩二・田辺信介・Hien, P. P.・Tuyen, B. C.・竹内一郎: ベトナム・メコンデルタのウシェビー米混合養殖池生態系における微量元素蓄積, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 231.
- 159) 竹下陽子・岩田久人・金 恩英・平川周作・田辺信介・宮崎信之・Petrov, E. A.: バイカルアザラシにおける CYP1B1 cDNA の同定および mRNA 発現量とダイオキシン類蓄積との関係, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 232.
- 160) 岡本未央・渡辺倫夫・金 恩英・岩田久人・田辺信介・米田久美子・橋本琢磨: ハシブトガラスにおける CYP1A cDNA の同定およびダイオキシン類蓄積と CYP1A mRNA 発現量の関係, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 233.
- 161) 須田智子・金 恩英・岩田久人・田辺信介・宮崎信之・Petrov, E. A.: バイカルアザラシにおける ARNT cDNA のクローニングおよび mRNA 発現量の解析, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 234.
- 162) Lee, J. S.・Kim, E. Y.・Iwata, H.・Tanabe, S.: Cloning and quantification of aryl hydrocarbon receptor nuclear translocator (ARNT) in common cormorants, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 239.
- 163) 村岡正義・国末達也・岩田久人・Minh, T. B.・Minh, N. H.・Tuyen, B. C.・田辺信介: ベトナムのダンピングサイト周辺住人におけるダイオキシン類暴露—母乳中残留濃度と内分泌系への影響—, 第7回環境ホルモン学会, 名古屋, 12月, 要旨集, 375.

#### 生態系解析分野

- 1) Inaba, M., Kimura, T., Kikukawa, R., Iwasaki, M., Nose, M. and Suzuki, S.: Annual Dynamics of Marine birnavirus (MABV) in Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*) and Seawater, 104th General Meeting, American Society for Microbiology, New Orleans, USA, May. Abstract 167.
- 2) Nonaka, L., Kim, S-R. and Suzuki, S.: Distribution of ribosomal protection protein (RPP) genes in bacteria isolated

- from coastal environments in Japan and Korea. 104th General Meeting, American Society for Microbiology, New Orleans, USA, May, Abstract p173.
- 3) Obayashi, Y. and Suzuki, S.: Endopeptidase and exopeptidase activities in natural seawater and cultured bacteria, 10th International Symposium on Microbial Ecology, Cancun, Mexico, August, Abstract 178.
  - 4) Katano, T., Kanzaki, N., Obayashi, Y., Kaneda, A., Morimoto, A., Onitsuka, G., Mizutani, S., Kon, Y., Hata, K., Yasuda, H., Takeoka, H. and Nakano, S.: Shift in the composition of picophytoplankton from coastal sea to open ocean in the southwest part of Japan, 10th International Symposium on Microbial Ecology (ISME-10), Cancun Mexico, August, Abstract 173.
  - 5) Nonaka, L., Sumimoto, D. and Suzuki, S.: Distribution of tetracycline resistance gene *tet* (M) in the sediment at the coastal aquaculture site. 10th International Symposium on Microbial Ecology (ISME-10), Cancun, Mexico, August, Abstract 178.
  - 6) Suzuki, S., Inaba, M., Kitamura, S-I. and Jung, S-J. : Comparison of infection dynamics of marine birnavirus in Japanese pearl oyster (*Pinctada fucata*) and Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*). The 6th International Symposium on Viruses of Lower Vertebrates, Hakodate, Japan, September, Abstract 18.
  - 7) 稲葉愛美・鈴木 聰・北村真一・熊澤教眞・児玉 洋：沖縄産貝類から検出されるマリンビルナウイルス (MABV) の特性, 平成16年度日本魚病学会大会, 函館市, 9月, 要旨, 42.
  - 8) 大林由美子・鈴木 聰：海水中のタンパク質分解酵素活性の測定—サイズ分画用フィルターの選択—, 2004年度日本海洋学会秋季大会, 松山市, 9月, 要旨集, 293.
  - 9) 片野俊也・神崎直人・大林由美子・兼田淳史・森本昭彦・鬼塚 剛・安田秀一・水谷壮太郎・今 義英・秦一浩・武岡英隆・中野伸一：瀬戸内海から黒潮域にかけての *Synechococcus* のフィコエリスリン色素タイプごとの分布と光環境の関係, 2004年度日本海洋学会秋季大会, 松山市, 9月, 要旨集, 200.
  - 10) Obayashi, Y. and Suzuki, S.: Proteolytic enzymes in coastal seawater. International Symposium on Long-term Variation in the Coastal Environments and Ecosystems, Matsuyama, Japan, September, Abstract 39.
  - 11) 野中里佐・住本大輔・鈴木 聰：沿岸養殖場におけるテトラサイクリン耐性遺伝子 *tet* (M) の分布. 平成16年度日本微生物生態学会, 仙台市, 11月, 要旨集, 189.
  - 12) 小林 剛・末廣富士代・Tuyen, B. C.・鈴木 聰：メコン川の微生物生態 (1) 底泥からのDNA抽出法の最適化と細菌群集構造の解析. 平成16年度日本微生物生態学会, 仙台市, 11月, 要旨集, 205.
  - 13) 末廣富士代・小林 剛・野中里佐・Tuyen, B. C.・鈴木 聰：メコン川の微生物生態 (2) 有機スズ化合物 (TBT) 添加集積培養中でのTBT耐性菌の変遷. 平成16年度日本微生物生態学会, 仙台市, 11月, 要旨集, 206.
  - 14) Kobayashi, T., Suehiro, F., Tuyen, B. C. and Suzuki, S.: Distribution and Diversity of Tetracycline Resistance Genes Encoding Ribosomal Protection Proteins in Mekong River Sediments. 1st Symposium on Antimicrobial Resistance in Animals and the Environment, Lyon, France, February, Abstract poster-34.
  - 15) Nonaka, L., Ikeno, K. and Suzuki, S.: Detection of OTC resistant bacteria and *tet* (M) gene in the sediment of the marine aquaculture site in Japan. 1st Symposium on Antimicrobial Resistance in Animals and the Environment, Lyon, France, February, Abstract poster-34.
  - 16) 小林 剛・末廣富士代・Tuyen, B. C.・鈴木 聰：メコン川堆積物中における微生物種と抗生物質耐性遺伝子の多様性解析. 平成16年度21世紀COE沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 9-10.
  - 17) 大林由美子・鈴木 聰：海洋における高分子溶存有機物と微生物の相互作用に関する研究—細菌の細胞外加水分解酵素の作用を中心として—, 平成16年度21世紀COE沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山市, 3月, 要旨集, 17-18.
  - 18) 桑谷 恵・上田拓史・田中 克：筑後川河口域における *Pseudodiaptomus inopinus* (カイアシ類) 個体群の定位機構, 2004年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会講演要旨集, 12.
  - 19) 尾崎浩司・上田拓史・田中 克：高濁度エスチャリーに生息するカイアシ類の餌としての浮泥の評価, 2004年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会講演要旨集, 13.
  - 20) 坂木佳菜子・上田拓史：ナメクジウオの基質攪拌に関する水槽実験, 2004年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会講演要旨集, 96.
  - 21) 関 大悟・上田拓史・三根崇幸・川村嘉応：有明海湾奥の高濁度水域の有鐘纖毛虫群集, 2004年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会講演要旨集, 133.
  - 22) 門出倫子・上田拓史・東 幹夫：有明海の動物プランクトン群集—30年前との比較—, 2004年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会講演要旨集, 134.

#### 4. 研究成果

- トン学会・日本ベントス学会合同大会講演, 134.
- 23) 伊谷 行・内野 敬・川口美佳・上田拓史：ハサミシャコエビ（アナジャコ下目）の付属肢形態, 2004年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会講演, 139.
  - 24) 上田拓史：ナメクジウオの生態～産卵から着底後1年まで, 東京大学海洋研究所共同利用研究集会「境界動物の生物学」, 要旨集, 174.
  - 25) Ozaki, K., Ueda, H. and Tanaka, M.: Evaluation of suspended mud as food of copepod in a highly turbid estuary of the Chikugo River, southwestern Japan. First EAFES International Congress, Mokpo, Korea, Abstract, T4-5.
  - 26) Z. Kanamoto. First record of *Cymodocea serrulata* buds from Japan. Seagrass 2004 (Townsville, Australia)
  - 27) M. Masuda, A. Hourai, T. Aritaka, Z. Kanamoto. Genetic diversity of seagrass forming seagrass beds in Okinawa, Japan. Seagrass 2004 (Townsville, Australia)

#### 環境影響評価予測分野

- 1) Inouchi, Y., Iwamoto, N., Inoue, T. and Shioya, F. : Large scale sand dredging and mode of slow recovery of sand dunes in the Seto Inland Sea, Japan, The 32nd International Geological Congress (32IGC) in Florence, Italy.
- 2) Inouchi, Y., Iwamoto, N., Inoue, T. and Shioya, F. : Large scale sand dredging and mode of slow recovery of sand dunes in the Seto Inland Sea, Japan. CD-Rom Proceedings of Oceans' 04 MTS/IEEE and Techno-Ocean' 04, Kobe, Japan.
- 3) Iwamoto, N. and Inouchi, Y. : The 32nd International Geological Congress, Paleoenvironmental changes during the last 10 million years around Lake Baikal based on the density measurement of sediments- Focused on Quaternary climatic changes -, The 32nd International Geological Congress (32IGC) in Florence, Italy.
- 4) Inoue, T., Inuyama, T., Haraguchi, T., Igarashi, A., Okumura, M., Iwamoto, N., Amano, A. and Inouchi, Y. : Volume Estimation of Drifting Coastal Sand as Basic Data for Protections against Coastal Erosion - Based on "Geoslicer" samples -, OCEANS'04 MTS/IEEE /TECHNO-OCEAN'04, Kobe, Japan.
- 5) Inoue, T., Shioya, F., Iwamoto, N., Amano, A. and Inouchi, Y. : Sea level changes and geologic history in Miho Bay, southwest Japan, since the Late Pleistocene based on seismic profiles, The 32nd International Geological Congress (32IGC) in Florence, Italy.
- 6) Amano, A., Iwamoto, N., Inoue, T. and Inouchi, Y. : Human induced environmental changes in bottom sediments during the past 100 years in Kitanada Bay, Ehime Prefecture, Japan, The 32nd International Geological Congress (32IGC) in Florence, Italy.
- 7) Amano, A. : Bottom Environmental Changes during the Past 100 Years in Kitanada Bay, Ehime Prefecture, Southwest Japan, MTS/IEEE, /Kobe.
- 8) Chujo, Y. : Sea level Rise and Velocity Changes of Tidal Current around Eastern Neko Seto Strait, Seto Inland Sea, Japan, MTS/IEEE, Kobe, Japan.
- 9) Fukawa, Y., Inoue, T., Chujo, Y. and Inouchi, Y. : Shifting velocity of a large sand dune and its direction in the Seto Inland Sea, Japan, The 32nd International Geological Congress (32IGC) in Florence, Italy.
- 10) Kawaguchi, M., Iwamoto, N. and Inouchi, Y. : Paleoclimatic changes based on the density measurement of sediments at the Posolskaya bank in Lake Baikal during the past 450,000 years, The 32nd International Geological Congress (32IGC) in Florence, Italy.
- 11) Saitoh, E. and Inouchi, Y. : Environmental changes and their factors based on grain size fluctuation of the Takashima-oki core samples, Lake Biwa, Central Japan, 2004, The 32nd International Geological Congress (32IGC) in Florence, Italy.
- 12) Omori, K., H. Miyasaka, S. Ito, N. Okuda & H. Ohnishi “An ecosystem model of a storing reservoir: How to keep the ecological health of reservoirs” The 1st Korea-Japan Joint Limnology Symposium, May 2004, Busan
- 13) Takeyama, T., N. Okuda & Y. Yanagisawa “Sexual conflict in paternal mouthbrooding cardinalfishes: female mating competition and male brood cannibalism” Satellite meeting in 10th International Coral Reef Symposium, July 2004, Okinawa
- 14) Okuda, N. “Parasite-mediated sexual selection in a paternal mouthbrooding fish” 10th International Society for Behavioral Ecology, July 2004, Jyvaskyla
- 15) Fukumori, K., N. Okuda & Y. Yanagisawa “Female breeding territoriality to increase offspring survival but not mating success in a paternal mouthbrooding fish, Apogon notatus” 10th International Society for Behavioral Ecology, July

- 2004, Jyvaskyla
- 16) Okuda, N., H. Hamaoka, T. Fukumoto, H. Miyasaka & K. Omori "How to monitor the coastal food-web dynamics using stable-isotope analysis of higher consumers" International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, September 2004, Ehime
  - 17) Kohama, T., S. Nagano, N. Okuda, H. Miyasaka & H. Takeoka "Estimation of trophic level and main food particle of jellyfish *Aurelia aurita* using stable isotope ratios in Uwa Sea, Japan" International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, September 2004, Ehime
  - 18) Omori, K., A. Doura, T. Fukumoto, J. Matsumoto, H. Ohnishi & N. Okuda "Long term effects of human impacts on mangrove forest ecosystems and its meaning in the global warming problem" International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, September 2004, Ehime
  - 19) Ikemoto, T., Nguyen Phuc Cam Tu, Okuda, N., Omori, K., Tanabe, S. Phan Phuoc Hien, Bui Cach Tuyen & Takeuchi, I. "Trace element accumulation in biota of rice-shrimp ponds of Mekong Delta, Vietnam" SETAC Asia/Pacific - SRA East Asia - KOSET International Joint Conference on Risk Assessment and Management. Sharing Experience of Human and Ecological Risk Science and Management in Asia/Pacific Region. SK Telecom Center, November 2004, Seoul
  - 20) Goshima, S., Shingo Minouchi and Kenji Yoshino (Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University) Size assortative mating in the hermit crab *Pagurus filholi*. Fifth International Crustacean Congress, Australia, July 2001
  - 21) Miyasaka, H. "Stable isotope analyses of the benthic food web along the longitudinal pattern in a Japanese urban river" The 1st Koria Japan joint limnology symposium, Pusan.
  - 22) 岩本直哉・川口優美・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物の密度が示す過去1000万年間の環境変遷史，地球惑星科学関連学会2004年合同大会，千葉県幕張メッセ，5月。
  - 23) 川口優美・岩本直哉・井内美郎：バイカル湖 Posolskaya Bank の堆積物密度からみた気候変遷史，地球惑星科学関連学会2004年合同大会，千葉県幕張メッセ，5月。
  - 24) 中條喜友・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・井内美郎：猫瀬戸における海水面上昇と潮流速の変化，地球惑星科学関連学会2004年合同大会，千葉県幕張メッセ，5月。
  - 25) 岩本直哉・原田英明・井上卓彦・井内美郎：瀬戸内海三原瀬戸における海砂採取後の地形変化と底質の回復，瀬戸内海研究フォーラム in 京都，京都市国際交流会館，9月。
  - 26) 中條喜友・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・原田英明・井内美郎：瀬戸内海猫瀬戸東方海域における海水面上昇と潮流速の変化，瀬戸内海研究フォーラム in 京都，京都市国際交流会館，9月。
  - 27) 岩本直哉・天野敦子・井内美郎：中国内モンゴル自治区「岱海」の湖底堆積物に記録された中国内陸部における過去約3万年間の環境変遷，2004，日本地質学会第111回学術大会，千葉大学，9月。
  - 28) 原田英明・岩本直哉・井上卓彦・中條喜友・布川裕也・奥村 学・井内美郎，海砂採取後海域における海底地形と粒度組成から見た底質回復過程，日本地質学会第111回学術大会，千葉大学，9月。
  - 29) 川口優美・岩本直哉・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物の粒子密度からみた環境変遷史，日本地質学会第111回学術大会，千葉大学，9月。
  - 30) 中條喜友・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・原田英明・井内美郎：瀬戸内海猫瀬戸東方海域における海水面上昇と潮流速の変化，日本地質学会第111回学術大会，千葉大学，9月。
  - 31) 岩本直哉・天野敦子・井内美郎：中国内蒙古自治区「岱海」の湖底堆積物に記録された中国内陸部における過去約3万年間の環境変遷，日本地質学会四国支部2004年度総会・講演会，高知大学，12月。
  - 32) 布川裕也・岩本直哉・井上卓彦・中條喜友・井内美郎：粒度分布と海底地形の変化に示される大洲の堆積物移動形態，日本地質学会四国支部2004年度総会・講演会，高知大学，12月。
  - 33) 原田英明・岩本直哉・井上卓彦・中條喜友・布川裕也・奥村 学・井内美郎：海砂採取後海域における海底地形と粒度組成から見た底質回復過程，日本地質学会四国支部2004年度総会・講演会，高知大学，12月。
  - 34) 川口優美・岩本直哉・井内美郎：バイカル湖セレンガデルタ沖の湖底堆積物の粒子密度からみた環境変遷史，日本地質学会四国支部2004年度総会・講演会，高知大学，12月。
  - 35) 多田恭子・岩本直哉・井上卓彦・天野敦子・川口優美・齋藤笑子・布川裕也・井内美郎：徳島県東部，板野町のジョガマル池湖底堆積物からみた過去約1000年間の環境変遷史，日本地質学会四国支部2004年度総会・講演会，高知大学，12月。

#### 4. 研究成果

- 36) 中條喜友・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・井内美郎：猫瀬戸東方海域における海水面上昇に伴う海釜の発達，日本地質学会四国支部2004年度総会・講演会，高知大学，12月。
- 37) 岩本直哉・斎藤笑子・井内美郎：琵琶湖堆積物の全炭素・全窒素含有率からみた過去40万年間の環境変遷，第14回環境地質学シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会，12月。
- 38) 原田英明・岩本直哉・井上卓彦・中條喜友・布川裕也・奥村 学・井内美郎：海砂採取後海域における海底地形と粒度組成から見た堆積物粒度の回復過程，第14回環境地質学シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会，12月。
- 39) 川口優美・岩本直哉・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物の粒子密度からみた環境変遷史，第14回環境地質学シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会，12月。
- 40) 中條喜友・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・原田英明・井内美郎：猫瀬戸東方海域における海水面上昇過程と流速の変化，第14回環境地質学シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会，12月。
- 41) 井内美郎・井上卓彦・岩本直哉・天野敦子：大阪湾海成“沖積層”のシーケンス層序学的検討（予察），第14回環境地質学シンポジウム，東京，12月。
- 42) 多田恭子・岩本直哉・井上卓彦・天野敦子・川口優美・斎藤笑子・中條喜友・布川裕也・井内美郎：徳島県東部，板野町のジョガマル池湖底堆積物からみた過去約1000年間の環境変遷史（予察），第14回環境地質学シンポジウム，東京，12月。
- 43) 井内美郎：海砂資源の成因および採取の現状と環境修復に向けた提案，沿岸域の環境保全に関する調査検討会，東京，4月。
- 44) 井内美郎：ユニバーム音波探査記録による大阪湾海成“沖積層”のシーケンス層序学的検討（予察），日本地質学会第111回学術大会，千葉大学，9月。
- 45) 多田恭子・岩本直哉・井上卓彦・天野敦子・川口優美・斎藤笑子・布川裕也・井内美郎：徳島県東部，板野町のジョガマル池湖底堆積物からみた過去約1000年間の環境変遷史，日本地質学会第111回学術大会，千葉大学，9月。
- 46) 奥村 学・井上卓彦・米田明徳・五十嵐厚夫・原口強・井内美郎：美保湾野川河口域における過去約200年間の堆積史，日本地質学会第111回学術大会，千葉大学，9月。
- 47) 奥村 学・井上卓彦・米田明徳・五十嵐厚夫・原口 強・天野敦子・岩本直哉・井内美郎：美保湾日野川河口域における過去約200年間の堆積史，第14回環境地質学シンポジウム，日本地質学会環境地質研究委員会，9月。
- 48) 奥村 学・井上卓彦・米田明徳・五十嵐厚夫・原口 強・井内美郎：美保湾日野川河口域における過去約200年間の堆積史，日本地質学会四国支部2004年度総会・講演会，高知大学，12月。
- 49) 天野敦子・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎：愛媛県南西部御荘湾における過去約200年間の底質環境変遷，2004，日本地質学会四国支部2004年度総会・講演会，高知大学，12月。
- 50) 斎藤笑子・井内美郎：琵琶湖高島冲コアにみる過去約20万年間の粒径変動，日本地質学会四国支部2004年度総会・講演会，高知大学，12月。
- 51) 斎藤笑子・井内美郎，琵琶湖高島冲の湖底堆積物にみる過去約20万年間の粒径変動，2004，第14回環境地質学シンポジウム，日本地質学会環環境地質研究委員会，12月。
- 52) 納谷友規・谷村好洋・金井 豊・公文富士夫・天野一男：珪藻化石群集変化が示す北浦の人為的水質変化，日本地質学会第111回学術大会，千葉大学，12月。
- 53) 井上卓彦・塩屋藤彦・岩本直哉・天野敦子・井内美郎：音波探査記録からみた鳥取県西部，美保湾の完新統基底面分布と後期更新世以降の地史，地球惑星科学関連学会2004年合同大会，千葉幕張メッセ，12月。
- 54) 井上卓彦・米田明徳・原口 強・井内美郎・五十嵐厚夫：堆積物分析からみた日野川・皆生海岸流砂系における過去400年間の環境変遷，第51回海岸工学講演会，三重県志摩郡浜島町，合歓ノ郷，11月。
- 55) 井上卓彦・米田明徳・原口 強・五十嵐厚夫・岩本直哉・天野敦子・井内美郎：鳥取県西部，境港地域における過去約3000年間の堆積史，2004年第14回環境地質シンポジウム，東京大学，12月。
- 56) 井上卓彦・塩屋藤彦・岩本直哉・天野敦子・井内美郎：海岸浸食対策を指向した砂州地形の発達史解明—弓ヶ浜半島を例に—，瀬戸内海研究フォーラム in 京都，京都市国際交流会館，京都，9月。
- 57) 井上卓彦・米田明徳・原口 強・五十嵐厚夫・新川和幸・井内美郎：堆積物分布からみた鳥取県西部，境港地域における過去3000年間の砂州拡大過程，日本地質学会第111回学術大会，千葉大学，9月。
- 58) 天野敦子・井上卓彦・岩本直哉・塩屋藤彦・井内美郎：愛媛県北灘湾の過去約100年間の底質環境変遷，地球

- 惑星科学関連学会2004年合同大会, 千葉県幕張メッセ, 5月.
- 59) 天野敦子・井上卓彦・岩本直哉・塙屋藤彦・井内美郎: 愛媛県北灘湾の過去約100年間の底質環境変遷, 濱戸内海研究フォーラム in 京都, 京都市国際交流会館, 京都, 9月.
- 60) 天野敦子・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎: 愛媛県南西部御荘湾における過去約150年間の底質環境変遷, 日本地質学会第111回学術大会, 千葉大学, 9月.
- 61) 中條喜友・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・井内美郎: 猫瀬戸における海水面上昇と潮流速の変化, 地球惑星科学関連学会2004年合同大会, 千葉県幕張メッセ, 9月.
- 62) 布川裕也・井上卓彦・中條喜友・井内美郎: 底質分布と海底地形変化に示される大洲の堆積物移動形態, 地球惑星科学関連学会2004年合同大会, 千葉県幕張メッセ, 9月.
- 63) 布川裕也・井上卓彦・中條喜友・井内美郎: 底質分布と海底地形変化に示される大洲の堆 Sand dune の堆積移動形態, 濱戸内海研究フォーラム in 京都, 京都市国際交流会館, 9月.
- 64) 布川裕也・井上卓彦・岩本直哉・中條喜友・井内美郎: 底質分布と海底地形変化に示される大洲の堆積物移動形態, 日本地質学会第111回学術大会, 千葉大学, 9月.
- 65) 斎藤笑子・井内美郎: 琵琶湖高島沖湖底堆積物の粒径変動からみた環境変遷とその要因, 地球惑星科学関連学会2004年合同大会, 千葉県幕張メッセ, 5月.
- 66) 斎藤笑子・井内美郎: 琵琶湖高島沖コアの粒径変動にみる過去約20万年間の環境変遷, 日本地質学会第111回学術大会, 千葉大学, 9月.
- 67) 井内美郎: 沿岸底質環境の変遷および底質環境修復過程, 愛媛大学21世紀 COE プログラム「沿岸環境科学研究拠点」中間成果報告会, 愛媛大学, 11月.
- 68) 関口智寛・布川裕也・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎: 多島海における砂堆の堆積環境—愛媛県松山市沖海域を例に—, 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 愛媛大学, 2005年3月.
- 69) Amano, A., Iwamoto, N., Inoue, T. and Inouchi, Y.: Bottom environmental changes during the past 200 years in Mishou Bay, Ehime prefecture, Southwest Japan. International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, Ehime, Japan, September.
- 70) Iwamoto, N., Harada, H., Inoue, T., Amano, A. and Inouchi, Y.: Recovering process of bottom sediments in sand dredged areas. International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, Ehime, Japan, September.
- 71) Inoue, T., Yoneda, A., Haraguchi, T., Igarashi, A., Iwamoto, N., Amano, A. and Inouchi, Y.: Sedimentary process of sand bar formation near Sakaiminato city, western Tottori prefecture, during the last 3000 years. International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, Ehime, Japan, September.
- 72) 大森浩二・宮坂 仁・伊藤 明・奥田 昇・大西秀次郎: 貯水池の適正管理について, 第69回 日本陸水学会, 2004年9月
- 73) 池本徳孝・奥田 昇・大森浩二・Nguyen Phuc Cam Tu・Phan Phuoc Hien・Bui Cach Tuyen・竹内一郎: ベトナム・メコンデルタのウシェビ-米混合養殖池における食物連鎖網の構造—炭素・窒素安定同位体比を用いた解析—, 日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会, 2004年9月
- 74) 小濱 剛・長野慎矢・奥田 昇・宮坂 仁・武岡英隆: 宇和海におけるミズクラゲ (*Aurelia aurita*) の食性と栄養段階に関する研究, 日本海洋学会, 2004年9月
- 75) 奥田 昇・濱岡秀樹・福元 亨・宮坂 仁・大森浩二「高次消費者ホタルジャコの安定同位体分析に基づく沿岸生態系の動態解析」第37回 日本魚類学会, 2004年9月
- 76) 濱岡秀樹・奥田 昇・大森浩二: 宇和海におけるホタルジャコの生態と生活史, 第37回 日本魚類学会, 2004年9月
- 77) 篠永知子・奥田 昇・伊藤 明・大森浩二: 移入種トウヨシノボリと在来種シマヨシノボリの種間競争, 第37回 日本魚類学会, 2004年9月
- 78) 池本徳孝・Nguyen Phuc Cam Tu・奥田 昇・大森浩二・田辺信介・Phan Phuoc Hien・Bui Cach Tuyen・竹内一郎: ベトナム・メコンデルタのウシェビー米混合養殖池生態系における微量元素蓄積, 第7回日本内分泌搅乱化学物質学会(環境ホルモン学会), 2004年12月
- 79) 奥田 昇: 口内保育魚クロホシイシモチにおける寄生虫媒介型性淘汰, 第23回日本動物行動学会, 2004年12月
- 80) 福森香代子・奥田 昇: クロホシイシモチの驚くべき空間記憶能力, 第23回日本動物行動学会, 2004年12月

#### 4. 研究成果

- 81) 中江 環・柳澤康信・奥田 昇・伊藤 明：ハゼ科魚類トウヨシノボリにおけるメスの婚姻色の進化，第23回日本動物行動学会，2004年12月
- 82) 奥田 昇・濱岡秀樹・福元 亨・宮坂 仁・大森浩二：高次消費者の安定同位体比から沿岸生態系の健全性を診断する，第52回日本生態学会，2005年3月
- 83) 吉野健児・山野井貴浩・今 孝悦・五嶋聖治：ホンヤドカリにおける雌の間接的雄選択，日本甲殻類学会42回大会・東京・2004年11月
- 84) 吉野健児・山野井貴浩・今 孝悦・五嶋聖治：ホンヤドカリにおける雌の間接的雄選択とそのコスト，日本動物行動学会第23回大会・福岡・2004年12月
- 85) 宮坂 仁・岡田康平・日浦哲也・佐貫方城・大森浩二：流程分布から見た水生無脊椎動物群集の餌資源利用，日本陸水学会 第69回大会，新潟
- 86) 碓 雄太・奈良正和：室戸半島羽根岬の古第三系に見られる生痕化石 *Protovirgularia* の形成環境，日本堆積学会2004年例会，広島大学。
- 87) 小嶋瑞穂・奈良正和：愛媛県北条市沖の砂堆を構成するバイオクラストの供給源，日本堆積学会2004年例会，広島大学。
- 88) 清家弘治・奈良正和：現世前浜堆積物に見られる白斑状生痕とその形成者，日本堆積学会2004年例会，広島大学。
- 89) 奈良正和：房総半島の更新統に産する生痕化石 *Bichordites monastiriensis* とその堆積学的意義，日本堆積学会2004年例会，広島大学。
- 90) 清家弘治・奈良正和：現世前浜堆積物に見られる *Macaronichnus segregatis* 様生痕とその形成者，日本古生物学会2004年年会，北九州自然史博。
- 91) 奈良正和：生痕化石 *Schaubcylindrichnus coronus*：単独生活性"funnel feeder"の居住/摂食痕，日本古生物学会2004年年会，北九州自然史博。
- 92) 奈良正和：生痕化石 *Schaubcylindrichnus coronus* の古生態学，日本地質学会第111年学術大会，千葉大学。

## 5. 学会及び社会における活動



### 5.1 併任・委員会委員等

#### **環境動態解析分野**

武岡 英隆

- 1) 中央環境審議会臨時委員、環境省
- 2) 科学研究費委員会専門委員、日本学術振興会
- 3) 愛媛海区漁業調整委員会委員、愛媛県
- 4) 愛媛県環境審議会委員、愛媛県
- 5) 愛媛県環境創造センター客員研究員、愛媛県
- 6) 伊方原子力発電所環境安全管理委員会委員、愛媛県
- 7) 自然と人の共生を目指す技術検討会委員、愛媛県
- 8) 養殖魚安全対策検討委員会委員、愛媛県漁連

郭 新宇

- 1) 研究員、独立行政法人海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター
- 2) 共同研究員、総合地球環境学研究所

#### **生態環境計測分野 生態毒性解析分野**

田辺 信介

- 1) 客員教授、独立行政法人東京大学海洋研究所
- 2) 客員研究員、独立行政法人国立環境研究所
- 3) 客員研究員、財団法人山階鳥類研究所
- 4) 地球環境科学技術委員会委員、文部科学省
- 5) 科学技術・学術審議会専門委員（学術分科会）、文部科学省
- 6) 日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会調査委員、文部科学省
- 7) 「人・自然・地球共生プロジェクト」等合同研究成果報告会講評委員、文部科学省
- 8) 科学研究費委員会専門委員、独立行政法人日本学術振興会
- 9) 中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会委員、環境省
- 10) 地球環境研究企画委員会第2研究分科会委員、環境省
- 11) 地球環境モニタリングに関する検討会委員、環境省
- 12) POPs モニタリング検討会座長、環境省
- 13) POPs 対策検討会委員、環境省
- 14) 化学物質環境汚染実態調査物質選定検討会、環境省
- 15) 化学物質審査小委員会、環境省
- 16) モニタリング・暴露量調査に関する検討会委員、環境省
- 17) 化学物質経年モニタリング調査検討会座長、環境省
- 18) 内分泌搅乱化学物質問題検討会委員、環境省
- 19) 内分泌搅乱化学物質による野生生物影響実態調査検討会検討委員、環境省
- 20) 内分泌搅乱化学物質問題に関する日韓共同研究企画検討会検討委員、環境省
- 21) 野生生物のダイオキシン類蓄積状況及び影響調査検討会検討委員、環境省
- 22) 海洋環境モニタリング調査検討会検討員、環境省
- 23) 海洋環境モニタリングにおけるバイオアッセイの活用に関する研究会委員、環境省

- 24) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員, 環境省
- 25) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員, 環境省
- 26) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員, 環境省
- 27) 廃棄物処理過程におけるダイオキシン類縁化合物の挙動と制御に関する研究委員会委員, 環境省
- 28) 臭素系ダイオキシン類排出実態等調査検討会委員, 環境省
- 29) 臭素化ダイオキシンの人への健康影響調査に関する検討会委員, 環境省
- 30) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業専門評価委員, 社団法人農林水産技術情報協会
- 31) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 32) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 33) 三崎半島・伊予灘海域漁場環境研究会検討会委員, 愛媛県
- 34) 養殖魚安全対策検討委員会委員, 愛媛県漁業協同組合連合会
- 35) Member of The Scientific and Technological Advisory Panel III (STAP III), United Nations Environment Programme (UNEP)
- 36) External Assessor for Appointments to the Post of Associate Professor/Professor in the Faculty of Applied Science and Technology, Universiti Putra Malaysia
- 37) External Assessor for Promotion to Professorship, City University of Hong Kong
- 38) External Reviewer for Ocean Park Projects in Hong Kong
- 39) External Referee for University Grants Committee in Hong Kong

岩田 久人

- 1) 環境試料タイムカプセル事業検討会委員, 国立環境研究所

梶原 夏子

- 1) 有機臭素化合物の測定に係る相互検定研究会委員, 国立環境研究所

#### 生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 大学評価・学位授与機構学位審査会臨時専門委員
- 2) 地球科学技術総合推進機構 IODP 国内科学計画委員会地下圈微生物専門部会委員

#### 環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 松山市道後温泉審議会委員, 松山市
- 2) 松山市環境審議委員, 松山市
- 3) 主任研究員, 独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門 中国センター 生態系環境修復創造研究グループ
- 4) 島根大学汽水域研究センター客員研究員, 島根大学
- 5) 海洋研究所協議会委員, 東京大学

大森 浩二

- 1) 河川・溪流アドバイザー, 脇川, 野村ダム, 国土交通省
- 2) 流況変動研究委員会委員, ダム水源地環境整備センター
- 3) 水源地生態研究会議委員, ダム水源地環境整備センター
- 4) 愛媛県溪流環境整備計画検討委員会, 愛媛県
- 5) 河川・溪流アドバイザー, 重信川, 国土交通省
- 6) 四国ダムフォローアップ委員会, 国土交通省
- 7) 脇川清流保全委員会, 国土交通省, 大洲市ほか
- 8) 脇川水系流域委員会, 国土交通省
- 9) 早明浦ダム濁水検討委員会, 国土交通省

10) 山鳥坂ダム環境検討委員会, 国土交通省

## 5. 2 学協会委員等

### 環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 委員, 副部会長, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会
- 3) 理事, 濑戸内海研究会議

### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

田辺 信介

- 1) 会長, 日本環境毒性学会
- 2) 理事, 日本環境科学会
- 3) 理事, 内分泌搅乱化学物質学会
- 4) 評議員, 日本環境化学会
- 5) 副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 6) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)
- 7) Editorial Board Member, Marine Pollution Bulletin (Pergamon)
- 8) Editorial Board Member, Australasian Journal of Ecotoxicology (Australasian Society for Ecotoxicology)
- 9) Editorial Board Member, Environmental Geochemistry and Health (Kluwer Academic Publishers)
- 10) Editorial Board Member, Environmental Sciences (MY Research)
- 11) Editorial Board Member, Archives of Environmental Contamination and Toxicology (Springer)
- 12) International Journal of Applied Environmental Sciences (Research India Publications)

岩田 久人

- 1) Editorial Board Member, The Scientific World (The Scientific World)

### 生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 評議員, マリンバイオテクノロジー学会

上田 拓史

- 1) 編集委員, Plankton Biology and Ecology (英文誌), 日本プランクトン学会
- 2) Copepod Working Group Member, Inland Water Crustacean Specialist Group, ICUN Species Survival Commission

### 環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 地質学研究連絡委員, 日本学術会議
- 2) 地球環境研究連絡委員会 IGBP 専門委員会 LOICZ 小委員, 日本学術会議
- 3) 地球環境研究連絡委員会 IGBP 専門委員会 PAGES 小委員, 日本学術会議
- 4) 評議員・評議員会議長, 日本地質学会
- 5) 評議員, 日本第四紀学会
- 6) 各賞選考委員, 日本地質学会

### 5. 3 学会、講演会などの開催（センター主催または共催）

- 1) 第13回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共催)

期日：平成16年4月26日(月)

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

生物多様性研究の統合のための拠点形成

京都大学生態学研究センター・教授 山村 則男

- 2) 第14回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共催)

期日：平成16年6月25日(金)

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

Study on the marine ecosystem dynamics of the Bahai Sea

中国海洋大学 環境科学与環境工程学院 院長・教授 Gao Huiwang

- 3) 愛媛大学環境学シンポジウム

(愛媛大学環境学ネットワーク・愛媛大学地域共同研究センター研究協力会環境保全部会と共催)

期日：平成16年8月3日(火)

会場：愛媛大学総合情報メディアセンター 1階 メディアホール

プログラム

・開会挨拶：小林 展章（副学長）

座長：西村 文武（工学部）

・生物環境リスクと環境浄化

瀬戸内海で甲殻類が減少している

竹内 一郎（農学部）

環境化学物質の生殖次世代影響に関する研究

山縣 英久・近藤 郁子（医学部）

植物による自然由来の砒素に富む土壤の浄化に関する研究

榎原 正幸（理学部）

・生活環境

座長：高橋 治郎（教育学部）

環境常在性微生物種によるヒト感染症の発症要因

四宮 博人（医学部）

環境メディアのためのセンサーネットワークに関する研究

都築 伸二・岡本 好弘・山田 芳郎・大澤 壽（工学部）

タンポポの分類と環境教育

山口 聰（農学部）

・人間社会と環境

座長：大森 浩二（沿岸環境科学研究センター）

地域環境マネジメントシステムの構築

藤原 三夫（農学部）

Web-GIS 揭示板を用いた社会経済環境データの利活用について

堤 純（法文学部）

参加型調査と GIS による地域社会の環境史構築

野崎 賢也（法文学部）

しまなみ海道沿線における歴史文化体験ゾーンの構想

村上 恭通（法文学部）

・森林保全

座長：四宮 博人（医学部）

地域住民にとっての熱帯雨林 ー世界観への数量的アプローチー

百瀬 邦泰（農学部）

酸性雨と森林

江崎 次夫・井上 章二・岩本 徹（農学部）

- ・環境保全修復技術  
座長：榎原 正幸（理学部）  
廃棄物を利用した建設材料の開発—環境に配慮した建設材料—  
稲田 善紀・木下 尚樹（工学部）  
廃パソコンの素材分離と循環再生  
荒木 孝雄・西田 稔（工学部）  
環境保全のための放電応用  
門脇 一則（工学部）
- ・環境保全修復・バイオマス技術  
座長：堤 純（法文学部）  
波による渦流れを利用する海水交換促進型防波堤の開発プロジェクト  
中村 孝幸（工学部）・槙本 一徳（理工学研究科）  
化学工学分野の研究テーマ  
川崎 健二・松田 晃（工学部）  
未利用有機物の農耕地土壤施用技術に関する研究  
上野 秀人（農学部）  
バイオマスの変換技術  
枝重 有祐（農学部）
- ・閉会挨拶：武岡 英隆（沿岸環境科学研究センター）

## ポスターセッション

- P1 ナメクジウオは瀬戸内海の環境浄化に役立っているか—飼育実験からの仮説—  
上田 拓史（沿岸環境科学研究センター）
- P2 環境要因と循環器疾患及び婦人疾患との関連—環境要因のうち気象と循環器疾患発症との関連—  
小西 正光・岡田 克俊・渡部 和子（医学部）
- P3 環境・エネルギーと化学反応機構  
樋高 義昭（理学部）
- P4 陸域生態系・流域生態系の環境保全  
大森 浩二（沿岸環境科学研究センター）
- P5 航空撮影と陸上撮影によるクラゲのパッチ形成に関する研究  
馬込 伸哉・山下 智弘・中濱 賢一・小濱 剛・武岡 英隆（沿岸環境科学研究センター）
- P6 宇和海におけるミズクラゲの大量発生とその生態的地位に関する研究  
—沿岸漁業への影響評価について—  
小濱 剛・長野 慎矢・奥田 昇・宮坂 仁・武岡 英隆（沿岸環境科学研究センター）
- P7 安定同位体分析を用いた沿岸生態系の健全性に基づく水産資源管理  
—宇和海のホタルジャコを例に—  
奥田 昇（沿岸環境科学研究センター）
- P8 大学と地域の連携におけるNPOの役割  
—情報発信による住民と大学間での地域環境ネットワークの構築—  
大西秀次郎（特定非営利活動法人水域生態系保全協会・沿岸環境科学研究センター）

- 4) 第2回21世紀 COE 学術研究交流会 —東南アジア河川流域研究—(21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)  
 期日：平成16年3月25日(水)  
 会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室  
 東南アジア陸水環境の特徴に関する簡単なレビュー  
 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 大森 浩二  
 事例研究：日本と東南アジアとの陸水環境の比較  
 メコン河の洪水氾濫便益評価  
 東北大大学院環境科学研究所 風間 聰  
 同位体を用いたタイ国の降水解析  
 東京大学生産技術研究所 芳村 圭

## 5. 学会及び社会における活動

インドネシア河川の土砂動態

京都大学防災研究所 佐山 敬洋

インドネシア、チラタ湖（ダム湖）の鉛直構造とその特性

愛媛大学工学部 速水 祐一

熱帶河川河口域におけるマングローブ生態系の機能解析

愛媛大学沿岸環境科学研究中心 大森 浩二

マレーシア熱帯ボルネオ北部における土地利用と河川生物群集との関係

(焼畑農業による河川生物の生息場所環境の改変)

愛媛大学沿岸環境科学研究中心 宮坂 仁

### 5) 第15回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究中心拠点と共に)

期日：平成16年9月8日(水)

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

Lake Baikal – the unique freshwater ecosystem in the world

Limnological Institute, Siberian Branch, Russian Academy of Science

Prof. Valentin V. Drucker

### 6) 国際シンポジウム "Long-term variations in the coastal environments and ecosystems"

(愛媛大学21世紀 COE プログラム沿岸環境科学研究中心拠点・日本海洋学会沿岸海洋研究部会・日本プランクトン学会・日本ベントス学会・LOICZ-II-Japan/IGBP 国内小委員会と共に)

期日：2004年9月27日(月), 28日(火)

会場：愛媛大学総合情報メディアセンター・メディアホール (27日), 愛媛大学共通教育大講義室 (28日)

27 September

Opening Remarks

Hidetaka Takeoka (Ehime University)

• Chairman : Makoto Terazaki (University of Tokyo)

Coastal environments in a changing world

Bruce Thom (Sydney University, Australia)

Relationship between sea ice variation and biological processes in Lutzow-Holm Bay, Antarctica

Tsuneo Odate (National Institute of Polar Research)

Changes in coastal ecosystems in the NE Pacific Ocean

Paul J. Harrison (Hong Kong University of Science & Technology, Hong Kong),

Frank Whitney, David Mackas, Richard Beamish (Fisheries and Oceans Canada, Canada)

Long term variations in hydrography and zooplankton in coastal waters of the northern California Current off Newport Oregon

William Peterson and Rian Hooff (Oregon State University, USA)

• Chairman : Toshio Furota (Toho University)

Long term network observations on the seagrass beds of Posidonia oceanica in northern Mediterranean Sea

Alexandre Meinesz (University of Nice-Sophia Antipolis, France)

Recent jellyfish bloom in the coastal waters of the East Asia : cause and consequence

Shin-ichi Uye (Hiroshima University)

Drought associated epidemic of a blue crab disease in coastal Georgia USA

Richard F. Lee (Skidaway Institute of Oceanography, USA)

28 September

• Chairman : Tetsuo Yanagi (Kyushu University)

Response of coastal ocean environment and ecosystem to climate change along the Kuroshio

Takashige Sugimoto (Tokai University), Hee-Yong Kim (Ehime University),

Junichi Takeuchi (Wakayama Fisheries Laboratory),

Yasuo Furushima (Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology)

Long term effects of human impacts on mangrove forest ecosystems and its meaning in the global warming problem

Koji Omori, Akira Doura, Toru Fukumoto, Junji Matsumoto,  
Hidejiro Ohnishi, Noboru Okuda (Ehime University)

The East China Sea Shelf: Eutrophication in the Changjiang (Yangtze River) Estuary and incursion of Kuroshio

Jing Zhang (East China Normal University, China),  
Su Mei Liu (Ocean University of China, China),  
Ying Wu (East China Normal University, China),  
Jing Ling Ren (East China Normal University, China)

Holocene evolution and recent environmental changes of large river deltas in Asia

Yoshiki Saito (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology)

• Chairman : Shigeru Montani (Hokkaido University)

Ecosystem in Funka Bay and its long-term monitoring index

Isao Kudo (Hokkaido University), Akira Miyazono,  
Hiroshi Shimada (Hokkaido Fisheries Experimental Station),  
Yutaka Isoda (Hokkaido University)

Aquatic silica decline and its effect to the coastal marine ecosystem revealed by a biogeochemical monitoring using  
ferryboats

Akira Harashima (National Institute for Environmental Studies)

Long-term variations in the marine environments of the Seto Inland Sea

Hidetaka Takeoka, Yuichi Hayami, Atsushi Kaneda (Ehime University)

• Co-chairmen : Takashige Sugimoto (Tokai University), Hidetaka Takeoka (Ehime University)

Discussion

Poster session

P01 Study on the ecological characteristics of gastropods (*Batillaria* spp.) and the role of material circulation in  
a tidal estuary, the Seto Inland Sea

Akemi Hamada, Shigeru Montani, Kuninao Tada

P02 Temporal change in the benthic biota and the demersal fish composition in the heavily exploited fishing ground  
on the continental slope off the Pacific coast of northern Japan, between the 1950's and recent years

Tomonori Hamatsu, Toshiaki Ohmura, Michio Yamauchi, Toyomi Takahashi

P03 The long-term change in occurrence of the pacific oyster *Crassostrea gigas* larvae in Hiroshima Bay, Japan

Ryo Ishii, Kenji Tarutani and Masami Hamaguchi

P04 Factors controlling the biomass of microphytobenthos on Midori River Mouth Tidal Flat, east coast of Ariake  
Bay, Japan

Hitomi Yamaguchi, Hiroaki Tsutsumi, Masanori Tsukuda,  
Tomohiro Komirita, Akihiro Inoue and Shigeru Montani

P05 Differences between mid 1980s and 2003 in abundances and distribution patterns of intertidal molluscs on the  
Pacific rocky shores in Japan

Takeo Kurihara, Takeharu Kosuge

P06 Effects of particulate organic matter enrichment on nematode vertical migration : an experiment

Supaporn Yodnarasri, Shigeru Montani and Kuninao Tada

P07 Phytoplankton productivity and a red tide outbreak in a heavily eutrophic embayment, Dokai Bay, Japan

Kuninao Tada, Kazuhiko Ichimi, Machiko Yamada and Shigeru Montani

P08 Seasonal variation in the abundance and ecological role of *Noctiluca scintillans* on the coastal ecosystem in  
the Seto Inland Sea, Japan

Yoshiki Kondo, Kuninao Tada, Kazuhiko Ichimi, Haruna Saito,  
Ken Furuya and Shigeru Montani

P09 Environmental factors affecting on the interannual fluctuation in the seasonal population occurrence of *Paracalanus parvus s. l.* (Copepoda : Calanoida) in Kii Channel, the shelf water on the Pacific side of southwestern Japan  
Koji Ozaki, Shin-ichi Uye, Teruichi Kusumoto, and Tetsuo Hagino

P10 *Chaetoceros* spp. dominated after occurrence of bottom intrusion in the Uwa Sea  
Katano, Toshiya, Kanzaki, Naoto and Nakano, Shin-ichi

P11 Morphological variability and genetical relationship of *Prorocentrum lima* clones established from different geographical areas  
Yukio Nagahama, Shauna Murray and Yasuwo Fukuyo

P12 Moon jellyfish or juvenile piscivore? possible change in relative importance of trophic pathways from fish larvae to their predators caused by hypoxia in the Seto Inland Sea  
Jun Shoji, Reiji Masuda, Yoh Yamashita, and Masaru Tanaka

P13 Estimation of trophic level and main food particle of jellyfish *Aurelia aurita* using stable isotope ratios in Uwa Sea, Japan  
Takeshi Kohama, Shinya Nagano, Noboru Okuda, Hitoshi Miyasaka and Hidetaka Takeoka

P14 Diffusional nutrient fluxes at the sediment-water interface in different sediment types of a coastal ecosystem  
Sarawut Srithongouthai, Yu-ichi Sonoyama, Kuninao Tada, and Shigeru Montani

P15 Research on the marine ecosystem in a High-CO<sub>2</sub> world  
Haruko Kurihara, Jun Kita, Atsushi Ishimatsu, Yoshihisa Shirayama

P16 Recent trend of the particle transport processes from the Tokyo Bay to the open ocean  
Chiho Sukigara, Toshiro Saino

P17 Marine Biological Data Management at Japan Oceanographic Data Center (JODC)  
Satoshi Sato, Michihiro Nagao, Norio Baba, and Yutaka Tomioka

P18 Relationships between local landuse and tidal flat communities in the Pauahatanui Estuary and Porirua Harbour, Wellington, New Zealand  
Kengo Kurata, Karyne M. Rogers

P19 Long term changes of coastal fauna in the Seto Inland Sea, Japan  
Ichiro Yuasa and Yoshitaka Fujika

P20 Proteolytic enzymes in coastal seawater  
Yumiko Obayashi and Satoru Suzuki

P21 How to monitor the coastal food-web dynamics using stable-isotope analysis of higher consumers  
Noboru Okuda, Hideki Hamaoka, Toru Fukumoto, Hitoshi Miyasaka, Koji Omori

P22 Influence of changes in river discharge on the variation in particulate organic matter in Ise Bay  
Ryo Sugimoto, Akihide Kasai, Satoshi Yamao, Tateki Fujiwara and Takuma Kimura

P23 A Study on jellyfish patch formation using aerial and land-based photography  
Shinya Magome, Tomohiro Yamashita, Takeshi Kohama and Hidetaka Takeoka

P24 Analysis of slope water intrusions into Kii Channel of the Seto Inland Sea in relation to Kuroshio distance  
Toshinori Takashi, Tateki Fujiwara, Toshiaki Sumitomo and Wataru Sakamoto

P25 Long-term variations in the strength of kyucho and bottom intrusion in the Bungo Channel, Japan  
Atsushi Kaneda and Hidetaka Takeoka

P26 Is the South Sea of Korea a ROFI (Region of Freshwater Influence) in summer? 1. Water characteristics in the dry and wet seasons  
Choi Yong-Kyu, Dae-Keun Kim, Joon Yoo, Jung-Bae Kim and Lee Yong-Hwa

P27 Continuous monitoring system of coastal environment in the Bungo Channel  
Hayami Yuichi, Kohama Takeshi, Teshima Ryoichi, Fukumori Kayoko, Kaneda Atsushi and Takeoka Hidetaka

P28 Water and Nutrients Budgets of the Estuary of the Yellow River in 1982 and 1992  
Mitsuru Hayashi, Tetsuo Yanagi and Xinyu Guo

P29 Bottom environmental changes during the past 200 years in Mishou Bay, Ehime prefecture, Southwest Japan

Atsuko Amano, Naoya Iwamoto, Takahiko Inoue and Yoshio Inouchi  
P30 Recovering process of bottom sediments in sand dredged areas

Naoya Iwamoto, Hideaki Harada, Takahiko Inoue, Atsuko Amano and Yoshio Inouchi  
P31 Sedimentary process of sand bar formation near Sakaiminato city, western Tottori prefecture, during the last 3000 years

Takahiko Inoue, Akinori Yoneda, Tsuyoshi Haraguchi,  
Atsuo Igarashi, Naoya Iwamoto, Atsuko Amano and Yoshio Inouchi  
P32 A new model for the estimation of red tide distribution using ocean color sensor "MODIS" in Hiroshima Bay  
Yuji Sakuno and Daisuke Yamaguchi

7) 第16回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)

期日：平成16年10月18日(月)

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

'Open' Technologies for Studying Messenger RNA Expression - Applications to Toxicogenomics

National Wildlife Research Centre, Environment Canada.  
Ottawa, ON, Canada Dr. Sean Kennedy

8) 第17回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)

期日：平成16年10月27日(水)

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

Scientific Achievements of the Centre of Advanced Study in Marine Biology, Annamalai University, India in the Recent Five Years

Director, Centre of Advanced Study in Marine Biology, Annamalai University, India  
Prof. T. Balasubramanian

Ecological Situation in Lake Baikal Region

Head of Analytical Center, Baikal Institute of Nature Management,  
Russia Valeriy Batoev

9) 第18回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)

期日：平成16年12月6日(月)

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

Comprehensive Study on Normal POPs around Coastal Waters of Hong Kong

City University of Hong Kong, China Dr. Jinshu Zheng  
Three-Dimensional Quantitative Structure Activity Relationship (3D – QSR) Analysis for Toxicity of Chlorophenols on HepG2 Cells in vitro

School of the Environment, Nanjing University, China Prof. Hongxia Yu  
Toxicology Research by the South Australian Museum and Associates

South Australian Museum, Australia Dr. Catherine Kemper

10) 第19回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)

期日：平成17年1月11日(火)

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

Persistent Perfluorinated Organic Compounds Method Development Research at the U.S. Environmental Protection Agency

United States Environmental Protection Agency Dr. Andrew B. Lindstrom

11) 第20回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)

期日：平成17年1月26日(水)

会場：愛媛大学 総合研究棟1 6階会議室

Recent developments in perfluoroalkyl compounds' research

University at Albany, State University of New York, US

Dr. Kurunthachalam Kannan

Polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in eggs of waterbirds from South China — Outcome of the COE International Exchange Program

City University of Hong Kong, China James Lam

12) 沿岸環境科学センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 若手研究成果報告会

(21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)

期日：平成17年3月18日(金)・19日(土)

会場：愛媛大学 総合情報メディアセンター1F メディアホール

プログラム

COE プロジェクト研究

生物環境試料バンクを活用した新規有害物質の汚染実態と推移の解明

○梶原 夏子 (CMES 助手)・Ramu, K. (連合農学研究科博士課程1年)・

上川 智子 (農学研究科修士課程1年)・上野 大介 (CMES 学術振興会特別研究員 PD)・

馬場 徳寿 (中央水産研究所研究員)・天野 雅男 (東京大学海洋研究所助手)・

早野あづさ (京都大学靈長類研究所研究員)・宮崎 信之 (東京大学海洋研究所教授)・

Subramanian, An. (CMES 客員教授)・Lam, P. K. S. (City University of Hong Kong, Professor)・

Jefferson, T. A. (NOAA, Research Associate)・

Prudente, M. (De La Salle University, Philippines, Professor)・

Chung, K. H. (Sungkyunkwan University, Korea, Professor)・

山田 格 (国立科学博物館動物研究部室長)・田辺 信介 (CMES 教授)

水圏生物における化学汚染のバイオマーカーの検索とそれを利用したリスク評価システムの開発

○岩田 久人 (CMES 教授)・金 恩英 (愛媛県衛生環境研究所特別研究員)・

仲山 慶 (CMES COE 研究員)・阿南弥寿美 (CMES 学術振興会特別研究員 PD)・

久保田 彰 (連合農学研究科博士課程2年)・

新美 聰子 (連合農学研究科博士課程2年)・

山内 正信 (連合農学研究科博士課程2年, 愛媛県衛生環境研究所研究員)・

渡辺 倫夫 (連合農学研究科博士課程2年)・

南 銅是 (連合農学研究科博士課程2年)・

酒井 大樹 (連合農学研究科博士課程1年)・

安井 知子 (理工学研究科博士後期課程1年)・能勢 真人 (医学部教授)・

小森 浩章 (医学部助手)・宮脇 恭史 (CMES COE 研究員)・

田辺 信介 (CMES 教授)

陸域における人間活動の変遷が沿岸海洋環境に及ぼしてきた影響に関する研究

○武岡 英隆 (CMES 教授)・井内 美郎 (CMES 教授)・大森 浩二 (CMES 助教授)・

郭 新宇 (CMES 助教授)・梶原 夏子 (CMES 助手)・

加 三千宣 (CMES COE 研究員)・宮坂 仁 (CMES COE 研究員)・

渡邊 政広 (工学部教授)・三宅 洋 (工学部講師)・速水 祐一 (工学部教務職員)・

堤 純 (法文学部助教授)・野崎 賢也 (法文学部講師)・

井上 幹生 (理学部助教授)・奥田 昇 (京都大学生態学研究センター助教授)

COE/CMES 若手研究成果

メコン川堆積物中における微生物種と抗生物質耐性遺伝子の多様性解析

○小林 剛 (CMES COE 研究員)・末廣富士代 (農学研究科修士課程1年)・

Tuyen, B. C. (ベトナム・ノンラム大学教授)・鈴木 聰 (CMES 教授)

メコン河下流域における地下水のヒ素汚染

○井上 英 (CMES 研究機関研究員)・阿草 哲郎 (連合農学研究科博士課程3年)・

久保田領志（国立医薬品食品衛生研究所）・國頭 恭（信州大学理学部助教授）・  
 Minh, T. B. (農学部助教授)・Chamnan, C. (カンボジア水産局)・  
 Trang, P. T. K. (ベトナム・ハノイ国立大学講師)・Tana, T. S. (カンボジア内閣官房)・  
 Viet, P. H. (ベトナム・ハノイ国立大学教授)・岩田 久人 (CMES 教授)・  
 田辺 信介 (CMES 教授)

Persistent Organic Pollutants (POPs) in Catfish and Sediment from Mekong River: Sources, Occurrences and Risk Assessment

○Minh, N. H. (CMES 研究機関研究員)・Minh, T. B. (農学部助教授)・  
 Kajiwara, N. (CMES 助手)・Kunisue, T. (CMES COE 研究員)・Iwata, H. (CMES 教授)・  
 Tanabe, S. (CMES 教授)・Tu, N. P. C. (農学研究科修士課程1年)・  
 Viet, P. H. (ベトナム・ハノイ国立大学教授)・  
 Tuyen, B. C. (ベトナム・ノンラム大学教授)

アジア途上国の鉛汚染とヒトへの毒性影響評価

○阿草 哲郎 (連合農学研究科博士課程3年)・國頭 恭 (信州大学理学部助教授)・  
 Karri Ramu (連合農学研究科博士課程1年)・  
 Trang, P. T. K. (ベトナム・ハノイ国立大学講師)・Minh, T. B. (農学部助教授)・  
 Subramanian, An. (CMES 客員教授)・岩田 久人 (CMES 教授)・  
 Viet, P. H. (ベトナム・ハノイ国立大学教授)・Tana, T. S. (カンボジア内閣官房)・  
 田辺信介 (CMES 教授)

海洋における高分子溶存有機物と微生物の相互作用に関する研究

—細菌の細胞外加水分解酵素の作用を中心として—

○大林由美子 (CMES COE 研究員)・鈴木 聰 (CMES 教授)

高濁度エスチャリーの表層物質循環に関する研究—浮遊性カイアシ類の栄養源—

○尾崎 浩司 (CMES COE 研究員)・上田 拓史 (CMES 助教授)

沿岸域における砂堆と一次生産の関係—北条沿岸域をモデルシステムとして—

○吉野 健児 (CMES COE 研究員)・川村 有二 (CMES COE 研究員)・

大森 浩二 (CMES 助教授)・中野 伸一 (農学部助教授)・武岡 英隆 (CMES 教授)

移入魚トウヨシノボリの定着阻害要因

—河川環境と底生魚類の生息場所利用に関する長期モニタリング—

○伊藤 明 (CMES COE 研究員)・篠永 知子 (理工学研究科博士前期課程2年)・

小池 秀和 (愛媛銀行)・奥田 昇 (京都大学生態学研究センター助教授)・

井上 幹夫 (理学部助教授)・大森 浩二 (CMES 助教授)

マイクロアレイを用いたカワウにおける潜在的毒性影響の評価—肝臓中の遺伝子発現プロファイルと化学物質蓄積レベルとの関係—

○仲山 慶 (CMES COE 研究員)・岩田 久人 (CMES 教授)・

金 恩英 (愛媛県立衛生環境研究所特別研究員)・

田代 康介 (九州大学大学院農学研究院助教授)・

大房 健 (株式会社プロフェニックス)・田辺 信介 (CMES 教授)

カワウ CYP1A4・1A5cDNAs の同定および各 mRNA 発現量とダイオキシン類蓄積量の関係

○久保田 彰 (連合農学研究科博士課程2年)・岩田 久人 (CMES 教授)・

金 恩英 (愛媛県立衛生環境研究所特別研究員)・

米田久美子 (理工学研究科博士後期課程1年)・田辺 信介 (CMES 教授)

ダイオキシン類に対する鳥類 AhR アイソフォームの機能解析

○安井 知子 (理工学研究科博士後期課程1年)・

金 恩英 (愛媛県立衛生環境研究所特別研究員)・岩田 久人 (CMES 教授)・

田辺 信介 (CMES 教授)

ミンククジラの肝チトクローム P450 1-4各分子種の mRNA 発現プロファイルと有機塩素化合物蓄積

○新美 聰子 (連合農学研究科博士課程2年)・渡辺 倫夫 (連合農学研究科博士課程2年)・

国末 達也 (CMES COE 研究員)・金 恩英 (愛媛県立衛生環境研究所特別研究員)・

## 5. 学会及び社会における活動

- 岩田 久人 (CMES 教授)・安永 玄太 (日本鯨類研究所)・  
藤瀬 良弘 (日本鯨類研究所)・田辺 信介 (CMES 教授)  
宇和海沿岸生態系の食物網構造および動態解析：3年間の総括と今後の展望  
○奥田 昇 (京都大学生態学研究センター助教授)・濱岡 秀樹 (CAEPA)・  
福元 亨 (CAEPA)・宮坂 仁 (CMES COE 研究員)・大森 浩二 (CMES 助教授)・  
福森香代子 (CMES COE 研究支援推進員)・速水 祐一 (工学部教務職員)・  
山下 亜純 (愛媛県水産試験場)・伊藤 明 (CMES COE 研究員)・  
高木 基裕 (農学部助教授)・山野上祐介 (国立科学博物館)・兼田 淳史 (CMES 助手)・  
加 三千宣 (CMES COE 研究員)・武岡 英隆 (CMES 教授)  
速吸瀬戸周辺海域における栄養塩環境と植物プランクトンの応答  
○小濱 剛 (CMES COE 研究員)・兼田 淳史 (CMES 助手)・  
福森香代子 (CMES COE 研究支援推進員)・速水 祐一 (工学部教務職員)・  
武岡 英隆 (CMES 教授)  
法花津湾におけるクラゲ大量出現の長期連続モニタリング  
○馬込 伸哉 (CMES 研究機関研究員)・中濱 賢一 (理工学研究科修士課程2年)・  
小濱 剛 (CMES COE 研究員)・兼田 淳史 (CMES 助手)・  
速水 祐一 (工学部教務職員)・郭 新宇 (CMES 助教授)・武岡 英隆 (CMES 教授)  
豊後水道におけるマアジの加入過程と漁獲変動特性  
○金 熙容 (CMES COE 研究員)・兼田 淳史 (CMES 助手)・武岡 英隆 (CMES 教授)・  
稻井 大典 (愛媛県水産試験場)  
ウミガメ類におけるメタロチオネイン異性体の発現と微量元素蓄積の関係  
○阿南弥寿美 (CMES 学術振興会特別研究員 PD)・  
金 恩英 (愛媛県立衛生環境研究所特別研究員)・  
國頭 恭 (信州大学理学部助教授)・岩田 久人 (CMES 教授)・  
田辺 信介 (CMES 教授)  
Tissue Distribution and Expression of Two Metallothionein Isoforms in Cormorant (*Phalacrocorax carbo*)  
○Nam, D. H. (連合農学研究科博士課程2年)・  
Kim, E. Y. (愛媛県立衛生環境研究所特別研究員)・Iwata, H. (CMES 教授)・  
Tanabe, S. (CMES 教授)  
Diet Comparison between Two Pelagic Sculpn, *Comephorus baicalensis* and *C. dybowskii* in three basins of Lake Baikal  
○宮坂 仁 (CMES COE 研究員)・Dzyuba, Y. V. (Irkutsk Limnological Institute, Russia)・  
Shubenkova, S. G. (Irkutsk Limnological Institute, Russia)・  
Hanaev, I. V. (Irkutsk Limnological Institute, Russia)・  
Melnik, N. G. (Irkutsk Limnological Institute, Russia)・  
Timoshkin, O. A. (Irkutsk Limnological Institute, Russia)・  
加藤 元海 (京都大学生態学研究センター学術振興会特別研究員 PD)・  
和田英太郎 (海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター生態系変動予測研究  
プログラムディレクター)  
胚発生を指標とした海洋汚染モニタリングシステムの開発—一体軸形成・筋肉分化を中心として—  
○宮脇 恭史 (CMES COE 研究員)・土居原拓也 (INCS 技術補佐員)・  
味口 裕仁 (医学部研究支援者)・小森 浩章 (医学部助手)・能勢 真人 (医学部教授)  
Distribution of tet (M) Gene in Marine Environments and Animal Intestine  
○Rahman, M. H. (CMES COE 研究員)・Nonaka, L. (CMES 助手)・Suzuki, S. (CMES 教授)  
アジア途上国の都市ゴミ集積場におけるダイオキシン類汚染  
—ヒトへの曝露と内分泌系への影響—  
○国末 達也 (CMES COE 研究員)・田辺 信介 (CMES 教授)・岩田 久人 (CMES 教授)・  
Subramanian, An. (CMES 客員教授)・Tana, T. S. (カンボジア内閣官房)  
Contamination of Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) in the Environment of Indonesia: Occurrence, Ex-

## posure Sources and Pathways, and Health Risk Implication

- Sudaryanto, A. (連合農学研究科博士課程2年)・Kajiwara, N. (CMES 助手)・  
Iwata, H. (CMES 教授)・Tanabe, S. (CMES 教授)・Hayami, Y. (工学部教務職員)・  
Omori, K. (CMES 助教授)・Santoso, A. D. (BPPT-Indonesia, Researcher)・  
Adibroto, T. A. (BPPT-Indonesia, Director)

## Asian Mussel Watch Program: Monitoring Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) and Other Persistent Toxic Substances (PTS) Contamination in Coastal Waters of Developing and Developed Countries

- Ramu, K. (連合農学研究科博士課程1年)・Kajiwara, N. (CMES 助手)・  
Sudaryanto, A. (連合農学研究科博士課程2年)・Subramanian, An. (CMES 客員教授)・  
Lam, P. K. S. (City University of Hong Kong, Professor)・  
Prudente, M. (De La Sale University, Philippines, Professor)・  
Tana, T. S. (カンボジア内閣官房)・  
Viet, P. H. (ベトナム・ハノイ国立大学教授)・Tanabe, S. (CMES 教授)

## 初夏の日高湾に分布する陸棚斜面水

- 黒田 寛 (理物理学研究科博士後期課程2年)・武岡 英隆 (CMES 教授)・  
磯田 豊 (北海道大学大学院水産科学研究科助教授)・  
久万 健志 (北海道大学大学院水産科学研究科教授)・  
小林 直人 (北海道大学水産学部助手)・本田 聰 (北海道区水産研究所研究員)

## Interannual Variation of Freshwater in the Yellow and East China Seas Roles of the Changjiang Discharge and Wind Forcing

- Chang, P. H. (CMES COE 研究員)・Isobe, A. (九州大学大学院総合理工学研究科助教授)  
北灘湾における半日周期内部潮汐

- 村川 有二 (CMES COE 研究員)・速水 祐一 (工学部教務職員)・  
小濱 剛 (CMES COE 研究員)・兼田 淳史 (CMES 助手)・武岡 英隆 (CMES 教授)  
沿岸域海底コアを用いた過去100年間の黒潮十年規模変動の復元と沿岸環境に与えた影響
- 加三 千宣 (CMES COE 研究員)・井内 美郎 (CMES 教授)・  
速水 祐一 (工学部教務職員)・兼田 淳史 (CMES 助手)・  
山下 亜純 (愛媛県水産試験場)・大森 浩二 (CMES 助教授)・  
奥田 昇 (京都大学生態学研究センター助教授)・宮坂 仁 (CMES COE 研究員)・  
中野 伸一 (農学部助教授)・  
片野 俊也 (Department of Life Science, Hanyang University, Korea, Research Professor)・  
杉本 隆成 (CMES 客員教授)・武岡 英隆 (CMES 教授)

## 多島海における砂堆の堆積環境：愛媛県松山市沖海域を例に

- 關口 智寛 (CMES COE 研究員)・布川 裕也 (理物理学研究科博士前期課程2年)・  
岩本 直哉 (理物理学研究科博士後期課程3年)・  
井上 卓彦 (理物理学研究科博士後期課程2年)・井内 美郎 (CMES 教授)

## 共生性甲殻類を用いた海洋環境における宿主利用の特異性と種の多様化機構の解明

- 伊谷 行 (CMES 学術振興会特別研究員 PD)・上田 拓史 (CMES 助教授)・  
奈良 正和 (CMES 助手)・川口 美佳 (理学部生物地球圈科学科4年)・  
伊知 地稔 (理学部生物地球圈科学科4年)・内野 敬 (尚絅学院女子高非常勤講師)・  
Chapman, J. (HMSC, Oregon State University, Research Associate)・  
Dumbauld, B. (Washington State Department of Fish and Wildlife, USA, Researcher)・Markham, J. C. (Arch Cape Marine Laboratory, USA, Chief Researcher)

## 13) 国際シンポジウム 「International Symposium on Environmental Assessment and Management in Asia」

(21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点および日本環境会議と共に)

期日：平成17年3月26日

会場：松山大学

Opening Remarks

## 5. 学会及び社会における活動

### Plenary Lecture

Waste Management in Asia and Perspectives on Building a Sound Material-Cycle Society  
Director, Research Center for Material Cycles and Waste Management,  
National Institute for Environmental Studies Dr. Shin-ichi Sakai

### Invited Lectures

Problems on Municipal Solid Waste Disposal in the Philippines

Associate Professor, Department of Chemical Engineering, University of  
the Philippines, Philippines Dr. Genandrialine L. Peralta

Chemical Pollution in Open Dumping Sites in Asia

Professor, Center for Marine Environmental Studies (CMES),  
Ehime University Dr. Shinsuke Tanabe

Recent Efforts for Risk Based Chemical Management

Professor, Graduate School of Environmental Studies,  
Seoul National University, Korea Dr. Dong Soo Lee

Present Status of Marine Environmental Management in Yangtze River Estuary and Adjacent East China Sea

Professor, State Key Laboratory of Estuarine and Coastal Research,  
East China Normal University, China aoji Li

### Closing Remarks

## 5. 4 学会、後援会などの開催（個人）

### 環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 2004年度日本海洋学会秋季大会, 平成16年9月23日～28日, 愛媛大学, 實行委員長
- 2) International Symposium on Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems, 27-28 September 2004, Matsuyama, Co-chairman.

### 生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 第10回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会, 平成15年9月, 東京
- 2) International Symposium on Environmental Assessment and Management in Asia, Matsuyama, Japan, March, 2005

### 環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 第1回沖積層ワークショップ, 平成16年6月, 松山

奈良 正和

- 1) 日本ベントス学会自由集会「巣穴は語る—過去と現在を結ぶ地下ベントス学」, 日本海洋学会・日本ベントス学会・日本プランクトン学会2004年度合同大会, 9月, 松山市.

## 5. 5 学会賞等

### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

- 1) 田辺 信介：日本環境化学会学術賞受賞，平成16年7月
- 2) 酒井 大樹：7<sup>th</sup> International Symposium on Cytochrome P-450 Biodiversity and Biotechnology, 優秀ポスター賞受賞，平成16年8月
- 3) 田辺 信介：日本環境科学会学術賞受賞，平成16年10月
- 4) 平川 周作：日本環境毒性学会奨励賞受賞，平成16年9月

### 生態系解析分野

- 1) 大林由美子：International Symposium Long-term variations in the coastal environments and ecosystems, 優秀ポスター賞

### 環境影響評価予測分野

- 1) 井上 卓彦：日本地質学会111回学術大会，優秀講演賞
- 2) 井上 卓彦：OCEANS'04 MTS/IEEE /TECHNO-OCEAN'04, Certificate of Merit
- 3) 斎藤 笑子・井内 美郎：日本地質学会111回学術大会，優秀講演賞
- 4) 岩本 直哉：瀬戸内海フォーラム in 京都，優秀講演賞
- 5) 加 三千宣：第四紀学会，論文賞
- 6) 奥田 昇：International Symposium Long-term variations in the coastal environments and ecosystems, 優秀ポスター賞

## 6. 國際的活動



### 6. 1 國際研究プロジェクト

#### 環境動態解析分野

武岡 英隆, 郭 新宇, 兼田 淳史, 速水 祐一

- 1) 平成14年～平成17年, 東南アジアの養殖漁場における漁場管理と環境保全 (科研費基盤研究 (A) (1)), インドネシア技術評価応用庁と共同研究

#### 生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 平成15年～平成18年, 有害物質によるメコン川流域の汚染と影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, ベトナム・ハノイ大学等
- 2) 平成16年～平成18年, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類等POPsの汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, インド・アンナマライ大学海洋生物学研究所等
- 3) 平成16年～平成20年, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmental Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科), ベトナム・ハノイ大学等
- 4) 平成13年～平成17年, 内分泌搅乱化学物質問題に関する日韓共同研究 (環境省) -環日本海におけるダイオキシンの魚介類等への蓄積状況について-, 韓国・成均館大学薬学部
- 5) 平成13年～平成17年, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (海洋科学分野) (東京大学海洋研究所), インドネシア・タイ・マレーシア・フィリピン・ベトナム
- 6) 平成14年～平成18年, 21世紀COE国際共同研究—オランダ沿岸におけるアザラシの大量へい死と有害物質の汚染および影響に関する環境毒性学的研究, オランダ・エラスムス大学
- 7) 平成15年～平成18年, 内分泌搅乱物質による野生生物およびヒトの汚染と毒性影響に関する研究, 中国・香港城市大学
- 8) 平成15年～平成17年, 内分泌搅乱物質によるバイカルアザラシの汚染とその蓄積特性および影響評価に関する研究, ロシア・バイカル自然保護研究所
- 9) 平成15年～平成17年, 微量元素によるガーナの環境汚染, ガーナ水圏研究所
- 10) 平成16年～平成20年, POPs, PBDEs等による母乳汚染の実態解明, 中国・南京大学
- 11) 平成16年～平成17年, 有機スズ化合物による米国西岸の二枚貝汚染, オレゴン州立大学ハットフィールド海洋センター

#### 生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 平成13年4月～平成22年度, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (北海道大学大学院水産科学研究院), 韓国, 釜慶大学等
- 2) 平成13年4月～平成22年度, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (東京大学海洋研究所), フィリピン等5カ国, 東南アジア水産開発研究センター等
- 3) 平成14年4月～, 有機スズ分解細菌に関する研究, インドゴア大学およびポルトガルアベイロ大学
- 4) 平成15年4月～, ビルナウイルスの比較研究, ハワイ州立大学海洋生物学研究所およびオレゴン州立大学ハットフィールド海洋センター

上田 拓史

- 1) 平成12～16年, カラヌス目カイアシ類とオキアミ類の遺伝子データベース ZooGene, 米国・ニューハンプシャー

大学

- 2) 平成15～16年、カラヌス目セントロパジェス上科の系統に関する形態学的研究、米国・スミソニアン研究所

金本自由生

- 1) 日本産ウミヒルモ類の研究、ウェスタンオーストラリア大学・電顕センター平成6年度～16年度

## 6. 2 在外研究等

### 生態環境計測分野

- 1) 安井 知子:21世紀 COE 海外派遣プログラム、平成16年5月～平成16年6月、Woods Hole Oceanographic Institution、米国

## 6. 3 海外調査・国際学会等

### 環境動態解析分野

郭 新宇

- 1) 平成16年5月10日～16日、黄河口と周辺海域の現地調査、中国東莞市。
- 2) 平成16年7月5日～9日、2004 Joint Asia Oceania Geosciences Society 1st Annual Meeting & 2nd APHW conference の参加・招待講演、シンガポール。
- 3) 平成16年9月12日～22日、渤海の海洋調査、中国東莞市。
- 4) 平成16年10月15日～22日、13th PICES annual meeting の参加・招待講演、Hawaii、アメリカ。

### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

田辺 信介

- 1) 平成16年6月3日～平成16年6月5日、4<sup>th</sup> International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology での基調講演、City University of Hong Kong、Hong Kong、China。
- 2) 平成16年8月8日～平成16年8月14日、PBDEs 汚染に関する調査、Annamalai University、Chennai、India。
- 3) 平成16年9月4日～平成16年9月14日、RR2002プロジェクトに関する調査および研究打ち合わせ、OBSES、Siem Reap、Kratie、Phnom Penh etc、Cambodia。
- 4) 平成16年10月17日～平成16年10月22日、International workshop on POPs from combustion で講演および南京大学客員教授就任式出席およびセミナーで特別講演、Hangzhou and Nanjing University、China。
- 5) 平成16年11月14日～平成16年11月20日、4<sup>th</sup> SETAC World Congress で講演および Hatfield Marine Science Center、Oregon State University のセミナーで講演、Portland、Oregon、USA。

Annamalai Subramanian

- 1) 平成16年6月1日～平成16年6月5日、4th International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology での講演、City University of Hong Kong、Hong Kong、China。
- 2) 平成16年6月6日～平成16年6月22日、インドの化学汚染に関する調査および情報収集、Annamalai University、Chennai、India。
- 3) 平成16年8月8日～平成16年8月14日、PBDEs 汚染に関する調査、Annamalai University、Chennai、India。

岩田 久人

- 1) 平成16年5月13日～平成16年5月19日、RR2002プロジェクトに関する調査および研究打ち合わせ、Cantho、Ho-ChiMinh etc、Vietnam。
- 2) 平成16年8月29日～平成16年9月2日、7th International Society for the Study of Xenobiotics での講演 Vancouver、Canada。
- 3) 平成16年11月14日～平成16年11月20日、4th SETAC World Congress で講演および Hatfield Marine Science Center、

## 6. 國際的活動

Oregon State University のセミナーで講演, Portland, Oregon, USA.

- 4) 平成16年12月2日～平成16年12月5日, International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed での講演, Hanoi, Vietnam

梶原 夏子

- 1) 平成16年6月5日～平成16年6月13日, The Third International Workshop on Brominated Flame Retardants でポスター発表, University of Toronto, Toronto, Canada.
- 2) 平成16年9月4日～9月11日, 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs, -DIOXIN2004 で口頭発表, Berlin, Germany.
- 3) 平成16年9月11日～9月16日, 北海沿岸大量斃死アザラシに関する共同研究の打ち合わせ, Erasmus MC, Rotterdam, The Netherlands.
- 4) 平成17年1月28日～2月9日, 有機臭素系難燃剤に関する LCMS/MS 分析の研修, National Water Research Institute, Environmental Canada, Burlington, Canada.

国末 達也

- 1) 平成16年9月4日～平成16年9月11日, 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2004) での講演, Technical University Berlin, Berlin, Germany.

仲山 慶

- 1) 平成16年11月14日～平成16年11月20日, 4<sup>th</sup> SETAC World Congress で講演および Hatfield Marine Science Center, Oregon State University の見学, Portland, Oregon, USA.

阿南弥寿美

- 1) 平成16年6月1日～平成16年6月5日, 4th International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology での講演, City University of Hong Kong, Hong Kong, China.

Nguyen Hung Minh

- 1) 平成16年9月4日～平成16年9月11日, 24th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2004) での講演, Technical University Berlin, Berlin, Germany.

井上 英

- 1) 平成16年9月4日～平成16年9月14日, RR2002プロジェクトに関する調査および研究打ち合わせ, OBSES, Siem Reap, Kratie, Phnom Penh etc, Cambodia.

上野 大介

- 1) 平成16年9月6日～平成16年9月10日, 24nd International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs での講演, Berlin, Germany.
- 2) 平成16年1月14日～平成16年11月20日, 4th SETAC World Congress での講演, Portland, Oregon, USA.

### 生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 平成16年5月, RR プロジェクト, メコン調査, カントー他, ベトナム
- 2) 平成16年5月, アメリカ微生物学会年会参加発表, ニューオリンズ, USA
- 3) 平成16年9月, RR プロジェクト, メコンおよびトンレサップ湖調査, シエムリアップ他, カンボジア
- 4) 平成16年12月, RR 国際水資源管理シンポジウム主催, ハノイ, ベトナム

金本自由生

- 1) 平成16年9月24日～平成16年10月1日, オーストラリア産海草の採集および World Seagrass 2004, Townsville, Queensland, Australia

2) 平成17年2月16日～平成17年2月21日，ハワイ産海草の採集，Oahu, Hawaii, U. S. A.

尾崎 浩司

1) 平成16年10月20日～平成16年10月24日，First EAFES International Congressへの参加・研究発表，Mokpo, Korea.

## 6. 4 外国人客員研究員等

### 環境動態解析分野

武岡 英隆

1) 王強，平成16年10月1日～平成17年3月31日，東シナ海の環境に関する研究

### 生態系解析分野

鈴木 聰

1) Santosh K. Dubey, 平成16年11月17日～平成17年9月16日，有機スズ分解菌に関する研究

### 環境影響評価予測分野

大森 浩二

1) 李春江，平成16年4月～平成17年1月

## 6. 5 海外からの訪問者

### 共 通

1) Mr. Michael Straty 他4名，平成17年3月11日，Rotary Club District 6310 Group Study Exchange 訪問団，ミシガン州，米国

### 環境動態解析分野

1) 高会旺教授，平成16年6月23日～6月28日，中国海洋大学との共同研究の打ち合わせと COE 特別セミナー，中国海洋大学，青島，中国

### 生態環境計測分野

1) Maricar S. Prudente, 平成17年2月1日～平成17年2月22日，有機臭素系難燃剤の汚染に関する共同研究の打ち合わせ，De La Salle University, Philippines.

## 6. 6 指導研究員

### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

- 1) Dr. Sean Kennedy, National Wildlife Research Center, 平成16年10月17日～平成16年10月19日，第16回21世紀 COE 特別セミナー講演，Environment Canada, Canada.
- 2) Dr. Valeriy Batoev, 平成16年10月25日～平成16年10月30日，第17回21世紀 COE 特別セミナー講演およびバイカル湖の汚染に関する共同研究の打ち合わせ，Baikal Institute of Nature Management, Siberian Branch of Russian Academy of Sciences, Russia.
- 3) James Chung Wah Lam, 平成16年10月31日～平成17年1月28日，21世紀 COE 研究者交流プログラムによる共同研究，City University of Hong Kong, China.
- 4) Dr. Thangavelu Balasubramanian, 平成16年10月25日～平成16年10月29日，第17回21世紀 COE 特別セミナー講演および学術交流協定に関する打ち合わせ，Center of Advanced Study in Marine Biology, Annamalai, University, India.

## 6. 國際的活動

- 5) Dr. Jinshu Zheng, 平成16年11月30日～平成16年12月7日, 第18回21世紀 COE 特別セミナー講演およびマッセルウォッチに関する共同研究の打ち合わせ, City University of Hong Kong, China.
- 6) Dr. Hongxia Yu, 平成16年11月30日～平成16年12月7日, 第18回21世紀 COE 特別セミナー講演および揚子江の環境汚染に関する打ち合わせ, Nanjing University, China.
- 7) Dr. Cathaerline Kemper, 平成16年12月5日～平成16年12月7日, 第18回21世紀 COE 特別セミナー講演および鯨類に関する共同研究の打ち合わせ, South Australian Museum, Australia.
- 8) Dr. Kurunthachalam Kannan, 平成17年1月24日～平成17年1月27日, 第20回21世紀 COE 特別セミナー講演および有機フッ素化合物汚染に関する共同研究の打ち合わせ, New York State University at Albany, U. S. A.
- 9) Andrew B. Lindstrom, 平成17年1月11日～平成17年1月12日, 第19回21世紀 COE 特別セミナー講演, National Exposure Research Laboratory, US Environmental Protection Agency, U. S. A.
- 10) Ms. Pham Thi Kim Trang, 平成17年2月20日～平成17年3月13日, 地下水のヒ素汚染がヒトの健康にもたらす影響に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.
- 11) Mr. Bui Hong Nhat, 平成17年2月20日～平成17年3月13日, 地下水のヒ素汚染がヒトの健康にもたらす影響に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.
- 12) Mr. Tran Dang Qui, 平成17年2月20日～平成17年3月13日, 重金属類によるヒトの尿汚染に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.
- 13) Dr. Duong Hong Anh, 平成17年2月20日～平成17年3月13日, 有機臭素系難燃剤 PBDEs の化学分析に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.
- 14) Pham Hung Viet, 平成17年3月5日～平成17年3月11日, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科)に関する打ち合わせ, Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.
- 15) Nguyen Xuan Khoa, 平成17年3月21日～平成17年3月29日, 農薬および重金属類によるベトナムの環境汚染に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科), Hue College of Science, Hue University, Hue, Vietnam.

## 6. 7 留学生

### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

- 1) Nguyen Hung Minh, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination by Toxic Pollutants in Dumping Sites of Municipal Wastes in Vietnam (有害物質によるベトナムの廃棄物集積場汚染), ベトナム (平成16年9月まで)
- 2) Agus Sudaryanto, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination by Persistent Organic Pollutants in Indonesian Environment (残留性有機汚染物質によるインドネシアの環境汚染), インドネシア
- 3) Nam Dong-Ha, 大学院連合農学研究科博士課程, 私費, Ecotoxicological Studies on the Metallothionein in Wild Birds (野生鳥類のメタロチオネインに関する環境毒性学的研究), 韓国
- 4) Karri Ramu, 大学院農学研究科修士課程, 国費, Contamination of Persistent Organic Pollutants in Stranded Small Cetaceans from Hong Kong Coastal Waters (香港沿岸に座礁した小型歯鯨類の残留性有機汚染物質汚染), インド
- 5) Lee Jin-Seon, 大学院農学研究科修士課程, 国費, Quantitative Analysis of Cormorant Arnt mRNA Expression and sequential Analysis of CYP1A4/5 Promoter Region (カワウの Arnt mRNA の発現レベルの定量および CYP1A4/5 プロモーター部位の解析), 韓国
- 6) Kwadwo Ansorg Asante, 大学院農学研究科修士課程, 国際協力事業団, Accumulation Features and Geographical distribution of Trace Elements in Deep-Sea Organisms (深海生物の微量元素蓄積特性およびその蓄積特性), ガーナ
- 7) Oyuna Tsydenova, 大学院農学研究科修士課程, 世界銀行, Contamination Status and Accumulation Features of Organohalogen Compounds in the Human Breast Milk from Russia (ロシアのヒト母乳における有機ハロゲン化合物の汚染とその蓄積特性), ロシア

**生態系解析分野**

- 1) 金 錫烈, 連合農学研究科博士課程, 国費, アジア諸国沿岸におけるオキシテトラサイクリン耐性遺伝子の分布と伝播, 韓国

## 7. 教育活動



### 7.1 所属学生および研究テーマ（平成17年度）

#### 環境動態解析分野

工学部 4回生

- 1) 大井 美沙：瀬戸内海沿岸生態系における基礎生産構造の解明
- 2) 岡本 裕：東シナ海における栄養塩の長期変動に関する研究
- 3) 重本 祐一：瀬戸内海における水位の短期変動に関する研究
- 4) 高橋 翔：別府湾における過去100年の水温変動の復元
- 5) 棚内 康浩：瀬戸内海の数値生態系モデルに関する研究
- 6) 南條 悠太：法花津湾におけるミズクラゲの集群形成と環境変動との関係
- 7) 三好 慶典：海域の富栄養化の進行と海底堆積物中に残存する生物起源珪素量の変遷に関する研究
- 8) 山口 弥生：豊後水道における過去100年間の沿岸域生態系変動の復元

理工学研究科 博士前期課程

1回生

- 1) 谷口 優：豊後水道における内部潮汐に関する研究
- 2) 原本 元気：伊予灘における残差流の季節変動に関する研究

2回生

- 1) 長野 慎矢：ミズクラゲの食性に関する研究

理工学研究科 博士後期課程

- 1) 王 強：東シナ海の黒潮 onshore フラックスに関する研究
- 2) 黒田 寛：沿岸親潮の形成・維持機構に関する研究
- 3) 菊池 隆展：離散的 A D C P データの解析手法の開発とその瀬戸内海への適用

#### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

農学部 4回生

- 1) 明石 百恵：日本沿岸で採取したサメ類の微量元素蓄積と安定同位体比との関係
- 2) 越智 陽子：北海で大量死したゼニガタアザラシの PBDEs 汚染とその蓄積特性
- 3) 岸崎 理紗：in vitro レポーター遺伝子アッセイを用いた CXR スプライトバリアントの機能解析
- 4) 矢野 真一：日本沿岸に漂着した鯨類の有機スズ化合物汚染とその蓄積特性—とくに脳への蓄積について—

農学研究科 修士課程

1回生

- 1) 須田 智子：in vitro レポーター遺伝子アッセイを用いたバイカルアザラシ AhR の機能解析
- 2) 野田創太郎：有機臭素系難燃剤によるアジア地域の土壤汚染とその蓄積特性
- 3) 竹下 陽子：バイカルアザラシの CYP1B1 の転写調節機構の解明
- 4) 高柳 望：日本在住者の有機ハロゲン化合物汚染とその蓄積特性

2回生

- 1) 池田翔太朗：頭足類の微量元素蓄積に関する金属結合タンパク質の特徴
- 2) 井元 麻衣：ミンククジラのオリゴアレイを用いた化学物質暴露に反応する遺伝子の探索

- 3) 大嶽 昌子：インドのヒト母乳中における有機塩素化合物の汚染と居住環境による蓄積特性
- 4) 岡本 未央：野生ネズミにおけるダイオキシン類・有機塩素系農薬の蓄積と肝異物代謝酵素系への影響
- 5) Oyuna Tsydenova : Contamination Status and accumulation Features of Organohalogen Compounds in Japanese Human Tissues
- 6) 上川 智子：日本沿岸に漂着した鯨類の有機ハロゲン化合物汚染とその蓄積特性
- 7) 戸根木智幸：北海で大量死したゼニガタアザラシにおける有機塩素化合物（ダイオキシン類を含む）の蓄積特性
- 8) 高木 梢：ウミガメ類におけるヒ素の蓄積特性および代謝機構に関する解明
- 9) 武田 智美：カラス AhR のクローニングおよび mRNA 発現量の解析
- 10) 平川 周作：バイカルアザラシの CYP1A1/2 の機能特性の解明
- 11) 古川 眞子：日本および香港沿岸に座礁したスナメリにおける微量元素の蓄積特性
- 12) 望月 裕子：深海生物における有機スズ化合物の汚染とその蓄積特性—安定同位体分析による解析—
- 13) Lee Jin-Seon : Analysis of Arnt1/2 Transcriptional Regulation in Cormorants
- 14) Kwado Ansong Asante : Relationship between the Trophic Status and Trace Elements Concentrations in Deep-Sea Organisms as Determined by Stable Isotope Measurements

#### 理工学研究科 博士後期課程

##### 1回生

- 1) 米田久美子：日本の野生生物における化学汚染とバイオマーカーに関する環境化学的研究

##### 2回生

- 1) 上田 浩三：ダイオキシンによる土壤汚染とその浄化技術の開発に関する研究
- 2) 村岡 正義：高等動物のダイオキシン類汚染とその蓄積特性—肝集積の比較生物学的解析—
- 3) 安井 知子：鳥類 AhR1・AhR2発現の分子機構の解明およびダイオキシン類との相互作用の解析

#### 連合農学研究科 博士課程

##### 1回生

- 1) 二宮 久：浅海底堆積物中の重金属元素及び放射性核種等の環境動態に関する研究

##### 2回生

- 1) Karri Ramu : Asia-Pacific Mussel Watch : Contamination by Brominated Flame Retardants
- 2) 酒井 大樹：in vitro CAR-レポーター遺伝子アッセイを用いた鰓脚類の化学物質リスク評価系の開発

##### 3回生

- 1) Agus Sudaryanto : Contamination Status and Accumulation Features of Persistent Organohalogen Contaminants in the Soil and Human Breast Milk Samples from Indonesia
- 2) 久保田 彰：カワウ CYP1A4/5 の機能特性の解明
- 3) Nam Don-Ha : Molecular Mechanisms of MT Isoform Expression in Birds
- 4) 新美 聰子：ミンククジラの CYP1-4 分子種の機能特性の解明
- 5) 山内 正信：マダイ胚発生における TCDD 暴露の影響
- 6) 渡辺 倫夫：野生ブタ・ネズミにおけるダイオキシン類・有機塩素系農薬の蓄積と肝異物代謝酵素系への影響

#### 生態系解析分野

##### 理学部4回生

- 1) 井上亜希子：有明海の海産底生性カイアシ類の分類学的研究
- 2) 上岡なほみ：細菌外膜タンパク質の海水マイクロコズム中の分解過程
- 3) 坂口 穂子：四万十川汽水域におけるカイアシ類の分布と季節変化
- 4) 佐藤 彰勇：足摺岬周辺の表層動物プランクトン相
- 5) 杉浦 義治：有明海湾奥部河川の汽水性カイアシ類の摂餌に関する実験的研究

## 7. 教育活動

- 6) 野田 舞：ハワイ沿岸におけるマリンビルナウイルスの分布
- 7) 日下 慶裕：海砂採集地と近辺の生物群集の比較生態
- 8) 松田 悟：アマモ場とその周辺のペントス群集の比較
- 9) 山本 時也：養殖ハタの餌料成分の違いが成長に与える影響

### 農学部4回生

- 1) 多胡 良介：環境中のテトラサイクリンおよびその耐性遺伝子の定量

### 理工学研究科 博士前期課程

#### 2回生

- 1) 伊部 春香：沿岸性カイアシ類 *Paracalanus parvus* 種群の分類学的検討
- 2) 桑谷 恵：河川感潮域における汽水性カイアシ類の生態学的研究
- 3) 坂木佳菜子：瀬戸内海のナメクジウオの生態学的研究
- 4) 宮本 博幸：愛媛県沿岸のカサゴ類仔魚の食性に関する研究：とくにカラヌス目ノープリウスに対する摂餌
- 5) 門出 優子：有明海の動物プランクトンの分布—とくに高濁度水塊との関係について—

### 理工学研究科博士前期課程

#### 1回生

- 1) 田中 龍也：沿岸海洋コア中の微生物生態
- 2) 戸田安衣子：愛媛県沿岸の仔魚数種のカイアシ類ノープリウス種に対する摂餌選択性

### 理工学研究科博士後期課程

#### 2回生

- 1) 稲葉 愛美：海洋環境および宿主中におけるマリンビルナウイルスの動態

#### 1回生

- 1) Farzana A. Neela：沿岸海洋環境由来細菌における薬剤耐性遺伝子の保有状況およびその伝播

### 農学研究科修士課程

#### 2回生

- 1) 末広富士代：メコン底泥中における有機スズ分解細菌の生態
- 2) 渡嘉敷 努：細菌の有機スズ分解機構

#### 1回生

- 1) 伊知地 稔：ナメクジウオ生息環境の微生物生態
- 2) 山本 雅之：逆浸透膜による海水淡水化工程でのバイオフィルム形成に関する研究
- 3) 浜岡 一弘：沿岸海水中の溶存態タンパク質の網羅的解析

### 環境影響評価予測分野

#### 理学部4回生

- 1) 芦田 貴史：ユニブーム音波探査記録の解析による琵琶湖湖水面変動史解明
- 2) 渡部 遼：琵琶湖表層堆積物の分析結果と気象観測データとの比較検討
- 3) 深井 照平：ジオスライサー試料の解析による宍道湖環境変遷史解明
- 4) 中原 知明：音波探査による四万十川塩水楔の動態観察
- 5) 吉原 裕紀：シーバットによる大洲砂堆の形成過程観測
- 6) 丹生 勝也：土地利用と河川の水質との関係解析
- 7) 新川 和幸：瀬戸内海の潮汐砂堆表層の堆積相と底生群集
- 8) 福島 明子：法華津湾におけるミズクラゲの生活史の解明

**理工学研究科 博士前期課程****1回生**

- 1) 秋山 紘胤：現世潮汐低地システムの堆積相と生痕ファブリック解析  
－西条市加茂川河口干潟での事例研究－

**2回生**

- 1) 岡田 康平：水生昆虫群集の生産過程について  
2) 碇 雄太：古第三紀の海溝域に生息した底生群集の高精度復元  
3) 清家 弘治：現世波浪卓越型海浜の堆積相と生痕ファブリックに関する研究

**理工学研究科 博士後期課程**

- 1) 天野 敦子：北灘・御荘湾海域の最近約100年間の環境変遷  
2) 井上 卓彦：美保湾および弓ヶ浜の砂質堆積物収支  
3) 岩本 直哉：東アジア湖沼堆積物から見た最近数十万年間の環境変遷

**7. 2 卒業論文・修士論文・博士論文 題目 (平成16年度)****環境動態解析分野****卒業論文**

- 1) 久保 允人：冬季の日高湾における流速変動に関する研究  
2) 小玉 純史：伊方沖のクラゲの移動・集積機構に関する研究  
3) 谷口 優：佐田岬の栄養塩モニタリングシステムに関する研究  
4) 天満 浩之：宇和海下波湾における音響錯乱強度と物質輸送に関する研究  
5) 萩原 拓也：宇和海・下波湾における植物プランクトンの基礎生産量の推定  
6) 原本 元気：夏季の伊予灘における残差流に関する研究  
7) 廣津 健夫：伊方沖のクラゲの経年変動とその原因に関する研究  
8) 福地 佳典：夏季の燧灘西部における残差流に関する研究  
9) 三谷 和也：夏季の安芸灘における残差流に関する研究  
10) 山田 隆道：豊後水道における海洋物理環境がマアジ加入過程と漁獲特性に与える影響

**修士論文**

- 1) 碇井 澄子：瀬戸内海における外洋起源窒素・リンの存在量に関する  
2) 手島 亮一：速吸瀬戸における二酸化炭素濃度の連続モニタリング  
3) 中濱 賢一：法華津湾におけるクラゲ大量出現の長期連続モニタリング  
4) 蓬萊亜希良：沖縄の海草藻場の保全に関する研究

**博士論文**

- 1) 二村 彰：成層機における燧灘の流動と物質輸送に関する研究

**生態環境計測分野 生態毒性解析分野****卒業論文**

- 1) 須田 智子：ARNT cDNA のクローニングおよび mRNA 発現量の解析  
2) 高月 景子：インド都市ゴミ集積場における有機スズ化合物汚染の実態解明  
3) 高柳 望：有機塩素化合物による人体汚染とその体内分布  
4) 野田創太郎：ポリ臭素化ジフェニールエーテル (PBDEs) によるアジア途上国都市ゴミ集積場の土壤汚染  
5) 竹下 陽子：CYP1B1 cDNA の同定および mRNA 発現量とダイオキシン類蓄積の関係

**修士論文**

- 1) 越智 美幸：外洋性鯨類の有機ハロゲン化合物汚染とその蓄積特性

## 7. 教育活動

- 2) 勝田 裕介：北海のゼニガタアザラシにおける有機スズ化合物汚染の実態、体内分布および経年変動に関する研究
- 3) 阪本 智博：バイカルアザラシのCYP2cDNAの同定および難分解性有機汚染物質蓄積によるCYP発現系への影響
- 4) 檜垣 由美：日本および外洋域で採取した鳥類における有機ハロゲン化合物の汚染実態とその生物濃縮特性
- 5) 平井 悠款：カワウにおけるChicken Xenobiotic Receptor ホモログ Splice Variant の転写調節機構

### 博士論文

- 1) Nguyen Hung Minh : Contamination by Persistent Organic Pollutants (POPs) in the Environment and Humans of Vietnam
- 2) 小西 良昌：有機塩素化合物による母乳汚染の実態とそのリスク評価に関する研究
- 3) 阿草 哲郎：アジア途上国におけるヒトの微量元素汚染とその影響評価に関する環境化学的研究

### 生態系解析分野

#### 卒業論文

- 1) 伊知地 稔：ユムシに共生するカイアシ類 *Goidelia japonica* の生態と機能形態
- 2) 川口 美佳：ハサミシャコエビ *Laomedia astacina* の口器形態
- 3) 田中 龍也：海洋コア上層部における好気性培養可能細菌の群集構造解析
- 4) 戸田安衣子：伊予灘における過去5年間の動物プランクトン相の変化と水温の関係
- 5) 池野 絹世：養殖場におけるテトラサイクリン耐性細菌数の経月的変化とテトラサイクリン耐性遺伝子tet(M)の分布
- 6) 山本 雅之：逆浸透膜による海水淡水化過程におけるバイオフィルム形成に関する研究
- 7) 藦沢 春菜：沿岸域および外洋域における溶存態タンパク質プロファイルの比較

#### 修士論文

- 1) 関 大悟：有明海高濁度水域における有鐘纖毛虫類の分布と季節変化
- 2) 白石 有子：東海沖および熊野灘海洋コア中の真正細菌の群集構造解析

### 博士論文

- 1) 金 錫烈：Distribution and transfer of tetracycline resistance genes in bacteria isolated from marine aquaculture fish and the environment.

### 環境影響評価予測分野

#### 卒業論文

- 1) 奥村 学：美保湾南部日野川河口域における過去約200年間の堆積史と弓ヶ浜半島海岸侵食による碎屑物移動量の検討
- 2) 多田 恭子：徳島県北東部ジョガマル池湖底堆積物にみる環境変遷
- 3) 原田 英明：海砂採取後海域における海底地形と粒度組成からみた堆積物粒度の回復過程
- 4) 中 彩：宮前川に放流された下水処理水が底生付着藻類の増殖に及ぼす影響
- 5) 丹生 勝也：石手川中流域における河川浄化機能について
- 6) 仁木 康博：田辺層群白浜層から産出する“多毛類化石”的古生態学的再検討
- 7) 秋山 紘胤：愛媛県西条市加茂川エスチャリーにおける潮汐低地の堆積相動態
- 8) 井谷 剛志：四国、重信川の堆積学的研究
- 9) 岡田 良平：上部白亜系和泉層群に産するコダイアマモ類の古生態学的研究
- 10) 吉村 美晴：中部更新統藪層の貝化石に見られる生物侵食構造とその古生態学的意義

#### 修士論文

- 1) 川口 優美：バイカル湖湖底堆積物の粒子密度からみた環境変遷史
- 2) 斎藤 笑子：琵琶湖高島沖湖底堆積物の粒径変動にみる過去約25万年間の環境変遷
- 3) 中條 喜友：「埋め立てられつつある」海釜の成因について—猫瀬戸西方の海釜を例に—

- 4) 布川 裕也：表層堆積物分布と海底地形から見た大洲の堆積物移動様式
- 5) 佐貫 方城：重信川流域における土地利用が河川生態系へ及ぼす影響
- 6) 篠永 知子：愛媛県加茂川における移入種トウヨシノボリと在来種シマヨシノボリの種間競争
- 7) 小嶋 瑞穂：愛媛県松山市沖の浅海砂堆を構成する生碎物の特徴と供給源

### 7. 3 講義・集中講義

#### **環境動態解析分野**

##### 講 義

武岡 英隆

- 1) 平成16年度前期, 環境学概論, 愛媛大学工学部
- 2) 平成16年度前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 3) 平成16年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 4) 平成16年度前期, 地球科学, 愛媛大学工学部
- 5) 平成16年度後期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 6) 平成16年度後期, 海洋環境学, 愛媛大学工学部
- 7) 平成16年度後期, 沿岸海洋学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成16年度前後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成16年度前期, 海洋環境論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

郭 新宇

- 1) 平成16年度前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 2) 平成16年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 3) 平成16年度前期, 数理解析学, 愛媛大学工学部
- 4) 平成16年度前期, 海洋物理学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 5) 平成16年度後期, 海洋物理学, 愛媛大学工学部
- 6) 平成16年度前後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

兼田 淳史

- 1) 平成16年前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 2) 平成16年前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 3) 平成16年前期, 水理学および同演習, 愛媛大学工学部
- 4) 平成16年前期, 環境建設総合演習
- 5) 平成16年後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学工学部

#### **生態環境計測分野 生態毒性解析分野**

##### 講 義

田辺 信介

- 1) 平成16年度前期, 地球を考える, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成16年度前後期, 環境保全セミナー, 愛媛大学農学部
- 3) 平成16年度前期, 生物資源化学IV, 愛媛大学農学部
- 4) 平成16年度前期, 海洋環境学, 愛媛大学農学部
- 5) 平成16年度後期, 環境化学, 愛媛大学農学部
- 6) 平成16年度前期, 有害物質動態論, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成16年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成16年度前後期, 生物環境保全学演習I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成16年度前後期, 生物環境保全学演習II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 10) 平成16年度前後期, 生物環境保全学実験I, 愛媛大学大学院農学研究科

## 7. 教育活動

- 11) 平成16年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 12) 平成16年度前期, 有害物質汚染論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

岩田 久人

- 1) 平成16年度前期, 環境毒性学, 愛媛大学農学部
- 2) 平成16年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部
- 3) 平成16年度前後期, 生態化学実験, 愛媛大学農学部
- 4) 平成16年度後期, 環境分子毒性学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 5) 平成16年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成16年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成16年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成16年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成16年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

梶原 夏子

- 1) 平成16年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部
- 2) 平成16年度前後期, 生態化学実験, 愛媛大学農学部

集中講義

田辺 信介

- 1) 平成16年度後期, 生物機能学特論 I, 広島大学生物生産学部
- 2) 平成16年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部

### 生態系解析分野

講 義

鈴木 聰

- 1) 平成16年度後期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成16年度前期, 環境生化学, 愛媛大学農学部
- 3) 平成16年度前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部
- 4) 平成16年度後期, 環境分子生物学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 5) 平成16年度前後期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成16年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 7) 平成16年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 8) 平成16年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 9) 平成16年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

上田 拓史

- 1) 平成16年前期, 海洋生物学, 愛媛大学理学部
- 2) 平成16年前期, 地球生命科学 I, 愛媛大学理学部
- 3) 平成16年前期, 浮遊生物学, 愛媛大学理工学研究科大学院博士前期課程
- 4) 平成16年前期, 海洋生物学実習, 愛媛大学理学部
- 5) 平成16年前期, 公開臨海実習, 愛媛大学理学部
- 6) 平成16年後期, 課題研究, 愛媛大学理学部
- 7) 平成16年後期, 水塊指標生物学, 愛媛大学理工学研究科大学院博士後期課程
- 8) 平成16年前・後期, 生物地球圏科学特別演習, 愛媛大学理学部

金本自由生

- 1) 平成16年前期, 海洋生物学実習, 愛媛大学理学部
- 2) 平成16年前期, 公開臨海実習, 愛媛大学理学部

野中 里佐

- 1) 平成16年度後期, 環境分子生物学, 愛媛大学大学院農学研究科

集中講義

鈴木 聰

- 1) 平成16年度後期, 海洋分子生態学, 愛媛大学理学部

### 環境影響評価予測分野

講 義

井内 美郎

- 1) 平成16年前期, 基礎セミナー, 愛媛大学理学部
- 2) 平成16年前期, 地球環境学機器分析実習, 愛媛大学理学部
- 3) 平成16年後期, 地球科学 II, 愛媛大学共通教育
- 4) 平成16年後期, 地球環境学, 愛媛大学理学部
- 5) 平成16年後期, 地球環境学序論, 愛媛大学理学部
- 6) 平成16年前期, 地域・地球環境論, 愛媛大学理工学研究科
- 7) 平成16年後期, 地域地球環境学, 愛媛大学理工学研究科

大森 浩二

- 1) 平成16年前期, 博物館実習（事前指導）
- 2) 平成16年後期, 博物館実習（事後指導）
- 3) 平成16年後期, 環境生物学, 愛媛大学理学部
- 4) 平成16年前期, 環境講話, 愛媛大学理学部（集中講義）
- 5) 平成16年後期, 環境講話, 愛媛大学理学部（集中講義）

奈良 正和

- 1) 平成16年前期：基礎セミナー, 愛媛大学理学部
- 2) 平成16年前期：地球科学野外実習, 愛媛大学理学部
- 3) 平成16年前期：地質調査法実習, 愛媛大学理学部
- 4) 平成16年前期：地球環境学機器分析実習, 愛媛大学理学部
- 5) 平成16年前期：地質野外研究, 愛媛大学理学部
- 6) 平成16年度後期：地球環境学特論, 愛媛大学理学部
- 7) 平成16年度通期：地球科学演習, 愛媛大学理学部

集中講義

奈良 正和

- 1) 平成16年前期, 生物資源科学実習, 愛媛大学農学部

## 8. 設 備



生態環境計測分野 生態毒性解析分野



- 1) LC-MS/MS システム：環境および生体試料中の易水溶性有機汚染物質による汚染実態の解明を目的として設置した。HBCDEs や PCBs 代謝物などを高精度・高感度で検出・定量できる器機。



- 2) タンパク遺伝子発現解析システム：生体試料中のタンパク質および遺伝子の発現レベルの解析を目的として設置した。

## 9. 広 報



### 9. 1 CMESニュース

CMES ニュース No. 9

#### 目 次

- 田辺信介教授が、日本環境化学会学術賞を受賞
- CMES とオレゴン、ハワイ各大学海洋研究センターの協定調印式
- 科学研究費による新規プロジェクト
- 水循環予測ミッション：平成15年度成果報告
- 水循環予測ミッション：メコンデルタ調査報告
- 研究トピック：ダイオキシン類の肝集積について
- 米国留学記
- カナダ留学記 ー研究所の様子ー
- 研究機関研究員自己紹介
- 博士後期課程（社会特別選抜）自己紹介
- 4th International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology 参加報告
- スーパーサイエンスコースの紹介
- 編集後記

21世紀 COE ニュース No. 4

#### 目 次

- 21世紀 COE 国際シンポジウム
- "International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances"開催報告
- 田辺教授、世界トップ10の論文被引用数
- COE 研究員自己紹介 (1)
- COE 研究員自己紹介 (2)
- COE 研究員自己紹介 (3)
- COE 短期研究者交流制度 米国滞在記
- 平成15年度 COE 年次報告会
- 21世紀 COE プログラム沿岸環境科学研究拠点 国際シンポジウム開催のお知らせ
- アメリカ海洋陸水学会 (ASLO) に参加して
- The 1 st Korea-Japan joint symposium on limnology 参加報告
- 東京大学海洋研究所白鳳丸鹿児島湾調査
- バイカル湖調査報告
- 編集後記

CMES ニュース No. 10

#### 目 次

- 田辺教授が、日本環境科学会学術賞を受賞
- 中国、南京大学が客員教授の称号を田辺教授に授与
- 瀬戸内海研究フォーラムポスター発表優秀賞受賞
- 日本地質学会および OCEANS'04優秀講演賞受賞

## 9. 広 報

International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Best Poster 賞受賞  
日本環境毒性学会奨励賞受賞  
生態毒性解析分野 新任教授あいさつ  
es-BANK および連携融合プロジェクト概算要求採択  
ウインターサイエンスキャンプ開催報告  
RR2002プロジェクト, カンボジア調査行  
「メコン水系の水資源管理システムの開発に関するシンポジウム」報告  
インド調査報告  
博士後期課程（社会特別選抜）入学者自己紹介  
オレゴン州立大学 HMSC 訪問記  
DIOXIN 2004参加報告  
PICES 参加報告  
レッドデータブック準絶滅危惧種の海草：リュウキュウアマモの種子発見  
編集後記

21世紀 COE ニュース No. 5

### 目 次

国際シンポジウム "Long-term Variations in the Coastal Environments and Ecosystems" 開催報告  
21世紀 COE 中間評価結果  
21世紀 COE 中間成果報告会  
International Environmental Specimen Bank Symposium 組織委員会に参加して  
第15回21世紀 COE セミナー報告  
第16回21世紀 COE セミナー報告  
第17回21世紀 COE セミナー報告  
第18回21世紀 COE セミナー報告  
COE 研究員自己紹介 (1)  
COE 研究員自己紹介 (2)  
COE 研究員自己紹介 (3)  
CMES 滞在記  
COE 学内学術交流会開催報告  
日本第四紀学会論文賞受賞  
現地の微生物も歓迎－ ISME 会議参加報告  
PECS 会議参加報告  
American Geophysical Union Fall Meeting 参加報告  
市民講演会／21世紀 COE 特別セミナー 「ハイリスクライフステージの化学汚染を考える」 開催報告  
The Fourth Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) World Congress 参加報告  
Biology in Asia に参加して  
相模湾の深海生態系における食物網と人為汚染物質の動態に関する調査報告  
編集後記

## 9. 2 報道関係

### 生態環境計測分野 生態毒性解析分野

田辺 信介

- 1) 平成16年4月～5月号, 環境問題をめぐる学問から－環境ホルモン・ダイオキシン研究, 研究室訪問－愛媛大学沿岸環境科学研究センター生態環境計測分野, Guideline, 河合塾
- 2) 平成16年5月号, イルカ・クジラに蓄積している, イルカ・クジラは地球汚染を象徴する動物, Flipper, アイサーチジャパン

- 3) 平成16年7月6日, 母乳から禁止農薬, 愛媛大など調査, 每日新聞
- 4) 平成16年7月11日, ES バンク, 愛媛大学沿岸環境科学研究センター, 世界の生物試料, 汚染の実態や拡大把握, 每日新聞
- 5) 平成16年8月号,瀬戸内海から地球環境を予測する, 愛媛大学沿岸環境科学研究センター, SOTOKOTO
- 6) 平成16年11月28日, 愛媛大沿岸環境科学研究拠点 COE プログラム中間報告「新規有害物質ポリ臭素警告ーアジアのクジラ類に蓄積」, 愛媛新聞
- 7) 平成16年11月30日, 愛媛大の21世紀 COE プログラム「沿岸環境科学研究拠点」中間評価は最良「A」, 愛媛新聞, 每日新聞, 朝日新聞他
- 8) 平成16年12月号, 大学の先端研究, 地球規模で拡大する環境ホルモンの野生生物への影響を実証的に追究, 愛媛大学沿岸環境科学研究センター, 萤雪時代
- 9) 2005年1月14日, Japanese Students, Educators Visit HMSC, OSU (Oregon State University) This Week
- 10) 平成17年1月18日, 自然・環境・生命「子どもの事件と化学汚染—胎児への配慮薄い食の安全」, 四国エコウォッキング, 每日新聞
- 11) 平成17年2月22日, 自然・環境・生命「汚染の経年変化ありあり—冷凍保存の試料が威力」, 四国エコウォッキング, 每日新聞

梶原 夏子

- 1) 平成16年11月20日, 愛媛大3研究に住友財団が助成, 愛媛新聞

#### **生態系解析分野**

上田 拓史

- 1) 平成16年4月21日, 大陸に近い有明の生態, 朝日新聞 (全国版)
- 2) 平成16年6月1日, おはよう愛媛「幻の生き物ナメクジウオの生態」, NHK 総合テレビ
- 3) 平成16年6月3日, いよかんワイド「幻の生き物ナメクジウオの生態」, NHK 総合テレビ
- 4) 平成16年6月5日, 瀬戸内海よみがえれ恵みの海, NHK BS2
- 5) 平成16年6月11日, 瀬戸内海よみがえれ恵みの海・総集編, NHK 総合テレビ

金本自由生

- 1) 平成16年11月9日, 花粉形成する新芽確認 泡瀬沖合いのリュウキュウアマモ 愛媛大金本氏 国内で2例目, 琉球新報
- 2) 平成16年11月9日, 泡瀬埋め立て予定地 純絶滅危ぐ種の種子発見 リュウキュウアマモ繁殖か 工事の影響懸念, 沖縄タイムス

#### **環境影響評価予測分野**

井内 美郎

- 1) 平成16年11月19日, 四万十川命の営み, NHK テレビ

### **9. 3 講座, 講演会等**

#### **環境動態解析分野**

- 1) 武岡 英隆: 津島町海域の環境についてー8年間の調査の結果から, 津島町漁場環境研修会, 津島町役場, 6月22日
- 2) 武岡 英隆: 潮流が育む瀬戸内海, 2004年度日本海洋学会秋季大会公開講座, 第5回漁場環境保全市民講座, 愛媛大学, 9月23日
- 3) 武岡 英隆: 海と地球環境, まなびピア in 愛媛大学, 10月10日
- 4) 武岡 英隆: 沿岸漁業と環境, 愛媛県中小企業団体中央会第1回組合等直面課題対応指導事業, 10月14日
- 5) 武岡 英隆: 海と地球環境, 愛媛県環境講座, 愛媛県歴史文化博物館, 10月23日, 愛媛県生涯学習センター, 11月28日, 愛媛県総合科学博物館, 1月29日

- 6) 武岡 英隆：沿岸環境問題の歴史と展望，環境建設フォーラム，愛媛大学工学部学部，12月7日
- 7) 武岡 英隆：瀬戸内海と宇和海の自然環境—その豊かさの秘密—，伊予史談会，郵政公社四国支社講堂，12月12日
- 8) 兼田 淳史：瀬戸内海におけるリン・窒素の挙動—太平洋起源の影響—，瀬戸内海環境会議ワークショップ，11月29日.

#### 生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介：環境ホルモンについて，甲南女子中学・高等学校講演会，神戸，1月.
- 2) 田辺 信介：地球規模で広がる環境ホルモンの汚染と野生生物への影響，甲南女子中学・高等学校教員研修会，神戸，1月.
- 3) 田辺 信介：環境ホルモンについて，コミュニティースタイリスト環境セミナー，松山市，1月.
- 4) 田辺 信介：途上国における環境汚染，国際協力事業団平成15年度第3回技術協力専門家養成研修「地球環境コース」，東京，2月.
- 5) 田辺 信介：残留性有機汚染物質(POPs)による地球規模の環境汚染と生態系への影響，九州大学医学部耳鼻咽喉科学教室開講九十七周年記念式並びに四三会総会特別講演，福岡市，6月.
- 6) 田辺 信介：PCB などのくらい毒性が強いのか—PCB の問題点，北の PCB 環境フォーラム，室蘭市，7月.
- 7) 田辺 信介：模擬授業「地球汚染-環境ホルモンに蝕まれる生態系」，リクルート進学わくわくライブ，広島市，7月.
- 8) 田辺 信介：環境ホルモンと野生生物，平成16年度愛媛県教育委員会県立学校10年教職経験者研修講座，松山市，8月.
- 9) 田辺 信介：地球を巡る環境ホルモン—野生生物の汚染と影響—，平成16年度日本生物教育界第59回全国大会「光と森に学ぶ生物教育」，松山市，8月.
- 10) 田辺 信介：途上国における環境汚染，平成16年度第2回技術協力専門家養成研修会，独立行政法人国際協力機構，東京，11月.
- 11) 田辺 信介：環境ホルモンについて，愛媛大学教育学部付属中学校-地球市民講座Ⅰ(地球環境問題)，松山市，11月.
- 12) 田辺 信介：環境ホルモンについて，市民教養講座「自然科学と環境」，松山市，12月.

#### 生態系解析分野

- 1) 上田 拓史：動物プランクトン相の変化，公開シンポジウム「有明海を科学し再生の道をさぐる」，諫早湾保全生態学研究グループ(代表：東幹夫)，長崎大学，11月

#### 環境影響評価予測分野

- 1) 大森 浩二：環境講話，愛媛県立小松高校，12月

## 10. 中島マリンステーション利用状況



日付	使用代表者	所属	利用目的	※人數
H.16. 5. 2～7	井内 美郎	愛媛大学 CMES	貝塚・猫瀬戸・呉底質調査	42
H.16. 7.17～18	大隅 満	愛媛大学農学部	研 修	2
H.16. 7.30～8. 2	小南 哲也	愛媛大学理学部	臨 海 実 習	120
H.16. 8. 9～14	上田 拓史	愛媛大学 CMES	海 洋 生 物 学 実 習	150

※ 人数は延べ人数 計314人

## 実習調査船「とびうお」運行状況

日付	運行海域	目的	船長
H16. 4.28~29	北条市沖 大洲	砂堆サンプル採集	大西・金本
H16. 5. 2~ 7	中島沖, 呉市沖	測深調査	木田 彰
H16. 5. 9~10	北条市沖 大洲	ナメクジウオの水中撮影	大西 秀次郎
H16. 5.17	重信川河口沖	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 5.20	松山市沖	工学部海洋実習	大西 秀次郎
H16. 5.22	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査のNHK取材	大西 秀次郎
H16. 6. 4	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査のNHK取材	大西 秀次郎
H16. 6. 5	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査 NHK生中継	大西 秀次郎
H16. 6.13	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	大西 秀次郎
H16. 6.23	北条市沖 大洲	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 6.29~30	呉市沖	音響探査	木田 彰
H16. 7. 1	北条市沖 大洲	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 7. 3~ 4	呉市沖	ADCP調査(24 h)	木田 彰
H16. 7. 7	北条市沖 大洲	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 7.10~11	呉市沖	ADCP調査(24 h)	木田 彰
H16. 7.13	北条市沖 大洲	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 7.14~15	大三島南方沖	採泥	木田 彰
H16. 7.20~23	北条市沖	音響探査	木田 彰
H16. 7.26~27	大三島南方沖	採泥	木田 彰
H16. 7.29	中島沖	海洋調査機器取付	木田 彰
H16. 8. 4~ 6	伊予灘	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 8. 7	重信川河口沖	海洋調査	木田 彰
H16. 8. 9	北条市沖 大洲	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 8.10	北条市沖 大洲	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 8.10~12	中島	海洋生物学実習	金本自由生
H16. 8.17	中島	給油及び船手入れ	大西 秀次郎
H16. 8.18~20	宇和島下波湾	海洋調査	木田 彰
H16. 8.24~25	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	大西 秀次郎
H16. 9. 1~ 4	広島県三原瀬戸	測深調査	木田 彰
H16. 9. 5	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	木田 彰
H16. 9. 8~ 9	伊予灘	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 9.11	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	金本自由生
H16. 9.13~15	伊予灘	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 9.16	北条市沖 大洲	海洋調査	大西 秀次郎
H16. 9.17	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	木田 彰
H16. 9.22	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	大西 秀次郎
H16. 9.28	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	大西 秀次郎
H16.10. 7	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	大西 秀次郎
H16.10.12	北条市沖 大洲	海洋調査	大西 秀次郎
H16.10.13~15	伊予灘	海洋調査	大西 秀次郎
H16.10.21	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	大西 秀次郎
H16.11.16	北条市沖 大洲	海洋調査	大西 秀次郎
H16.11.23	松山市沖	採泥器のテスト	木田 彰
H16.12.15	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	大西 秀次郎
H17. 2. 8	北条市沖 大洲	ナメクジウオ調査	大西 秀次郎

以上、延べ運行日数73日

## 11. 研究員名簿および業績



(研究員：沿岸環境科学研究センター規定（13章参照）に基づき任命された学内の協力研究者)

### 11. 1 研究員名簿

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
佐野 栄	教育学部理科教育	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野
柳沢 康信	理学部生物地球圏科学科	教 授	魚類の繁殖生態に関する研究	環境影響評価予測分野
堀 利栄	理学部生物地球圏科学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野
佐藤 成一	理学部生物地球圏科学科	教 授	淡水性藻類の細胞および細胞器官の形態形成	環境影響評価予測分野
小南 哲也	理学部生物地球圏科学科	講 師	海産動物である棘皮動物(特にウニ)を用いた発生学的研究	環境影響評価予測分野
中島 敏幸	理学部生物地球圏科学科	助教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	環境影響評価予測分野
佐藤 康	理学部生物地球圏科学科	助 手	水生植物のリグニン合成・蓄積機構の研究	環境影響評価予測分野
金田 剛史	理学部生物地球圏科学科	助 手	藻類の形態形成に関する研究	環境影響評価予測分野
井上 幹生	理学部生物地球圏科学科	助教授	河川性魚類の生息環境の解析	環境影響評価予測分野
山口 正隆	工学部環境建設工学科	教 授	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
伊福 誠	工学部環境建設工学科	教 授	エスチャリーにおける混合と循環に関する研究	環境動態解析分野
畠田 佳男	工学部環境建設工学科	助 手	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
鈴木 幸一	工学部環境建設工学科	教 授	河川・河口域の環境に関する研究	環境動態解析分野
渡邊 政広	工学部環境建設工学科	教 授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析分野
西村 文武	工学部環境建設工学科	助教授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析分野
中村 孝幸	工学部環境建設工学科	助教授	沿岸構造物に関する研究	環境動態解析分野
脇本 忠明	農学部生物資源学科	教 授	ダイオキシン類の環境動態	生態環境計測分野
本田 克久	農学部生物資源学科	教 授 (寄付講師)	ダイオキシン類の分析法および処理技術の開発	生態環境計測分野
竹内 一郎	農学部生物資源学科	教 授	藻場生態系の保全	生態環境計測分野
三浦 猛	農学部生物資源学科	教 授	環境汚染物質が魚類の生殖に与える影響の機構解明	生態環境計測分野
中野 伸一	農学部生物資源学科	助教授	水圈物質循環系の生態学的研究	生態系解析分野
井内 國光	地域共同研究センター	助教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析分野

## 11. 2 研究員業績

佐野 栄（教育学部）

- 1) Sano, S. & Hayasaka, Y.: Sr and Nd isotope geochemistry of Hole 1179D basalts. Proceedings of the Ocean Drilling Program, Scientific Results Volume, 191, 191SR-006, 1-11.
- 2) Sano, S., Offler, R., Hyodo, H. & Watanabe, T.: Geochemistry and chronology of tectonic blocks in serpentinite melange of the southern New England Fold Belt, NSW, Australia. Gondwana Research, 7, 817-831.
- 3) 柳原正幸・高木 梢・井上雅弘・久保田領志・堀 利栄・佐野 栄：硫酸鉄鉱を含む変質安山岩のモエジマシダによるファイトレメディエーションに関する基礎的実験. 第14回環境地質学シンポジウム論文集, 11-20.
- 4) 千葉悦子・岡田知子・柳原正幸・佐野 栄・堀 利栄・中井芳恵：愛媛県砥部町万年地域における砒素に富む変質安山岩の風化作用と地表水の砒素濃度の関係. 第14回環境地質学シンポジウム論文集, 129-134.
- 5) 渡邊 彩・柳原正幸・佐野 栄・井上雅裕・堀 利栄・鈴木哲也・竹花大介・近藤敏仁：モエジマシダによる砒素を溶出する泥岩のファイトレメディエーション. 第14回環境地質学シンポジウム論文集, 255-258.

佐藤 康（理学部）

- 1) Y. Ito, N. Tokunaga, Y. Sato and H. Fukuda : Transfer of phenylpropanoids via the medium between xylem cells in Zinnia xylogenous culture. Plant Biotech. 21 : 205-213.

井上 幹生（理学部）

- 1) M. Inoue & F. Nakamura : Freshwater fishes and forests in Japan., In "Fishes and Forestry : Worldwide watershed interactions and management (eds. T. G. Northcote & G. F. Hartman)" pp 560-580. Blackwell.
- 2) 井上幹生（一部執筆）：改訂砂防用語集，砂防学会編，山海堂

山口 正隆（工学部）

- 1) 山口正隆・畠田佳男・大福 学・野中浩一：観測資料および推算資料を用いた伊勢湾口における波候の解析, 水工学論文集, 第48巻, pp. 1267-1272.
- 2) 山口正隆・畠田佳男・大福 学・野中浩一・平塚敬樹：わが国周辺海域および沿岸における2種類の長期波浪資料の精度の比較, 海岸工学論文集, 第51巻, pp. 166-170.
- 3) 山口正隆・野中浩一・畠田佳男・大福 学・増田真慈：燧灘および播磨灘における台風時波高の極値の推定, 海岸工学論文集, 第51巻, pp. 171-175.
- 4) 畠田佳男・山口正隆・大福 学・野中浩一・白水英路：波浪の長期推算システムの瀬戸内海沿岸における適用性の検討, 海岸工学論文集, 第51巻, pp. 176-180.
- 5) 山口正隆・野中浩一・大福 学・畠田佳男：北西太平洋における気象擾乱別確率波高の標本分布の検討, 海岸工学論文集, 第51巻, pp. 181-185.
- 6) 山口正隆・宇都宮好博・野中浩一・真鍋 晶・畠田佳男：censoring を伴う年最大値資料に対する極値統計解析におけるPWM法の適用性, 海岸工学論文集, 第51巻, pp. 186-190.
- 7) 野中浩一・山口正隆・大福 学・畠田佳男：台風0314号時の韓国南東岸における波浪の推定, 海岸工学論文集, 第51巻, pp. 191-195.
- 8) Yamaguchi, M., Hatada, Y. and H. Nonaka : Intercomparison of wave data hindcast on Lake Erie, Proc. of 8th Int. Workshop on Wave Hindcasting and Forecasting, (in CD - ROM).
- 9) Yamaguchi, M., Nonaka, H. and Y. Hatada : Estimating the parent distribution of storm type-separated annual maximum wave heights on the Northwestern Pacific Ocean, Proc. of 29th Int. Conf. on Coastal Eng., (in printing).

伊福 誠（工学部）

- 1) 伊福 誠, 坂田健治, 玉井秀子:肱川感潮域における懸濁物質の二次元数値解析, 水工学論文集, 第48巻, pp. 1195-1200.
- 2) M. Ifuku : Field Measurement of Turbidity Maximum in Hiji River Estuary, Proceedings of The Fourteenth International Offshore and Polar Engineering Conference, pp. 758-764.
- 3) M. Ifuku and K. Shiono : Prediction of turbulent flow structure in compound channel with roughened floodplain using

Large Eddy Simulation, PROCEEDINGS OF THE 4TH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ENVIRONMENTAL HYDRAULICS, pp. 99-105.

#### 畠田 佳男（工学部）

- 1) 畠田佳男・山口正隆・大福 学・野中浩一・白水英路：波浪の長期推算システムの瀬戸内海沿岸における適用性の検討, 海岸工学論文集, 第51巻, pp. 176-180.
- 2) 山口正隆・野中浩一・畠田佳男・大福 学・増田 真慈：燧灘および播磨灘における台風時波高の極値の推定, 海岸工学論文集, 第51巻, pp. 171-175.
- 3) 山口正隆・畠田佳男・大福 学・野中浩一・平塚敬樹：わが国周辺海域および沿岸における2種類の長期波浪資料の精度の比較, 海岸工学論文集, 第51巻, p. 166-170.
- 4) 山口正隆・畠田佳男・大福 学・野中浩一：観測資料および推算資料を用いた伊勢湾口における波候解析, 水工学論文集, 第48巻, pp. 1267-1272.
- 5) Masataka Yamaguchi, Yoshio Hatada and Hirokazu Nonaka : Proc. of 8th. Int. Workshop on wave hindcasting and forecasting, pp. 48-59, (in CD-ROM).

#### 鈴木 幸一（工学部）

- 1) Alcigeimes, B. Celeste, K. Suzuki, A. Kadota : Genetic algorithms for real-time operation of multipurpose water resource systems, Journal of Hydroinformatics, Vol. 6, No1, pp. 19-38.
- 2) Alcigeimes B. Celeste, K. Suzuki, A. Kadota, Camilo A. S. de Farias : Stochastic generation of inflow scenarios to be used by optimal reservoir operation models, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE, Vol. 48, pp. 451-456.
- 3) Krishna R. Pathak, K. Suzuki, A. Kadota, K. Matsuda, T. Ohtsuka : Mechanism of natural dam collapse formed in a steep slope channel and simulation, Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE, Vol. 48, pp. 907-912.
- 4) 門田章宏, 竹林洋史, 湯城豊勝, Ricardo de Aragao, 鈴木幸一：橋脚周辺における出水時の最大洗掘深の実測と河床変動状況, 水工学論文集, 第48巻, pp. 1063-1068.
- 5) A. Kadota, Aragao, R., Suzuki, K., Srinivasan, V. S. and Araui M. L : Field Measurement of Maximum Scour Depth during Flood Installing Numbered Bricks, Proc of Second International Conference on Scour and Erosion, Vol. 1, pp. 334-341.
- 6) K. Suzuki, A. Kadota and B. B. Parajuli : Deposition of sand-gravel mixture in a steep slope reservoir with hydraulic jump, Proc. of the 14<sup>th</sup> Congress of APD-IAHR, Vol. 2, pp. 2115-2121.
- 7) A. Kadota, R. Aragao, and K. Suzuki : The use of riprap protection as a countermeasure against scour downstream of two compound piers, Proc. of 4th International Symposium on Environmental Hydraulics and 14th Congress of APD-IAHR, Vol. 2, pp. 1827-1833.
- 8) Alcigeimes B. C., A. Kadota and K. Suzuki: Chance-constrained Stochastic optimization applied to reservoir operations, Proc. of the 14th Congress of APD-IAHR, Vol. 2, pp. 1325-1331.

#### 本田 克久（農学部）

##### 原著論文

- 1) 岩切良次・川嶋文人・松原朝子・本田克久：超臨界二酸化炭素による魚油中ダイオキシン類の抽出除去, 環境化学, 14 (2), 253-262.
- 2) 濱田典明・中村裕史・本田克久：排ガス中ダイオキシン類捕集用ダイオアナQ フィルタの有効性評価, 環境化学, 14 (3), 613-623.
- 3) Fujita, H., Hamada, N., Sawadaishi, K., Honda, K. : DEVELOPMENT OF A SAMPLE PREPARATION SYSTEM FOR DIOXINS; APPLICATION TO IMMUNOASSAY. ORGANOHALOGEN COMPOUNDS, 66, 677-681.
- 4) Kishino, J., Tokuda, Y., Takagi, Y., Kataoka, C., Fujita, H., Hamada, N., Sawadaishi, K., Honda, K. : Evaluation of Automated Sample Preparation System for Immunoassay in Dioxins Analysis. ORGANOHALOGEN COMPOUNDS, 66, 715-722.

##### その他の論文

- 5) 川嶋文人・阪井 敦・平野竹徳・傅 慶一・越川哲也：バイオディーゼル燃料製造のための固体塩基触媒の

- 開発研究. 日本化学会第84春季年会, 大阪, 3月, 講演予稿集II, 719.
- 6) 川嶋文人:環境産業における超臨界流体利用技術. 平成15年度応用化学科セミナー, 愛媛, 3月, 講演要旨集, 14-21.
  - 7) 川嶋文人・本田克久:愛媛県バイオマスマスターplan策定事業 バイオマス有効利用技術調査報告書, 1-60
  - 8) 川嶋文人・本田克久:バイオマス等未活用エネルギー事業調査報告書, 52-55.
  - 9) 岩切良次・川嶋文人・安達美佳子・本田克久:油試料からのダイオキシン類の抽出・除去技術の開発. 化学工学会第69年会, 大阪, 4月, 研究発表講演要旨集, G206.
  - 10) 藤田寛之・濱田典明・澤田石一之・本田克久:ダイオキシン類の自動前処理装置の開発～イムノアッセイ及びGC-MSへの適用～. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 18-19.
  - 11) 上田祐子・濱田典明・本田克久:生物試料における環境ホルモン分析の合理化技術. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 44-45.
  - 12) 宮脇 崇・川嶋文人・本田克久:超臨界二酸化炭素を用いた土壤・底質中ダイオキシン類の抽出特性. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 106-107.
  - 13) 加藤慎也・宮脇 崇・川嶋文人・本田克久:飛灰・土壤中PCDDs/DFsの抽出効率と存在形態の関係. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 112-113.
  - 14) 岡崎友紀代・濱田典明・本田克久・脇本忠明:松山平野土壤のダイオキシン類の分布挙動～ダイオキシン類の排出源と排出量の推計～. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 154-155.
  - 15) 原 淳子・濱田典明・本田克久・脇本忠明・水口定臣:土壤・底質中におけるダイオキシン類の存在形態. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 160-161.
  - 16) 岩切良次・川嶋文人・安達美佳子・本田克久:魚油中ダイオキシン類の除去技術の開発. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 254-255.
  - 17) 高橋知史・渡邊隆史・山本義志・本田克久:ダイオキシン類の化学薬剤による非加熱分解特性. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 256-257.
  - 18) 藤田寛之・濱田典明・本田克久:化学修飾シリカゲルを用いたダイオキシン類の効率的精製法. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 318-319.
  - 19) 宮脇崇・洪樟瑚・川嶋文人・本田克久:超臨界・亜臨界流体を用いたダイオキシン類・環境ホルモン様物質の各吸着剤からの抽出特性. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 320-321.
  - 20) 徳田喜則・岸野 淳・澤田石一之・大村直也・藤田寛之・濱田典明・本田克久:ダイオキシン類の自動前処理装置の開発～イムノアッセイ系への適用～. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 326-327.
  - 21) 岸野 淳・澤田石一之・藤田寛之・濱田典明・本田克久:ダイオキシン類自動前処理装置の開発. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 328-329.
  - 22) 濱田典明・中村裕史・本田克久:排ガス中ダイオキシン類採取装置「ダイオアナQ フィルタ」とその適用範囲. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 342-343.
  - 23) 静亜紗美・本田克久・濱田典明・松田壯一:大気中ダイオキシン類捕集材の開発. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 344-345.
  - 24) 水上美笛・上田祐子・濱田典明・本田克久・清家伸康:日本農耕地土壤におけるPAHs残留の経時的变化. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 398-399.
  - 25) 岡崎友紀代・濱田典明・本田克久・脇本忠明:土壤中ダイオキシン類挙動への濃度相関マトリクスの適用. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 616-617.
  - 26) 宮本伊織・本田克久・高橋知史・山本義志:土壤中ダイオキシン類の非加熱低減処理技術の開発(第3報). 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 624-625.
  - 27) 高橋知史・加茂初枝・宮本伊織・川嶋文人・本田克久:ダイオキシン類の化学薬剤による非加熱分解特性～分解メカニズム～. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 630-631.
  - 28) 岩切良次・川嶋文人・安達美佳子・本田克久:親水性炭素系吸着剤の開発と吸着特性の解明. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 634-635.
  - 29) 上田祐子・Yoon Myung-Hee, Kim Ji-Hye, Min Byung-Yoon. 本田克久:韓国産セスジネズミ (*Apodemus agrarius*) の環境ホルモン物質蓄積量と精巣異常との関連性. 第13回環境化学討論会, 静岡, 7月, 講演要旨集, 732-733..
  - 30) 山下正純・朽木一絵・本田克久:ヒ素汚染地下水の簡易処理技術の検討. 第15回廃棄物学会, 香川, 11月, 講

演論文集II, 1376-1377.

- 31) Kashima, Y., Seike, N., Matsui, M., Mizukami, M., Hamada, N., Honda, K. : Interactive effect on dioxin-like activity by various pollutants in paddy soil. 第7回環境ホルモン学会, 愛知, 12月, 講演要旨集, 246.
- 32) 本田克久・山下正純：えひめ方式ダイオキシン類管理型小型焼却炉（ダイオシャットシステム）。環境浄化技術, 3 (6), 64-66.
- 33) 本田克久：排ガス中ダイオキシン類採取用ダイオアナフィルタ<sup>Q</sup>。環境浄化技術, 3 (8), 60-62.
- 34) 本田克久・高橋知史：飛灰中ダイオキシン類非加熱分解剤ダイオマスター<sup>Q</sup>。環境浄化技術, 3 (10), 70-72.
- 特許
- 35) 本田克久・濱田典明：ダイオキシン類の分析用試料抽出装置。特開2004-109141.
- 36) 本田克久・白石仁士・山下正純：排ガス処理用の吸着材および吸着材の処理方法。特開2004-154628.
- 37) 本田克久・白石仁士・山下正純：排ガス処理用の吸着材および吸着材の処理方法。特開2004-154629.
- 38) 本田克久：ダイオキシン類の分析用試料採取方法。特開2004-191274.
- 39) 本田克久・濱田典明・伊田尚史：土壤処理剤および土壤処理方法。特開2004-210847.
- 40) 本田克久・塩素化有機化合物の採取用フィルターおよびその製造方法、塩素化有機化合物の採取器並びに塩素化有機化合物の採取方法。特開2004-290911.
- 41) 本田克久・山本義志・松田壮一：水処理方法。特開2004-337817.
- 42) 本田克久・山本義志・松田壮一：塩素化有機化合物の採取方法。特開2004-340900.

竹内 一郎（農学部）

著 書

- 1) 竹内一郎：まえがき。竹内一郎・田辺信介・日野明徳（編）水産学シリーズ140. 微量人工化学物質の生物モニタリング，恒星社厚生閣，3-4.
- 2) 竹内一郎：人工化学物質，環境政策，水産の生産量。竹内一郎・田辺信介・日野明徳（編）水産学シリーズ140. 微量人工化学物質の生物モニタリング，恒星社厚生閣，9-23.
- 3) 竹内一郎：ワレカラ類。竹内一郎・田辺信介・日野明徳（編）水産学シリーズ140. 微量人工化学物質の生物モニタリング，恒星社厚生閣，79-93.
- 4) 竹内一郎：生物モニタリングの今後の課題。竹内一郎・田辺信介・日野明徳（編）水産学シリーズ140. 微量人工化学物質の生物モニタリング，恒星社厚生閣，149-152.

原著論文

- 5) de Broyer, C., Guerra-Garcia, J. M., Takeuchi, I., Robert, H. and Meerhaeghe, A. : Biodiversity of the Southern Ocean : a catalogue of the Antarctic and Sub-Antarctic Caprellidae and Cyamidae (Crustacea : Amphipoda) with distribution and ecological data. The Bulletin de l'Institut Royal des Sciences Naturelles de Belgique, Biologie, 74 : 61-99.
- 6) Guerra-Garcia, J. M. and Takeuchi, I. : The Caprellidea (Crustacea : Amphipoda) from Tasmania, Australia. Journal of Natural History 38 (8) : 967 -1044.
- 7) Takeuchi, I., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Decline of butyltin levels in *Caprella* spp. (Crustacea : Amphipoda) inhabiting the *Sargassum* community in Otsuchi Bay, Japan from 1994 to 2001. Journal of the Marine Biological Association of the UK 84 (5) : 911-918.
- 8) Takeuchi, I., Takahashi, S., Tanabe, S. and Miyazaki, N. : Butyltin concentrations along the Japanese coast from 1997 to 1999 monitored by *Caprella* spp. (Crustacea : Amphipoda). Marine Environmental Research 57 (3) : 397-414.
- 9) Willis, K. J., Cook, E. J., Lozano-Fernandez, M. and Takeuchi, I. : First record of the alien caprellid amphipod, *Caprella mutica*, for the U. K. Journal of the Marine Biological Association of the UK 84 (5) : 1027-1028.

その他の論文

- 10) Takeuchi, I. : The butyltin (TBT) concentration detected from the Seto Inland Sea during 2001 corresponded to the LOEC of TBT for *Caprella* (Amphipoda : Caprellidea). Marine Environmental Research 58 : 858-859.
- 11) 三浦 猛・竹内一郎・高木基裕・大森浩二：内分泌かく乱物質と生物濃縮過程に関する研究。新世紀重点研究創成プラン Research Revolution2002 (RR2002). 人・自然・地球共生プロジェクト。水資源管理システムの開発。インドシナ半島における水環境の化学物質汚染実態の解明と汚染除去技術の開発。平成15年度研究成果報告書。文部科学省研究開発局, 38-46.

## 11. 研究員名簿および業績

三浦 猛（農学部）

原著論文

- 1) Miura, C., Takahashio, N., Michino, F. and Miura, T. : The effect of *para*-nonylphenol on Japanese eel (*Anguilla japonica*) spermatogenesis in vitro. *Aquatic Toxicology* 71 : 133-141.
- 2) Miura, T. and Miura, I. C. : Molecular control mechanisms of fish spermatogenesis. *Fish Physiol. Biochem.* 28 : 181-186.
- 3) Higashino, T., Miura, T., Miura I. C. and Yamauchi, K. : Effects of two sex steroid hormones on early oogenesis in Japanese huchen (*Hucho Perryi*). *Fish Physiol. Biochem.* 28 : 343-344.

その他

- 4) Yamaguchi, S., Ito, A., Higashino, T., Miura, C., Agusa, T., Kubota, R., Iwata, H., Tanabe, S. and Miura, T. : Influence of endocrine disruptors on reproduction of aquatic animals in Indochina. In proceeding of "International Symposium on the Development of Water Resource Management Symtem in Mekong Watershed, Hanoi, Vietnam, December 2004". p32-40.

井内 國光（地域共同研究センター）

- 1) 井内國光：建設工事における過剰揚水に伴う地下水塩水化，*陸水学雑誌*，第65第2号，pp. 83-92.

## 12. 客員研究員名簿および業績



(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規定（13章参照）に基づき委嘱された学外の協力研究者)

### 12.1 客員研究員名簿

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
磯田 豊	北海道大学大学院水産科学研究科	助教授	沿岸域の流動とモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
原島 省	独立行政法人国立環境研究所水土圧圈環境研究領域	室長	瀬戸内海のモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
門谷 茂	北海道大学大学院水産科学研究院 海洋環境科学分野	教授	瀬戸内海の栄養塩動態に関する研究	環境動態解析分野
塚本 秀史	弓削商船高等専門学校情報工学科	助教授	燧灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
橋本 俊也	広島大学大学院生物圏科学研究科	助教授	生態系モデルに関する研究	環境動態解析分野
高橋 晓	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター海洋資源環境研究部門	主任研究員	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析分野
森本 昭彦	名古屋大学地球水循環研究センター	助教授	豊後水道の水温予報に関する研究	環境動態解析分野
柳 哲雄	九州大学応用力研究所力学シミュレーションセンター	教授	沿岸海域の物質循環に関する研究	環境動態解析分野
松野 健	九州大学応用力学研究所海洋大気力学部門	教授	東シナ海の流動と物質循環に関する研究	環境動態解析分野
磯辺 篤彦	九州大学大学院総合理工学研究院	助教授	周防灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
市川 香	九州大学応用力学研究所	助教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析分野
清水 学	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所	研究員	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
増田 理子	名古屋工業大学社会工学専攻	助教授	藻場生態系の解析	環境動態解析分野
才野 敏郎	名古屋大学地球水循環研究センター	教授	沿岸海域における基礎生産の変動とその制御要因に関する研究	環境動態解析分野
藤田 正一	北海道大学大学院獣医学研究科	教授	野生生物の薬物代謝機能と有害物質の毒性影響	生態環境計測分野
原 彰彦	北海道大学大学院水産科学研究科	教授	海産魚類における内分泌搅乱物質の影響	生態環境計測分野
宮崎 信之	東京大学海洋研究所海洋科学国際共同研究センター	教授	海棲哺乳類の生活史とその環境	生態環境計測分野
新井 崇臣	東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター	助手	サケ科魚類を用いた環境モニタリング	生態環境計測分野
柴田 康行	独立行政法人国立環境研究所 化学環境研究領域	領域長	多環芳香族炭化水素、有機スズ化合物、重金属類およびPOPs関連化学物質の環境モニタリング及び環境動態の解明	生態環境計測分野
功刀 正行	独立行政法人国立環境研究所 化学環境研究領域	主任研究員	有害化学物質による海洋汚染の動態解明	生態環境計測分野
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研究所 化学環境研究領域	主任研究員	巻貝類の内分泌搅乱の実態及び機構の解明	生態環境計測分野

## 12. 客員研究員名簿および業績

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
森 千里	千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学領域	教 授	内分泌搅乱物質の人体汚染における生殖機能や次世代に対する影響	生態環境計測分野
小宮山正敏	千葉大学環境健康都市園芸 フィールド科学教育研究センター	助 手	GFPマウスを用いた精子形成障害評価法の開発と生殖障害のメカニズムの解析	生態環境計測分野
藤瀬 良弘	財団法人日本鯨類研究所	研究部長	鯨類と海洋生態系における環境化学物質の蓄積特性と鯨類生態の解明に関する研究	生態環境計測分野
高田 秀重	東京農工大学農学部環境資源 科学科	助教授	東南アジア地域における微量有機汚染物質の分布・発生源・動態の解明	生態環境計測分野
井口 泰泉	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター	教 授	内分泌搅乱物質	生態環境計測分野
松井 三郎	京都大学地球環境学大学院	教 授	世界の湖沼環境管理のための国際協力のありかた	生態環境計測分野
大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究院生物機能科学部門	助教授	水生生物における化学物質の影響	生態環境計測分野
有菌 幸司	熊本県立大学環境共生学部環境 共生科	教 授	環境化学物質の生態毒性に関する研究	生態環境計測分野
國頭 恒	信州大学理学部物質循環学科	助教授	微量元素の環境モニタリングおよび環境動態の解明	生態環境計測分野
渡邊 泉	東京農工大学大学院 共生科学技術研究部	助教授	野生生物の微量元素汚染および毒性影響の解明	生態環境計測分野
金 恩英	愛媛県立衛生環境研究所	研究員	内分泌搅乱化学物質のリスク評価	生態環境計測分野
山田 格	国立科学博物館 動物研究部	室 長	海棲哺乳動物の生態に関する研究	生態環境計測分野
吉水 守	北海道大学大学院水産科学研究科	教 授	海洋生物のウイルス性疾病の制御に関する研究	生態系解析分野
中村 泰男	国立環境研究所海洋環境研究室	主任研究員	沿岸域海洋生態系における物質循環	生態系解析分野
小池 熱夫	東京大学海洋研究所	教授／所長	海洋中の生元素動態に関する研究	生態系解析分野
古谷 研	東京大学大学院農学生命科学 研究科	教 授	プランクトンの生態と基礎生産過程	生態系解析分野
木暮 一啓	東京大学海洋研究所 海洋生態系動態部門	教 授	海洋微生物の生理生態学的研究	生態系解析分野
千浦 博	国際基督教大学教養学部理学科	准教授	海洋中での遺伝情報伝播機構と生物進化に関する研究	生態系解析分野
永田 俊	京都大学生態学研究センター	教 授	水圏における溶存態有機物の動態に関わる微生物群集の多様性と機能に関する研究	生態系解析分野
川端善一郎	京都大学生態学研究センター	教 授	水圏微生物の実験生態学的研究	生態系解析分野
田中 克	京都大学大学院農学研究科	教 授	有明海の海産生物に関する研究	生態系解析分野
今井 一郎	京都大学大学院農学研究科	助教授	有害有毒プランクトンの生活史と生理生態学	生態系解析分野
上 真一	広島大学大学院生物圏科学研 究科	教 授	海洋動物プランクトンの生産生態学的研究	生態系解析分野
大塚 攻	広島大学生物圏科学研究科 附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター	教 授	カイアシ類の分類および形態学的研究	生態系解析分野
深見 公雄	高知大学大学院黒潮圏海洋科 学研究科	教 授	海洋物質循環における微生物の役割と相互作用に関する研究	生態系解析分野
木下 泉	高知大学海洋生物教育研究セ ンター	教 授	仔稚魚の形態と生態に関する研究	生態系解析分野

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
立石 雅昭	新潟大学理学部地質科学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
松岡 篤	新潟大学理学部地質科学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	環境影響評価 予測分野
金井 豊	独立行政法人産業技術総合研究所深部地質環境研究センター地下環境機能チーム	研究チーム長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
西村 清和	独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
斎藤 文紀	独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門沿岸都市地質研究グループ長	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
池原 研	独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門海洋地質研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
星加 章	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター海洋資源環境研究部門生態系環境修復創造研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環境影響評価 予測分野
三島 康史	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター海洋資源環境研究部門生態系環境修復創造研究グループ	主任研究官	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環境影響評価 予測分野
高杉 由夫	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター海洋資源環境研究部門海洋動態モニタリング研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
公文富士夫	信州大学理学部物質循環学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
吉川 周作	大阪市立大学大学院理学研究科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
三瓶 良和	島根大学総合理工学部地球資源環境学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
高安 克己	島根大学汽水域研究センター	教授副学長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
長谷川修一	香川大学工学部安全システム建設工学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
仲谷 英夫	香川大学工学部安全システム建設工学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価 予測分野
松岡 敦充	長崎大学水産学部 海洋資源動態科学講座	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	環境影響評価 予測分野
前田 広人	三重大学生物資源学部海洋微生物学教室	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環境影響評価 予測分野

## 12. 2 客員研究員業績

磯田 豊（北海道大学大学院水産科学研究科）

原著論文

- 1) Nishimura, K. and Y. Isoda: Evolution of cannibalism: referring to coats of cannibalism. *J. Theor. Biol.*, 226:291-300.
- 2) Nishimura, K. and Y. Isoda : Variant evolutionary trees under phenotypic variance. *J. Theor. Biol.*, 226 : 79-87.
- 3) 磯田 豊・深井大介：北部北太平洋の移行領域における水塊特性. *海と空.* 79 : 65-75.
- 4) 黒田 寛・磯田 豊：定期船 ADCP の semi-regular サンプリングデータを用いて年周期変動成分を調和解析する際の問題点. *海の研究.* 13 : 151-161.
- 5) 佐藤千鶴・磯田 豊・清水 学：噴火湾沿岸域の水温変動. *沿岸海洋研究,* 42 : 73-83.
- 6) 黒田 寛・磯田 豊・大西光代・岩橋雅行・佐藤千鶴・中山智治・伊藤集通・伊勢田賢一・西澤慶介・島 茂樹・外川 織彦：定期船 ADCP による semi-regular sampling を用いた調和解析手法の検討－津軽海峡東口における潮流と残差流の評価－. *海の研究,* 13 : 553-564

その他

- 7) 磯田 豊・坂田陽一郎・磯野哲郎・清水 学・春日一彦・灘井章嗣・藤井智史・斎藤誠一：噴火湾口付近において HF レーダにより観測された潮流と計算された潮流. 北大水産彙報, 55 (1) : 63-39.
- 8) 磯田 豊・鈴木鋼治：津軽暖流水張り出しの経年変化. 北大水産彙報, 55 (1) : 71-74.
- 9) 磯田 豊・末武秀巳・東屋知範：噴火湾における正味の海面熱輸送量の簡易計算法. 北大水産彙報, 55 (1):43-52.
- 10) 和川 拓・磯田 豊・高木省吾・坂岡桂一郎：2002・2003年における155°E 線上の移行領域. 北大水産彙報, 55 (1) : 23-33
- 11) Isoda, Y. : Formation and structure of the barotropic flow over the shallow shelf slope region. 北大水産彙報, 55 (1) : 35-42.
- 12) Isoda, Y., S. Takaki, A. Murata and N. Sugawara : Spatial distribution of diffusive type fine structure observed on 26.7-27.2σg surfaces in the Gulf of Alaska. 北大水産彙報, 55 (1) : 53-62.
- 13) Isoda, Y. : Tsushima Current Mode Water (TCMW). 北大水産彙報, 55 (2) : 75-84.  
Isoda, Y., F. Kitamura and T. Murakami : Interannual variations of the yearly mean sea level around the Japanese islands. 北大水産彙報, 55 (2) : 85-96.
- 14) 小林直人・磯田 豊・高津哲也・山口秀一・木村 修：練習船 ADCP を用いた迅速な海流情報提供に向けて – ADCP の品質管理処理プログラム. 北大水産彙報, 55 (2) : 97-104.
- 15) Onishi, M., Y. Isoda, H. Kuroda, M. Iwahashi, C. Satoh, T. Nakayama, T. Ito, K. Iseda, K. Nishizawa, S. Shima and O. Togawa : Winter transport and tidal current in the Tsugaru Strait. 北大水産彙報, 55 (2) : 105-120.
- 16) 坂田陽一郎・磯田 豊：青森県へナシ崎沖で観測された近慣性振動流. 北大水産彙報, 55 (2) : 121-137.

門谷 茂（北海道大学大学院水産科学研究院）

原著論文

- 1) Tada K., Pithakpol S. and Montani S. : Seasonal variation in the abundance of *Noctiluca scintillans* in the Seto Inland Sea, Japan, *Plankton Biology and Ecology,* 51, 7-14 .
- 2) 繼貫 啓, 廣瀬紀一, 門谷 茂 : 藻類増殖用水溶性ガラスを用いた珪藻 *Chaetoceros gracilis* の簡易な半連続培養システムの開発, *水産増殖,* 52, 11-16 .
- 3) Tada K., Yamaguchi H. and Montani S. : Comparison of chlorophyll *a* concentrations obtained with 90% acetone and *N, N*-dimethylformamide extraction in coastal seawater, *Journal of Oceanography,* 60, 259-261 .
- 4) 多田邦尚, 一見和彦, 横田隼人トニ, 山田真知子, 門谷 茂 : 洞海湾で鞭毛藻類が大増殖しない理由, *海の研究,* 13, 271-279 .
- 5) 堤 裕昭, 木村千寿子, 永田紗矢香, 佃 政則, 山口一岩, 高橋 徹, 門谷 茂 : 広域定期観測による有明海水環境の現状, *沿岸海洋研究,* 42, 35-42 .
- 6) Yamaguchi H., Tsutsumi H., Tsukuda M., Nagata S., Kimura C., Yoshioka M., Shibanuma S. and Montani, S. : Utilization of photosynthetically produced organic particles by dense patches of suspension feeding bivalves on the sand flat of Midori River estuary, Kyushu, Japan, *Benthos Research,* 59, 67-77.

## 解説・総説等

- 7) 門谷 茂 : 二枚貝は海の肉牛, 季刊日本人とさかな, 14, 6-8.
- 8) 門谷 茂 : 「不死鳥の海, 洞海湾」, アクア研究センター10周年記念誌, 11.
- 9) 門谷 茂 : 物質循環と生物生産から見た干潟生態系, 沿環連第11回ジョイントシンポジウム 危機にある沿岸生態系, 6-11.
- 10) 門谷 茂 : 干潟域環境と底生珪藻, 2004年度(第40回)水工学に関する夏期研修会講義集Bコース, B-6-1 - B-6-14.

## 塚本 秀史(弓削商船高等専門学校情報工学科)

- 1) 塚本秀史: 明治22年に測量された生名島の海岸線, 弓削商船高専紀要, 第25号, 31-34.
- 2) 柳 哲雄, 塚本秀史: 有明海における潮汐振幅の経年変動, 海の研究, Vo13, No. 3, 295-300.
- 3) 柳 哲雄, 藤原 亘, 塚本秀史, 鎌田泰彦: 橋湾の表層底泥輸送, 沿岸海洋研究, 第42巻, 第1号, 67-71.

## 橋本 俊也(広島大学大学院生物圏科学研究科)

## 原著論文

- 1) 川口 修・山本民次・松田 修・橋本俊也・高山晴義: 人工中層海底を用いたカキ養殖場底質への有機物負荷削減策の検討. 日本水産学会誌, 70, 722-727.
- 2) 橋本俊也・奥晋太郎・柳 哲雄・林 美鶴: 濑戸内海における外洋起源の窒素・リンの重要性. 広島大学生物圏科学研究科紀要, 43, 7-13.

## 資料

- 3) 橋本俊也・奥晋太郎・柳 哲雄・林 美鶴: 濑戸内海の水質調査結果. 広島大学生物圏科学研究科紀要, 43, 41-54.

## 柳 哲雄(九州大学応用力研究所力学シミュレーションセンター)

- 1) Yanagi, T., H. Hinata : Water exchange between Tokyo Bay and the Pacific Ocean during winter. Ocean Dynamics, 54, 452-459.
- 2) Yanagi, T., D. Ishii : Open ocean originated phosphorus and nitrogen in the Seto Inland Sea, Japan. J. Oceanogr., 60, 1001-1005.
- 3) Buranaprtheprat, A. and T. Yanagi : Seasonal variations incirculation and average residence time of the Banpakong estuary, Thailand. La mer, 41, 199-213.
- 4) 柳 哲雄・塚本秀史: 有明海における潮汐振幅の経年変動. 海の研究, 13, 295-300
- 5) 柳 哲雄: 生態系モデルは有明海を再現できるか. 沿岸海洋研究, 42, 61-65
- 6) 柳 哲雄・藤家 亘・塚本秀史・鎌田泰彦: 橋湾の表層底質輸送. 沿岸海洋研究, 42, 67-71
- 7) 藤家 亘・柳 哲雄・玉置昭夫・松野 健: 富岡干潟におけるハルマンスナモグリ幼生の回帰戦略の数値モデルによる解析. 海の研究, 13, 371-387
- 8) 柳 哲雄: 有明海の流況. 水環境学会誌, 27, 290-292
- 9) 柳 哲雄・下村真由美: 有明海における成層度の経年変動. 海の研究, 13, 575-581
- 10) 鬼塚 剛・柳 哲雄・井上康一: 富栄養化した洞海湾における水質環境管理のための生態系モデルの適用. 海と空, 80, 19-26
- 11) 屋良由美子・柳 哲雄: 広島湾北部海域におけるカキ養殖の環境容量. 九州大学総合理工学報告, 26, 15-22
- 12) 柳 哲雄・白木喜章・山田真知子: 関門海峡の通過流量とリン・窒素フラックス. 沿岸海洋研究, 41, 153-160
- 13) 柳 哲雄・白木喜章: 冬季周防灘の栄養塩収支. 海の研究, 13, 197-205
- 14) 石井大輔・柳 哲雄: 濑戸内海各灘・湾における全リン・全窒素の起源と濃度変動機構. 海の研究, 13, 389-401
- 15) 石井大輔: 北九州・洞海湾における流動観測について. 応用力学研究所技術職員技術レポート, Vol. 5, 6-11.
- 16) 渡慶次力・柳 哲雄: 2001年9月広島で発生した高潮位に関する研究. 海の研究, 13, 475-491
- 17) 柳 哲雄: 姫島の漁業資源管理. 九州大学総合理工学報告, 26, 215-217
- 18) 日向博文・柳 哲雄・川村 宏: 相模湾への黒潮系暖水流入に与える海上風の影響について. 沿岸海洋研究, 41, 83-95
- 19) 柳 哲雄・屋良由美子・松村 剛・石丸 隆: 東京湾のリン・窒素循環に関する数値生態系モデル解析. 海

の研究, 13, 61-72

- 20) 柳 哲雄：東・東南アジア沿岸・縁辺海の海水循環と物質輸送過程. 月刊海洋/号外, 36, 73-74
- 21) 柳 哲雄：熊野灘沿岸海域を「里海」に. 月刊海洋, 36, 522-524
- 22) 柳 哲雄：シンポジウム「沿岸海域における海洋レーダー観測」のまとめ. 沿岸海洋研究, 41, 71
- 23) 柳 哲雄：貧酸素水塊の生成・維持・変動・消滅機構と化学・生物的影響. 海の研究, 13, 451-460

松野 健 (九州大学応用力学研究所)

原著論文

- 1) 藤家 亘, 柳 哲雄, 玉置昭夫, 松野 健; 富岡干潟におけるハルマンスナモグリ幼生の回帰戦略の数値モデルによる解析, 海の研究, 13 (4), 371-388.
- 2) 松野 健, 中田英昭; 有明海の流れ場を支配する物理過程, 沿岸海洋研究, 42 (1), 11-17.
- 3) Isobe, A., E. Fujiwara, P-H. Chang, K. Sugimatsu, M. Shimizu, T. Matsuno and A. Mand; Intrusion of the less saline shelf water into the Kuroshio subsurface layer in the East China Sea, J. Oceanogr., 60 (5), 853-863.

その他

- 4) Matsuno, T., M. Shimizu, J. -S. Lee, A. Isobe, J. Ishizaka, I. -C. Pang, S. -H. Kim and J. Zhu; Dispersion of Changjiang Diluted Water Detected with Drifting Buoys with Salinity Sensor, Proc. 12th PECS, CD-ROM
- 5) Ishizaka, J., A. Wakamatsu, T. Matsuno, M. Shimizu, A. Nishina, H. Ichikawa, Y. S. Suh, 2004; Behavior of chlorophyll a patches observed by satellite and drifting buoys around Jeju Isalnd. Proc. the 2<sup>nd</sup> International Symposium on PEACE.
- 6) Lee, J. H., S. T. Jang, I. -C. Pang, T. Matsuno, D. -K. Lee ; The CDW lens and its movement, Proc. the 2<sup>nd</sup> International Symposium on PEACE, 1-3.
- 7) Pang, I. -C., H. -J. Ko, J. -H. Moon, T. Matsuno, J. -H. Lee, D. -K. Lee; Drifter observations for Changjiang Diluted Water (CDW) in 2003 and 2004, Proc. the 2<sup>nd</sup> International Symposium on PEACE, 4-7.
- 8) Chang, P. -H., A. Isobe, T. Matsuno, M. Shimizu ; The behavior of the Changjiang diluted water in summer 2003, Proc. the 2<sup>nd</sup> International Symposium on PEACE, 13-16.
- 9) Zhu, J., T. Matsuno, J. -H. Lee ; The impact of tide on the extension of the Changjiang Diluted Water, Proc. the 2<sup>nd</sup> International Symposium on PEACE, 17-22.
- 10) Lee, J. S., T. Matsuno, I. -C. Pang, S. -H. Kim, M. Shimizu ; Behavior of Changjiang diluted water estimated by satellite tracking drifters, Proc. the 2<sup>nd</sup> International Symposium on PEACE, 26-29.
- 11) Enomoto, H., T. Senju, T. Matsuno ; Estimation of the Changjiang River discharge from precipitations and salinity variation in the Tsushima strait, Proc. the 2<sup>nd</sup> International Symposium on PEACE, 30-33.

磯辺 篤彦 (九州大学大学院総合理工学研究院)

原著論文

- 1) Isobe, A. "Driving mechanism of band structure of mean current over the continental shelf" Journal of Physical Oceanography, 34 (8), 1839-1855.
- 2) Isobe, A., E. Fujiwara, P. -H. Chang, K. Sugimatsu, M. Shimizu, T. Matsuno, and A. Manda "Intrusion of less saline shelf water into the Kuroshio subsurface layer in the East China Sea" Journal of Oceanography, 60, 853-863.
- 3) Isobe, A., M. Kamachi, Y. Masumoto, H. Uchida, and T. Kuragano "Seasonality of Kuroshio transport revealed in a Kuroshio assimilation system" Journal of Oceanography, 60, 321-328.
- 4) Kamachi, M., T. Kuragano, H. Ichikawa, H. Nakamura, A. Nishina, A. Isobe, D. Ambe, M. Arai, N. Gohda, S. Sugimoto, K. Yoshita, T. Sakurai, F. Ubaldi "Operational data assimilation system for the Kuroshio south of Japan : reanalysis and validation" Journal of Oceanography, 60, 303-312.
- 5) 奥山 聰・高峰真淑・磯辺篤彦 "風応力に起因する対馬海峡の短周期変動について". 海と空, 80, 47-56.

その他

- 6) 磯辺篤彦, 升本順夫, 内田 裕, 蒲地政文, 倉賀野連 "四国沖の黒潮流量の季節変化". 月刊海洋, 37, 41-55
- 7) 蒲地政文, 倉賀野連, 市川 洋, 中村啓彦, 仁科文子, 磯辺篤彦, 安倍大介・荒井正純・江田憲彰, 杉本悟史, 吉田久美, 桜井敏之"実用予測データ同化実験-結果とその検証-". 月刊海洋, 37, 181-195

市川 香 (九州大学応用力学研究所)

原著論文

- 1) K. Ichikawa, N. Gohda, M. Arai and A. Kaneko : Monitoring surface velocity from repeated ADCP observations and satellite altimetry, *J. Oceanogr.*, 365-374, 60.
- 2) D. Ambe, S. Imawaki, H. Uchida and K. Ichikawa : Estimating the Kuroshio axis south of Japan using combination of satellite altimetry and drifting buoys, *J. Oceanogr.*, 375-382, 60.
- 3) 市川 香 : 繰り返し観測時刻にゆらぎのある場合のエイリアシングについて, *海の研究*, 565-573, 13 (6).
- 4) Xiao-Hua Zhu, Hiroshi Ichikawa, Kaoru Ichikawa and Kensuke Takeuchi : Variability of the volume transport southeast of Okinawa Island estimated from satellite altimeter data, *J. Oceanogr.*, 953-962, 60.

その他の論文

- 5) 今脇資郎・市川 香 : 総論 : 黒潮変動予測実験, *月刊海洋*, 号外 No. 37, 5-19.
- 6) 安倍大介・今脇資郎・内田 裕・市川 香 : 衛星海面高度計と漂流ブイの組み合わせによる日本南岸での黒潮流軸の推定, *月刊海洋*, 号外 No. 37, 84-93.
- 7) 中村啓彦・仁科文子・市川 香・市川 洋・Heung-Jae Lie : 東シナ海およびトカラ海峡での黒潮の変動, *月刊海洋*, 号外 No. 37, 106-126.
- 8) 市川 香・江田憲彰・荒井正純・金子 新 : 繰返し ADCP 観測と衛星海面高度計による海面流速のモニタリング, *月刊海洋*, 号外 No. 37, 155-163.
- 9) K. Takeuchi, A. Ostrovskii, A. Kaneko, X. -H. Zhu, J. -H. Park, K. Ichikawa, M. Konda, N. Gohda, S. Umatani, A. Isobe : A Preliminary Experiment for the Japan Coastal Ocean Predictability Experiment (J-COPE) Project, FORSGC Research Report, No. 1, 47-56.

清水 学 (独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所)

原著論文

- 1) 佐藤千鶴, 磯田 豊, 清水 学 : 噴火湾沿岸域の水温変動, *沿岸海洋研究*, 42 (1), 73-83.

その他の論文

- 2) Pil-Hun Chang, Atsuhiro Isobe, Takeshi Matsuno and Manabu Shimizu : The behavior of the Changjiang diluted water in summer 2003, 2nd Workshop of PEACE (Program of the East Asian Cooperative Experiments), Proceeding, 13-16.
- 3) Joon Soo Lee, Takeshi Matsuno, Ig-Chan Pang, Sang-Hyun Kim and Manabu Shimizu: Behavior of Changjiang diluted water estimated by satellite tracking drifters, 2nd Workshop of PEACE (Program of the East Asian Cooperative Experiments), Proceeding, 26-29.
- 4) Joji Ishizaka, Ai Wakamatsu, Takeshi Matsuno, Manabu Shimizu, Ayako Nishina, Hiroshi Ichikawa and Young-Sang Suh : Behavior of chlorophyll a patches observed by satellite and drifting buoys around Jeju Island., 2nd Workshop of PEACE (Program of the East Asian Cooperative Experiments), Proceeding, 34-36.
- 5) 磯田 豊, 坂田陽一郎, 磯野哲郎, 清水 学, 春日一彦, 瀧井章嗣, 藤井智史, 斎藤誠一 : 噴火湾口付近において HF レーダにより観測された潮流と計算された潮流の比較, *北海道大学水産科学研究彙報*, 55(1), 63-69.
- 6) 本多 仁, 池上直也, 米沢純爾, 秋元清治, 飯田益生, 明神寿彦, 清水 学 : 日本周辺におけるキンメダイ *Beryx splendens* の生物学的特性と漁業の実態, *黒潮の資源海洋研究*, 5, 111-119.

藤田 正一 (北海道大学大学院獣医学研究科)

原著論文

- 1) Shaban, Z., El-Shazly, S., Abdelhady, S., Fattouh, I., Muzandu, K., Ishizuka, M., Kimura, K., Kazusaka, A., Fujita, S. Down regulation of hepatic PPARalpha function by AhR ligand. *J Vet Med Sci.* 66 (11) : 1377-86.
- 2) Sakamoto, K. Q., Ishizuka, M., Kazusaka, A., Fujita, S. Iodine intake as a possible cause of discontinuous decline in sperm counts : a re-evaluation of historical and geographic variation in semen quality. *Jpn J Vet Res.* 52 (2) : 85-94.
- 3) Kim HS, Ishizuka M, Kazusaka A, Fujita S. Alterations of activities of cytosolic phospholipase A2 and arachidonic acid-metabolizing enzymes in di- (2-ethylhexyl) phthalate-induced testicular atrophy. *J Vet Med Sci.* 66 (9) : 1119-24.
- 4) Saito K, Sakai N, Kim HS, Ishizuka M, Kazusaka A, Fujita S. Strain differences in diazepam metabolism at its three metabolic sites in sprague-dawley, brown norway, dark agouti, and wistar strain rats. *Drug Metab Dispos.* 32 (9):959-65.
- 5) Shaban Z, El-Shazly S, Ishizuka M, Kimura K, Kazusaka A, Fujita S. Related PPARalpha-dependent modulation

of hepatic CYP1A by clofibrate acid in rats. Arch Toxicol. 78 (9) : 496-507.

- 6) Saito K, Kim HS, Sakai N, Ishizuka M, Kazusaka A, Fujita S. Polymorphism in diazepam metabolism in Wistar rats. J Pharm Sci. 93 (5) : 1271-8

その他の論文

- 7) N. Sakai, K. Saito, Hs. Kim, M. Ishizuka, A. Kazusaka and S. Fujita. Strain Differences in Diazepam Metabolism At Its Three Metabolic Sites in SD, BN, DA and Wistar Rats. Microsomes and Drug Oxidations 123-127
- 8) Z. Shaban, S. El-Shazly, M. Ishizuka, K. Kimura, A. Kazusaka and S. Fujita. Negative Cross-talk Between PPAR $\alpha$  and AHR Microsomes and Drug Oxidations 135-138
- 9) Ishizuka M, Takasuga T, Tanikawa T, Fujita S. Suppression of testosterone syntheses in testes of wild Norway rats in Japan : accumulation of polychlorinated chemicals and polybrominated diphenyl ether and their effect. Tox Appl Pharmacol. 197 (3), 236-237
- 10) K. M. Muzandu, M. Ishizuka, A. Kazusaka and S. Fujita. POSSIBLE INVOLVEMENT OF PEROXYNITRITE IN ESTROGEN-INDUCED OXIDATIVE STRESS AND PROTECTIVE ROLE OF CAROTENOIDS. Tox Appl Pharmacol. 197 (3), 333
- 11) H-S. Kim, M. Ishizuka, A. Kazusaka and S. Fujita. DI-(2-ETHYLHEXYL) PHTHALATE SUPPRESSES TAMOXIFEN-INDUCED APOPTOSIS IN PITUITARY GH3 CELLS. Tox Appl Pharmacol. 197 (3), 371-372

原 彰彦 (北海道大学大学院水産科学研究科)

原著論文

- 1) Toshiaki FUJITA, Haruhisa FUKADA, Munetaka SHIMIZU, Naoshi HIRAMATSU and Akihiko HARA: Quantification of serum levels of precursors to vitelline envelope proteins (choriogenins) and vitellogenin in estrogen treated masu salmon, *Oncorhynchus masou*. Gen. Comp. Endocrinol., 136 : 49-57.
- 2) Nobuyuki OHKUBO, Tadashi ANDOH, Kazuhiko MOCHIDA, Shinji ADACHI, Akihiko HARA and Takahiro MATSUBARA : Deduced primary structure of two forms of vitellogenin in Japanese common goby (*Acanthogobius flavimanus*). Gen. Comp. Endocrinol., 137 : 19-28.
- 3) Naotaka OMOTO, Mamoru MAEBAYASHI, Akihiko HARA, Shinji ADACHI and Kohei YAMAUCHI : Gonadal maturity in wild sturgeons, *Huso dauricus*, *Acipenser mikadoi* and *A. schrenckii* caught near Hokkaido, Japan. Environ. Biol. Fish., 70 : 381-390.
- 4) 天野春菜・深田陽久・藤田敏明・小林直人・坂岡桂一郎・原 彰彦：化学発光免疫測定法によるメバチマグロ血中ビテロジエニン測定系の確立. 水産増殖, 52 : 293-300.
- 5) 兼俊明夫・桂 英二・藤本 啓・小島弘幸・堀 義宏・深田陽久・高原志樹・原 彰彦：コイ肝細胞培養系を用いた化学物質の内分泌攪乱作用検出法の研究—エストロゲン類によるビテロジエニン誘導試験—. 道衛生研所報, 54 : 1-6.
- 6) 兼俊明夫・桂 英二・藤本 啓・小島弘幸・堀 義宏・深田陽久・高原志樹・原 彰彦：コイ肝細胞培養系を用いた化学物質の内分泌攪乱作用検出法の研究-農薬など各種化学物質の内分泌攪乱作用の検出-. 道衛生研所報, 54 : 7-14.
- 7) Katsuhisa BABA, Akira MIYAMOTO and Akihiko HARA : Relationship between the vitellin concentration in the hemolymph and oocyte necroses during the annual reproduction cycle in the Japanese scallop, *Mizuhopecten yessoensis*. Invert. Reprod. Develop., 45 : 175-184.
- 8) Norihide NAKADA, Hiroshi NYUNOYA, Masaru NAKAMURA, Akihiko HARA, Taisen IGUCHI and Hideshige TAKADA : Identification of estrogenic compounds in wastewater effluent. Environ. Toxicol. Chem., 23 : 2807-2815.
- 9) Haruhisa FUKADA, Yuichi OZAKI, Andy L. PIERCE, Shinji ADACHI, Kohei YAMAUCHI, Akihiko HARA, Penny SWANSON and Walton W. DICKHOFF: Salmon growth hormone receptor: molecular cloning, ligand specificity, and response to fasting. Gen. Comp. Endocrinol., 139 : 61-71.
- 10) Osamu SAIKA, Yoko KOHAYAKAWA, Yoshinobu FUJII and Akihiko HARA : Sex differences in the acute and long-term toxicity of Copper, Chromium and Zinc to *Daphnia magna*. Jpn. J. Environ. Toxicol., 7 : 105-112.

## シンポジウムプロシードィング

- 11) Hajime MATSUBARA, Toshiro HIRAI, Yu TERAMOTO, Masashi SATOH, Akihiko HARA, Masaru NAKAMURA: Effect of estrogenic substances on gametogenesis in generally controlled male common carp, *Cyprinus carpio*. Proceedings of the fifth congress of AOSCE in conjunction with the annual meeting of JSCE, pp. 502-504, Nara, Japan, March 26-30.
  - 12) Masaki NAGAE, Fumie KAWASAKI, Ioanna KATSIADAKI, Alexander P. SCOTT, Kiyoshi SOYANO, Takahiro MATSUBARA, Nobuyuki OHKUBO, Akihiko HARA and Koji ARIZONO : Molecular approach to spiggin, the bio-marker for environmental androgens, in the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*. Korea-Japan, Japan-Korea Joint Meeting on Reproductive Biology of Aquatic Animals, pp. 13, Cheju National Univ., Cheju, Korea, November 11-12.
  - 13) Tatsunori WADA, Haruna AMANO, Toshiaki FUJITA and Akihiko HARA : Serum levels of main vitellogenin (Vg1) in red lip mullet. Korea-Japan, Japan-Korea Joint Meeting on Reproductive Biology of Aquatic Animals, pp. 19, Cheju National Univ., Cheju, Korea, November 11-12.
  - 14) Haruna AMANO, Toshiaki FUJITA, Hiroyoshi FUJINO, Hirohiko KAGAWA, In-Kyu YEO and Akihiko HARA : Characterization of three classes of vitellogenins and lipovitellin in grey mullet. Korea-Japan, Japan-Korea Joint Meeting on Reproductive Biology of Aquatic Animals, pp. 20, Cheju National Univ., Cheju, Korea, November 11-12.
  - 15) Ayaka HATSUYAMA, Miki HIRAI, Akihiko HARA and Kiyoshi SOYANO : The influence of ethynodiol on the gonadal development and vitellogenin production in the sexually undifferentiated juvenile grey mullet *Mugil cephalus*. Korea-Japan, Japan-Korea Joint Meeting on Reproductive Biology of Aquatic Animals, pp. 21-22, Cheju National Univ., Cheju, Korea, November 11-12.
  - 16) Katsuko SAKAKI, Hajime MATSUBARA, Toshiaki HIRAI, Akihiko HARA and Masaru NAKAMURA : Effects of benzophenone on testicular differentiation in carp, *Cyprinus carpio*. Korea-Japan, Japan-Korea Joint Meeting on Reproductive Biology of Aquatic Animals, pp. 24-25, Cheju National Univ., Cheju, Korea, November 11-12.
  - 17) Moon Hyu YANG, Mi K. CHOE, Akihiko HARA and In-Kyu YEO : Expression of HSP 70 (heat shock protein) and cellular stress response induction by endocrine disruptors in hepatocyte primary culture of the olive flounder, *Paralichthys olivaceus*. Korea-Japan, Japan-Korea Joint Meeting on Reproductive Biology of Aquatic Animals, pp. 34-35, Cheju National Univ., Cheju, Korea, November 11-12.
  - 18) Akihiko HARA : Fish vitellogenin as a biomarker for environmental estrogen. Korea-Japan, Japan-Korea Joint Meeting on Reproductive Biology of Aquatic Animals, pp. 37-39, Cheju National Univ., Cheju, Korea, November 11-12.
- 著 書 (分担)
- 19) 原 彰彦・征矢野清・大久保信幸・松原孝博：沿岸性魚類, pp. 105-118, 微量人工化学物質の生物モニタリング140, 水産学シリーズ (竹内一郎・田辺信介・日野明徳編, 日本水産学会監修). 恒星社厚生閣, 東京.

## 森 千里 (千葉大学大学院医学研究院)

- 1) Sakurai K, Todaka E, Saito Y and Mori C : Pilot study to reduce dioxins in the human body. Internal Medicine 43 : 792-795.
- 2) Fukata H and Mori C : Epigenetic alteration by the chemical substances, food and environmental factors. Reproductive Medicine and Biology 3 : 115-121.
- 3) Koh KB, Komiyama M, Toyama Y, Adachi T and Mori C : Percoll fractionation of adult mouse spermatogonia improves germ cell transplantation. Asian Journal of Andrology 6 : 93-98.
- 4) Kijima K, Toyosawa K, Yasuda M, Matsuoka N, Adachi T, Komiyama M and Mori C : Gene expression analysis of the rat testis after treatment with di (2-ethylhexyl) phthalate using cDNA microarray and real-time RT-PCR. Toxicology and Applied Pharmacology 200 : 103-110.
- 5) Mori C : High-risk group and high-risk life stage : Key issues in adverse effects of environmental agents on human health. Reproductive Medicine and Biology 3 : 51-58.
- 6) Anahara R, Toyama Y and Mori C : Flutamide induces ultrastructural changes in spermatids and the ectoplasmic specialization between the Sertoli cell and spermatids in mouse testes. Reproductive Toxicology 18 : 589-596.
- 7) Sakurai K, Kawazuma M, Adachi T, Harigaya T, Saito Y, Hashimoto H and Mori C : Bisphenol A affects to glucose transport in mouse 3T3-F442A adipocytes. Brit J Pharmacol 141 : 209-214.
- 8) Matsuno Y, Adachi T, Koh K-B, Fukata H, Sugimura A, Sakurai K, Shibayama T, Iguchi T, Komiyama M and

- Mori C : Effect of neonatal exposure to diethylstilbestrol on testicular gene expression in adult mouse : comprehensive analysis with cDNA subtraction method. *Int J Androl* 27 : 115-122.
- 9) Adachi T, Ono Y, Koh K-B, Takashima K, Tainaka H, Matsuno Y, Nakagawa S, Todaka E, Sakurai K, Fukata H, Iguchi T, Komiyama M and Mori C : Long-term alteration of gene expression without morphological change in testis after neonatal exposure to genistein in mice : toxicogenomic analysis using cDNA microarray. *Food Chem Toxicol* 42 : 445-452.
- 10) Adachi T, Koh K-B, Tainaka H, Matsuno Y, Ono Y, Sakurai K, Fukata H, Iguchi T, Komiyama M and Mori C : Toxicogenomic difference between diethylstilbestrol and 17b-estradiol in mouse testicular gene expression by neonatal exposure. *Mol Reprod Dev* 67 : 19-25.
- 11) 森 千里:胎児の複合汚染とその対策－次世代環境健康学プロジェクトと人材養成－臨床環境医学 13 : 79-82.
- 12) 深田秀樹, 森 千里:胎児を基準とした化学物質のリスク評価と対策の開発の試み, ファルマシア 40: 328-332.
- 13) 大道公秀, 松野義晴, 門田朋子, 国府田正雄, 前川真見子, 外山芳郎, 小宮山政敏, 戸高恵美子, 深田秀樹, 立木幸敏, 河野俊彦, 森 千里:解剖実習によるホルムアルデヒド曝露と自覚症状の変動, 解剖学雑誌 79 : 95-100.
- 14) 松野義晴, 門田朋子, 国府田正雄, 小宮山政敏, 前川真見子, 外山芳郎, 立木幸敏, 河野俊彦, 森 千里:千葉大学における肉眼解剖実習見学の指導担当制の導入とその成果, 解剖学雑誌 79 : 35-39.
- 15) 森 千里, 戸高恵美子:化学物質による胎児の複合汚染 ハイリスクグループの存在と,「次世代環境健康学」創生の必要性, 科学 74 : 38-42.

著 書

- 16) 森 千里 : 未来世代のために －新米医学部教授の七転八倒－, 環境新聞社, 東京.

小宮山政敏 (千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センター)

原著論文

- 1) Koh KB, Komiyama M, Toyama Y, Adachi T and Mori C: Percoll fractionation of adult mouse spermatogonia improves germ cell transplantation. *Asian Journal of Andrology* 6 : 93-98.
- 2) Kijima K, Toyosawa K, Yasuda M, Matsuoka N, Adachi T, Komiyama M and Mori C : Gene expression analysis of the rat testis after treatment with di (2-ethylhexyl) phthalate using cDNA microarray and real-time RT-PCR. *Toxicology and Applied Pharmacology* 200 : 103-110.
- 3) Matsuno Y, Adachi T, Koh K-B, Fukata H, Sugimura A, Sakurai K, Shibayama T, Iguchi T, Komiyama M and Mori C : Effect of neonatal exposure to diethylstilbestrol on testicular gene expression in adult mouse : comprehensive analysis with cDNA subtraction method. *Int J Androl* 27 : 115-122.
- 4) Adachi T, Ono Y, Koh K-B, Takashima K, Tainaka H, Matsuno Y, Nakagawa S, Todaka E, Sakurai K, Fukata H, Iguchi T, Komiyama M and Mori C : Long-term alteration of gene expression without morphological change in testis after neonatal exposure to genistein in mice : toxicogenomic analysis using cDNA microarray. *Food Chem Toxicol* 42 : 445-452.
- 5) Adachi T, Koh K-B, Tainaka H, Matsuno Y, Ono Y, Sakurai K, Fukata H, Iguchi T, Komiyama M and Mori C : Toxicogenomic difference between diethylstilbestrol and 17b-estradiol in mouse testicular gene expression by neonatal exposure. *Mol Reprod Dev* 67 : 19-25.

その他の論文

- 6) 大道公秀, 松野義晴, 門田朋子, 国府田正雄, 前川真見子, 外山芳郎, 小宮山政敏, 戸高恵美子, 深田秀樹, 立木幸敏, 河野俊彦, 森 千里:解剖実習によるホルムアルデヒド曝露と自覚症状の変動. 解剖学雑誌 79 : 95-100.
- 7) 松野義晴, 門田朋子, 国府田正雄, 小宮山政敏, 前川真見子, 外山芳郎, 立木幸敏, 河野俊彦, 森 千里:千葉大学における肉眼解剖実習見学の指導担当制の導入とその成果. 解剖学雑誌 79 : 35-39.

藤瀬 良弘 (財団法人日本鯨類研究所)

著 書

- 1) 藤瀬良弘・田村 力・坂東武治・小西健志・安永玄太: イワシクジラとニタリクジラ. 鯨研叢書 11, 日本鯨類研究所, 168pp.

## 原著論文

- 2) Kim, E. Y., Iwata, H., Fujise, Y. and Tanabe, S.: Searching for novel CYP members using cDNA library from a minke whale liver. *Mar. Environ. Res.* 58 : 495-498.
- 3) Watanabe, H., Mogoe, T., Asada, M., Hayashi, K., Fujise, Y., Ishikawa, H., Ohsumi, S., Miyamoto, A. and Fukui, Y.: Relationship between Serum Sex Hormone Concentrations and Histology of Seminiferous Tubules of Captured Baleen Whales in the Western North Pacific during the Feeding Season. *Journal of Reproduction and Development* 50 (4) : 419-427.
- 4) Kazue Ohishi, Kiyotaka Takishita, Masaru Kawato, Ryoko Zenitani, Takeharu Bando, Yoshihiro Fujise, Yoshitaka Goto, Saburo Yamamoto, Tadashi Maruyama. Molecular evidence of new variant Brucella in North Pacific common minke whales. *Microbes and Infection* 6 (13) : 1199-1204

## その他の論文

- 5) 藤瀬良弘：クジラと私—4ジラを追って南へ北へー. 勇魚40. 54-65.
- 6) 藤瀬良弘：総合討論. 勇魚40. 82-91.
- 7) 安永玄太・藤瀬良弘：ヒゲクジラの栄養学－栄養成分から見る捕獲調査副産物の特徴についてー. 鯨研通信 423 : 1-5, 2004/9.
- 8) Tamura, T., Fujise, Y., Bando, T., Yasunaga, G., Konishi, K., Kiwada, H., Isoda, T., Itoh, S., Machida, S., Tsunekawa, M., Konagai, T., Takamatsu, T., Ohshima, T., Honjo, K., Matsuoka, T., Zharikov, K. A., An, Y. R., Tohyama, D. and Kawahara, S.: Cruise Report of the Japanese Whale Research Program under Special Permit in the western North Pacific -Phase II (JARPN II) in 2003 (part I) - Offshore component - Paper SC/56/O13. 47pp.
- 9) Tamura, T., Konishi, K. and Fujise, Y.: Preliminary analyses of prey consumption of three baleen whales and their interaction with fisheries in the western North Pacific. Paper SC/56/O15. 13pp.
- 10) Tamura, T., Konishi, K., Hakamada, T., Matsuoka, K., Murase, H., Miyashita, T., Kishiro, T., Ohizumi, H., Kato, H., Kawahara, S. and Fujise, Y.: Preliminary analyses of interaction between common minke whales and fisheries off Kushiro region. Paper SC/56/O16. 16pp.

## シンポジウム・学会発表など

- 11) Yoshihiro Fujise, Koji Matsuoka, Hiroto Murase, Shigetoshi Nishiwaki and Hidehiro Kato. Existence of hot spots of large sized baleen whale concentration in pelagic zone of the western North Pacific ; its biological and oceanographical features'. (PICES XIII S4-1983). S4 : FIS/BIO Topic Session : ' Hot spots and their use by migratory species and top predators in the North Pacific ' Thirteenth Annual Meeting to be held October 14-24, 2004, at the Hawaii Convention Center, Honolulu, Hawaii, U. S. A
- 12) 藤瀬良弘・中田晴彦・銭谷亮子・新美聰子・後藤睦夫・田辺信介. 重金属及び有機塩素化合物を指標とした北西太平洋ミンククジラの系群判別の試み. 平成17年日本水産学会春季大会. 2004年4月. 東京海洋大学.
- 13) 藤瀬良弘. クジラ類の生活と環境変化. シンポジウム「海の利用と保全－野生動物との共存を目指してー」平成16年度日本水産学会関東支部大会 2004年11月14日. 東京大学農学部弥生講堂.
- 14) 小西健志・倉持利明・田村 力・藤瀬良弘. 北西太平洋における鯨類4種の寄生虫. 平成17年日本水産学会春季大会. 2004年4月. 東京海洋大学.
- 15) 田村 力・小西健志・藤瀬良弘. 夏季の北西太平洋におけるヒゲクジラ3種の食性とその特性. 平成17年日本水産学会春季大会. 2004年4月. 東京海洋大学.
- 16) 銭谷亮子・藤瀬良弘・坂東武治・木白俊哉, 加藤秀弘. 北西太平洋ミンククジラの棲み分け (続報). 平成17年日本水産学会春季大会. 2004年4月. 東京海洋大学.
- 17) Kazue Ohishi, Kiyotaka Takishita, Masaru Kawato, Ryoko Zenitani, Takeharu Bando, Yoshihiro Fujise, Yoshitaka Goto, Saburo Yamamoto, Tadashi Maruyama. Molecular characterization of Brucella from North Pacific common minke whales. OCEANS'04/MTS/IEEE/TECHNO-OCEAN'04
- 18) 大石和恵, 瀧下清貴, 河戸 勝, 銭谷亮子, 坂東武治, 藤瀬良弘, 後藤義孝, 山本三郎, 丸山 正. PCR 法による北西太平洋ミンククジラにおけるブルセラ菌遺伝子の検出と配列の解析. 平成16年 日本獣医学会 平成16年 北海道大学
- 19) 大石和恵, 瀧下清貴, 河戸 勝, 銭谷亮子, 坂東武治, 藤瀬良弘, 後藤義孝, 内田和幸, 山本三郎, 丸山 正. 北西太平洋に棲息するミンククジラにおけるブルセラ菌感染症の解析. 第16回比較免疫学会学術集会. 2004年8月. 琉球大学研究者交流施設・50周年記念館

高田 秀重（東京農工大学農学部）

原 著

- 1) Satoshi Managaki and Hideshige Takada : Fluorescent Whitening Agents in Tokyo Bay sediments : molecular evidence of lateral transport of land-derived particulate matter, *Marine Chemistry*, in press.
- 2) Norihide Nakada, Hiroshi Nyunoy, Masaru Nakamura, Akihiko Hara, Taisen Iguchi, Hideshige Takada: Identification Of Estrogenic Compounds In Wastewater Effluent, *Environmental Toxicology and Chemistry*, in press.
- 3) Dong-Myung Kim, Norihide Nakada, Toshihiro Horiguchi, Hideshige Takada, Hiroaki Shiraishi, and Osami Nakasugi: Numerical simulation of organic chemicals in a marine environment using a coupled 3D hydrodynamic and ecotoxicological model, *Mar. Pollut. Bull.*, Vol 48, no. 7-8 pp 671-678.
- 4) Tomoaki Okuda, Hidetoshi Kumata, Hiroshi Naraoka, Hideshige Takada : Molecular composition and compound-specific stable carbon isotope ratio of polycyclic aromatic hydrocarbons (PAHs) in the atmosphere in suburban areas, *Geochemical Journal*, vol. 38, no. 1, p. 89-100.
- 5) Naoki Kaneyasu and Hideshige Takada : Seasonal variations of sulfate, carbonaceous species (black carbon and PAHs), and trace metals in fine atmospheric aerosols collected at subtropical islands in the East China Sea. *Journal of Geophysical Research - Atmospheres*, in press.
- 6) Kei O. Isobe, Mohamad P. Zakaria, Nguyen H. Chiem, Le Y. Minh, Maricar Prudente, Ruchaya Boonyatumonond, and Hideshige Takada : Distribution of linear alkylbenzenes (LABs) in riverine and coastal environments in South and Southeast Asia. *Water Research*, vol.. 38, p. 2449-2459.
- 7) Hirohide Kanke, Masao Uchida, Tomoaki Okuda, Minoru Yoneda, Hideshige Takada, Yasuyuki Shibat, Masatoshi Morita : Compound-specific radiocarbon analysis of polycyclic aromatic hydrocarbons (PAHs) in sediments from an urban reservoir, *Nuclear Instruments & Methods in Physics Research B*, vol. 223–224, p. 545-554.
- 8) Kei O. Isobe, Mitsunori Tarao, Nguyen H. Chiem, Le Y. Minh, and Hideshige Takada : Effect of Environmental Factors on the Relationship between Concentrations of Coprostanol and Fecal Indicator Bacteria in Tropical (Mekong Delta) and Temperate (Tokyo) Freshwaters. *Applied and Environmental Microbiology*. vol. 70, p. 814-821.
- 9) Tomohiko Isobe and Hideshige Takada : Determination of degradation products of alkylphenol polyethoxylates in municipal wastewaters and rivers in Tokyo, *Environmental Toxicology and Chemistry*, vol. 23, p. 599-605.

著 書

- 10) 野村英明, 和田 実, 山田美穂子, 豊田圭太, 西村昌彦, 吉田明弘, 柴田 晃, 岡本 研, 高田秀重, 木暮一啓, 大和田紘一: 流出油の海洋生態系への影響—ナホトカ号の事例を中心に—「. 生態系への短期的影響の実験的アプローチ. 2. メソコスムを用いた重油水溶性画分の生態系への影響と消失過程, 水産学シリーズ no. 145, p. 19-35.
- 11) 高田秀重, 秋山賢一郎, 山口友加, 堤 史薰, 金井美季, 遠藤智司, 滝澤玲子, 奥田啓司: 微量人工化学物質の生物モニタリング—無脊椎動物. 2. ムラサキイガイ, 水産学シリーズ, no. 140, p. 24-36.

井口 泰泉（自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター）

著 書

- 1) 井口泰泉：森田昌敏編, 考えよう地球環境7 化学物質と健康の本. ポプラ社.
- 2) 井口泰泉：化学物質管理の必要性. 「化審法改正のポイント」. 中園繁克, 塚島順一編. 化学工業日報社. pp. 458.

原著論文

- 3) Adachi, T., K. -B. Koh, H. Tainaka, Y. Matsuno, Y. Ono, K. Sakurai, H. Fukata, T. Iguchi, M. Komiyama and C. Mori : Toxicogenomic difference between diethylstilbestrol and 17b-estradiol in mouse testicular gene expression by neonatal exposure. *Mol. Reprod. Devel.*, 67 : 19-25.
- 4) Miyagawa, S., Y. Katsu, H. Watanabe and T. Iguchi : Estrogen-independent activation of ErbBs signaling and estrogen receptor  $\alpha$  in the mouse vagina exposed neonatally to diethylstilbestrol. *Oncogene*, 23 : 340-349.
- 5) Uchida, D., M. Yamashita, T. Kitano and T. Iguchi: An aromatase inhibitor or high water temperature induce oocyte apoptosis and depletion of P450 aromatase activity in the gonads of genetic female zebrafish during sex-reversal. *Comp. Biochem. Physiol. Part A* : 137 : 11-20.

- 6) Katsu, Y., D. S. Bermudez, E. L. Braun, C. Helbing, S. Miyagawa, M. P. Gunderson, S. Kohno, T. A. Bryan, L.J. Guillette, Jr. and T. Iguchi : Molecular cloning of the estrogen and progesterone receptors of the American alligator. *Gen. Comp. Endocr.*, 136 : 122-133.
- 7) Matsuno, Y., T. Adachi, K. B. Koh, H. Fukata, A. Sugimura, K. Sakurai, T. Shibayama, T. Iguchi, M. Komiyama and C. Mori : Effect of neonatal exposure to diethylstilbestrol on testicular gene expression in adult mouse : comprehensive analysis with cDNA subtraction method. *Internat. J. Androl.*, 27 : 115-122.
- 8) Adachi, T., Y. Ono, K. B. Koh, K. Takashima, H. Tainaka, Y. Matsuno, S. Nakagawa, E. Todaka, K. Sakurai, H. Fukata, T. Iguchi, M. Komiyama and C. Mori : Long-term alteration of gene expression without morphological change in testis after neonatal exposure to genistein in mice : Toxicogenomic analysis using cDNA microarray. *Food Chem. Toxicol.*, 42 : 445-452.
- 9) Kato, H., T. Iwata, Y. Katsu, H. Watanabe, Y. Ohta and T. Iguchi : Evaluation of estrogenic activity in diets for experimental animals using in vitro assay. *J. Agric. Food Chem.*, 52 : 1410-1414.
- 10) Adachi T, K. B. Koh, H.. Tanikawa, Y. Matsuno, Y. Ono, K. Sakurai, H. Fukata, T. Iguchi, M. Komiyama and C. Mori : Toxicogenomic difference between diethylstilbestrol and 17b-estradiol in mouse testicular gene expression by neonatal exposure. *Mol. Reprod. Devel.*, 67 : 19-25.
- 11) Tatarazako, N., M. Koshio, H. Hori, M. Morita and T. Iguchi : Validation of an enzyme-linked immunosorbent assay method for vitellogenin in the medaka. *J. Health Sci.*, 50 : 301-308.
- 12) Miyagawa, S., A. Suzuki, Y. Katsu, M. Kobayashi, M. Goto, H. Handa, H. Watanabe and T. Iguchi : Persistent gene expression in mouse vagina exposed neonatally to diethylstilbestrol. *J. Mol. Endocr.*, 32 : 663-677.
- 13) Okada, A., Y. Ohta, S. L. Brody, A. Krust, P. Chambon and T. Iguchi : Essential role of foxj1, but not of estrogen receptor alpha in ciliated epithelial cell differentiation of the neonatal oviduct. *J. Mol. Endocr.*, 32 : 615-625.
- 14) Watanabe, H., A. Suzuki, M. Goto, D. B. Lubahn, H. Handa and T. Iguchi : Tissue-specific estrogenic and non-estrogenic effects of a xenoestrogen, nonylphenol. *J. Mol. Endocr.*, 33 : 243-252.
- 15) 鏡迫典久, 小田重人, 阿部良子, 森田昌敏, 井口泰泉 : ミジンコを用いた甲殻類に対する内分泌搅乱化学物質のスクリーニング法開発. 環境科学会誌, 17 (6) : 439-449.
- 16) Okada, A., Y. Ohta, S. L. Brody and T. Iguchi : Epithelial c-jun and c-fos are temporally and spatially regulated by estradiol during neonatal rat oviduct differentiation. *J. Endocrinol.*, 182 : 219-227.
- 17) Sato, T., Y. Fukazawa, Y. Ohta and T. Iguchi: Sustained mRNA expressions of growth factors participate in inducing estrogen-independent persistent proliferation of vaginal epithelium of mice exposed neonatally to diethylstilbestrol. *Reprod. Toxicol.*, 19 : 43-51.
- 18) Kohno, S., M. Fujime, Y. Kamishima and T. Iguchi : Sexually dimorphic basal water absorption at the isolated pelvic patch of Japanese tree frog, *Hyla japonica*. *J. Exp. Zool.*, 301A : 428-438.
- 19) Seiwa, C., K. Tanaka, J. Nakahara, T. Komiyama, Y. Katsu, T. Iguchi and H. Asou : Bisphenol A exerts thyroid-hormone-like effects on mouse oligodendrocyte precursor cell. *Neuroendocrinology*, 80 : 21-30.
- 20) Sone, K., M. Hinago, A. Kitayama, J. Morokuma, N. Ueno, H. Watanabe and T. Iguchi : Effect of 17b-estradiol, nonylphenol and bisphenol-A on developing *Xenopus laevis* embryos. *Gen. Comp. Endocr.*, 138 : 228-236.
- 21) Yoshinaga, N., E. Shiraishi, T. Yamamoto, T. Iguchi, S. -I. Abe and T. Kitano : Sexually dimorphic expression of a teleost homologue of Mullerian inhibitory substance (MIS) during gonadal sex differentiation in Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*. *BBRC*, 322 : 508-513.
- 22) Tominaga, N., S. Kohra, T. Iguchi and K. Arizono : Effects of perfluoro organic compound toxicity on nematode *Caenorhabditis elegans* fecundity. *J. Health Sci.*, 50 : 545-550.
- 23) Watanabe, H., A. Suzuki, M. Goto, S. Ohsako, C. Tohyama, H. Handa and T. Iguchi : Comparative uterine gene expression analysis after dioxin and estradiol administration. *J. Mol. Endocr.*, 33 : 763-771.
- 24) Nakada, N., H. Nyunoy, M. Nakamura, A. Hara, T. Iguchi and H. Takada : Identification of estrogenic compounds in wastewater effluent. *Environ. Toxicol. Chem.*, 23 : 2807-2815.
- 25) Inudo, M., H. Ishibashi, N. Matsumura, M. Matsuoka, T. Mori, S. Taniyama, K. Kadokami, M. Koga, R. Shinohara, T. Hutchinson, T. Iguchi and K. Arizono : Levels of estrogenicity, dietary phytoestrogen and organochlorine pesticide in an experimental fish diet and reproduction and hepatic vitellogenin expression in medaka (*Oryzias latipes*). *Comp. Med.*, 54 : 673-680.

## その他

- 26) 井口泰泉：環境ホルモン研究と野生動物・生態系. 科学74: 53-58.
- 27) 井口泰泉：野生動物の内分泌攪乱のメカニズムを探る. 現代化学 No. 397: 34-39.
- 28) 井口泰泉：環境ホルモンによる生態系の攪乱. 環境研究, No. 132: 60-68.
- 29) 井口泰泉：日本がリードする環境ホルモン問題. 時報, 37 (10): 32-33.
- 30) 井口泰泉：ゴーダン会議に参加して. 環境ホルモン学会ニュースレター. 7 (2): 4
- 31) 井口泰泉：環境ホルモンの最新動向. 生活と環境, 49 (9): 9-13.

## 松井 三郎（京都大学地球環境学大学院）

- 1) 松井三郎編著, 『地球環境保全の法としくみ シリーズ11』, コロナ社, 316ページ
- 2) Saburo Matsui, Towards a new form of urban sanitation and water infrastructure, Industry and Environment. vol. 27. No. 1. pp. 41-46. January-March. UNEP.
- 3) Sugihara, S. Kitamura, T. Yamada, T. Okayama, S. Ohta, K. Yamashita, M. Yasuda, Y. Fujii-Kuriyama, K. Saeki, S. Matsui, T. Matsuda : Aryl hydrocarbon receptor-mediated induction of microsomal drug-metabolizing enzyme activity by indirubin and indigo, Biochem. Biophys. Res. Commun., 318, 571-578.
- 4) 原田英典, 内海秀樹, 松田知成, Uno Winblad, 松井三郎, 小野了代, Duong Trong Phi : ベトナムダンフオン村における衛生改善活動, 環境衛生工学研究, 18 (2), 22-30.
- 5) S. Iwasaki, S. Kato, M. Takahashi, T. Kimura, K. Sakka, K. Ohmiya, T. Matsuda, S. Matsui : Analysis of Estrogen-Like Compounds in the Environment by High Performance Liquid Chromatography Bioassay, Journal of Bio-science and Bioengineering, 97 (3), 216-218.
- 6) J. Adachi, Y. Mori, S. Matsui, T. Matsuda : Comparison of Gene Expression Patterns between 2,3. 7. 8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin and a Natural Arylhydrocarbon Receptor Ligand, Indirubin, Toxicol. Sci., 80, 161-169.
- 7) 松井三郎, 高分子, 内分泌攪乱物質ならびに毒性物質の生分解5. 5. 内分泌攪乱物質の環境汚染による将来影響. 防菌坊叢書. Vol. 32. No. 8. pp. 413-418.
- 8) S. Matsui : Towards a new form of urban sanitation and water infrastructure, UNEP Industry and Environment. Vol. 27. No. 1. January-March. pp. 41-45.
- 9) 松井三郎：内分泌攪乱物質の研究はどこまで進んでいるか. OHM. May. pp. 4-5.
- 10) K. Sugihara, S. Kitamura, T. Yamada, T. Okayama, S. Ohta, K. Yamashita, M. Yasuda, Y. F-Kitamura, K. Saeki, S. Matsui, T. Matsuda: Aryl hydrocarbon receptor-mediated induction of microsomal drug-metabolizing enzyme activity by indirubin and indigo, Biochemical and Biophysical Research Communicatins. 318. pp. 571-578.
- 11) S. Matsui : Drainage basin security of hazardus chemical fluxe in the Yod River basin. Water Science and Technology. Vol49 No. 7. pp. 189-197.
- 12) S. G. Kim. S. L. Jeon. B. G. Kim. R. Yamamoto. S. Matsui. J. Hamada:Fluorecence Measurements for Potassium Cyanide using Closterium ehrenbergii. 環境システム計測制御学会誌. Vol. 9. No. 1.
- 13) 松井三郎：最新成果：内分泌攪乱物質による環境リスク研究. 環境システム計測制御学会誌. Vol. 9. No. 1.
- 14) 松井三郎：人体のサイエンスが、地球の水環境を改善する. 三栄水栓製作所五十年史 水明 SANEI View. pp. 18-25.
- 15) M. Kawanishi. T. Takamura, E. Ermawati, C. Shimohara, M. Sakamoto, K. Matsukawa, T. Matsuda, T. Murahashi, S. Matsui, K. Wakabayashi, Y. Tashiro, T. Yagi : Detection of Genistein as an Estrogenic Contaminant of River Water in Osaka. Environmental Science and Technology.
- 16) 松井三郎：国際社会からみた日本の下水道事業の特長と改善方向. 水坤. 7月号. Vol. 28. pp. 11-13.
- 17) 松田知成, 足立淳, 松井三郎：ダイオキシン受容体リガンドの分類の必要性. News Letter Endocrine Disrupter. Vol. 7. No. 2. p. 3.
- 18) Lee, B. C., Matsui, S., Shimizu, Y., Matsuda, T. & Tanaka, Y.: "A New Installation for Treatment of Road Runoff; Up-Flow Filtration by Porous Polypropylene (PPL) Media," Proceedings of the Marrakech 2004 IWA World Water Congress (in CD), Marrakech.
- 19) Zhang, X., Minear, R. A., Guo, Y., Hwang, C. J., Barrett, S. E., Ikeda, K., Shimizu, Y. & Matsui, S. : "An Electrospray Ionization-Tandem Mass spectrometry Method for Identifying Chlorinated Drinking Water Disinfection yproducts," Water Research, Vol. 38, pp. 3920-3930.

- 20) Manabu Yasui, Naomi Suzuki, Holly Miller, Tomonari Matsuda, Saburo Matsui, Shinya Shibutani : Translesion Synthesis past 2' -Deoxyxanthosine, a Nitric Oxide-derived DNA Adduct, by Mammalian DNA Polymerases. *J. Mol. Biol.* 344, 665-674.

大嶋 雄治 (九州大学農学研究院)

原著論文

- 1) Inoue S, Oshima Y, Nagai K, Yamamoto T, Go J, Hiramatsu J, Okada M, Imada N and Honjo T : Maternal effect of tributyltin on reproduction of pearl oyster, *Pinctada fucata martensi*. *Environ Toxicol Chem* 23, 1276-1281.
- 2) Nakayama K, Oshima Y, Yamaguchi T, Tsuruda Y, Kang IJ, Kobayashi M, Imada N, Honjo T : Fertilization success and sexual behavior in male medaka, *Oryzias latipes*, exposed to tributyltin. *Chemosphere* 55, 1331-1337.
- 3) Omura M, Shimasaki Y, Oshima Y, Nakayama K, Kubo K, Aou S, Ogata R, Hirata M, Inoue N : Distribution of tributyltin, dibutyltin and monobutyltin in the liver, brain and fat of rats : two-generation toxicity study of tributyltin chloride. *Environmental Sciences* 11, 123-132.
- 4) Nakayama K, Oshima Y, Hiramatsu, K and Honjyo T : Alteration of general behavior of male medaka, *Oryzias latipes*, exposed to tributyltin and/or polychlorinated biphenyls. *J. Fac. Agr. Kyushu Univ.*, 49 (1), 85-92.

Proceedings

- 5) Oshima Y., Shimasaki Y, InoueS, Nakayama K, Honjo T. Effect of tributyltin on reproduction of bivalves and fish. in Proceedings in International Symposium on Antifouling Paints and Marine Environment. pp 124-132. Jan 27-30, The Diamond Hotel, Tokyo.

総 説

- 6) 大嶋雄治, 本城凡夫 : III. - 1. メダカ 水産学会シリーズ 140 微量人工化学物質の生物モニタリング / 竹内一郎・田辺信介・日野明徳 編 恒星社厚生閣 pp 8

有薦 幸司 (熊本県立大学環境共生学部)

- 1) M. Inudo, H. Ishibashi, N. Matsumura, M. Matsuoka, T. Mori, S. Taniyama, K. Kadokami, M. Koga, R. Shinohara, Hutchinson T. H., T. Iguchi and K. Arizono : Effect of estrogenic activity, and phytoestrogen and organochlorine pesticide contents in an experimental fish diet on reproduction and hepatic vitellogenin production in medaka (*Oryzias latipes*). *Comparative Medicine*, 54 (6) pp. 673-680
- 2) M. Hirano, H. Ishibashi, N. Watanabe, N. Matsumura, H. Shiratsuchi, A. Watanabe, N. Onikura, K. Kishi and K. Arizono : Effects of 17beta-estradiol on survival, growth, sexual development and molting cycles of marine crustacean mysid shrimp, *Americanas bahia*. *Environmental Sciences*, 11 (5) pp. 259-268
- 3) Y. Takao, M. Shimazu, S. Kohra, M. Nagae, Y. Ishibashi, N. Tominaga, H. Ishibashi, S. Yoshihara and K. Arizono : Photodecomposition and Bioconcentration of a Bisphenol A Metabolite in Medaka, *Oryzias latipes*. *Journal of Health Science*, 50 (6) pp. 576-580
- 4) N. Tominaga, S. Kohra, T. Iguchi and K. Arizono : Effects of Perfluoro Organic Compound Toxicity on Nematode *Caenorhabditis elegans* Fecundity. *Journal of Health Science*, 50 (5) pp. 545-550
- 5) H. Kimura, S. Iiboshi, K. Kishi, H. Matsusaki, T. Kusui, E. Kitagawa, H. Ishibashi and K. Arizono : Application on yeast DNA microarray for waste water treatment. *Marine Environ. Res.* 58 (2-5) pp. 594
- 6) F. Kawasaki, I. Katsiadaki, A. P. Scott, T. Matsubara, K. Osatomi, K. Soyano, A. Hara, K. Arizono and M. Nagae : Molecular cloning of two types of spiggin cDNA in the three-spined stickle back, *Gasterosteus aculeatus*. *Fish Physiology and Biochemistry*, 28 (1-4) pp. 425-425
- 7) N. Tatarazako, H. Ishibashi, K. Teshima, K. Kishi and K. Arizono : Effects of Triclosan on Various Aquatic Organisms. *Environmental Sciences*, 11 (2) pp. 133-140
- 8) H. Ishibashi, M. Kobayashi, Y. Tomiyasu, M. Miyahara, K. Tachibana, M. Tsuchimoto and K. Arizono : Development of plasma vitellogenin assay for estrogenic effects of endocrine-disrupting chemicals using ovariectomized goldfish (*Carassius auratus*). *Journal of Health Science*, 50 (2) pp. 169-173
- 9) H. Ishibashi, N. Matsumura, M. Hirano, M. Matsuoka, H. Shiratsuchi, Y. Ishibashi, Y. Takao and K. Arizono : Effects of triclosan on the early life stages and reproduction of medaka *Oryzias latipes* and induction of hepatic vitellogenin. *Aquatic Toxicology*, 67 (2) pp. 167-179

- 10) H. C. Lee, K. Soyano, A. Ishimatsu, M. Nagae, S. Kohra, Y. Ishibashi, K. Arizono and Y. Takao : Bisphenol A and nonylphenol bioconcentration in spotted halibut *Varaspar variegates*. *Fisheries Science*, 70 (1) pp. 192-194
- 11) H. Ishibashi, K. Tachibana, M. Tsuchimoto, K. Soyano, N. Tatarazako, N. Matsumura, Y. Tomiyasu, N. Tominaga and K. Arizono : Effects of Nonylphenol and Phytoestrogen-enriched Diet on Plasma Vitellogenin, Steroid Hormone, Hepatic Cytochrome P450 1A, and Glutathione-S-Transferase Values in Goldfish (*Carassius Auratus*). *Comparative Medicine*, 54 (1) pp. 54-62
- 12) M. Hirano, H. Ishibashi, N. Matsumura, Y. Nagao, N. Watanabe, A. Watanabe, N. Onikura, K. Kishi and K. Arizuno : Acute toxicity responses of two crustaceans, *Americanysis bahia* and *Daphnia magna*, to endocrine disrupters. *Journal of Health Science*, 50 (1) pp. 97-100
- 13) 有菌幸司：公衆衛生学，化学同人，pp. 15-21，編者：木村美恵子，徳留信寛，圓藤吟史
- 14) 石橋弘志，富永伸明・有菌幸司（共著）：内分泌搅乱作用を検出する遺伝子レベルのバイオアッセイ，廃棄物学会誌，15 (5), pp. 240-246.
- 15) 篠原亮太，有菌幸司，門上希和夫，古賀 実，早瀬隆司，松藤康司，松本 亨，山下俊郎，山田俊弘，山田真知子，他2名（編集委員）：国際総合環境用語集，日刊工業新聞社。

## 國頭 恭（信州大学理学部物質循環学科）

- 1) Ikemoto, T., Kunito, T., Watanabe, I., Yasunaga, G., Baba, N., Miyazaki, N., Petrov, E. A., and Tanabe, S.: Comparison of trace element accumulation in Baikal seals (*Pusa sibirica*), Caspian seals (*Pusa caspica*) and northern fur seals (*Callorhinus ursinus*). *Environ. Pollut.*, 127 (1), 83-97.
- 2) Yang, J., Kunito, T., Anan, Y., Tanabe, S., and Miyazaki, N.: Total and subcellular distribution of trace elements in the liver of a mother-fetus pair of Dall's porpoises (*Phocoenoides dalli*). *Mar. Pollut. Bull.*, 48 (11-12), 1122-1129.
- 3) Fujihara, J., Kunito, T., Kubota, R., Tanaka, H., and Tanabe, S.: Arsenic accumulation and distribution in tissues of black-footed albatrosses. *Mar. Pollut. Bull.*, 48 (11-12), 1153-1160.
- 4) Kunito, T., Nakamura, S., Ikemoto, T., Anan, Y., Kubota, R., Tanabe, S., Rosas, F. C. W., Fillmann, G., and Readman, J. W.: Concentration and subcellular distribution of trace elements in liver of small cetaceans incidentally caught along the Brazilian coast. *Mar. Pollut. Bull.*, 49 (7-8), 574-587.
- 5) Ikemoto, T., Kunito, T., Tanaka, H., Baba, N., Miyazaki, N., and Tanabe, S.: Detoxification mechanism of heavy metals in marine mammals and seabirds: interaction of selenium with mercury, silver, copper, zinc, and cadmium in liver. *Arch. Environ. Contam. Toxicol.*, 47 (3), 402-413.
- 6) Ikemoto, T., Kunito, T., Anan, Y., Tanaka, H., Baba, N., Miyazaki, N., and Tanabe, S.: Association of heavy metals with metallothionein and other proteins in hepatic cytosol of marine mammals and seabirds. *Environ. Toxicol. Chem.*, 23 (8), 2008-2016.
- 7) 鈴木美成，渡邊 泉，久野勝治，阿南弥寿美，國頭 恭，田辺信介：タイワンリスの肝臓における Cu蓄積と細胞内分布，*Biomed. Res. Trace Elements*, 15 (1), 97-99.
- 8) Agusa, T., Kunito, T., Tanabe, S., Pourkazemi, M., and Aubrey, D. G.: Concentrations of trace elements in muscle of sturgeons in the Caspian Sea. *Mar. Pollut. Bull.*, 49 (9-10), 789-800.
- 9) Arai, T., Ikemoto, T., Hokura, A., Terada, Y., Kunito, T., Tanabe, S., and Nakai, I.: Chemical forms of mercury and cadmium accumulated in marine mammals and seabirds as determined by XAFS analysis. *Environ. Sci. Technol.*, 38 (24), 6468-6474.
- 10) Agusa, T., Kunito, T., Fujihara, J., Kubota, R., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Subramanian, A., Iwata, H., Viet, P. H., and Tanabe, S.: Contamination by trace elements in groundwater of Vietnam. *Biomed. Res. Trace Elements*, 15 (4), 339-341.
- 11) Ikemoto, T., Kunito, T., Nakamura, S., Anan, Y., Tanaka, H., Baba, N., Miyazaki, N., and Tanabe, S.: . Association of heavy metals with metal-binding proteins in hepatic cytosol of marine mammals and seabirds. In : Proceedings of 1st International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, March 2004, Matsuyama, Japan, pp. 30-35.
- 12) Agusa, T., Kunito, T., Fujihara, J., Kubota, R., Iwata, H., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Viet, P. H., and Tanabe, S.: Contamination by arsenic and other trace elements in drinking water and residents in Vietnam. In :

- Proceedings of 1st International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, March 2004, Matsuyama, Japan, pp. 48-52.
- 13) Kubota, R., Kim, E.-Y., Kunito, T., Minh, T. B., Iwata, H., Tanabe, S., Trang, P. T. K., and Viet, P. H.: Arsenic contamination in groundwater and its toxic evaluation on human health in Vietnam. In: Proceedings of 1st International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, March 2004, Matsuyama, Japan, pp. 147-151.
  - 14) Anan, Y., Kim, E.-Y., Kunito, T., Iwata, H., and Tanabe, S.: Molecular cloning and expression analysis of three metallothionein isoforms in sea turtles. In: Proceedings of 1st International Symposium on Environmental Behavior and Ecological Impacts of Persistent Toxic Substances, March 2004, Matsuyama, Japan, pp. 213-217.

渡邊 泉（東京農工大学大学院共生科学技術研究部）

原著論文

- 1) Ikemoto, T., Kunito, T., Watanabe, I., Yasunaga, G., Baba, N., Miyazaki, N., Petrov, E. A. and Tanabe, S.: Comparison of trace element accumulation in the liver, kidney, muscle and hair among Baikal seals (*Phoca sibirica*), Caspian seals (*Phoca caspica*) and northern fur seals (*Callorhinus ursinus*)., Environmental Pollution, 127, 83-97.
- 2) 鈴木美成, 渡邊 泉, 久野勝治, 阿南弥寿美, 國頭 恭, 田辺信介: タイワンリスの肝臓における高濃度 Cu蓄積と細胞内分布, Biomedical Research on Trace Element, 15 (1), 97-99.
- 3) 浦口晋平, 渡邊 泉, 久野勝治, 星野義延, 坂上寛一: 多摩川中流域における河川敷土壤の化学性とその変動—2001年の調査—, 応用生態工学, 6 (2), 165-176.
- 4) 掛川洋二, 渡邊 泉, 久野勝治, 多田 満: 内分泌かく乱化学物質に曝露されたチカイエカにおけるエンドポイントの検索:p-オクチルフェノールに関する検討, 環境毒性学会誌, 7 (1), 1-10.
- 5) Ozaki, H., Watanabe, I. and Kuno, K.: Investigation of the heavy metal sources in relation to automobiles, Water, Air and Soil Pollution, 157 (1-4), 209-223.
- 6) Ozaki, H., Watanabe, I., Kuno, K.: As, Sb and Hg distribution and pollution sources in the roadside soil and dust around Kamikochi, Chubu Sangaku National Park, Japan, Geochemical Journal, 38 (5), 473-484.
- 7) 張 健強, 渡邊 泉, 尾崎宏和, 久野勝治: 生長解析法による数種植物におけるクロム耐性の比較, 環境毒性学会誌, 7 (2), 69-80.
- 8) 浦口晋平・渡邊 泉・石川恵理・久野勝治・星野義延・藤井義晴: 多摩川中流域の河川敷植生構成種の他感作用. 外来植物の蔓延実態とその生態的特性—新たに導入する外来植物の生態系影響評価手法の確立に向けて—, 農業環境技術研究所, 51-56
- 9) Y. Anan, T. Kunito, T. Ikemoto, R. Kubota, I. Watanabe, S. Tanabe, N. Miyazaki and E. A. Petrov : Elevated Concentrations of Trace Elements in accumulation in Caspian Seals (*Phoca caspica*) found Stranded During the Mass Mortality Events in 2000. 生物蓄積性内分泌かく乱物質による野生高等動物の汚染と影響に関する環境化学的研究, 平成12-15年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(2)〕研究成果報告書, 81-89
- 10) Genta Yasunaga, Izumi Watanabe, Maricar S. Prudente, Annamalai Subramanian, Vo Qui and Shinsuke Tanabe : Trace Elements Accumulation in Waders from Asia. 生物蓄積性内分泌かく乱物質による野生高等動物の汚染と影響に関する環境化学的研究, 平成12-15年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(2)〕研究成果報告書, 160-177
- 11) 高田秀重, 渡邊 泉, 多羅尾光徳, 井内美郎: 都市活動由来の汚染実態の解明. インドシナ半島における水環境の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発, 平成15年度研究成果報告書, 新世紀重点研究創成プラン Research Revolution 2002 (RR2002) 人・自然・地球共生プロジェクト, 水資源管理システムの開発, 文部科学省研究開発局, 60-68
- 12) 渡邊 泉: 多摩川河川敷の植生遷移における生存戦略としてのアレロパシーの関与. 財団法人とうきゅう環境浄化財団, 研究助成成果報告書《学術研究》, 33 (No. 244), on CD

吉水 守（北海道大学大学院水産科学研究科）

著 書

- 1) 吉水 守:(分担) 魚介類の感染症・寄生虫病, 江草周三監修, 若林久嗣・室賀清邦編集, 恒星社厚生閣, 東京, 424頁.

原著論文

- 2) 笠井久会・杉山絵美・吉水 守：衛生管理型標津漁港の細菌学的調査, 日水誌, 70 : 60-65.
- 3) 佐々木政則・川合祐史・吉水 守・信濃晴雄：サケいすしの熟成過程における化学成分と微生物相の変化, 日水誌, 70 : 928-937.
- 4) 吉水 守：コイヘルペスウイルス病, 獣医疫学会誌, 14 : 45-46.

## その他の論文

- 5) 吉水 守・笠井久会：話題「函館エリアにおける産官学連携の取り組み」4. 大学と地域の産学官連携－魚類防疫分野を例にして－, 日水誌, 70 : 964-967.
- 6) 笠井久会・野村哲一・吉水 守：秋サケの食品としての安全性確保について, さけ・ます資源管理センター技術情報(魚と卵), 170 : 1-8.
- 7) Nomura, T. and M. Yoshimizu : Disease problems of salmonid fish cultured in Japan. Proceedings of『The Japan-Korea Joint Seminar on Fisheries Sciences』, pp. 132-135, December 15-16, 2003, Jinju-Tongyeong, Korea.
- 8) Kasai, H., Nomura, T., and M. Yoshimizu : Surveillance and control of salmonid viruses of wild salmonid fish returning to the northern part of Japan, from 1976 to 2002. Proceedings of『The Japan-Korea Joint Seminar on Fisheries Sciences』, pp. 42-147, December 15-16, 2003, Jinju-Tongyeong, Korea.
- 9) Yoshimizu, M. : Control strategy for viral disease of salmonids and flounder. Proceedings of『The Japan-Korea Joint Seminar on Fish Disease』, pp. 1-9, May 21, Yosu University, Korea.
- 10) Kasai, H. and M. Yoshimizu: Disinfection of seawater for aquaculture by electrolyzation and its application for hygiene and sanitation of fishing port. Proceedings of『The Japan-Korea Joint Seminar on Fish Disease』, pp. 10-15, May 21, Yosu University, Korea.
- 11) Kasai, H., K. Sasaki, J. Kumagai, and M. Yoshimizu : Creating a “safe and worry-free” salmon products using a HACCP system from fishing through processing to distribution -the Shibetsu Town District HACCP Program model -. In『Proceedings of the JSPS-NRCT International Symposium Joint Seminar 2004, Management of Food Safety in Aquaculture and HACCP』, pp. 12-17, December 20-21, Bangkok, Thailand.
- 12) 西澤豊彦・吉水 守：サケ科魚類のワクチン開発－伝染性造血器壊死症ウイルス(IHNV)を例に－. 月刊バイオインダストリー, 特集号『マリンバイオテクノロジー・栽培漁業へのバイオテクノロジー』, 21: 56-62.
- 13) 吉水 守：サケ科魚類のウイルス性出血性敗血症(VHS). 養殖, 14 : 14-15.
- 14) 吉水 守：サケ科魚類の流行性造血器壊死症(EHN). 養殖, 14 : 16-17.
- 15) 吉水 守：サケ科魚類のレッドマウス病(ERM). 養殖, 14 : 18-19.
- 16) 吉水 守・笠井久会：魚介類の飼育排水の処理について－環境に対する微生物負荷の軽減と病原体の拡散防止. アクアネット, 4 (6), 26-30.
- 17) 吉水 守・笠井久会：水産用ワクチン注射装置の開発. 養殖, 41 (9), 82-83.

## 報告書

- 18) 吉水 守・西澤豊彦・笠井久会・本西 晃・降幡 充：サケ科魚類のOIE指定伝染病OMVDの撲滅に向けた研究, 平成15年度魚病対策技術開発研究成果報告書, 1-10.
- 19) 吉水 守・西澤豊彦・笠井久会：ヒラメリンホシスチス病に対する効果的ワクチンの作用と連続注射器の開発, 平成15年度水産学術研究・改良補助事業報告書, 53-69.
- 20) 吉水 守・笠井久会：標津町内を流れる標津川, 伊茶仁川および古多糠川の水質および細菌の調査, 平成15年度水産学術研究『HACCP対応に向けた標津町内の河川および標津港の水質および細菌に関する調査』報告書, 1-10.
- 21) 吉水 守・笠井久会：標津漁港の水質および細菌の調査, 平成15年度水産学術研究『HACCP対応に向けた標津町内の河川および標津港の水質および細菌に関する調査』報告書, 11-19.
- 22) 吉水 守・笠井久会：カキのノロウイルス浄化法に関する研究, 平成15年度養殖カキ類の浄化技術報告書, マリノフォーラム21海域総合開発研究会, 8-13.
- 23) 吉水 守：PCRの使い方を考える, 平成15年度魚類防疫土講習会テキスト, pp. 1-7.
- 24) 吉水 守：魚病最前線－コイヘルペスウイルスが教えてくれたこと, 平成16年度北海道大学水産学部公開講座テキスト, pp. 28-32, 北海道大学水産学部.
- 25) 吉水 守：魚の病気との闘い－特にウイルス病, 第20回ライフサイエンスセミナー20周年記念セミナ「海の恵み」, pp. 4-5, 西宮市.

## 報道

26) 魚のワクチン注射が簡単に、函館の東和電機製作所、北海道新聞、2004.4.7.

田中 克（京都大学フィールド科学教育研究センター）

著 書

- 1) 田中 克・田川正朋・中山耕至：有明海河口域での魚類研究、「森と里と海のつながり－京大フィールド研の挑戦」（京都大学フィールド科学教育研究センター編），樅出版社：64-68.

原著論文

- 2) Tagawa, M., T. Kaji, M. Kinoshita, M. Tanaka : Effect of stocking density and addition of proteins on larval survival in Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*. Aquaculture 230 : 517-525.
- 3) Dou, SZ, R. Masuda, M. Tanaka, K. Tsukamoto : Size hierarchies affecting the social interactions and growth of juvenile flounder, *Paralichthys olivaceus*. Aquaculture 233 : 237-249.
- 4) Islam, Md. S., Md. J. Saker, T. Yamamoto, Md. A. Wahab, M. Tanaka : Water and sediment quality, partial mass budget and effluent N loading in coastal brackishwater shrimp farms in Bangladesh. Mar. Pol. Bull. 48:471-485.
- 5) Islam, Md. S., Md. A. Wahab, M. Tanaka : Seed supply for coastal brackishwater shrimp farming : environmental impacts and sustainability. Mar. Pol. Bull. 48 : 7-11.
- 6) Islam, Md. S., M. Tanaka : Impacts of pollution on coastal and marine ecosystems including coastal marine fisheries approach for management : a review and synthesis. Mar. Pol. Bull. 48 : 624-649.
- 7) Ueda, H., A. Terao, M. Tanaka, M. Hibino, Md. S. Islam : How can river-estuarine planktonic copepods survive river floods? Ecological Research 19 : 625-632.
- 8) Wada, T., M. Aritaki, M. Tanaka : Effects of low-salinity on the growth and development of spotted halibut *Verasper variegatus* in the larva-juvenile transformation period with reference to pituitary prolactin and gill chloride cells responses. J. Exp. Mar. Biol. Ecol. 308 : 113-126.
- 9) 有瀧真人, 太田健吾, 堀田又治, 田川正朋, 田中 克：異なる飼育水温がホシガレイ仔魚の発育と変態に関連した形態異常の出現に及ぼす影響. 日本水産学会誌 70 : 8-15.

その他

- 10) 田中 克：内湾環境問題と有明海－森川海のつながりから再生を. ばだ沖36 : 12-21.
- 11) 田中 克：森が海を育み、海は森を育む. 環境会議秋号 : 222-225.
- 12) 山下 洋・田中庸介・田中 克：ヒラメの初期生態と資源変動様式の南北差. 月刊海洋412 : 766-770.
- 13) 田中 克・中山耕至：ヒラメの遺伝的集団構造と地域的生理生態に関する研究. 平成16年度生態系保全型増養殖システム確立のための種苗生産・放流技術の開発第II期（平成16～18年度）実施計画書. 50-51.

今井 一郎（京都大学大学院農学研究科）

著 書

- 1) 今井一郎：海を守る－瀬戸内海における富栄養化と有害有毒赤潮の発生、地球環境学のすすめ（京都大学地球環境学研究会），200-216，丸善，東京.
- 2) 今井一郎：赤潮、水産海洋ハンドブック（竹内俊郎・中田英昭・和田時夫・上田 宏・有元貴文・渡部終五・中前 明編），53-58，生物研究社，東京

原著論文

- 3) Maki, T., Yoshinaga, I., Katanozaka, N. and Imai, I. : Phylogenetic analysis of intracellular bacteria of a harmful marine microalga, *Heterocapsa circularisquama* (Dinophyceae). Aquatic Microbial Ecology 36, 123-135.
- 4) Imai, I., Hatano, M. and Naito, K. : Development of a chemically defined artificial medium for marine red tide-causing raphidophycean flagellates. Plankton Biology and Ecology 51, 95-102.
- 5) Naito, K., Suzuki, M., Matsui, M. and Imai, I. : Secretion of iron-complexing ligands from *Closterium aciculare* (Charophyceae, Chlorophyta) under iron-deficient conditions. Phycologia 43, 632-634.
- 6) Naito, K., Matsui, M. and Imai, I. : Effects of organic iron complexes on the growth of red tide causative phytoplankton. Proceedings of TECHNO-OCEAN '04, pp. 1774-1780.

上 真一（広島大学大学院生物圏科学研究科）

## 原著論文

- 1) Ozaki, K., S. Uye, T. Kusumoto and T. Hagino : Internannual variability of the ecosystem of Kii Channel, the Inland Sea of Japan, as influenced by bottom intrusion of cold and nutrient-rich water from the Pacific Ocean, and a recent trend of warming and oligotrophication. *Fish. Oceanogr.*, 13 : 65-79.
- 2) Uye, S., S. Nakai and M. Aizaki : Potential use of extremely high biomass and production of copepods in an enclosed brackish water body in Lake Nakumi, Japan, for the mass seed production of fishes. *Zool. Studies*, 43 : 165-172.
- 3) 上 真一・上田有香：瀬戸内海におけるクラゲ類の出現動向と漁業被害の実態. 水産海洋研究, 68 : 9-19.
- 4) 上 真一：瀬戸内海におけるミズクラゲの増加と漁業被害. 日水誌, 70 : 387-391.
- 5) 上 真一：紀伊水道の栄養塩・低次生産・高次生産の経年変動. 瀬戸内海, 40 : 22-26.

## その他の論文

- 6) 上 真一：クラゲが魚を駆逐する？ 日本水産資源保護協会 No. 470 : 3-6.

## 大塚 攻（広島大学大学院生物圏科学研究科）

- 1) Ohtsuka, S. & D. V. P. Conway, A new species of *Tortanus* (*Atortus*) (Copepoda : Calanoida : Tortanidae) from Seyshelles, Mauritius and Madagascar, *J. Mar. Biol. Ass. U. K.*, 85, 65-70.
- 2) 大塚 攻, 動物プランクトンの進化, 日本プランクトン学会報, 51, 125-131.
- 3) Ohtsuka, S. & G. A. Boxshall, A new species of the deep-sea copepod genus *Scutogerulus* (Calanoida : Arietellidae) from the hyperbenthic waters of Okinawa, Japan, *Systematics and Biodiversity*, 2, 49-55.
- 4) Ohtsuka, S., Y. Hanamura, K. Nagasawa, T. Horiguchi & T. Suzuki, First record of the occurrence of an ellobiopsid *Thalassomyces marsupii* Kane on a new host of hyperiid amphipod in Japanese waters, *Plankton Biol. Ecol.*, 51, 110-112.
- 5) Ohtsuka, S., J. -s. Ho, K. Nagasawa, J. Morozinska-Gogol & W. Piasecki, The identity of *Limnoncaea diuncata* Kokubo, 1914 (Copepoda : Poecilostomatoida) from Hokkaido, Japan, with the relegation of *Diergasillus* Do, 1981 to a junior synonym of *Thersitina* Norman, 1905, *Syst. Parasitol.*, 57, 35-44.
- 6) Ohtsuka, S., J. -s. Ho & K. Nagasawa, Ergasilid copepods (Poecilostomatoida) in plankton samples from Hokkaido, Japan with reconsideration on the taxonomic status of *Limnoncaea* Kokubo, 1914, *J. Nat. Hist.*, 38, 471-498.
- 7) Ohtsuka, S., M. Hora, T. Suzuki, M. Arikawa, G. Omura & K. Yamada, Morphology and host-specificity of the apostome ciliate *Vampyrophrya pelagica* infecting pelagic copepods in the Seto Inland Sea, Japan, *Mar. Ecol. Prog. Ser.*, 282, 129-142.
- 8) Horiguchi, T., A. Harada, S. Ohtsuka, H. Y. Soh & Y. H. Yoon, First record of an ectoparasitic dinoflagellate, *Oodinium inlandicum* (Dinophyta) infecting a chaetognath, *Sagitta crassa* from the Korean coasts, *Algae*, 19, 201-205.
- 9) Kim, I. -H., S. Ohtsuka, K. Yokosaka & K. Ito, Redescription and taxonomic remarks on the licomorgid copepod *Paraphiloconcha meretricis* (Crustacea : Copepoda : Poecilostomatoida) parasitic on the bivalve *Meretrix lamarckii* from Japan, *Species Diversity*, 9, 331-341.
- 10) 鳥越兼二・大塚 攻, 海と海辺の生物を題材とした体験・学習活動の実践(2), 学校教育実践学研究, 10, 95-100.
- 11) 山内健生・大塚 攻・仲達宣人, 瀬戸内海のウォノエ科魚類寄生虫, 広大FSC報告, 1, 1-9.

## 深見 公雄（高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科）

## 著 書

- 1) 深見公雄：章. 微生物生態学とは何か？, 章2-1. 生産者としての細菌：微生物ループおよび熱水鉱床を例に. 微生物生態学入門（日本微生物生態学会教育研究部会編著），日科技連，東京，pp. 1-7, pp. 135-144.

## 原著論文

- 2) Mohapatra, B. R., and K. Fukami : Production of aminopeptidase by marine heterotrophic nanoflagellates. *Aquat. Microb. Ecol.*, 34 : 129-137.
- 3) Mohapatra, B. R., and K. Fukami : Comparison of the numerical grazing response of two marine heterotrophic nanoflagellates fed with different bacteria. *J. Sea Res.*, 52 : 99-107.
- 4) Uscharee, R., and K. Fukami : Simulation of photosynthesis and consequent oxygen production in anoxic bottom water environment by supplying low light through an optical fiber. *Fisheries Sci.*, 70 : 422-430.
- 5) 山口晴生・西島敏隆・西谷博和・深見公雄・足立真佐雄：赤潮プランクトン3種の有機態リン利用特性とアル

- カリフォスファターゼ産生能. 日本水産学会誌, 70: 123-130.
- 6) 山口晴生・西島敏隆・小田綾子・深見公雄・足立真佐雄: 沿岸海水中におけるアルカリファスファターゼ活性およびfosphaferase加水分解性リンの分布と消長. 日本水産学会誌, 70: 333-342.

松岡 篤 (新潟大学理学部)

著 書

- 1) 松岡 篤: 放散虫と古海洋学. 鎮西清高・植村和彦 (編) 地球環境と生命史. 5, 69-79. 朝倉書店.
- 2) 松岡 篤: 形の宝庫—放散虫, チャート, 放散虫の形つくり. 形の科学会 (編) 形の科学百科事典. 158-162. 朝倉書店.

原著論文

- 3) Kurihara T. and Matsuoka A.: Shell structure and morphologic variation in Spongospaera streptacantha Haeckel (Spongillaria, Radiolaria). Science Reports, Niigata University, Ser. E (Geology), 19, 35-48.
- 4) 武井雅彦・松岡 篤: 愛媛県城川地域に分布する上部ジュラ系今井谷層群下相層中の含大型化石泥質岩塊. 地質学雑誌, 110, 163-174.
- 5) Takei M., Matsuoka A., Yang Q., Kobayashi K., Nagahashi T., Zeng Q., Wang Y. and He G.: Late Jurassic and Early Cretaceous ammonites from the Weimei Formation in Gyangze, southern Tibet. Rivista Italiana di Paleontologia e Stratigrafia, 110, 269-272.
- 6) Zamorras L. R. and Matsuoka A.: Accretion and postaccretion tectonics of the Calamian Islands, North Palawan block, Philippines. The Island Arc, 13, 506-519.
- 7) Matsuoka A.: Toarcian (Early Jurassic) radiolarian fauna from the Nanjo Massif in the Mino Terrane, central Japan. News of Osaka Micropaleontologists, Special Volume, 13, 69-87.

金井 豊 (産業技術総合研究所 地質調査総合センター)

原著論文

- 1) 金井 豊, 井内 美郎: 「愛媛県西部佐多岬半島の阿弥陀池および亀ヶ池の堆積速度と堆積環境の変遷」 堆積学研究, 58, 93-103.
- 2) Zhongyuan Chen (East China Normal University), 斎藤 文紀 (産総研), 金井 豊, Taoyuan Wei (East China Normal University), Luqian Li (East China Normal University), Heshun Yao (East China Normal University) 「Low Concentration of Heavy Metals in the Yangtze Estuarine Sediments, China: A Diluting Setting」 ESTUARINE COASTAL AND SHELF SCIENCE, 60 (1), 91-100.
- 3) 金井 豊・上岡 晃・中嶋輝允・塚本 齊: 山形県金丸地域 “H 露頭” におけるウラン系列核種の挙動, Proceedings of the Fifth Workshop on Environmental Radioactivity, KEK, 184-190.
- 4) Zhang, R., Wang, M., Sheng, L., Kanai, Y., Ohta, A.: 「Seasonal Characterization of dust days, mass concentration and dry deposition of atmospheric aerosols over Qingdao, China.」 China Particuology, 2 (5), 196-199.
- 5) Han, Z., Ueda, H., Matsuda, K., Zhang, R., Arao, K., Kanai, Y., Hasome, H.: 「Model study on particle size segregation and deposition during Asian dust events in March 2002.」 Journal of Geophysical Research, 109, D19205.

その他の論文

- 6) 今井 登・寺島 滋・岡井貴司・御子柴真澄・太田充恒・立花好子・富樫茂子・松久幸敬・金井 豊・上岡 晃: 「地球化学図による全国的な有害元素のバックグラウンドと環境汚染評価手法の高度化に関する研究.」 環境保全研究成果集 (環境省), 34-1-29.
- 7) 今井 登・寺島 滋・岡井貴司・御子柴真澄・太田充恒・立花好子・富樫茂子・松久幸敬・金井 豊・上岡 晃: 「日本の地球化学図」 地質調査総合センター.
- 8) 今井 登・寺島 滋・太田充恒・御子柴真澄・立花好子・岡井貴司・富樫茂子・松久幸敬・金井 豊・上岡 晃: 「地球化学図データベース」

斎藤 文紀 (独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門)

著 書

- 1) Saito, Y., Tanabe, S., Vu, Q. L., Hanebuth, T. J. J., Kitamura, A., Ngo, Q. T., : Stratigraphy and Holocene evolution of the Song Hong (Red River) delta, Vietnam. In Nguyen, T. V., Saito, Y., Nguyen, V. Q., Ngo, Q.

- T., eds., Stratigraphy of Quaternary system in deltas of Vietnam. Department of Geology and Minerals of Vietnam, Hanoi, Vietnam, pp. 6-24.
- 2) Murakami, F., Saito, Y., Kinoshita, Y., Tateishi, M., Nguyen, T. L., Luong, B. L., and Nguyen, T. T. : High-resolution seismic reflection survey in the Mekong river delta, Vietnam. In Nguyen, T. V., Saito, Y., Nguyen, V. Q., Ngo, Q. T., eds., Stratigraphy of Quaternary system in deltas of Vietnam. Department of Geology and Minerals of Vietnam, Hanoi, Vietnam, pp. 25-35.

## 原著論文

- 3) Hori, K., Tanabe, S., Saito, Y., Haruyama, S., Nguyen, V., Kitamura, A. : Delta initiation and Holocene sea-level change : example from the Song Hong (Red River) delta, Vietnam. *Sedimentary Geology*, vol. 164, nos 3-4, pp. 237-249.
- 4) Thanh, T. D., Saito, Y., Huy, D. V., Nguyen V. L., Ta, T. K. O., Tateishi, M. : Regimes of human and climate impacts on coastal changes in Vietnam. *Regional Environmental Changes*, vol. 4, no. 1, pp. 49-62.
- 5) Chen, Z., Saito, Y., Kanai, Y., Wei, T., Li, L., Yao, H. : Low concentration of heavy metals in the Yangtze estuarine sediments, China : a diluting setting. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*, vol. 60, no. 1, pp. 91-100.
- 6) Yi, S., Saito, Y. : Latest Pleistocene climate variation of the East Asia monsoon from pollen records from two East China regions. *Quaternary International*, vol. 121, no. 1, pp. 75-87.
- 7) 斎藤文紀：現世堆積作用と堆積学、そして地球環境変化の研究。堆積学研究, no. 58, pp. 33-38.
- 8) 石原与四郎・木村克己・中島 礼・宮地良典・田辺 晋・中山俊雄・斎藤文紀：東京低地と荒川低地から得られた3本のボーリングコアの堆積相と放射性炭素年代:DK コア(江東区新砂), TN コア(足立区舎人公園), HA コア(東綾瀬公園)。地質調査研究報告, vol. 55, nos. 7/8, 221-235.
- 9) 宮地良典・木村克己・石原与四郎・田辺 晋・中島 礼・堀 和明・中山俊雄・斎藤文紀：東京都江戸川区小松川地区で掘削された沖積層ボーリングコア(GS-KM-1)の堆積相・堆積物物性と放射性炭素年代。地質調査研究報告, vol. 55, nos. 7/8, 201-219.

## その他の論文

- 10) Saito, Y. : Sediments and sequence stratigraphy in coastal and shelfal regions. *Proceedings of International Symposium on Shallow geology and Geophysics*, Hanoi 2004, Hanoi University of Mining and Geology, pp. 1-2.

## 池原 研(産業技術総合研究所地質情報研究部門)

## 原著論文

- 1) Abdeldayem, A. L., Ikehara, K. and Yamazaki, T. : Flow path of the 1993 Hokkaido-Nansei-oki earthquake seismoturbidite, southern margin of the Japan Sea north basin, inferred from anisotropy of magnetic susceptibility. *Geophysical Journal International*, 157, 15-24.
- 2) Chun, J. -H., Ikehara, K. and Han, S. -J.: Evidence in Ulleung Basin sediment cores for a Termination II (penultimate deglaciation) eruption of the Aso-3 tephra. *The Quaternary Research (Daiyonki-Kenkyu)*, 43, 99-112.
- 3) 池原 研・吉川清志・Chun, J. -H. : 日本海中部大和海盆から採取された酸素同位体ステージ3に噴出した3枚のテフラ。第四紀研究, 43, 201-212.
- 4) Itaki, T., Ikehara, K., Motoyama, I. and Hasegawa, S. : Abrupt ventilation changes in the Japan Sea over the last 30 kyrs: Evidence from deep-dwelling radiolarians. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 208, 263-278.
- 5) 寺島 滋・今井 登・池原 研・片山 肇・野田 篤・太田充恒・岡井貴司・御子柴(氏家)真澄：日本の沿岸海域堆積物における生物・海水起源物質の地球化学的研究。地質調査研究報告, 55, 153-160.
- 6) Ohta, S., Imai, N., Terashima, S., Tachibana, Y., Ikehara, K. and Nakajima, T. : Geochemical mapping in Hokuriku, Japan : influence of surface geology, mineral occurrences and mass movement from terrestrial to marine environments. *Applied Geochemistry*, 19, 1453-1469.
- 7) Shimada, C., Ikehara, K., Tanimura, Y. and Hasegawa, S. : Millennial-scale variability of Holocene hydrography in the southwestern Okhotsk Sea : diatom evidence. *The Holocene*, 14, 641-650.
- 8) Itaki, T. and Ikehara, K. : Holocene changes of the Okhotsk Sea Intermediate Water and their relation to atmospheric circulation. *Geophysical Research Letters*, 31, L24309, doi : 10.1029/2004GL021384.
- 9) 藤原 治・池原 研・七山 太：地震イベント堆積物研究の重要性と防災研究への展望。地質学論集, 58号, 1-10.

- 10) 池原 研・片山 肇・辻野 匠・荒井晃作・板木拓也・保柳康一：深海底タービダイトを用いた地震発生間隔推定における堆積作用理解の重要性-北海道沖日本海東縁海洋海山周辺の例-. 地質学論集, 58号, 111-122.
- その他の論文
- 11) 荒井晃作・池原 研・岡村行信・辻野 匠・倉本真一・野田 篤・板木拓也・大村亜希子・片山 肇：駿河湾・東海沖の海底を探る. 地質ニュース, 594, 20-22.
- 12) 池原 研：海底堆積物とそのコアリング. 月刊地球, 号外44, 122-128.
- 13) 入野智久・佐川拓也・池原 研・大場忠道・川幡穂高：鹿島沖で採取された3本の堆積物柱状試料におけるコアトップ部分の重量の違い. JAMSTEC 深海研究, 24, 79-83.
- 14) 池原 研：日本周辺表層堆積図・堆積物DB作成と海洋古環境の解明. AIST Today, 4, 4, 27.
- 15) 池原 研：海底堆積物に記録された海洋環境変遷の解説 海洋堆積物データベースの作成と海洋古環境の解明. 検査技術, 9, 47-53.

公文富士夫（信州大学理学部）

#### 研究論文

- 1) 公文富士夫・田原敬治・山本雅道：信州、木崎湖における最近の堆積物の年代と堆積速度. 山地水環境教育研究センター研究報告, no. 3, 77-84.
- 2) 公文富士夫・池中良徳：湖底堆積物から見た諏訪湖における汚染物質の集積過程. 第14回環境地質学シンポジウム論文集, 323-328.

#### 研究紹介

- 3) 公文富士夫：湖沼堆積物に基づく古気候変動の研究. 地球科学, 59, 139-143.

#### 著 書

- 4) 保柳康一・公文富士夫・松田博貴：堆積物と堆積岩. 共立出版, 171p.

吉川 周作（大阪市立大学大学院理学研究科）

- 1) Hirose, K., Gotoh, T., Sato, H. and Yoshikawa, S., : Diatoms in surface sediments from northeastern part of Osaka Bay, southwestern Japan. Diatom, 20, 229-240.
- 2) 石竹美帆・村上晶子・森脇 洋・加田平賢史・山本 攻・鶴保謙四郎・吉川周作：大阪市長池堆積物中のPAHsおよび微粒炭、球状炭化粒子の歴史的変化. 第14回環境地質シンポジウム講演論文集, 305-308.
- 3) 村上晶子・井上 淳・吉川周作：大阪における球状炭化粒子(SCPs)の分布状況－表層堆積物を用いた化石燃料燃焼物の空間的分布－. 第14回環境地質シンポジウム講演論文集, 309-312.
- 4) 奈良岡絵美・井上 淳・吉川周作：微粒炭分析による河内平野における弥生時代以降の植物燃焼史－特に河内平野に分布する黒色粘土層について－. 第14回環境地質シンポジウム講演論文集, 313-316.
- 5) 稲野伸哉・山崎秀夫・吉川周作：大阪城堀堆積物からみた過去約100年間の重金属汚染の歴史. 第四紀研究, 43巻, 4号, 275-286.
- 6) Kuwae, M., Yoshikawa, S., Tsugeki, N. and Inouchi, Y., : Reconstruction of a climate record for the past 140 kyr based on diatom valve flux data from Lake Biwa, Japan. Journal of Paleolimnology, 32, 19-39.
- 7) Moriwaki, H., Ishitake, M., Yoshikawa, S., Miyakoda, H. and Alary, J., : Determination of polycyclic aromatic hydrocarbons in sediment by liquid chromatography-atmospheric pressure photo ionization-mass spectrometry. Analytical Science, 20, 375-377.
- 8) 村上晶子・吉川周作・井上 淳：大阪城外堀堆積物の球状炭化粒子・微粒炭からみた化石燃料燃焼史及び火災史. 地質学雑誌, 110, 11-18.
- 9) 長橋良隆・吉川周作・宮川ちひろ・内山 高・里口保文：火山ガラスの主要成分含有量と屈折率との関係. 第四紀研究, 43巻, 5号, 345-352.
- 10) 長橋良隆・吉川周作・宮川ちひろ・内山 高・井内美郎：西南日本における過去43万年間のテフラ層序と編年－EDS分析によるテフラ火山ガラス片の主要成分化学組成に基づく研究－. 第四紀研究, 43, 15-35.
- 11) 野間裕加・村上晶子・吉川周作：大阪湾コア堆積物の球状炭化粒子及び微粒炭分析による過去100年間の化石燃料燃焼の変遷と火災史. 第14回環境地質シンポジウム講演論文集, 301-304.
- 12) Xiao, J., Inouchi, Y., Kumai, H., Yoshikawa, S., Kondo, Y. and Takahashi, K.: Precipitation history of the Lake Biwa area in central Japan over the last 145 ka. Boreas, vol. 33, 74-81.

- 13) Yamazaki, H., Yoshikawa, S. and Inano, S., : Historical trends of the water-sediment fluxes of mercury and lead in Osaka Bay and Lake Biwa, Japan. Proceedings of China-Japan Joint Symposium on Environmental Chemistry, 156-157.
- 14) 山崎秀夫・吉川周作・稻野伸哉：隠岐男池堆積物に記録された重金属汚染の歴史トレンドの解析. 分析化学, 53巻, 12号, 1419-1427.
- 15) Yasuhara, M., Irizuki, T., Yoshikawa, S., Nanayama, F. and Mitamura, M.: Holocene paleobiogeography of ostracodes in Osaka Bay, southwestern Japan. Marine Micropaleontology, 53, 11-36.
- 16) 吉川周作・稻野伸哉・榎木玲美：ため池堆積物から過去の自然環境の解読－過去約100年間の環境汚染史－. 関西自然保護機構会誌, 25巻, 2号, 63-69.

三瓶 良和（島根大学総合理工学部）

- 1) 三瓶良和・塩見哲也・大平寛人:高熟成帯におけるメチルフェナントレン異性体変化. 石油技術協会誌, 69, 190-199.

仲谷 英夫（香川大学工学部）

原著論文

- 1) Pickford, M., H. Nakaya, Y. Kunitatsu, H. Saegusa, A. Fukuchi, and B. Ratanasthien : Age and systematic status of the Chiang Muan (Thailand) hominoids. Comptes Rendus Palevol, 3, 65-75.
- 2) Kunitatsu, Y., B. Ratanasthien, H. Nakaya, H. Saegusa and S. Nagaoka : Earliest Miocene hominoid from Southeast Asia. American Journal of Physical Anthropology, 124, 99-108.

その他の論文

- 3) Nakaya, H. : Metric data of Bovid horn cores from the Konso Formation, Southern Ethiopia. 「東アフリカ鮮更新世の古環境と人類進化に関する研究－コンソ遺跡群を中心に－」平成14-15年度科研費研究成果報告書（東京大学総合研究博物館）, 103-119.
- 4) 仲谷英夫：東南アジアの後期新生代哺乳類生層序・地質年代・古環境. 日本地質学会 News, 7 (11), 20.

松岡 敷充（長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センター）

論 文

- 1) 松岡敷充・岩滝光儀：有害渦鞭毛藻 *Cochlodinium polykrikoides* Margalef 研究の現状. 日本プランクトン学会報, 51, p. 38-45.
- 2) 長岡信治・松岡敷充・松島義章：五島列島福江島の鬼岳火山群基底で発見された約40万年前の寒冷期の海成層. 地学雑誌, 113, p. 140-146.
- 3) 松岡敷充：有明海・諫早湾堆積物表層部に残された渦鞭毛藻シスト群集から見た水質環境の中長期的変化. 沿岸海洋研究, 42, p. 55-59.
- 4) 松岡敷充・手崎桂介・岩滝光儀・水島康一郎：2003年秋季の有明海に出現した植物プランクトンの種組成. 長崎大学水産学部研究報告, 第85号, p. 13-20.
- 5) Azanza, R. V., Siringan, F. P., San Diego-Mcglobe, M. L., Yniguez, A. T., Macalalad, N. H., Zamora, P. B., Agustin, M. B., and Matsuoka, K. : Horizontal dinoflagellate cyst distribution, sediment characteristics and benthic flux in Manila Bay, Philippines. Phycological Research, 52, p. 376-386.
- 6) Wang, Z. -H., Qi, Y., Lu, S. -H., Wang, Y. and Matsuoka, K. : Seasonal distribution of dinoflagellate resting cysts in surface sediments from Changjiang River Estuary, Phycological Research, 52, p. 387-395.
- 7) Wang, Z. -H., Matsuoka, K. and Qi, Y., Lu, S. -H., Wang, Y. : Dinoflagellate cyst records in recent sediments from Daya Bay, South China Sea. Phycological Research, 52, p. 396-407.
- 8) Mizushima, K. and Matsuoka, K. : Vertical distribution and germination ability of *Alexandrium* spp. Cysts (Dinophyceae) in the sediments collected from Mure Bay of the Seto Inland Sea, Japan. Phycological Research, 52, p. 408-413.

著 書

- 9) 松岡敷充：沿岸環境考古学, 環境考古学ハンドブック (安田喜憲, 編), p. 165-179, 朝倉書店.
- 10) 松岡敷充：大村湾-超閉鎖系海域「琴の海」の自然と環境-, 長崎新聞新書, p. 189+IV, 長崎新聞社.

本座 榮一（前熊本大学教授）

- 1) Honza, E. and Fujioka, K., : Formation of arcs and backarc basins inferred from the tectonic evolution of Southeast Asia since the Late Cretaceous, *Tectonophysics*, v. 384, 23-53.
- 2) Honza, E., Tokuyama, H. and Soh, W., : Formation of the Japan and Kuril Basins in the Late Tertiary, In P. Clift, W. Kuhnt, P. Wang and D. Hayes (eds.), *Continent-Ocean Interactions Within East Asian Marginal Seas* c, Amer. Geophys. Union, *Geophys. Mono.* 149, 87-108.

前田 広人（三重大学・生物資源学部）

論 文

- 1) Akase, S., Yoshikawa, T., Hayakawa, N., Maeda, H. and Sakata, T.: Molecular identification of red tide-causing microalga *Heterosigma akashiwo* strains based on their chloroplast DNA sequences. *Fisheries Science*, 70 : 1043-1050.

その他

- 2) 前田広人：紫外線による赤潮防除に関する研究, ソルト・サイエンス研究財団平成14年度助成研究報告集, 1 理工学・農学編, p. 325-334.

## 13. 運営委員会



委員長	武岡 英隆	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	寺谷 亮司	法文学部教授
委 員	家山 博史	教育学部教授
委 員	近藤 郁子	医学部教授
委 員	山口 正隆	工学部教授
委 員	脇本 忠明	農学部教授
委 員	中島 敏幸	理学部助教授
委 員	田辺 信介	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	井内 美郎	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	鈴木 聰	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	上田 拓史	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	大森 浩二	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	郭 新宇	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	岩田 久人	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	山田 勝治	経営企画部長 (官職指定)

## 14. センター規則等



### 愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日  
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、愛媛大学学則第8条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究分野)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究分野を置く。

- (1) 環境動態解析分野
- (2) 生態環境計測分野
- (3) 生態毒性解析分野
- (4) 生態系解析分野
- (5) 環境影響評価予測分野

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、国立大学法人愛媛大学運営協議会（以下「運営協議会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。  
2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから運営協議会が推薦し、学長が選考する。

- 2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、運営協議会が推薦し、学長が選考する。

(職務)

第9条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センターの専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を処理する。
- 3 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

- 2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。
- 3 研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の推薦により、学長が任命する。
- 4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第11条 学長は、他の大学又は公設試験研究機関の研究者のうちから運営委員会の推薦により、センターの研究計画に基づき研究に従事する者を客員研究員として委嘱することができる。

2 客員研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(利用)

第12条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(中島マリンステーション)

第13条 センターに、附属施設として中島マリンステーション（以下「施設」という。）を置く。

2 施設に関する規程は、別に定める。

(生物環境試料バンク)

第14条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。

(研究生)

第15条 センターは、研究生を受け入れることができる。

2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第16条 センターに関する事務は、研究協力部研究国際協力課において処理する。

(雑則)

第17条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

### 愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日

規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの講師以上の専任教員
- (3) 各学部の専任教員 各1人
- (4) 研究協力部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第3号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。

3 第1項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

4 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。  
(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聞くことができる。  
(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。  
2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究協力部研究国際協力課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則  
この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則  
この規程は、平成16年11月16日から施行する。

### 愛媛大学沿岸環境科学研究センター附属中島マリンステーション規程

平成16年4月1日  
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第13条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター附属中島マリンステーション（以下「施設」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(施設長)

第2条 施設に、施設長を置く。

- 2 施設長は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター教員のうちから愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会が推薦し、学長が任命する。
- 3 施設長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 施設長は、沿岸環境科学研究センター長の指示に従い、施設の業務を処理する。

(雑則)

第3条 この規程に定めるもののほか、施設に関する必要な事項は、施設長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命される施設長の任期は、第2条第3項の規程にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

### 愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日  
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 試料バンク長
- (2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

- 2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要な事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究協力部研究国際協力課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会に関する内規

平成16年4月1日  
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規第5条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生物及び環境の試料（以下「試料」という。）の受入れに関する事項
- (2) 試料の管理に関する事項
- (3) 試料の提供に関する事項
- (4) 試料を用いた共同研究に関する事項
- (5) その他試料に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 試料バンク長
  - (2) その他試料バンク長が指名する者
- 2 前項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置き、試料バンク長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、説明または意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、研究協力部研究国際協力課で処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

発 行 2005年7月  
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター  
〒790-8577 松山市文京町2番5号  
TEL (089) 927-8164  
FAX (089) 927-8167

印 刷 創風社出版  
表紙デザイン：大森 浩二  
表紙の「COE」は、21世紀 COE「沿岸環境科学研究拠点」  
のロゴマークです。  
裏表紙写真：北条沖大洲砂堆上の巻上がり

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。